

- 第二條 司法公署ハ即チ縣行政公署内ニ設ケ審判官(推事以下同ジ)及縣知事ヲ以テ之ヲ組織ス
- 第三條 司法公署ノ設ケアル地方ニ於テ凡ユル初審民事刑事事件ニシテ事物ノ輕微重大ヲ問ハズ總テ司法公署ノ管轄ニ屬ス
- 第四條 司法公署ニ審判官(推事)一人或ハ二人ヲ置ク審判官(推事)二人ヲ置ク時ハ一人ヲ以テ監督審判官トナシ司法行政事務ニ依リ審判官ノ責任ヲ負フベキモノハ監督審判官其ノ責任ヲ負フ
- 第五條 審判官(推事)ハ司法總長ヨリ司法官ノ資格ヲ有スル人員中大總統ヘ申請シ之ヲ任命ス但シ特別區各縣ノ審判官(推事)資格ハ審判處ノ審理員(推事ト同格)資格ノ規定ヲ准用スルコトヲ得
- 第六條 審判事務ニ關シテハ總テ審判官(推事)全責任ヲ負ヒ縣知事ハ干渉スルコトヲ得ズ
- 第七條 檢舉手配逮捕檢視檢證押送刑事執行ニ關シ及其他檢察事務ハ總テ縣知事處理シ尙縣知事全責任ヲ負フ前項ノ檢察事務ニ於テ必要トキハ法院編制法第百二條ノ規定ヲ准用ス
- 第八條 司法公署ノ司法行政事務ハ特別規定アルモノヲ除ク外縣知事ト審判官(推事)共同責任ヲ負フ

- 第九條 審判官(推事)ハ法院編制法第二百二十一條記載ノ各事項ヲ爲スコトヲ得ズ
- 第十條 審判官(推事)ハ高等審判廳長ノ監督ヲ受ケ縣知事ハ司法事務ニ關シテハ高等檢察廳長ノ監督ヲ受ケ審判官ノ賞罰章程及縣知事ノ司法ニ關スル懲獎(賞罰)章程ハ別ニ之ヲ定ム
- 第十一條 司法公署ニ書記監(監督書記以下同ジ)一人書記官二人或四人置ク
- 第十二條 書記監ハ高等審判廳長ヨリ高等檢察廳檢察長ト合同(協議)委任シ司法部ニ報告スベシ
- 書記官ハ審判官ヨリ選任シ縣知事ト合同(協議)委任シ高等審判廳(高等法院)及ビ檢察廳ニ報告スベシ
- 第十三條 書記監及書記官ハ訴訟記録(錄取)統計文牘(文書)會計及其他司法ニ關スル庶務ヲ管掌ス
- 第十四條 書記監及書記官ハ審判官及縣知事ノ監督ヲ受ク
- 第十五條 司法公署ニ承發吏(執達吏)四人或ハ六人ヲ置ク承發吏ハ審判官ノ監督ヲ受ク
- 第十六條 司法公署ニ司法警察若干人ヲ置キ審判官及縣知事ノ監督ヲ受クベシ縣司法公署ニ置ク司法警察ノ定額ニ使用不足ノ場合ハ隨時縣行政公署ノ巡警ヲ使用ス
- 第十七條 司法公署ニ(檢驗吏)一人或ハ二人置クベシ檢驗

吏ハ縣知事ノ監督ヲ受クベシ

第十八條 司法公署ハ事務ノ繁簡ヲ酌量シ傭員ヲ採用スルコトヲ得

- 第十九條 司法公署訴訟章程ハ別ニ之ヲ定ム
- 第二十條 司法公署ノ事務處理規則ハ高等審判廳廳長高等檢察廳檢察長之ヲ定メ司法部ニ報告スベシ
- 第二十一條 第十條第十二條第二十條ノ高等審判廳長、檢察廳檢察長ニ關スル規定ハ司法籌備處長、都統署、審判處長ニ於テモ之ヲ適用ス
- 第二十二條 本章程ハ公布ノ日ヨリ施行ス

奉天省縣司法公署訴訟暫行章程

- 第一條 縣司法公署ノ初級及地方管轄ノ民事刑事訴訟ハ本章程ニ依リ處理スルヲ除ク外法院編制法民事訴訟條例刑事訴訟條例及其他法院ニ關スル適用ノ指令規定ヲ準用ス但シ刑事訴訟條例ノ辯護及豫審ニ關スル規定ハ之ヲ適用セズ
- 第二條 縣司法公署審判官(判事以下同ジ)ノ回避(忌避以下同ジ)ハ高等審判廳(高等法院以下同ジ)或ハ分庭ニテ裁決シ縣知事及檢察員ノ回避ハ高等檢察廳ノ檢察長(檢

察廳長以下同ジ)或ハ分庭ノ監督檢察官ニテ審査決定ス

第三條 縣知事及檢察員(高等檢察廳ヨリ任命セル司法公署ニ於テ檢察官ノ職務ヲ執行スルモノ)ノ刑事案件ノ捜査上被告羈押(拘留)ノ權ヲ有ス

- 第四條 刑事告訴人ハ縣知事或ハ檢察員ノ爲セル不起訴處分ニ對シ再議ノ申立ヲナサントスルトキハ初級及地方廳(地方法院)ノ管轄案件ハ地方檢察廳或ハ高等檢察廳長ニ之ヲ爲スベシ
- 但シ高等分廳管轄ノ各縣司法公署ノ刑事案件ノ再議申立ハ初級或ハ地方廳管轄トヲ論セズ均シク高等檢察分廳ノ監督檢察官ニ之ヲ爲スベシ
- 第五條 縣司法公署審判官ハ民事刑事訴訟案件ニツキ爲ス判決ハ初級第一審或ハ地方第一審ニ屬スルヲ區分シテ記載スベシ
- 刑事判決ハ被告ニ送達及檢察官ノ職務ヲ執行スルノ縣知事或ハ檢察官ヲ除ク外若シ告訴人アルトキハ告訴人ニモ送達スベシ
- 第六條 刑事案件ノ告訴人ハ判決文送達後十日内ニ於テ原司法公署檢察官ノ職務執行ノ縣知事或ハ檢察官ニ不服呈訴ノ上訴ヲ提起スルコトヲ得
- 第七條 縣知事或ハ檢察員告訴人ヨリ不服ノ訴願ヲ受理シ

理由アリト認め而シテ上訴ノ期間尙滿了セズ且上訴權放棄ナキトキハ不服上訴提起ニ應ズベシ前項規定ノ處理ヲナストキハ卷宗(二件書類)及證據物件ヲ第二審法院ノ檢察官ニ移送スベシ

第八條 第二審法院ノ檢察官卷宗及證據物件ヲ受理シ告訴人不服訴願ノ期間ヲ經過シタルカ或ハ理由ナク却下スルモノヲ除ク外十日内ニ於テ第二審法院ニ上訴ヲ提起スベシ

第九條 前項二條ノ規定ニヨリ上訴ヲ提起スルトキ告訴人ハ其不服訴願ノ書狀ニ原判決不服理由ヲ敘述添付シ上訴書ニ代フルコトヲ得

第十條 本章程ハ部令ニ依リ審査許可ノ日ヨリ施行ス

卷宗保存規程

(康徳元年八月二十日
司法部訓令民刑字第五二六號)

第一章 總則

第一條 民事、刑事及懲戒ノ事件ニ關スル卷宗其ノ他ノ事件ノ保存及廢棄ハ本規程ノ定ムル所ニ依ル

第二條 卷宗其ノ他ノ文件ニシテ民事刑事ニ關スルモノハ法院之ヲ保存シ刑事又ハ懲戒ノ事件ニ關スルモノハ檢察廳之ヲ保存スベシ但シ本規程ニ別段ノ規定アル場合ハ此

ノ限ニ在ラズ

第三條 民事、刑事及懲戒ノ事件ニ關スル卷宗、第十四條第十六條、第十八條、第二十條、第三十五條、乃至第三十九條、第四十五條但書、第四十七條及第四十八條記載ノ裁判原本又ハ第十五條記載ノ筆錄若ハ判斷書ヲ保存スル法院又ハ檢察廳ハ其ノ保存原簿ヲ備付ケ卷宗裁判原本筆錄竝ニ判斷書ノ保存及廢棄ヲ記明スベシ

第四條 本規程ニ依ル保存期間ハ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外裁判ノ確定又ハ其ノ他ノ事由ニ依リ事件ノ完結シタル日ヨリ之ヲ起算ス

第五條 本規程中法院又ハ檢察廳ニ關スル部分ハ法令ニ依リ審判、檢察又ハ懲戒ノ事務ヲ處理スル法院及檢察廳以外ノ司法機關ニ之ヲ準用ス

第二章 民事卷宗

第六條 民事卷宗ハ別段ノ規定アルモノヲ除クノ外十年間之ヲ保存スベシ

第七條 左列事件ノ卷宗ハ五年間之ヲ保存スベシ
一 非訟事件
二 強制執行、假扣押、假處分又ハ證據保存事件
三 調解事件又ハ和解事件
四 罰鍰ニ關スル事件

第八條 督促程序ニ關スル卷宗ハ強制執行ノ宣示ヲ付シタル支付命令ノ確定ニ因リテ事件完結シタルトキハ五年間其ノ他ノ事由ニ因リテ事件完結シタルトキハ三年間之ヲ保存スベシ

第九條 公示催告程序ニ關スル卷宗ハ左ノ區別ニ從ヒ之ヲ保存スベシ
一 除權判決ニ對シ不服ノ訴ノ提起ナキ場合ニ於テハ除權判決宣告後七年
二 除權判決ニ對シ不服ノ訴ガ提起セラレ判決ニ依リ終了シタル場合ニ於テハ五年
三 其ノ他ノ事由ニ因リテ事件完結シタル場合ニ於テハ三年

第十條 訴訟方和解ニ因リテ終了シタル場合ニ於テハ卷宗ノ保存期間ハ五年トシ撤回ニ因リテ終了シタル場合ニ於テハ之ヲ三年トス

第十一條 本案ニ附隨スル假扣押、假處分又ハ證據保全其ノ他ノ事件ノ卷宗ハ本案卷宗ノ保存期間之ヲ保存スベシ

第十二條 卷宗ニ編綴スルヲ要セザル文件ニシテ用濟ニ屬スルモノハ一年間之ヲ保存スベシ

第十三條 裁判ノ原本ハ別段ノ規定アルモノヲ除クノ外卷宗ノ保存期間之ヲ保存スベシ

第十四條 左列裁判ノ原本ハ永久ニ之ヲ保存スベシ
一 本案ニ關スル判決
二 確定判決ト同一ノ效力ヲ有スルニ至リタル支付命令
三 禁治產其ノ他人事ニ關スル事件ノ判決
四 登記事件ノ判決
第十五條 和解ヲ記明シタル言詞辯論筆錄、和解筆錄、調解筆錄又ハ民事公斷ノ判斷書ノ原本ハ五十年間之ヲ保存スベシ
第十六條 證據保全ノ爲ニスル證據調査ノ筆錄ハ三十年間之ヲ保存スベシ
第十七條 第十四條ノ判決、裁決及支付命令ヲ除クノ外本案終局裁判ノ原本ハ十年間之ヲ保存スベシ
第十八條 前項ノ裁判ノ原本ニシテ事件ヲ終局スル本案確定裁判ノ原本ニ非ザルモノノ保存期間ハ其ノ裁判ガ效力ヲ生ジタルトキヨリ之ヲ起算ス
第十九條 本條ノ保存期間ガ事件卷宗ノ保存期間ヨリ短キトキハ裁判ノ原本ハ卷宗ノ保存期間之ヲ保存スベシ
第二十條 民事訴訟條例第二百九十九條ノ規定ニ依リ訴駁斥ノ判決ノ原本ハ補正命令及關係文件ト共ニ二年間之ヲ保存スベシ
第二十一條 罰鍰ノ裁判ノ原本ハ凡テ十年間之ヲ保存スベシ

第十九條 裁判又ハ第十五條記載ノ筆録内容ヲ明ニスル爲必要ナル文件ハ當該裁判又ハ筆録ノ原本ノ附屬文件トシテ原本ト共ニ之ヲ保存スベシ事件ニ付上級審ニ於テ爲シタル終局裁判ノ正本ノ送交アリタルモノ亦同ジ

第二十條 最高法院ガ法令ノ解釋ヲ宣示シタル裁判ノ原本ハ前數條ノ規定ニ拘ラズ永久ニ之ヲ保存スベシ

第三章 刑事卷宗

第二十一條 刑事事件ノ卷宗ハ上訴審ニ於テ終結シタルモノト雖モ第一審檢察廳之ヲ保存スベシ

迴避、證人鑑定人等ニ對スル處罰、裁判ニ關スル疑義、刑ノ執行指揮ニ對スル異義其ノ他本案ニ附隨スル事件ノ卷宗ハ本案ノ卷宗ト同所ニ保存スベシ

第二十二條 緩刑宣告ノ撤銷、累犯ノ發覺ニ因ル刑ノ改定又ハ併合論罪ノ處斷後ニ於ケル刑ノ改定事件ニ關スル卷宗ハ本案ノ卷宗ト同所ニ保存スベシ

第二十三條 覆判暫行條例ニ依ル覆判程序ハ之ヲ通常上訴ノ程序ト看做ス

第二十四條 非常上訴、再審又ハ暫行懲治盜匪法第六條ノ規定ニ依ル提審再審若ハ覆審事件ノ卷宗ハ該事件ノ通常程序ニ於ケル卷宗ト同所ニ保存スベシ

第二十五條 第三十五條乃至第三十九條及第四十五條但書

記載ノ裁判原本ハ其ノ裁判ヲ爲シタル法院ノ對置檢察廳之ヲ保存シ其ノ他ノ裁判原本ハ該事件ノ卷宗ト同所ニ保存スベシ

第二十六條 裁判ノ原本ト事件卷宗トガ其ノ保存場所ヲ異ニスルトキハ裁判ノ原本ヲ保存スル檢察廳ハ其ノ騰本ヲ下級審其ノ他ノ關係檢察廳ニ送交スベシ

前項ノ規定ニ依リ裁判騰本ノ送交ヲ受ケタル檢察廳ハ該騰本ヲ其ノ審ノ裁判原本ト共ニ保存スベシ

第二十七條 裁判ノ執行ニ關スル文件ハ其ノ執行ノ指揮ヲ爲シタル檢察廳之ヲ保存スベシ

第二十八條 恩赦ニ關スル文件ハ其ノ聲請ヲ爲シタル檢察廳又ハ之ニ關スル事務ヲ處理シタル檢察廳之ヲ保存スベシ

第二十九條 第四十四條記載ノ文件ハ之ヲ處理シタル廳ニ於テ保存スルコトヲ得

第三十條 科刑ノ裁判確定シタル事件ノ卷宗ハ其ノ確定刑ニ依リ保存期間ヲ分別スルコト左ノ如シ

- 一 死刑又ハ無期徒刑 十五年
- 二 五年以上ノ有期徒刑 十年
- 三 五年未滿ノ有期徒刑 五年
- 四 拘役又ハ罰金 三年

前項ノ保存期間ハ併合論罪ニ付テハ刑法第七十條又ハ第七十二條ニ依リテ裁定シタル執行刑ニ依リ裁判確定後累犯ノ發覺ニ因リ其ノ刑ヲ改定シタル場合ニ於テハ其ノ改定刑ニ依リ各之ヲ定ム

恩赦又ハ緩刑期滿ニ因リ科刑ノ裁判其ノ効力ヲ失ヒタル場合ニ於テハ第一項ノ期間内ト雖モ裁判失効後一年間該卷宗ヲ保存スルヲ以テ足ル

第三十一條 犯罪ノ證明不充分ノ故ヲ以テ無罪ノ確定裁判アリタル事件ノ卷宗ハ其ノ起訴事實ニ對スル法定刑ニ依リ保存期間ヲ分別スルコト左ノ如シ

- 一 死刑又ハ無期徒刑 十年
- 二 十年以上ノ有期徒刑 六年
- 三 一年以上十年未滿ノ有期徒刑 四年
- 四 一年未滿ノ有期徒刑、拘役又ハ罰金 二年

第三十二條 嫌疑不足ノ故ヲ以テ不起訴裁定ヲ爲シタル事件ノ卷宗ノ保存期間ニ付テハ前條ノ規定ヲ準用ス

微罪處分又ハ起訴猶豫處分ニ係ル不起訴卷宗ハ五年間之ヲ保存スベシ

第三十三條 緩刑宣告ノ撤銷、累犯ノ發覺ニ因ル刑ノ改定又ハ併合論罪ノ處斷後ニ於ケル刑ノ改定事件ニ關スル卷宗ハ三年間之ヲ保存スベシ

但シ原卷宗ノ殘存保存期間之ヨリ長キトキハ其ノ期間内之ヲ保存スベシ

第三十四條 前四條以外ノ卷宗ハ三年間之ヲ保存スベシ

第三十五條 最高法院ガ法令ノ解釋ヲ宣示シタル裁判ノ原本ハ永久ニ之ヲ保存スベシ

第三十六條 死刑、無期又ハ有期ノ徒刑ニ處スル裁判確定シタルトキハ該事件ノ判決又ハ處刑命令ノ原本ハ凡テ永久ニ之ヲ保存スベシ

第三十七條 有期徒刑ヲ科シタル後緩刑ノ宣告ヲ撤銷シ又ハ刑法第六十七條第七十二條若ハ第七十三條ノ規定ニ依リ刑ヲ改定スル確定裁判アリタルトキハ該撤銷事件又ハ改定事件ニ於ケル本案ノ裁判原本ハ凡テ永久ニ之ヲ保存スベシ

第三十八條 左列ノ裁判確定シタル事件ノ本案ニ關スル裁判原本ハ凡テ二十年間之ヲ保存スベシ

- 一 拘役又ハ罰金ニ處スル判決又ハ處刑命令
- 二 無罪、免訴、刑ノ免除又ハ公訴若ハ自訴不受理ノ判決
- 三 自訴駁回ノ裁定

第三十九條 拘役又ハ罰金ヲ科シタル後緩刑ノ宣告ヲ撤銷シ又ハ刑法第七十二條若ハ第七十三條ノ規定ニ依リ刑ヲ

改定スル確定裁判アリタルトキハ該撤銷事件又ハ改定事件ニ於ケル本案ノ裁判原本ハ凡テ二十年間之ヲ保存スベシ

第四十條 前五條以外ノ裁判原本ハ該事件ノ卷宗ト同一ノ期間之ヲ保存スベシ

第四十一條 同一ノ卷宗又ハ裁判原本中ニ其ノ保存期間ヲ異ニスル部分ヲ包含スルトキハ其ノ最モ長キモノヲ以テ全部ノ保存期間トス

第四十二條 第二十四條記載ノ非常程序ニ於テ原確定裁判ガ變更セラレタルトキハ該事件ノ通常程序ニ於ケル卷宗及裁判原本ハ其ノ非常程序ニ於ケル卷宗並ニ裁判原本ノ保存期間内之ヲ保存スベシ

前項以外ノ場合ニ於ケル非常程序ノ卷宗ハ其ノ通常程序ニ於ケル卷宗ノ保存期間内之ヲ保存スルヲ以テ足ル

第四十三條 左列ノ文件ハ用濟ノ日ヨリ三年間之ヲ保存スベシ
一 恩赦ニ關スルモノ
二 主刑若ハ從刑ノ執行又ハ死刑若ハ自由刑ノ執行停止ニ關スルモノ

三 扣押品ノ處分又ハ訴訟費用ノ徵收ニ關スルモノ
第四十四條 前條以外ノ文件ハ用濟ノ日ヨリ一年間之ヲ保存スベシ

存スベシ

第四十五條 附帶民事訴訟ノ卷宗其ノ他ノ文件ニ關スル保存ノ場所及期間ハ該刑事訴訟ニ關スルモノニ同ジ但シ附帶民事訴訟ノ本案ニ關スル裁判ノ原本ハ永久ニ之ヲ保存スベシ

第四章 懲戒卷宗

第四十六條 懲戒事件ノ卷宗ハ十年間之ヲ保存スベシ

第四十七條 懲戒處分ヲ科シタル事件ニ於ケル本案ノ裁判原本ハ凡テ永久ニ之ヲ保存スベシ

第四十八條 懲戒處分ヲ科セザル事件ニ於ケル本案ノ裁判原本ハ二十年間之ヲ保存スベシ

第四十九條 前二條記載ノ裁判原本ハ其ノ裁判ヲ爲シタル法院ノ對置檢察廳之ヲ保存シ其ノ他ノ裁判原本ハ該事件ノ卷宗ト同所ニ保存スベシ

第五十條 第二十一條第二十六條乃至第二十九條第四十條第四十一條第四十三條及第四十四條ノ規定ハ之ヲ懲戒卷宗ノ保存ニ準用ス

第五章 廢棄

第五十一條 保存期間ノ滿了シタル卷宗、裁判原本其ノ他ノ文件ニ付テハ書記官之ガ目錄ヲ作成シテ該廳長官ノ査核ニ供シ其ノ許可ヲ得タル後之ヲ廢棄スベシ

第二章 視察、捜査、處理

刑事要視察者視察暫行規程施行

(大同三年一月二十五日) 奉警司第一七號

ノ件

第五十二條 保存期間滿了ノ後ト雖モ之ニ關聯スル訴訟ノ繫屬、刑ノ執行未了又ハ其ノ他ノ理由ニ依リ引續キ保存ヲ必要トスルモノハ其ノ事由ノ存スル間之ヲ廢棄スルコトヲ得ズ

附則

本規程ハ康徳元年九月一日ヨリ之ヲ施行ス

刑事要視察者視察暫行規程實施スベク大同二年十月十六日附省訓令第六一號ヲ以テ各廳長及縣長ニ對シ別途訓令相成候處今日迄滿洲國ニハ斯ル制度ナク亦現在警察官吏ノ智識程度ニ於テハ緘密ナル視察ト周到ナル注意ヲ拂ヒ改過遷善ノ實ヲ舉グルコトハ頗ル困難視セララルル處ニ有之候ガ之レガ實施ニハ各日系官吏ノ多大ナル努力ヲ拂ハザレバ豫期ノ成果ヲ擧ゲ得ザルベシト思料セラレ候ニ就テハ各位ハ充分規程ノ研究ヲ遂ゲ滿人警察官吏ヲ勉メテ鞭撻指導シ運用ノ適正ヲ期スル様努力相成度尙實施區域ハ大同二年度ニ於テ各警察廳ハ全部縣公署所在地及實施ノ可能性アル各主要村落ニ止メ其他ハ大同三年度以降ニ於テ順次全縣ニ普及セシムル方針ニ有之候條各關係者ト協議決定シ大同二年度ノ施行區域報告相成度別紙日譯文一部宛添付通牒候也
追而前科者中服役滿了シ出獄スル者ノ視察ハ最モ重要視スル處ニ有之本日附奉天高等法院長ニ對シ爾今各地監獄

ノ出獄者ハ釋放一ヶ月以前ニ於テ關係官署ニ通報スル様訓令方照會致置候條御了知相成度
尙第一號様式刑事要視察者視察名簿用紙ハ保存上一定ノ必要アリ別途印刷配布可致ニ付申添候

刑事要視察者視察暫行規程

(大同三年二月一日)
奉天省公署奉警司第六一第

第一條 左記ニ該當スル者ハ本規程ノ定ムル處ニ依リ所轄警察署長ニ於テ之ヲ視察スベシ

第一種 常習的ニ左ノ罪ヲ犯ス虞レアル前科者暫行懲治叛徒法ノ罪

暫行懲治盜匪法ノ罪(海匪、鄉匪ヲ含ム)

第二種 常習的ニ左ノ罪ヲ犯ス虞レアル者

- 強 盜
- 窃 盜
- 放 火
- 詐 欺
- 和 誘
- 恐 喝
- 通貨偽造

度量衡偽造

贓物故買、牙保

第三種 性行不良ニシテ刑事警察上視察ノ要アリト認めラルル者

第二條 前條ノ規定ニ依リ視察ニ附シタル者ハ手札形寫眞

一葉ニ正面及側面ヲ撮リ三枚ヲ作製シ第一號様式ノ刑事要視察者名簿(以下名簿ト稱スニ之ヲ登錄スベシ)

前項ノ名簿ハ其ノ複本二部ヲ作成シ第二號様式ノ報告書ヲ添附シ遲滞ナク警察廳長又ハ警務局長ニ報告シ警務廳長警務局長ハ内複本一部ヲ一箇月分取纏メ第二號様式ノ報告書ヲ添附シ警務廳長ニ報告スベシ

第三條 刑事要視察者(以下要視察者ト稱ス)左記各號ノ事由ヲ生ジタルトキハ警察署長ハ其ノ都度遲滞ナク第三號様式ニ依リ警察廳長又ハ警務局長ニ報告シ警察廳長警務局長ハ同様式ニ依リ警務廳長ニ報告スベシ

- 一 入獄又ハ出獄シタルトキ
- 二 所在不明トナリ又ハ所在不明トナリタル者所在判明シタルトキ
- 三 死亡シタルトキ
- 四 視察ヲ解除シタルトキ

五 其他名簿記載ノ事項ニ異動ヲ生ジタルトキ

第四條 名簿ハ現住者ト入獄者及所在不明者トニ區分シ第四號様式ノ名簿索引ヲ附シ整理スベシ

第五條 要視察者所在不明トナリタルトキハ所轄警察署長ハ警察廳長又ハ警務局長ニ報告スルト同時ニ廳縣内各警察署長ニ手配捜査スベシ若シ廳縣内ニ於テ發見シ得ザリシトキ又ハ他廳縣内ニ移轉シタリト推定セラルル場合ハ警察廳長又ハ警務局長ハ關係官署ニ手配スルト同時ニ其ノ旨附記シ警務廳長ニ報告スベシ

第六條 要視察者廳又ハ縣管内ニ於テ住所ヲ移轉シタルトキハ遲滞ナク移轉地管轄警察署長ニ照會シ其ノ移轉先ヲ確認シタル後名簿ヲ送付シ視察ノ引繼ヲナシ兩警察署長ハ第五號様式ニ依リ警察廳長又ハ警務局長ニ報告スベシ

第七條 要視察者廳又ハ縣管外ニ轉出シ其ノ住所分明ナルトキハ名簿ヲ添附シ第五號様式ニ依リ警察廳長又ハ警務局長ニ報告スベシ

警察廳長又ハ警務局長前項ノ報告ヲ受ケタルトキハ移轉先所管官公署ニ照覆シ其ノ移轉先ヲ確認シタル後名簿ノ複本ヲ送付スベシ移轉先主管警察廳長警務局長ハ第五號様式ニ依リ警務廳長ニ報告スベシ

第八條 要視察者廳縣管内ヲ旅行シ視察ノ要アリト認め

トキハ旅行先官署ト適宜連絡視察シ廳縣ノ管外ニ旅行シ特ニ視察ノ要アリト認めタルトキハ第六號様式ニ依リ遲滞ナク警察廳長又ハ警務局長ニ報告スベシ歸着シタルトキ又同ジ

警察廳長又ハ警務局長前項ノ報告ヲ受ケタルトキハ直チニ必要官署ニ通報シ第一種要視察者ニ在リテハ第七號様式ニ依リ速カニ警務廳長ニ報告スベシ

第九條 警察廳長又ハ警務局長他官署ヨリ要視察者來往ノ通報ヲ受ケタルトキハ速カニ所轄警察署長ニ通報スベシ前項ノ通報ヲ受ケタル警察署長ハ直チニ調査ノ上滞在中又ハ通過中ノ行動ヲ視察シ其ノ狀況ヲ警察廳長又ハ警務局長ニ報告シ警察廳長警務局長ハ通報先官署ニ狀況ヲ通報シ第一種要視察者ニ在リテハ其ノ狀況ヲ警務廳長ニ報告スベシ

第十條 要視察者ノ視察期間ハ左ノ各號ニ依ル但シ要視察者ノ環境性狀等ヲ考慮シ之ヲ伸縮スルコトヲ得

- 一 第一種 七年
- 二 第二種 五年
- 三 第三種 三年

第十一條 前條ニ依リ視察ヲ解除又ハ視察期間ヲ伸縮セムトスルトキハ豫メ警察廳長又ハ警務局長ニ報告シ指令ヲ

受クベシ

第十二條 視察ハ特命ノ警察官ヲシテ當ラシメ第八號様式ノ視察簿ヲ備ヘ其ノ都度記入セシムベシ但シ受持警士其他勤務員ニシテ視察上必要ト認ムル事項ヲ探知シタルトキハ遲滞ナク所屬署長ニ報告スベシ

第十三條 視察ハ左ノ各號ニ特ニ注意スベシ

- 一 本人及家族ノ動靜
- 二 犯罪其他ノ不正行爲ノ有無
- 三 生業ノ有無若シ生業ナキトキハ如何ナル方法ニ依リ生活ノ資ヲ得ツアルヤ
- 四 職務ニ對スル勤惰及遊惰浮浪ノ傾向ナキヤ
- 五 家庭ノ狀況及近隣ノ風評
- 六 生活狀態ト收入トノ均衡ヲ得ツアルヤ
- 七 交際人物
- 八 其他趣味嗜好宗教關係

第十四條 監獄ヲ釋放セラレタル要視察者ニ在リテハ正業ニ就ク迄視察上特別ノ注意ヲ拂フベシ

第十五條 視察ハ被視察者ノ動靜ヲ監視シ以テ刑壁ニ觸ルルガ如キコトナカラシムルヲ以テ其ノ目的トスルガ故ニ常ニ保護者タルノ念ヲ以テ視察ニ當ルベシ

第十六條 視察ハ間接且隱密ノ間ニ之ヲ行ヒ本人ノ名譽信

用ヲ害シ又ハ業務或ハ就職ノ支障トナラザル様特ニ注意スベシ十八歳未滿ノ者ニ在リテハ視察ノ目的ヲ達スル爲學校或ハ親權者後見人雇主ト緊密ナル連絡ヲ保持スベシ

第十七條 警察署長ハ毎月三回以上視察シ其ノ結果ヲ第九號様式ニ依リ翌月五日迄ニ一括シ警察廳長又ハ警務局長ニ報告スベシ

第十八條 受持区域内ニ於テ視察ノ要アリト認ムル者ヲ發見シタルトキハ直チニ其ノ旨警察署長ニ報告スベシ

第十九條 警察署長ハ前月中ニ於ケル要視察者ノ異動狀況ヲ第十號様式ニ依リ翌月五日迄ニ警察廳長又ハ警務局長ニ報告スベシ

警察廳長又ハ警務局長前項報告ヲ受ケタルトキハ同月二十日迄ニ第十號様式ニ依リ警務廳長ニ報告スベシ

第二十條 本規程ニ定ムルモノノ外監督方法其他必要ナル事項ハ警察廳長又ハ警務局長ニ於テ規定シ警務廳長ニ報告スベシ

附 則

ス

刑事要視察者名簿其他記入心得

一 刑事要視察者名簿

表面

- 一 視察種別欄ハ刑事要視察者視察規定第一條ノ各種別ヲ記入スルモノトス
- 二 犯罪地域欄ハ前科ノ犯罪地域又ハ刑事要視察者ガ常ニ往復シ犯罪ヲ犯サムトスル虞レアル地域ヲ記入スルモノニシテ例令奉天市內及瀋陽縣一回等ト記入スルガ如シ
- 三 本籍地、出生地欄ハ可成確實ニ調査シ出來得レバ小屯名番戶等モ記入スベシ
- 四 住所欄ハ出獄後又ハ刑事要視察ニ編入シタル當時居住シタル住所ヲ右一欄ニ記入シ其後ノ住所移動ハ順ヲ追テ記入スベシ若シ記入ノ餘地ナキニ至リタルトキハ住所欄ノ上ニ用紙ヲ貼付シ同様ノ欄ヲ設ケ記入スベシ
- 五 職業、氏名、生年月日欄ハ上部ニ職業ヲ下部ニ氏名ヲ記入シ生年月日ハ陰曆ニテ確實ニ記入スベシ

六 藝名、綽名、雅號、乳名欄ハ可成確實ニ調査記入スベシ

七 指紋番號欄ハ記入ニ及バズ

八 人相特徵欄ハ犯罪事件處理規定第十條ヲ參照シ記入スベシ身長ハ營造尺ヲ以テ示スベシ

九 常用手段欄ハ要視察者ガ常ニ使用スル犯罪手口ヲ記入スルモノニシテ例令車板、高買、包、去包、迷大騙、吃墨的、頂白扇、櫻桃等ノ如ク一見肯定シ得ル程度ニ記入スベシ

裏面

一 經歷欄ハ經歷ノ概要ヲ記入スルモノニシテ例令民國〇年〇月頃ヨリ何縣何屯何某方ニ被傭セラレ農業從事〇年〇月解職同月汽船〇丸ノ船夫トナリ今日ニ至ル等ト記入スベシ

二 性行欄ハ本人ノ性質素行ヲ看破シ表示シ得ル簡略語ヲ以テ記入スベシ例令性質陰險、素行不良常ニ部民ノ指彈ヲ受ク等ノ如シ

三 家庭及生活ノ狀況欄ハ家族數ヲ記入シ生活ノ基礎トナルベキ收入又ハ雜收入ヲ記入シ家族ノ生活狀態ヲ詳細記入スベシ

四 前科欄ノ言渡年月日ハ法院ニ於ケル判決言渡年月日

ニ報告スルト共ニ臨檢シ犯罪ナシト思料スルトキハ檢視シ犯罪アリト思料スルトキハ引續キ檢證スベシ

第五條 前條ニ依リ犯罪現場ニ臨檢シタルトキハ他ノ法令ノ定ムル處ニ依リ適當ナル處分ヲ爲スノ外必要アリト認ムルトキハ犯罪現場犯人侵入若ハ逃走箇所其他犯人活動ノ痕跡又ハ遺留品等ヲ寫眞ニ撮影シ三部ヲ製作シ一部ハ保存シ一部ハ警察廳縣公署ニ一部ハ警務廳長ニ進達スベシ住所、氏名不詳者ノ屍體ニ在リテハ之ガ寫眞ヲ撮影シ指紋ヲ採取シ寫眞ハ關係記録及特報ニ添付シ指紋ハ警務廳長ニ進達スベシ

前項指紋ハ當分行ハズ

第六條 警察官吏犯罪アルコトヲ認知シタル場合ニ於テ第四條ノ臨檢者其現場ニ在ラザルトキハ左ノ措置ヲ爲シ上司ノ指揮ヲ受クベシ

- 一 他人ヲシテ犯罪現場ニ立入ラシメザルコト
- 二 屍體贓物遺留品其他現場ノ狀況ヲ變更セザルコト
- 三 證據トナルベキ物件足跡指紋其他犯人活動ノ痕跡ハ確實ニ之ヲ保存シ自ラ之ニ觸レ又ハ他人ヲシテ觸レシメザルコト

前項ノ場合ニ於テ警察官吏ハ被害者其他關係アルモノト濫ニ談話シ又ハ頻死ノ被害者等ヲ恣ニ尋問スベカラズ

第七條 第一條ノ特報ハ最モ敏速ニ之ヲ爲シ手配急ヲ要スルモノニ在リテハ取敢ズ電信又ハ電話ヲ以テ爲スベシ

- 一 特報事項ニ付テハ特ニ左ノ各號ニ注意スベシ
- 二 犯罪ノ日時及場所ハ努メテ正確ヲ期スルコト
- 三 犯罪ノ手段及屋内ノ犯罪ニ付テハ侵入ノ手段ヲ明ニスルコト
- 三 金品被害アルモノニ付テハ其ノ品名、品質、員數、形狀、用途其他特徴ヲ明ニシ成ルベク之ヲ詳記スルコト其製造元販賣店ノ判明シタルモノニ在リテハ其旨附記スルコト

四 被害金品ハ種別毎ニ其價額ヲ記入ノコト

五 捜査資料トシテハ遺留品、指紋、足跡其他犯罪捜査資料トナルベキ事項ニ付キ記載スベク遺留品ニ付テハ其品名、品質、形狀、用途、出所及所持者ノ人格ヲ推定シ得ベキ資料ヲ明記シ足跡、指紋等ヲ採取シタルトキハ其特徴及之ニ基ク被疑者ノ推定ヲモ記載スルコト

第六條 被疑者アルトキハ其員數、相貌、特徴、被害者トノ關係逃走方面其他探知シ得タル事項ヲ明記スルコト

第八條 第二條ノ特報ヲ爲ス場合ニ於テハ左ノ各號ニ注意スベシ

- 一 未特報犯罪ニ在リテハ犯罪ノ手段方法

二 贓品ノ處分隠匿ノ方法

三 兇器携帶隠匿ノ方法

四 犯罪ノ發覺ヲ處レ欺罔ノ手段ヲ用ヒタル事項

五 證據湮滅ヲ計リタル事項

六 指紋足跡寫眞人相書服裝等ニ依リ檢舉シタル場合ハ其ノ事項

七 捜査上特ニ苦心シタル事項

八 其他捜査上參考トナルベキ事項

第九條 他署管内ノ犯罪ヲ檢舉シタル場合ハ成ルベク被疑者ヲ被害地ノ管轄スル警察官署ニ送致スベシ他署管内ニ關係アル犯罪檢舉ノ場合ハ關係警察官署ト協議シ相互便宜ト思考スル署ニ於テ處置スベシ

第十條 相貌特徴等ノ記載方ハ左ノ標準ニ依ルヘシ

- 一 頭髮、一分、五分刈、角刈、中央分、左分、右分、鬢形等
- 二 頭髮色、黒、赤、白、半白
- 三 頭髮ノ分量、濃、薄、禿
- 四 頭大、中、小
- 五 額、圓形、楕圓形、四角、上へ尖ツタ三角、下へ尖ツタ三角
- 六 眉、三日月形、眉尻下り、水平、眉頭連ル、眉尻上

七 眼ノ形、水平、眼尻上リ、眼尻下リ、一重瞼、二重瞼

- 八 眼ノ大サ、大、中、小
- 九 鼻形(横ヨリ見テ)眞直、凹、凸
- 十 鼻底ノ方向(横ヨリ見テ)上向、下向、水平
- 十一 耳、楕圓形、長狹、短廣、下狹
- 十二 唇、厚、中、薄
- 十三 口、大、中、小
- 十四 齒、整、不整、入齒、金冠
- 十五 顔色、赭、白、淺黃、黃
- 十六 鬚髯ノ色、白、黒、赤白、半白
- 十七 鬚髯ノ分量、濃、薄、無
- 十八 容貌、上品、並、下品
- 十九 體格、肥大、中間、瘦形
- 二十 身長、尺、寸、分
- 二十一 特徴、腫物痕、創傷痕、灸痕、痣、雀斑、斑癩風、癩、横痃痕、僂僂、跛足、兔唇、雙、斜視、額禿、文身等

第十一條 所轄内ノ犯罪ニ關係アル文書及記録ハ一件毎ニ之ヲ取纏メ其事件ノ檢舉若ハ時効ノ滿了ニ至ル迄左ノ種

別ニ分子編綴保存スベシ但シ事件寡少ナルトキハ便宜各種ヲ一括シテ編綴スルコトヲ得

- 一 内亂罪、外患罪、國交罪及騷擾罪ニ關スル書類編
- 二 懲治盜匪法、懲治綁匪條例違反、懲治土豪劣紳條例違反書類編
- 三 竊盜ニ關スル書類編
- 四 其他犯罪ニ關スル書類編

所轄外ノ事件ニ關スル特報及手配書類ハ左ノ種別ニ分子之レヲ編綴保存スベシ

- 一 犯罪特報編
- 二 犯罪捜査ニ關スル書類編

前二條ノ場合ニ於テ遺留品其他記錄ニ編綴シ得ザル文書ハ其ノ目錄ヲ作り之ヲ記錄ニ添付スベシ

第十二條 遺留品其他證據トナルベキ物件ハ別記第五號様式ノ遺留品台帳ニ記入シ一定ノ場所ニ之ヲ保存シ各犯罪事件トノ關係ヲ明確ナラシムベシ但シ保存ニ適セザル物件ハ寫眞ニ撮影シ其品名品質形狀及之ニ對スル鑑定分析其他研究ノ結果ヲ文書ニ作製シ之ヲ記錄ニ添付スベシ

第十三條 事件發生地警察署長警察分局長又ハ偵緝隊長ハ内亂罪外患罪國交罪盜匪綁匪殺人放火ノ犯罪ニ對シ一ヶ月以内ニ檢擧シ能ハザルトキハ第四號様式ノ犯罪捜査繼

續簿ヲ作製シ之ニ捜査ノ經過ヲ記入シ向フ一ケ年間毎月五日迄ニ捜査狀況二通ヲ製作シ一通ハ警察廳長又ハ縣長ニ一通ハ警務廳長ニ報告スベシ但シ緊要ナル狀況ハ其都度報告スベシ

第十四條 指名被疑者ノ手配ヲ受ケタルトキハ第六號様式ノ簿冊ヲ備付所定事項ヲ記入シ手配解除又ハ時效滿了其他必要ナシト認ムルニ至ル迄保存シ捜査ノ便ニ供スベシ

第十五條 列車内犯罪事件ノ如ク被害區域數管内ニ互リ或ハ所轄判明セザル等ノ事件ニ在リテハ最初申告ヲ受ケタル警察署又ハ警察分局ニ於テ特報其他ノ處理ヲ爲スベシ

第十六條 警察署長、警察分局長ハ毎月五日迄ニ第七號様式乃至第八號様式ノ月報ヲ製作シ警察廳長又ハ縣長ニ報告シ警察廳長縣長ハ取纏メ毎月二十日迄ニ警務廳長ニ報告スベシ

第十七條 住民ヨリ盜難届出アリタルトキハ第九號様式ニ依リ口頭錄取書ヲ取り第十號様式ニ依リ警長以上臨檢シ盜難實況見聞書ヲ作製所屬署長ニ報告スベシ

本令ハ大同二年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

第一號様式	
某警收 號	大同 年 月 日
警務廳長 某々犯罪特報	某々縣縣長某 印
日時 場所	
被害 人	籍貫 住址 職業 姓名 年歲
犯罪 手段 方法	

偵緝 資料	嫌疑 人	備考	通 報 處 所

第二號樣式

某縣發 大同 年 月 日	警務處長 某某縣長某某 函	某々犯罪檢舉特報	犯罪特報 此處應書本案已於某月日大某縣或警々號特報在案如未特報前被案即應寫明「本案未經特報」	犯罪種類 此欄應填 盜匪或綁匪殺人等	被害人
-----------------	------------------	----------	---	-----------------------	-----

檢舉 年月日 大同 年 月 日 午前 時 分	在警察某區分局管 界內某村門牌 號某姓院內逮捕或格斃	籍貫 住址 職業 姓名 年歲	犯人	經過 此欄應填偵緝嫌疑人犯之經過詳細事實暨訊問犯罪之情形並贓品之發見或其處置及其他之情形務要詳細記載之	情形
------------------------------	-------------------------------	----------------	----	--	----

原辦 案人 (1) 奉天警察廳第一警察署 警士某某某 (2) 奉天警察廳搜查股 搜查員某某某	處置 犯人之處置例如拍照像片將犯人送交地方法院(年月日)或拘留呈請奉天省長指令等	在逃未 獲之犯 (1) 籍貫 住址 職業 姓名 年歲 人相、服裝及是否攜帶兇器及其他等物
---	---	---

參考 事項 該當事項能供參考事項	通報 處
------------------------	---------

第三號樣式

局長 科司法 科員	受理年月日及號碼 大同 年 月 日	犯 罪 事 件 標 該警務局設備記載	場犯 日期 大同 年 月 日 午前 時 分	場犯 時間 某區某分局管界某村某姓	被害 人 各品名、性質、價格用處等務須 詳細分別記明為要	非現 行 犯 是否現行犯應須記明	發覺 原因 發覺原因應關重要故須詳明	可 作 證 據 之 物 件 及 其 他 可 資 證 據 之 材 料 明 為 要	要 辦 之 實 事 罪 犯 偵緝基礎故務須詳細記載之	考 備
-----------------	----------------------	-----------------------------------	-----------------------------	-------------------------	---------------------------------------	---------------------------	--------------------------	--	---	--------

局 長 科司法 科員	原 案 人 辨 案 日 辨 案 時 案 人 辨 案 日 辨 案 時	場 辨 案 所 案 場 辨 案 所	前 科 之 迄 至 破 案 機 動	證 據 物 件	釋 年 月 日 釋 年 月 日	放 理 由 大 同 年 月 日	送 年 月 日 送 年 月 日	交 送 機 關 大 同 年 月 日	處 分 結 果	考 備
---------------------	---	---	---	------------------	--------------------------------------	--------------------------------------	--------------------------------------	---	------------------	--------

第四號樣式

犯罪偵緝簿之一										某區分局
罪名	被害人名	犯罪年月日時	犯罪場所	手段方法	嫌疑人犯	勘驗官吏	破案年月日時及場所			

搜查之經過

◎注意

此欄專為記載本管內之犯罪事項

第五號樣式

遺留品存查簿				縣區分局
編號	品名	數目	受理案件年月日號碼	案名
			徵出人姓名	受入年月日及事由
			領出年月日及事由	備考

第六號樣式

犯罪偵緝簿之二					區區分局
犯罪該管署名	該管年月日時	犯罪場所	案名	犯罪手段及被害價格	嫌疑人姓名年籍人相住址破年日
注意此簿即他縣請求通緝或接受他管犯罪特報時記載此簿之					

第七號樣式

警收		...號		犯罪檢舉之一		大同年月份		縣公署	
罪名	犯罪件數	破案件數	滿洲國人	中國人	外國人	共計	男	女	計
罪之上律刑									

備考									
注意此表每月按照表式由縣轉報警務處									

盜匪治	懲治匪	懲治土	劣紳治	軍用槍	取用槍	其他	共計	備考	
								務警處長 呈	
							大同年 月 日		某某縣縣長○○○ 印

第八號樣式
〇〇縣發...號
犯罪及檢舉之二
大同 年 月 份
〇〇縣縣長〇〇〇

罪名	刑律上之罪	懲治盜匪法	懲治綁匪法	共計
金錢 元	物品價額 元	金錢 元	物品價額 元	
見	備	考		

備考
注意 此表與七號表式相同應每月務要月報

謹呈
警務廳長
大同 年 月 日
某某縣縣長〇〇〇 同

第九號樣式
被盜口頭報告錄取書
(被害者住址)
(職業姓名年歲)
右報案人因被盜案件口頭報到依據其報告錄取如左
某縣某局第分局某分所
錄取警士〇〇〇
錄取日時大同 年 月 日 午前 時 分
報案人住址 報案人 某 某同

被害之日時
被害之場所
犯人遺留
物件摘要

名稱	種類	形狀	數目	價額
注意 此表該分局或分所保存非是報警務廳				

第十號樣式

竊盜案實地勘驗報告書

被害人名實住址職業姓名年歲
大同 年 月 日 被害場所
報告日時 月 日 午前 時 分 勘驗日時 月 日 午前 時 分

犯罪手段方法及侵入逃走徑路
注意
此表分局報長呈警務廳長爲止非是呈報警務廳長

有無遺留品指紋
足址並搜查資料

被害財物種類
目價格被害當時
告之所在是否與相
偵緝情形
犯人或嫌疑者之
住址姓名年歲相
其他參考事項
大同 年 月 日
〇〇縣第〇區
〇〇縣警務廳長

共計 件 價格 元

重要犯罪請訓並二報告規程

(康德元年八月二十日)
司法部訓令刑字第五二五號

- 第一條 檢察官左記案件ノ偵查ニ著手セントスルトキハ司法部大臣ニ直接請訓シ其ノ指揮ヲ受クベシ
- 一 現職ニアル簡任官、同待遇者又ハ勳三位以上ノ者ニ係ル有期徒刑以上ノ犯罪嫌疑案件
 - 二 國交ニ影響ヲ及ボス虞アル犯罪嫌疑案件
 - 三 經濟界ニ重大ナル影響ヲ及ボス虞アル犯罪嫌疑案件
 - 四 治安ニ重大ナル影響ヲ及ボス虞アル犯罪嫌疑案件
- 前項ノ請訓書ニハ嫌疑者ノ姓名、住址、職業、嫌疑事實嫌疑ノ憑據、主任檢察官ノ姓名其ノ他必要ナル事項ヲ記載スベシ
- 第二條 檢察官左記嫌疑者ヲ羈押セントスルトキハ司法部大臣ニ直接請訓シ其ノ指揮ヲ受クベシ
- 一 簡任官、同待遇者又ハ勳四位以上ノ者
 - 二 現職ニ在ル薦任官又ハ同待遇者
 - 三 前二號ノ外樞要ノ地位ニ在ル內國人又ハ外國人
- 前項ノ請訓書ニハ羈押ヲ必要トスル理由及前條第二項所列ノ事項ヲ記載スベシ但シ前條ニ依リ既ニ請訓ヲ經タル

モノニ付テハ其ノ重複スル部分ノ記載ヲ省略スルコトヲ得

第三條 檢察官左記案件ノ偵査ヲ畢リ起訴又ハ不起訴ノ裁定ヲ爲サントスルトキハ其ノ意見ヲ具シ司法部大臣ニ直接請訓シ其ノ指揮ヲ受クベシ

一 皇帝ニ對スル危害罪案件

二 第一條第一項所列ノ案件

三 第二條第一項所列ノ者ニ係ル有期徒刑以上ノ犯罪嫌疑案件

四 内亂罪、外患罪又ハ暫行懲治叛徒法ノ罪ニ係ル嫌疑案件

五 思想的背景ヲ有スル犯罪嫌疑案件

六 司法部職員ニ係ル犯罪嫌疑案件

七 外國人ニ對スル重大ナル犯罪嫌疑案件

前項ノ請訓書ニハ第一條第二項所定ノ事項ヲ記載シ竝ニ嫌疑者及關係人ニ對スル筆録ノ謄本ヲ添附スベシ

前二項ノ規程ニ依リ直接請訓シタル後起訴又ハ不起訴ノ裁定ヲ爲シタルトキハ之ヲ司法部大臣ニ通報スベシ

第四條 檢察官前條第一項所列ノ案件ヲ起訴シタル後其ノ起訴ヲ撤回セントスルトキハ前條第一項ニ準ジ司法部大臣ノ指揮ヲ受クベシ但シ其ノ請訓書ニハ被告人ノ姓名、

十 前各號ノ外刑事政策上特ニ注意スベキ犯罪

第七條 法院左記被告案件ヲ審判シタルトキハ其ノ裁判ノ謄本ヲ添附シテ之ヲ司法部大臣ニ通報スベシ

一 第三條第一項所列ノ案件

二 第六條所列ノ案件

法院ニ於テ前項ニ該當セザル案件ト認メタルモノト雖モ既ニ檢察廳又ハ下級審ガ本規程ニ依リ通報ヲ爲シタル案件ハ仍ホ之ヲ司法部大臣ニ通報スベシ

第八條 前條記載以外ノ被告案件ニ付無期徒刑ヲ科スル判決確定シタルトキハ該法院ヨリ裁判謄本ニ確定ノ日期ヲ記入シテ之ヲ司法部大臣ニ通報スベシ

第九條 第三條第一項所列案件ノ裁判ニ對シ檢察官上訴ヲ爲シタルトキハ該檢察廳ヨリ上訴ノ日期及其ノ理由ヲ司法部大臣ニ通報シ檢察官以外ノ者上訴ヲ爲シタルトキハ法院ヨリ上訴ノ日期及上訴者ノ姓名ヲ司法部大臣ニ通報スベシ

第十條 第七條所列ノ案件ニ對スル裁判確定シタルトキハ其ノ執行ヲ指揮スベキ檢察廳ヨリ左記事項ヲ司法部大臣ニ通報スベシ

一 裁判確定ノ日期

二 執行ヲ指揮シタル日期

住址、職業、起訴事實、起訴撤回ノ理由、主任檢察官ノ姓名其ノ他必要ナル事項ヲ記載スベシ

前項ノ規程ニ依リ豫メ請訓シタル後起訴ヲ撤回シタルトキハ之ヲ司法部大臣ニ通報スベシ

第五條 前四條ノ規程ニ依リ司法部大臣ニ請訓又ハ通報ヲ爲シタルトキハ速ニ之ヲ其ノ上級各檢察廳長ニ通報スベシ

第六條 檢察官左記犯罪案件ヲ起訴シタルトキハ起訴狀ノ謄本ヲ添附シテ之ヲ司法部大臣竝ニ其ノ上級各檢察廳長ニ通報スベシ但シ第三條第三項又ハ前條ノ規程ニ依リ既ニ通報ヲ爲シタルモノハ此ノ限ニ在ラズ

一 公務員ニ係ル職務上ノ犯罪

二 刑法第二編第七章ノ罪

三 刑法第二編第十二章ノ罪

四 有價證券(郵票、印花稅票、船票等ヲ含ム)ノ偽造若ハ變造又ハ不正有價證券ノ收集若ハ行使ノ罪

五 公務所ニ對スル重大ナル犯罪

六 法人ノ役員ニ係ル重要ナル業務上ノ犯罪

七 爆裂物ニ關スル重大ナル犯罪

八 出版法第四條第一號乃至第三號ノ罪

九 律師ノ犯罪

三 直チニ刑ヲ執行スルコト能ハザルトキハ其ノ事由

四 其ノ他必要ナル事項

第十一條 本規程ニ依リ請訓ヲ爲スベキ場合ニ於テ急速ヲ要スルトキハ口頭電話又ハ電信ヲ以テ豫メ稟議シタル後制規ノ手續ヲ履踐スベシ事態緊急ニシテ稟議ノ進ナキトキハ其ノ處分ヲ爲シタル後速ニ之ヲ司法部大臣ニ通報スベシ

司法部大臣特ニ急速了知ヲ必要トスル通報ニ付亦前項ニ同ジ

第十二條 本規程ハ法令ニ依リ審判又ハ檢察ノ事務ヲ管掌スル法院及檢察廳以外ノ司法機關ニ之ヲ準用ス

附 則

本規則ハ康德元年九月一日ヨリ之ヲ施行ス

民國二年訓令特別案件應專案詳報令及民國三年頒行刑事案件報部辦法ハ本規程施行ノ日ヨリ之ヲ援用セズ

犯人逮捕章程

(前警務處)

第一條 各種犯人逮捕ニ關スル手續キハ本章程規定ニ照シ處理スベシ

第二條 警察ハ職務執行ノ時違警現行犯アルヲ認メタル時ハ即時之レヲ逮捕スルコトヲ得但シ左記各號ノ一ニ該當

- ズルモノハ此限ニアラズ
- 一 其ノ姓名住所ヲ知り逃走ノ虞レナキモノ
- 二 特別ノ身分アルモノ
- 三 重要職務ヲ有スルモノ
- 四 非現行犯者

第三條 刑事犯人ハ官職身分等ノ階級ノ區別ナキモ實際ノ關係上普通刑事犯人ハ當該管轄長官ノ許可アルモノヲ除キ左記各號ノ一ニ該當スルモノハ警察官直接逮捕スベカラズ

- 一 現任官吏
- 二 兵士
- 三 會議中ニ在ル議員

第四條 刑事犯人ニシテ左記各號ノ一ニ該當スルモノハ如何ナル職務ニ身分アルモノト問ハズ即時逮捕スルコトヲ得以テ逃走ヲ免ルベシ

- 一 現行犯
- 二 逃走ノ虞レアルモノ
- 三 捜査逮捕ノ命令アリタルモノ

第五條 民事事件ノ者ニ對シテハ民事ノ結果ガ刑事犯罪構成シタルモノヲ除キ逮捕ヲ許サズ

第六條 本章程第二條第一項第三號規定ノ違警犯人アリタ

ル場合ハ本屬長官ニ報告シ手續キヲ以テ召喚スベシ

第七條 本章程第三條第一項各號ノ一ニ該當スル犯人アリタル場合ハ警察分所或ハ警察署ニ速報シ警察署ニ於テハ公文ヲ以テ當該機關ニ之ヲ通知シ當該機關自ラ法ニ依リ處理セシムベシ

第八條 本章程ハ公布ノ日ヨリ施行ス

殺人強盜竊盜事件發生時ノ檢證
(前警務處)

臨場章程

- 第一條** 殺人、強盜、竊盜事件發生シ檢證ニ臨場スル時ノ手續キハ本章程ニ照シ處理スベシ
- 第二條** 警察署、分駐所ニ於テ殺人及強盜竊盜事件ノ發生ヲ發覺或ハ人民ヨリ報告ヲ受ケタル時ハ即時警察幹部員ヲ派遣シ發生現場ノ重要地點ヲ監視シ次第原狀ノ保存檢視ニ便ナラシムベシ
- 第三條** 現場監視ニ派遣サレタル警士ハ左ノ事項ニ注意スベシ
 - 一 重要場所ニ任意ニ出入ヲ許サザルコト
 - 一 附近ニ在ル有ラユル物件ヲ移動シ以テ原狀ノ變改ヲスルガ如キコトヲ許サズ

- 一 有ユル指紋ノ存在スル物品ハ他人ニ摩擦セシムベカラズ
 - 一 被害ノ主體ハ尤モ注意ヲ要シ少シタリトモ變動スルヲ得ズ
- 第四條** 當該署及分駐所ハ殺人強盜事件ニ對シテハ幹部員ヲ派シテ現場ヲ監視セシムルト共ニ一面電話其ノ他ニ依リ當該管轄署ニ急報シ巡官自ラ現場ニ臨ミ左ノ事項ヲ詳細ニ檢索スベシ
- 一 最初重要部分ハ逃走犯人遺留ノ指紋ヲ捜査シ犯人逮捕ノ資料トスベシ
 - 一 逃走犯人ノ遺留物品ノ有無及犯罪ニ供シタル器具ト共ノ他ノ存留セル痕跡ノ有無ヲ檢査スベシ
 - 一 被害品及被害者ノ負傷箇所ヲ檢査シ犯罪ノ原因ヲ探究スベシ
 - 一 犯罪ノ方法ヲ檢査シ怨恨關係ノ有無ヲ區別スベシ
 - 一 犯罪目的物所在ノ場所及出入ノ経路ヲ檢査シ以テ犯人ノ行爲ガ熟知セルモノノ行爲ナルヤ否ヤヲ察知スベシ
 - 一 被害者ノ姿勢物品奪取ノ手段ヲ檢査シ以テ當時ノ情況辨識スベシ
 - 一 檢査ノ際ハ現場ニ在ル者ノ顔色、言語等ニ注意シ正

- 犯人ノ有無ヲ識別スベシ
 - 一 犯人逃走當時ノ言語動作ヲ訊問シ連絡者ノ有無ヲ識ルベシ
 - 一 逃走犯人ノ語音並ニ年齢服裝等ヲ訊問シ以テ犯人ノ本籍及身分ヲ識ルベシ
 - 一 犯人ガ犯罪敢行中有無意識ノ別、特異ノ行爲アリシヤ否ヤヲ訊問シ以テ以上ノ根本ヲ推定スベシ
 - 一 被害者及其ノ家族ニ特種ノ嗜好及習慣ノ有無並疑問ノ點ヲ認定シ以テ前記各項注意點ノ貫徹ヲ期スベシ
- 第五條** 事件重大ナル時ハ分駐所長ハ司法股員及當該管轄署所各級官長ヲ帶同シ慎重ニ檢査ヲナシ輕微ニシテ他ニ關係ナキモノハ署及所ニ於テ本章程第三及第四條規定ノ方法ニ依リ自ラ處理スベシ
- 第六條** 檢査爲シタル後其蒐集シ得タル情況ヲ分駐所ヨリ電話ヲ以テ各署ニ通知シ一體ニ檢査スベシ
- 第七條** 本章程ハ公布ノ日ヨリ施行ス
- 縣警察呼出章程**
(前警務處)
- 第一條** 凡テ呼出ノ手續キハ均シク本章程規定ニ照シ處理スベシ
 - 第二條** 警士ノ呼出ニ臨ム時注意スベキ事項左ノ如シ

- 一 呼出狀所持スベシ
- 二 事件ノ大要ヲ知悉スベシ
- 第三條 呼出ニ勤務スル警士被呼出者ノ家宅或ハ住所ニ至リタル時ハ先ヅ呼出狀ヲ示シ來意ヲ説明シ誤ヲツ生ゼザル様スベシ
- 第四條 呼出ニ勤務スル警士ニシテ被呼出者ニ左ノ狀況ノ一アル場合ハ若干時間内ニ出頭スル事ヲ許スベシ但シ特ニ命令アルモノハ此ノ限りニ在ラズ
 - 一 天災等ニ依リ即時離レ能ハザルモノ
 - 一 特種ノ作業ニ從事シ即時停止セシ不利益アルカ危険ノ虞レアリ適當ナル交替者ナキ場合
 - 一 被呼出人ヨリ事故ノ陳述アリ暫時猶豫ヲ請フモノ
- 第五條 若シ被呼出者ガ文字ヲ解セザルカ呼出ノ理由ヲ知ラサルモノニ對シテハ呼出勤務ノ警士ヨリ其詳細ヲ告知スベシ但シ重要ノ點秘密ヲ守ルベキモノハ此限ニアラズ
- 第六條 呼出勤務ノ警士若シ第四條規定ノ特別命令ヲ受ケズ被呼出者不在ノ場合ハ呼出ノ理由ヲ其家族ガ責任者ニ告知シ指定時間ニ出頭方ヲ命ズベシ理由ナク長座シ本人歸來ヲ待ツベカラズ
- 第七條 被呼出者第四條規定第一項各號ノ故障アル時ハ呼出勤務警士ハ暫時猶豫ヲ與フベシ但シ猶豫期間ハ一日ヲ

- 越ユルコトヲ得ズ
- 第八條 被呼出人若シ當日出頭シ能ハザル時ハ呼出勤務警士ハ速カニ其旨命令ヲ發シタル長官ニ報告シ指示ヲ仰グベシ
- 第九條 本章程ニ盡サザル事項アル時ハ隨時更正ヲ上申スベシ
- 第十條 本章程ハ公布ノ日ヨリ施行ス

犯人保證狀徵收章程

(前警務處)

- 第一條 保證狀ノ徵收ハ責任ノ轉嫁ニシテ關係極メテ重要ナルヲ以テ本人ヲ帶同保證狀徵收ニ勤務スル警士ハ須ク本章程ニ照シ處理スベシ
- 第二條 保證狀徵收ノ種類ハ左ノ如シ
 - 一 呼出訊問ニ相違無ク應ズル保證
 - 一 金錢上ノ責任負擔ノ保證
 - 一 證明ニ關スル保證
- 第三條 事件内ノ犯人ヲ帶同シ保證狀徵收ニ勤務スル警士ハ其ノ保證ヲ徵スル時保證人ニ對シ本事件ノ概略ノ内容及保證人ガ負フベキ責任ノ種類ヲ説明スベシ真相ヲ偽ル事ヲ得ズ

第四條 保證人ハ保證ニ對スル自己ノ本意ヲ告ゲ警察ニ勸誘或ハ拒絕スルコトヲ得ズ

第五條 保證人ガ若シ商號ナル時ハ店ノ印鑑ノ外支配人ノ姓名ヲ添加スベシ

第六條 保證狀ニハ保證人ノ住所、某區、某分所、某街、門牌號ヲ明記シ以テ調査ニ便スベシ

第七條 保證人ガ保證ニ同意シ保證狀ヲ交付シタル場合ハ保證狀ノ内容ヲ朗讀シ以テ保證狀ノ内容事項ト相違無キ事ヲ確ムベシ

第八條 本章程ハ公布ノ日ヨリ施行ス

犯人受領章程

(前警務處)

第一條 各署、所及其他ノ機關ヨリ送致シ來レル犯人ヲ司法警察ニ於テ受領シタル時ハ係員ハ公文ノ犯人名上ニ捺印シ以テ證明トスベシ

第二條 司法警察ハ特別ノ命令無キ限り左記各號ノ者ハ受領スベシ

- 一 刑事被告人
- 一 刑事原告ニシテ誣告ノ疑ヒアルモノニシテ保證人ナキモノ
- 一 違警者

警察事件送致章程

(前警務處)

第一條 縣警察署ヨリ送致スル各種事件ノ犯人ハ特別ノ命令及規定アルヲ除キ拘シテ本章程ニ依リ處理スベシ

- 第二條 犯人送致ノ公文ハ官印押捺後收發處アリ指定差遣警士ヲシテ拘留所ヨリ犯人ヲ受取り其ノ場合司法警長ハ姓名ヲ叫ビ其本人ト相違ナキヲ確ムベシ
- 第三條 犯人送致ノ公文發セラレタル時ハ即時押送シ故意ニ遅延スルヲ得ズ若シ事實及手續キ未了ノモノハ速カニ主管長官ニ報告スベシ
- 第四條 刑事犯人ノ押送ニハ均シク捕繩ヲ用フベシ民事被告入ニシテ保證人無キカ逃走ノ虞レアルモノ亦同ジ但シ特別ノ命令アルモノハ此限ニアラズ
- 第五條 押送犯人ヲ縛シタル場合ハ隊長或ハ警長其施繩ヲ檢査シタル後押送シ重要犯人及巨額ノ贓品アル場合ハ隊長或ハ警長自ラ押送スベシ
- 第六條 若シ同一事件内ノ犯人數名ヲ同時ニ押送スル場合ハ拘留所取リ受取りタル後及押送ノ途中各犯人相互ニ談話シ或ハ左右ヲ視ルコトヲ許サズ且ツ途中犯人トノ面會ヲ許サズ
- 第七條 押送犯人ニシテ歩行シ得ルモノハ乗車ヲ許サズ婦女子及病患者竝ニ外國人自ラ之ヲ支辨スルコトヲ申出デタル場合ハ之ヲ聽クベシ但シ護送ノ警士ト女犯ト同乗ノ場合ハ取締上ノ言語以外任意ニ談話スベカラズ
- 第八條 犯人護送ノ警士途中ニ於テ長官ト相遇シタル時犯

- 人ニ注意ノ必要アル場合目禮ノミトシ舉手捧鉢ノ禮ハ省略スルコトヲ得
 - 第九條 犯人ヲ處理機關ニ送達シ受授完了シタル時ハ受領證ヲ受取り速ニ歸還スベシ別途命令ヲ受ケル場合ノ外途中ニ於テ他用ヲナスベカラズ
 - 第十條 本章程ハ公布ノ日ヨリ施行ス
- 人民家宅搜查章程** (前警務處)
- 第一條 人民ノ家宅ヲ搜查スルハ已ムヲ得ザル手段ナルモ人民ノ名譽ト居住安寧ニ重要ナル關係ヲ有スルヲ以テ特ニ慎重ニシ左ニ列記ノ理由アルニ非ラザレバ搜查スルコトヲ得ズ
 - 一 自身ノ犯罪
 - 一 他人ノ告發及犯人ノ供證
 - 一 命令或ハ他官署ヨリノ指名搜查或ハ囑託ヲ受ケ協助スルモノ
 - 一 警察官吏ノ調査ヲ經タル結果搜查ノ必要アリト認めラレタルモノ
 - 第二條 搜查施行ノ際事前ニ分所長ニ報告シ許可アリタル後施行スベシ
 - 第三條 犯人家宅ノ搜查ハ官長引率ノモトニ行ヒ任意警士

- 自ラ爲スコトヲ得ズ
- 第四條 搜查警察ハ搜查ノ目的及原因竝ニ其他關係アル事情ヲ知ルヲ要シ以テ臨機ノ措置ヲ誤ルベカラズ
- 第五條 若シ人民ノ家宅搜查ノ場合ハ先以テ該家宅附近ノ鄉團保甲團等ヲ現場ニ立會ハシメ且隨時其情況ヲ訊問スルコトヲ得
- 第六條 搜查ノ時ハ先ツ該宅ノ交通ヲ斷テ以テ搜查目的物ノ移動ヲ免ルベシ
- 第七條 誤解ヲ生ゼザル爲メ搜查理由ノ概畧ヲ其家族ニ告知スベシ但シ秘密ヲ要スルモノハ此ノ限りニアラズ
- 第八條 警察ニ於テ衣類箱内ノ搜查及其他ノ物件ノ移動ノ必要アル場合ハ該家族ニ命ジ自ラ行ハシメ警察ハ監視シ以テ物件ノ破損及遺失ノ非議ヲ免ルベシ但シ家族ニ適當ナルモノ無キ時ハ此限リニアラズ
- 第九條 搜查ノ目的ニ據ル其ノ適當ナル範圍ヲ超ユルコトヲ得ズ
- 第十條 搜查完了シタル時ハ其ノ家族ノ證明書ヲ徴シ若シ押收物件アル場合ハ其品名數量等明記ノ上其家族ニ讀聽セシメ若シ符合シタル時ハ家族ニ捺印セシメタル上署ニ保存スベシ
- 第十一條 本章程ニ盡サザル事項ハ隨時改正ヲ申請スベシ

- 預審室規則** (前警務處)
- 第一條 各縣警察署ニ刑事事件假豫審及ヒ違警事件ノ審判ヲ處理スル爲メ豫審室ヲ設ケ以テ秩序ヲ重ンズベシ
 - 第二條 豫審室ニ於テ豫審ノ場合ハ職務ヲ有スルモノノ外入室或ハ室外ヨリ盜聽ヲ許サズ
 - 第三條 豫審室内ニ於テハ吸煙哄笑及任意ニ吐痰スルヲ得ズ
 - 第四條 豫審ノ時ハ警士二名或ハ四名ヲシテ秩序ヲ維持セシムベシ
 - 第五條 豫審人ハ訊問ノ際犯人ガ如何ニ狡猾ナルトモ相當ノ言語ヲ以テ訊問シ漫罵スベカラズ
 - 第六條 豫審者ハ制服ヲ着用スベシ
 - 第七條 女犯ニ對シテハ如何ナル事件ヲ論セズ任意ニ嘲笑スベカラズ
 - 第八條 被豫審者ハ高聲ニ喧噪或ハ任意ノ行動ヲ許サズ
 - 第九條 被豫審者ハ狂暴ノ行爲アルベカズ
 - 第十條 被豫審者ガ二人以上同時ニ訊問ヲ受ケル場合ハ順次ニ發言シ先ヲ爭ヒ抗辯スルヲ得ズ
 - 第十一條 重要犯人豫審ノ場合ハ秩序維持ノ警士ハ嚴重監

視スベシ

- 第十二條 豫審ノ際得タル供述ハ豫審者或ハ指定人速記シ以テ確實ニスベシ
- 第十三條 豫審者ノ取録シタル供述ハ被豫審者ニ朗讀シ聽カシメタル後捺印セシムベシ
- 第十四條 違警罪ニ對スル罰金ノ判定ヲ與フル時ハ錄取書ニ記載シ違警者ニ朗讀シ聽カシムベシ
- 第十五條 秩序維持ノ警士ハ命令アルニ非ザレバ任意ニ出入或ハ發言スルヲ許サズ
- 第十六條 許可ヲ得傍聽スルモノ傍聽ノ時ハ任意ニ出入スルヲ得ズ豫審人ノ訊問アルニ非ラザレバ發言スルヲ得ズ
- 第十七條 豫審室ハ隨時掃除シ以テ清潔ヲ保ツベシ

犯人携帶物保存章程 (前警務處)

- 第一條 犯人ヲ收容スル場合ハ一切ノ携帶物品ヲ搜出シ本章程ノ規定ニ照シ之レヲ保存スベシ
- 第二條 犯人ヨリ搜出セル携帶物品ハ現場ニ於テ犯人ニ點檢セシメ以テ事後ニ誤リ無キヲ期スベシ
- 第三條 其ノ携帶物品ハ點檢終了後司法警長ニ交付シ携帶物保存簿ニ記載シ携帶物品保存簿内ニ格納保存スベシ右交付及記載手續キハ二時間以上遲延スベカラズ

- 第四條 犯人ガ若シ携帶物品中ノ現金ニテ飲食物及其他正當ナル物品ノ購入ヲ欲スル場合ハ現金ノ受領ヲ許スベシ但シ一日五十錢ヲ越ユルコトヲ得ズ現金ヲ渡シタル時ハ即時携帶物保存簿内ニ某月日何用ニテ現金若干受授ト明記スベシ
- 第五條 携帶品ガ物品ナルトキハ犯人ガ如何ナル理由ニヨルトモ任意ニ換價消費スルヲ許サズ若シ自身使用ノ場合ハ許可シ第四條處理方法ニ依リ簿冊ニ記載スベシ
- 第六條 携帶物ノ搜出ニ從事シタル警長警士ハ犯人携帶物保存簿ニ自署捺印スベシ
- 第七條 犯人出所ノ爲携帶物品ヲ交付スル場合ハ保存簿ニ依リ已ニ交付シタル物品現金等照合ノ上犯人ニ承認セシメタル後殘品ノ品名月日等明記シ交付スベシ尙處理セル犯人ニ記名捺印セシムベシ
- 第八條 如何ナル保存物品ト雖モ他ニ之レヲ使用スルコトヲ許サズ
- 第九條 犯人ノ携帶物ハ犯人出所ノ時ハ即時點檢交付スベシ交付ノ遲延若ハ後日交付スルガ如キコトアルベカラズ
- 第十條 搜出セル携帶物品中携帶禁止違反物件アル場合ハ簿冊記載ニ要メズ即時主管長官ニ報告其指示ヲ受クベシ但シ遲延及隱匿スルヲ得ズ

- 第十一條 本章程ハ隨時更正ノ申請ヲナスコトヲ得
- 第十二條 本章程ハ公布ノ日ヨリ施行ス

贓品管理章程 (前警務處)

- 第一條 贓品ヲ保存スル爲メ刑事及違警等ニ依ル各種ノ贓品ハ本章程ニ依リ之レヲ管理處分ス
- 第二條 捜査押收セル各種贓品ハ法ニ依リ一ヶ月間公告ヲナサシメタル後被害者受領ノ申出ナキ場合ハ簿冊ニ記載シ保管庫内ニ保存ス但シ刑事犯人アル場合ハ贓品ハ證據トシテ犯人ト同時ニ法院ニ送致スベシ
- 第三條 保存シタル各種贓品ハ六ヶ月ヲ經タル後競賣ス競賣ノ方法ハ衆人ニ公開シ二週間前正式公告シ事後明細表ヲ作製公報ニ登載スルト共ニ品名、數量及價格等列記報告スベシ
- 第四條 刑事贓品中保存ノ必要アリト認ムル物品アル場合ハ其競賣手續キヲ延シ公文中ニ明確ニ詳述報告スベシ
- 第五條 各種贓品中若シ容易ニ腐敗スルカ消耗品ニシテ第三條規定ノ期限ヲ適用シ能ハザルモノアル場合ハ其情況ヲ酌量シ期日前競賣シ其現金ハ簿冊ニ記載保存シ若シ被害者受領ノ申出アリタル時ハ右現金ヲ以テ交付シ然ラザルモノハ六ヶ月後沒收スベシ

- 第六條 文書類及物權ヲ移轉シ能ハザル贓品ハ特別ノ事情アルモノ及被害者受領ノ申出アルモノヲ除キ永久保存ス
- 第七條 各種贓品ヲ競賣シ收入シタル金錢ハ其收入項目ヲ列記上申シ認可アリタル後支出スルコトヲ得
- 第八條 以上各條ニ不適當ノ個所アル時ハ隨時修正ノ上申ヲナスコトヲ得
- 第九條 本章程ハ發布ノ日ヨリ施行ス

沒收物品處分規則

(民國三年四月十七日部令第五七號四月二十九日修正 十年八月八日部令第七八八號八月八日政一四八號政)

- 第一條 凡ソ犯罪ニ因リ沒收シタル物品ハ毎年ノ數目ヲ期間毎ニ分類シ司法部ヘ報告スベシ
- 第二條 凡ソ沒收ノ物品ニシテ違禁物(禁止品)ノ鎖燬(焚却以下同シ)或ハ主管衙門(管轄ノ官署)ヘ送り處分スベキモノヲ除ク外(阿片及毒物等ノ如キハ鎖燬シ銃器彈藥ノ如キハ京ニ在リテハ司法部ニ交付シ陸軍部ヘ轉送スベシ京外地ニ在リテハ高等檢察廳ニ交付シ附近各軍部ヘ轉送スベシ)其他ハ當該官署ニ保儲(保存)シ毎年一回競賣ノ方法ニ依リ競賣シ其ノ保管上不便トスルモノハ即時ニ競賣スルコトヲ得

競賣ノ期日ハ各官署之ヲ定ム

第三條 凡ソ沒收ノ物品ニシテ揭示受領セシムルモノハ其
宣告揭示ノ日ヨリ動物ハ一ヶ月ヲ經過シ其他物品ハ一ケ
年ヲ經過シ受領人ナキ時ハ前條ニ依リ處理ス但シ前記ノ
時間經過シ能ハザル物品ヲ有スル場合ハ各該官署長ヨリ
其ノ受領揭示時期ヲ短縮決定スルコトヲ得

第四條 前條ノ物品ニシテ受領揭示ノ期間一ケ年ニ滿タズシ
テ既ニ競賣シタルモノハ最初揭示ノ日ヨリ滿一ケ年以内
ニ若シ本人受領ニ出頭シ事實ナルトキハ競賣ノ原價格ヲ
交付スベシ但シ動物飼養費(食費)ヲ控除スベシ

第五條 凡ソ競賣ニ附シタル沒收物品ノ價格ガ五百圓ニ滿
ツルモノハ會計法第二十四條ニ依リテ處理スベシ

第六條 凡ソ沒收物品ヲ競賣シ所得ノ代金ニシテ國庫ニ屬
スベキモノハ京ニ在リテハ各官署ヨリ取纏メ書類ヲ以テ
司法部ヘ送附シ京外ニ在リテハ高等檢察廳ヨリ取纏メ司
法部ヘ送付スベシ

第七條 本規則ハ公布ノ日ヨリ施行ス

司法警察官定員並收賄取締ニ關スル件

(康徳元年六月二十一日 奉高檢訓令第一二四二號)

各廳庭法署ニ令ス

司法警察ト訴訟人トハ最モ接近シ易キヲ以テ口實ヲ設ケ金
錢ヲ要素スル等ノ事實往往之レ有リ各監督長官ノ監督不行
届ニ因ルト雖モ彼等給料ノ微薄ナルモ亦最大ノ原因ナリ調
査ノ結果ニ據ルニ各廳庭署ノ法警ハ定員外ニ一倍以上ノ臨
時増員ヲナシ其ノ給料ハ豫算金額ヲ割當テ一人ノ給額多キ
モ十圓ニ過ギズ少キハ二三圓ノモノアリ此ノ如キ少額ニハ
テ訴訟人ヲ以テ魚肉ト爲サザルモノアラシヤ各屬法警ノ定
員ハ豫算甚ダ少ク實際職務上不足ヲ感ズルヲ以テ定員外ニ
増員スルハ已ムヲ得ザルモ務テ事務ヲ審酌ノ上果シテ不足
ヲ告ル場合ハ少數ノ候補ヲ任用シテ補助セシムルハ妨ゲナ
キモ如何ナル場合ニ於テモ定員三分ノ一ニ達スルヲ得ズ各
廳庭法署ハ至急上述事實ノ有無ヲ調査シ並ニ定員幾名及必
要限度ノ候補幾人ナルヤニ付期日ヲ限リ報告シ任意ニ増員
スルヲ得ズ若シ定員外ニ必要アル場合ハ額外候補者ヲ以テ
補充シ以テ鼓勵ニ資スベシ萬一當人ニ對シ口實ヲ設ケ金錢
ヲ要求シ或ハ詐欺脅喝ヲナスモノハ之ヲ檢舉シ或ハ告發セ

ラレタル時ハ嚴重ニ處罰シ姑息ナル可カラズ今後各該長官
ハ當然其ノ責任ヲ負フベシ現在農村疲弊シ人民生計困難ノ
際訴訟事件ノ爲ニ苦累ヲ受クルハ實ニ堪ヘ難キ所ナルニ更
ニ警吏ノ脅迫要素ニ任セバ何ヲ以テ民權保障ノ本旨ニ符セ
ンヤ本廳長以上ノ報告ヲ得殊ニ隱痛ヲ深クス茲ニ貴廳ニ訓
令ス遵奉處理シ詳細報告スベシ此ニ令ス

司法警察官ノ印

(大同二年三月二十九日 司法部公函第一四號)

民政部宛

拜啓本年一月二十四日附本部第一號公函ニ記載セル司法警
察官刑訴法第八十九條ニ依リ公文書作製ノ時ハ製作者ハ
必ズ署名捺印スベキコトハ已ニ貴部ニ通牒セルトコロナリ
上述ノ情形ヲ按ズルニ所謂捺印ノ一節ハ該警察官個人ノ印
ヲ用フベシ事法律ノ程序ニ關スルニ因リ貴部ニ通牒致スニ
付轉令遵照相成度

日本官憲ヨリ引渡犯人ノ處分ニ關スル件

(大同二年九月五日 司法部訓令第五〇二號)

奉天高等檢察廳ニ令ス

第四編 司法

二十歳以下ノ少年犯罪取扱ニ關スル件

(大同二年九月五日 司法部訓令第四九九號)

各省區高等檢察廳ニ令ス

在スルニ各省區各監所ニ於テハ常ニ二十才以下ノ少年犯ヲ
普通犯ト同一室ニ收容シ其ノ爲漸次悪性ヲ傳染シ累犯ノ習

奉天省長ノ具申ニ依ルニ本年六月二十三日奉天日本總領事
館ヨリ從來滿洲國官廳ハ日本官憲ヨリ引渡セル犯人ニ付テ
任意ニ釋放スルノミナラズ且裁判ノ結果ヲ通報セザルガ故
ニ地方ノ治安ニ對シ誠ニ重大ナル關係アル故ニ今後ハ須ク
引渡セル犯人ノ判決結果ヲ其ノ都渡通報セラルベク又ハ大
同元年以後引渡セル案件ノ判決結果ヲモ所屬ニ令シテ蒐集
ノ上送達シ以テ考査ニ供セラレタキ旨ノ文書ニ接セリ依テ
回答竝ニ奉天高等檢察廳及ビ各縣署ニ通知スルヲ除クノ外
貴部ノ在閣施行ヲ請フ甲乙附件各一通ヲ附ストアリタリ查
スルニ此事ハ先ニ吉林高等檢察廳第二分廳ヨリモ同様ノ申
請アリソノ際事外交ニ關スルヲ以テ曾テ外交部ニ照會シタ
ル所最寄ノ地方官廳ニ於テ相互ニ通報スルハ何等妨ゲナシ
トノ回答アリタリ依テ貴院廳ハ遵照ノ上所屬一體ニ轉令シ
テ遵辦セシムベシ此ニ令ス

慣ヲ養成スルヲ以テ殊ニ刑事政策ノ犯罪豫防ノ本旨ニ違反スルモノト云フベシ本部ハ現在少年矯正機關ノ設立ヲ計畫中ナルモ其ノ未ダ成立セザル以前ニ於テハ臨時辦法ヲ採ルベク即チ先ヅ貴廳ヨリ所屬各監所長ニ轉令シテ現有ノ監所内ニ於テ一部分ノ院長ヲ區劃シ別ニ門關ヲ設ケ以テ二十才以下少年犯ノミノ收容ニ充テ普通犯人ト隔離セシメ惡習ニ傳染シ害ヲ社會ニ貽スヲ免レシムベシ右分令スルノ外貴廳ハ此旨遵照ノ上所屬各監所長ニ轉命シテ計畫施行セシメ其ノ處理情形ヲ報告シ以テ審査ニ備フベシ此ニ令ス

法院ノ沒收保管銃器彈丸等引渡ノ件

(康德元年三月八日) 司法部訓令第一〇號

最 各省區高等法院ニ令ス
新 京 地 方 檢 察 廳

民政部直轄各縣公署(首都警察廳哈爾濱警察廳及奉天吉林安東齊齊哈爾各警察廳並北滿特別區公署警務處ノ管轄區域内ニ於テハ該廳處ニ於テ直接之ヲ處理ス)及興安省各警察局ニ於テ現ニ民有銃器彈丸等ヲ蒐集シツツアルガ右ハ治安上必要ナル處置ナルヲ以テ現ニ檢察廳及縣司法公署兼理司法縣公署ニ於テ沒收保管中ノ銃器彈丸等ニシテ沒收物品

處分規則(民國三年四月十七日部令第一五七號民國十年八月部令第七八八號修正)ニ依リ處分スベキ時期ニ達シタルモノハ該規則ニ定ムル所ノ手續ニ從ヒ上記當該各機關ニ對シ即日之ヲ引渡スベシ貴廳ハ右ノ旨所屬ニ轉令シテ一體ニ遵照處理セシムベシ此ニ令ス

司法機關沒收武器處理ニ關スル件

(康德元年三月二十九日) 民政部訓令第七七號

奉 吉 黑 龍 各 省 長
北 滿 特 別 區 長 官
首 都 警 察 總 監
哈 爾 濱 警 察 廳 長

司法部來翰ニ據レバ司法機關ニ於テ現在沒收セル一切ノ武器類ハ直チニ縣公署或ハ警察機關ニ引渡シ處置セシムル件ニ付テハ本部既ニ本年三月八日各級司法機關ニ對シ辦法ヲ指示シ訓令第一〇號(別紙記載ノ如シ)ヲ以テ遵奉處理スル様通令セリ茲ニ前記ノ事件ヲ至急引繼ガンガ爲貴部ニ通牒シテ查照ヲ請フ竝ニ所屬ニ轉令シテ一體ニ遵奉處理セシメ速ニ協助ヲ與ヘラルレバ幸甚ナリ訓令ノ抄本一件ヲ附送ス云云トアリ直チニ原文寫ヲ同封送付スルニ付所屬ニ轉令シテ一體ニ遵奉處理セシメ接收保管ヲナシ併ヒテ其ノ種類數

量ヲ銃器調査表内ニ詳細記入スルヲ要ス此ニ令ス

附 司法部訓令寫一通(省略ス)

沒收品ト罰金ノ不交付ニ關スル件

(康德元年六月二十一日) 司法部訓令第二九七號

各 省 區 高 等 檢 察 廳
新 京 地 方 檢 察 廳
與 安 各 分 省 公 署

賭案ニ關シテハ法令ニ依リ沒收シタル金錢及徵收シタル罰金中ヨリ充賞ノ目的ヲ以テ警察廳等ノ行政官吏若ハ司法官ニ交付スル歩合金ハ康德元年七月一日ヨリ一切之ヲ禁止ス尙ホ禁煙罰金充賞規則ハ既ニ大同三年司法部訓令刑字第一三六號ヲ以テ失效セシ旨通令シタルニ拘ハラズ充賞ノ爲煙案罰金中ヨリ歩合ヲ提取スルモノアリ實ニ故意ニ命令ニ違反スルモノト云フベシ爾後切實ニ之ヲ遵行シ違背スル勿レ右分令スルノ外所屬ニ轉令シ一體ニ知照セシムベシ此ニ令ス

刑事司法罰金ハ民事訴訟費用ヲ援照シ國幣ヲ以テ徵收ノ件

(大同二年十一月二日) 司法部訓令第四五八號

來文ハ閱了セリ查スルニ全國各司法機關ノ一切ノ司法收入金ハ改メテ一律ニ國幣ヲ以テ徵收スベキ旨已ニ訓令第六二八號ヲ以テ通令シタリ依テ右旨遵照辦理スベシ此ニ令ス

刑事辯護制度ニ付指示ヲ請フノ件

(康德元年七月二十八日) 司法部訓令刑字第三〇二四號

濱 江 地 方 法 院

來電ハ閱了セリ刑事被告ノ辯護人ガ原則トシテ律師タルベキハ固ヨリ論ナシ然リト雖モ此ノ原則ヲ貫クトキハ人格學識兼備ノ律師ヲ得難キ場合ハ勿論被告ニ律師ヲ依頼スルノ資力ナキ場合ニ於テ之ガ正當ナル權益ヲ擁護スルニ遺憾少シトセズ建國以來律師登用ノ途杜塞セル我國ノ現狀ニ於テ殊ニ然リトス刑事訴訟法ハ此ニ鑑ミルトコロアリ其ノ第十六條但書ニ於テ特別辯護人選任ノ途ヲ開ケリ從テ若シ刑事被告中信頼スルニ足ル律師ヲ求ムル能ハズトシ他ニ適當

ノ人物ヲ求メテ之ニ辯護ノ事ヲ托セントスルニ當リテハ法院ハ須ク其ノ人物ヲ考査シ人格學識其ノ任ニ堪ユト認メタルトキハ務メテ之ヲ許可スベク若シ又之ニ反シ刁奸ノ伎ヲ肆ニシ敲騙ヲ以テ能ト爲ス底ノ人物ナラバ斷乎トシテ其ノ特別辯護人タルヲ拒否スベシ其ノ間或ハ私心ヲ挾ミ或ハ國籍ニ拘ハリテ其ノ許否ノ裁斷ヲ二三ニスルガ如キコトアルベカラズ惟フニ法院ノ裁斷宜シキヲ得明法達識ノ士ヲシテ特別辯護人ト爲サバ訟棍ガ訴訟ニ干渉シ弊害ヲ叢生セシムルコトナシ茲ニ特別辯護人許否ノ標準ヲ諭示ス貴院ハ速ニ此ノ旨ヲ體シ以テ事ヲ處理スベシ此ニ令ス

刑事訴訟案件各種統計表ノ件

(康德元年七月十六日)
司法部訓令刑字第三九三號

最 各省區高等法院
新京地方檢察廳ニ令ス
興安各分省公署

刑事訴訟案件各種統計表ハ從前ノ規定ヲ援用シタルモノニシテ様式多岐ニ互リ常ニ誤謬ヲ生ジタルヲ以テ茲ニ新タニ様式ヲ製定シ從來ノ刑事案件統計表中刑事訴訟案件月報表羈押刑事被告人月報表羈押人犯月報表刑事被告羈押一覽表

等各様式ハ一律ニ廢止セリ新様式ニ依ル用紙ハ不日貴院廳ニ配付スルニ付之ニ遵ヒ毎月末所定事項ヲ精確ニ記入シ具報スベシ但シ大同三年一月ヨリ康德元年六月迄ノ分ハ本年十月末日迄呈報スベキモ本年七月以降ノモノハ毎月二十日迄ニ呈報スベシ遲滯スルコト此ニ令ス

第三章 違令罰法及違警罰法

違令罰法

(民國三年七月十四日)
法律第一一號

- 第一條 約法(中華民國臨時憲法ノ意)第十九條ニ依リ大總統發布ノ命令ニハ一年半以下ノ徒刑或ハ一日以上二ヶ月以下ノ拘役又ハ二百圓以下ノ罰金ヲ附スルコトヲ得
- 第二條 約法第十九條ニ依リ大總統發布セシムル命令ニハ八月以下ノ徒刑或ハ二ヶ月以下ノ拘役或ハ百圓以下ノ罰金ヲ附スルコトヲ得其ノ罰則ハ大總統教令ヲ以テ之ヲ定ム
- 第三條 第一條第二條ノ命令違反スル者ハ其ノ命令ノ規定スル處ニ依リ之ヲ處罰ス徒罰ニ係ルモノハ寺院ニ於テ審判シ拘役罰金ニ係ルモノハ管轄行政官廳ニ於テ即決ス
- 第四條 第一條第二條ノ命令ニ違反シタルモノニシテ加重

減輕シテ處罰スルモノハ各其ノ本命之ヲ定ム但シ加重減輕ハ所定罰則四分ノ一ヲ超ユルコトヲ得ズ

違令罰法第二條罰則令

(民國三年十一月二十六日)
教令第一一二號

- 第一條 違令罰法第二條ノ規定ニ依リ大總統ハ各長官ヲシテ命令ヲ發布セシメ其ノ發布ノ命令ハ單行章程ト稱シ左ノ罰則ヲ設定スルコトヲ得
 - 一 京兆(北平及附近二十軒ヲ指ス)及省單行ノ罰則ハ六ヶ月以下ノ徵役或ハ一日以上二ヶ月以下ノ拘留或ハ一元以上百元以下ノ罰金ニ限ル
 - 二 道單行章程ノ罰則ハ一日以上二ヶ月以下ノ拘留或ハ一元以上八十元以下ノ罰金ニ限ル
 - 三 縣單行章程ノ罰則ハ一日以上一ヶ月以下ノ拘留或ハ一角以上六十元以下ノ罰金ニ限ル
 - 四 首都警察廳單行警察章程ノ罰則ハ一日以上二ヶ月以下ノ拘留或ハ一角以上百元以下ノ罰金ニ限ル
 - 五 地方警察廳單行警察章程ノ罰則ハ一日以上一ヶ月以下ノ拘留或ハ一角以上ノ罰金ニ限ル

違警罰法(警察犯處罰規則)

(民國十七年七月二十一日)
布

- 第一章 總 則
- 第一條 本法ハ本法施行後ノ違警ニ適用ス
- 第二條 本法及其他ノ法令或ハ法令ノ規定ニ依リ警察規則ノ規定無キモノハ如何ナル行爲ト雖處罰スルコトヲ得ズ
- 第三條 十三歲未滿者ノ違警ハ罰せず但シ其ノ父兄或ハ扶養者ヲシテ監督セシムベシ
- 前項ノ違警者若クハ其ノ父兄或ハ扶養者ノ居所ヲ知ルコト能ハザル時ハ其ノ年齢ニ依リ感化教育ヲ施シ又ハ收養兒童處ニ送リテ教養セシムベシ
- 第四條 心身喪失者ノ違警ハ罰せず但シ其ノ父兄或ハ後見人ヲシテ自ラ監督セシムベシ

前項違警者若ハ其ノ父兄或ハ後見人ノ居所ヲ知ルコト能ハザル時ハ其ノ情況ヲ參酌シ適當ノ病院或ハ心身喪失者ノ監置所ニ送致ス

第五條 自己或ハ他人ノ緊急ナル危害ヲ救護スル爲止ムヲ得ズ違警シタル場合ハ之ヲ罰セズ但シ其ノ行爲適當ナル時ハ本罰ノ四分ノ一或ハ二分ノ一ヲ輕減スル事ヲ得

第六條 凡テ人力或ハ天然力ノ壓迫ニ依リ抗拒不能ノ状態ニ於テ違警シタル場合ハ之ヲ罰セズ

第七條 違警未遂ハ罰セズ

第八條 違警處罰後六箇月内ニ同一管轄内ニ於テ再犯シタル者ハ本罰ノ四分ノ一ヲ加罰ス三回以上ノ者ハ本罰ノ二分ノ一ヲ加罰ス第三條第一項ノ違警者若ハ其ノ父兄扶養者或ハ後見人ニ告知シタル後六箇月ニ同一管轄地内ニ於テ再犯シタル時ハ其ノ父兄扶養者或ハ後見人ヲ罰スルコトヲ得

前項規定ニ依リ罰セラレタル者ハ罰金刑トス

第九條 違警行爲方同時ニ本法所定ノ二項以上ニ及ブ場合ハ各別ニ之ヲ處罰ス

第十條 二人以上違警行爲ヲ共同施行シタル時ハ皆正犯トナシ正犯ヲ幫助シタル者ハ從犯トス從犯ハ正犯ノ罰ノ四分ノ一ヲ減輕シテ罰ス

(一) 違警用ニ供シタルモノ
(二) 違警ニ依リ得タルモノ

沒收物品ハ其物犯人以外ノ者ニ屬セザルトキニ限ル

第十七條 營業停止期間ハ十日以下トス

第十八條 營業許可ノ取消ハ同一違警行爲ヲ常習トスル者ニ適用ス

第十九條 違警行爲ニ依リ物品ヲ破壊或ハ滅失シタル者ハ本法ノ規定ニ依リ處罰スル外參酌シテ賠償セシムルコトヲ得

第二十條 違警發覺前公安局所へ自首スル時ハ本罰ノ四分ノ一或ハ二分ノ一ヲ輕減スルコトヲ得但シ本法以外ニ規定アルトキハ此ノ限りニアラズ(被害者ニ告白シ公安局或ハ所ノ審訊ヲ經タルモノモ亦同ジ)

第二十一條 違警者ハ平素ノ素行或ハ心情及其ノ情況ヲ審査參酌シ本罰ノ四分ノ一或ハ二分ノ一ヲ減輕或ハ加重シテ罰スルコトヲ得

第二十二條 第九條ノ規定ニ依ル拘留ハ三十日罰金ハ三十圓ヲ逾ユルコトヲ得ズ

第二十三條 罰金ノ加減ニ依リ拘留ガ一日未滿罰金十錢未滿トナリタル時ハ之ヲ免除スルコトヲ得但シ主罰ヲ免ルルコトヲ得ルモ從罰ヲ免ルルコトヲ得ズ

第十一條 他人ヲ教唆シ之ヲシテ違警ノ行爲ヲ實施セシメタル者ハ教唆犯ヲ以テ論ス

第十二條 從犯ヲ教唆シ或ハ幫助シタル時ハ從犯トシテ論ズ

第十三條 違警ノ罰則ハ主罰及從罰ノ別アリ

主罰ノ種目ハ左ノ如シ

(一) 拘留十五日以下一日以上

(二) 罰金十五圓以下十錢以上

(三) 訓誡

從罰ノ種目ハ左ノ如シ

(一) 沒收

(二) 營業停止

(三) 營業許可ノ取消

第十四條 拘留ハ公安局所ニ於テ之ヲ拘留ス

第十五條 罰金ヲ言渡シタル後五日間以内ニ納付セザル時或ハ之ヲ納付スルノ能力ナキ時ハ一圓ヲ以テ拘留一日ニ換刑シ一圓未滿ノ時モ亦一日ト計算ス

前項ノ規定ニ依リ拘留ニ換刑シタル後罰金ヲ納付シタル時ハ其ノ既ニ拘留シタル日數ヲ扣除シテ計算スルモノトス

第十六條 沒收物品ハ左ノ如シ

第二十四條 本法ニ於テ以上以下ト稱スルハ本數ヲ加入計算スルモノトス

第二十五條 拘留ニ處セラレ其ノ半數ヲ經過シタル時改喚ノ狀顯著ナル者ハ之ヲ釋放スルコトヲ得

第二十六條 違警犯ノ現行犯ニ對シテハ呼出狀ニヨラズ之ヲ呼出ス事ヲ得但シ重要公務ヲ帶ビ且氏名、住所分明ニシテ逃亡ノ虞レナキ者ハ此ノ限りニアラズ

第二十七條 違警ノ嫌疑ニ依リ公署ノ呼出狀ヲ受ケタル時ハ呼出狀受領ノ日ヨリ三日以内ニ公署ニ出頭スベシ若シ期限内ニ出頭セザリシ者ニ對シテハ判定シテ法ニ依リ之ヲ處罰スルコトヲ得

第二十八條 違警ノ起訴、告訴、告發期間ハ違警行爲ノ完了ノ日ヨリ六箇月間トス

第二十九條 時間ハ二十四時間ヲ以テ一日トシ三十日ヲ以テ一箇月トス

第三十條 初日ハ時間ノ如何ニ拘ラズ一日ヲ以テ論ジ最後ノ日ハ滿二十四時間トス

第三十一條 拘留者ノ釋放ハ翌日ノ午前中トス

第二章 安寧妨害ノ違警罰

第三十二條 左記各號ノ行爲ノ一ヲ爲シタル者ハ十五日以下ノ拘留或ハ十五圓以下ノ罰金ニ處ス

- (一) 官公署ノ許可ナクシテ火器ヲ製造或ハ販賣スル者
- (二) 人家稠密ノ處ニ於テ煙火及一切ノ火氣ヲ焚ク者
- (三) 火藥及炸烈性ノモノヲ發見シテ公安局所ヘ報告セザル者
- (四) 官公署ノ許可ナクシテ武器ヲ携帯スル者
- (五) 流言ヲ流布スル者
- (六) 人家ノ附近或ハ山林田野ニ於テ濫リニ火ヲ焚ク者
- (七) 水火及一切ノ災害ノ際公署ヨリ防護救済ノ命ヲ受ケテ抗拒シテ服従セザルモノ
- (八) 瘋癲又ハ狂犬其他危險性アル獸類ヲ驚逸セシメ道路或ハ人家邸宅及其他ノ建築物ニ侵入セシメタル者

第三章 秩序妨害ノ違警罰

第三十三條 左記各號ノ一ヲ爲シタル者ハ十五日以下ノ拘留或ハ十五圓以下ノ罰金ニ處ス

- (一) 法令ノ規定ニ違背シテ工、商業ヲ營ム者
- (二) 法令ノ規定ニ違背シ劇場及各種ノ遊興場ヲ設クル者
- (三) 宿屋ニ宿泊スル者ノ中ニ刑事上重大犯罪ヲ犯サムトスルノ舉動アルヲ知リツツ公安局所ヘ報告セザル者

- (四) 宿泊者ノ中刑法第六十二條ノ犯罪及其他刑事上重大犯罪ヲ犯サントスルノ舉動アルヲ知リツツ公安局所ヘ報告セザル者

第三十四條 左記各號ノ一ヲ爲シタル者ハ十日以下ノ拘留或ハ十圓以下ノ罰金ニ處ス

- (一) 婚姻、出生、死亡及移轉ノ時法令ノ規定ニ依リ公安局所ニ報告セザル者
- (二) 建築物ノ改造修繕ニ關シ法令ノ規定ニ依リ公安局所ヘ申請セズシテ擅ニ建築シ或ハ公署所定ノ圖樣ニ違背シタル者
- (三) 旅館、下宿及其他公衆ノ需ニ應ジ宿泊ヲ供スル者ニシテ宿泊人ノ原籍、住所、氏名、年齢職業及出發地及行先ヲ記載セザル者
- (四) 多數集合ノ場合公安局所ガ其ノ旨ヲ訊問スルニ當リ不實ノ陳述ヲナシ或ハ解散ヲ命ゼラレテ解散セザル者
- (五) 變死者或ハ身元不明ノ死體發見後官署ノ檢證ヲ經ズシテ密カニ埋葬シ或ハ他所ニ移動シタル者

第三十五條 左記各號ノ行爲ノ一ヲ爲シタル時ハ五日以下

前項十三號第十四號ニ違背シタルトキハ其ノ約束シタル金高ヨリ超過シタル金額ヲ沒收ス

ノ拘留或ハ五圓以下ノ罰金ニ處ス

- (一) 私有地外ニ於テ家屋壁等ヲ建築スル者
- (二) 家屋及凡テノ建築物倒壊ノ虞アリテ修繕或ハ撤廢等ヲ命ゼラルルモノ之ヲ遵行セザル者
- (三) 街路樹或ハ街燈及公署ノ物品ヲ毀損シタルモノ
- (四) 學校、博物館、圖書館及其他ノ展覽會場等ニ於テ高聲ニ騒ギ禁止ヲ聞カザル者
- (五) 道路或ハ公衆溜ニ於テ擅ニ警笛ヲ吹ク者
- (六) 道路或ハ公衆溜等ニ於テ放吟シ禁止ヲ聞カザル者
- (七) 道路上或ハ公衆溜等ニ於テ酩酊シ横臥セル者
- (八) 道路上或ハ公衆溜等ニ於テ口論シ禁止ヲ聞カザル者
- (九) 立入禁止箇所ニ擅ニ出入スル者
- (十) 人ノ居住セザル邸宅ニ潛伏シタル者
- (十一) 深夜ニ故ナク高聲ニテ騒グ者
- (十二) 故ナク店舗及其他ノ營業箇所ヲ攪擾スル者
- (十三) 官署ノ公定ヲ經タル物品ヲ公定以外高價ニテ販賣シタルモノ
- (十四) モーイ、傭人、車馬夫等ニシテ約束ノ賃金ヨリ高ク要求シ或ハ約束セズシテ事後高額ヲ強要スル者或ハ之ヲ常習トスル者

第四章 公務妨害ノ違警罰

第三十八條 左記各號ノ行爲ノ一ヲ爲シタル者ハ五日以下

- ノ拘留或ハ五圓以下ノ罰金ニ處ス
- 一 公署及其他ノ事務所ニ於テ高聲ニテ騒ギ禁止ヲ拒ム者
- 二 侮辱スルノ意ナキモ公署ノ發布シタル佈告ヲ撤去シ或ハ汚シタル者

第五章 誣告偽證及證據湮滅ノ違警罰

第三十九條 左記各號ノ一ヲ爲シタル者ハ十日以下ノ拘留
或ハ十元以下ノ罰金ニ處ス

- 一 他人ノ違警ヲ誣告シ或ハ偽證ヲ爲シタル者
- 二 違警者ヲ庇護スル爲故意ニ證據ヲ湮滅シ又ハ偽證シタル者
- 三 違警者ヲ隱匿シ或ハ之ヲ逃走セシメタル者

前項第一號第二號ノ違犯者ニシテ事件發覺前自首シタル者ハ其ノ罰ヲ免除ス

第六章 交通妨害ノ違警罰

第四十條 左記各號ノ行爲ノ一ヲ爲シタル者ハ五日以下ノ拘留或ハ五圓以下ノ罰金ニ處ス

- 一 郵便物或ハ電報ノ遞送ヲ妨害シタル者ニシテ情狀輕微ナル者
- 二 郵便專用物件ヲ損傷シタル者ニシテ情狀輕微ナル者
- 三 電報電話ノ通信ヲ妨害シタル者ニシテ情狀輕微ナル者

第四十一條 左記各號ノ行爲ノ一ヲ爲シタル者ハ五日以下ノ拘留或ハ五圓以下ノ罰金ニ處ス

石薪炭及其他ノ物品ヲ堆積シテ行人ノ通行ヲ妨害シタル者

- 五 道路上ニ於テ牛馬ニ飲水セシムル際ニ之ヲ放任シテ交通ヲ妨害シタル者
- 六 車馬竝行シ通行ヲ妨害スル者
- 七 水路ヲ竝行シ船舶ノ通行ヲ妨害スル者
- 八 氷雪、塵埃、礫等ヲ道路上ニ拋棄スルモノ
- 九 道路ニ於テ遊戲ヲ爲シ之ガ禁止ヲ聞カザルモノ
- 十 公署ノ督促ヲ受クルモ道路ノ掃除ヲ怠リタル者
- 十一 夜間車馬ニ照明ヲ用ヒザルモノ
- 十二 濫リニ街燈ヲ消滅シタル者
- 十三 通行禁止箇所ヲ擅ニ通行スル者

第七章 風俗妨害ノ違警罰

第四十三條 左記各號ノ行爲ノ一ヲ爲シタル者ハ十五日以下ノ拘留或ハ十五元以下ノ罰金ニ處ス

- 一 放蕩無賴ニシテ徘徊スル者
- 二 合力、喜捨若ハ寄附又ハ金錢ヲ強請シタル者
- 三 密賣淫ヲ爲シ或ハ其ノ媒介及容止ヲナシタル者
- 四 密賣淫者ヲ止宿セシメ賣淫行爲ヲ爲サシメタルモノ
- 五 淫詞淫劇ヲ演ズル者

第四十四條 左記各號ノ行爲ノ一ヲ爲シタル者ハ十日以下

一 通行頻繁ナル箇所ニ於ケル私有地内ノ溝及凸凹其他

- 危險物ニ對スル安全處置ヲ施サザルモノ
- 二 多衆集合スル箇所及曲角ナル通路ニ於テ競フテ車馬ヲ禦シ禁止ヲ聞カザルモノ
- 三 各種ノ車輛ニシテ規定ニ依ル警笛ヲ附セザル者或ハ規定外ノモノヲ設置スル者
- 四 公署ノ許可ナクシテ路傍河岸等ニ於テ露店ヲ營ム者
- 五 道路、橋梁等ノ題誌其他通行或ハ道案内ノ標識ヲ毀損シタルモノ
- 六 河川ニ於ケル渡舟ニシテ公署所定ノ通行費以外ノ金員ヲ要求シ或ハ故意ニ通行ヲ阻止スル者

前項第六號ニ依ル規定以外ニ要求シタル金額ハ之ヲ沒收ス

第四十二條 左記各號ノ行爲ノ一ヲ爲シタル者ハ五圓以下ノ罰金ニ處ス

- 一 河川ニ於ケル渡舟ニ對スル所定ノ賃金ヲ支給スルコトナク其ノ通行ヲ強要スル者
- 二 道路ニ商品玩具及食物ヲ排列シ之ガ取除ヲ命ズルモ其ノ禁止ヲ聞カザル者
- 三 橋梁堤防ニ濫リニ車筏等ヲ繫留シ之ヲ損壞シタル者
- 四 道路上ニ車馬等ヲ放置シテ其ノ往來ヲ壅塞シ或ハ木

ノ拘留或ハ十元以下ノ罰金ニ處ス

- 一 神祠、佛堂及其他ノ公衆營造物ヲ汚漬シタル者
- 二 他人ノ墓所碑標ヲ汚漬シタル者
- 三 公衆ニ對シ人ヲ誹謗シタル者
- 四 他人ニ對シ猥褻行爲ヲ爲シタル者
- 五 道路上ニ於テ惡罵ヲ禁止ヲ拒ム者

前項第三號第四號ノ違犯ハ被害者ノ告訴ヲ待テ之ヲ論ズ

第四十五條 左記各號ノ行爲ノ一ヲ爲シタル者ハ十五日以下ノ拘留或ハ十五圓以下ノ罰金ニ處ス

- 一 街路又ハ其ノ附近ニ於テ賭博類似ノ行爲ヲ爲シタル者
- 二 街路又ハ公衆ノ目ニ觸ルベキ場所ニ於テ裸體トナリ又ハ其他ノ醜態ヲ爲シタル者
- 三 街路又ハ公衆ノ目ニ觸ルベキ場所ニ於テ猥褻ノ言語舉動アリタル者
- 四 奇異ナル服裝ヲナシ風俗ヲ害スル者

第八章 衛生妨害ノ違警罰

第四十六條 左記各號ノ行爲ノ一ヲ爲シタル者ハ十五日以下ノ拘留或ハ十五元以下ノ罰金ニ處ス

- 一 官公署ノ許可ナクシテ毒素ヲ含有スル藥劑ヲ賣買シタル者

- 二 人家稠密ノ場所ニ惡臭ヲ發生スル物ヲ燃燒セシメ或ハ曝乾シ之ヲ禁止ヲ聞カザル者
- 三 人家稠密ノ場所ニ糞廠(糞尿推積場)ヲ開設スル者
- 四 淫藥(催淫藥)及墮胎藥ヲ賣買シ或ハ之等ノ廣告ヲ散布シタルモノ
- 五 濫リニ神符或ハ神水ノ類ヲ授與シテ醫療ヲナシ人ヲ惑ハシタル者
- 六 六月内ニ同一管轄内ニ於テ前項第一號ヲ二回以上シ犯タル時ハ營業停止ヲ命ズルコトヲ得三回以上犯シタル時ハ營業許可ヲ取消ヲ命ズルコトヲ得
- 第四十七條 左記各號ノ行爲ノ一ヲ爲シタルモノハ十日以下ノ拘留或ハ十元以下ノ罰金ニ處ス
 - 一 飯食物ヲ覆蓋セズシテ販賣スル者
 - 二 衛生上害アル物質ヲ飲食物ニ混入シテ利益ヲ取得セムトシタル者
 - 三 藥品ヲ偽造シ之ヲ賣買シ或ハ深夜人ノ危急ヲ知リツツ賣藥ヲ拒ム者
- 第四十八條 公署許可ノ醫者或ハ產婆ニシテ故ナク人ノ需ニ應ゼザルトキハ十元以下ノ罰金ニ處スル事ヲ得約束時間ヲ履行セザル時亦同シ
- 第四十九條 左記各號ノ行爲ノ一ヲ爲シタル者ハ五圓以下

- ノ罰金ニ處ス
- 一 溝渠下水路ノ流通ヲ妨害シタル時又ハ公署ノ督促ヲ受クルモノヲ浚蝶セザル者
- 二 街路ヲ通過シ糞穢物等ヲ運搬スル時覆蓋セザル者或ハ任意ニ停留スル者
- 三 繁盛ナル埠頭ニ任意ニ糞載船ヲ停泊スル者
- 四 穢物或ハ禽獸ノ骸骨ヲ人家ニ抛擲スル者
- 五 街路又ハ公衆溜ニ於テ排尿シタル者
- 六 人ノ飲用ニ供スル淨水ヲ汚穢シタル者
- 第九章 他人ノ身體財產ヲ妨害スル違警罰
- 第五十條 左記各號ノ行爲ノ一ヲ爲シタル者ハ十五日以下ノ拘留或ハ十五圓以下ノ罰金ニ處ス
 - 一 他人ニ對シ傷害ノ程度ニ至ラザル暴行或ハ汚漬ヲ加ヘタル者
 - 二 不正ノ目的ヲ以テ催眠術ヲ施シタル者
- 第五十一條 左記各號ノ行爲ノ一ヲ爲シタル者ハ十日以下ノ拘留或ハ十元以下ノ罰金ニ處ス
 - 一 他人ノ繫ギタル牛馬或ハ一切ノ動物ヲ解放シタル者
 - 二 蒸氣、電氣或ハ瓦斯ヲ逸漏シ公衆ノ危險ヲ生ゼシメタル者
 - 三 他人ノ繫ギタル舟筏ヲ濫リニ解放シタル者

- 四 買賣ヲ強要シタル者
- 第五十二條 左記各號ノ行爲ノ一ヲ爲シタル者ハ五日以下ノ拘留或ハ五元以下ノ罰金ニ處ス
 - 一 他人ノ身邊ニ濫リニ立塞リ又ハ追隨若ハ面會ヲ強請シタル者
 - 二 濫リニ他人ノ邸宅題誌店舗ノ看板或ハ貼札ヲ損潰シタル者
 - 三 濫リニ他人ノ家屋等ニ貼紙ヲ爲シ又ハ彫刻繪塗シタル者
 - 四 他人ノ土地ヨリ濫リニ石塊土等ヲ採掘スル者
 - 五 他人ノ樹木花等ヲ採摘シタル者
 - 六 濫リニ他人ノ田圃ヲ踏ミ或ハ牛馬ヲ引入レタル者

第五十三條 本法ハ公布ノ日ヨリ施行ス

違警罪處罰簿式制定通達ノ件

(大同元年十二月十五日)
奉天省公署通令
奉警法第一〇三號

警察ノ職責繁雜重要ナルト雖モ警察ノ處罰ハ僅カニ違警在ルノミ也查スルニ各縣警務局ニ於ケル人民ノ違警罪ニ對ス

ル處分固ヨリ少シトセズ然ルニ之レガ處理ニ當リ任意ニ處理シ居ル者多ク慎重ナラザルヲ以テ今回簿式ヲ制定通令ス各縣及廳ハ大同二年一月一日ヨリ遵照施行スベシ

罪金拘留案件簿表式

外面

第一號樣式		到收	號	局長印	或局長印	司法科長	該管主任印	某某縣警察署
違警事項	處分適用條例	宣判年月日	送達年月日	分別被告當否	籍貫	住址	職業	姓名
受領年月日	呈報年月日	呈報人	違警地點	違警年月日	年	月	日	大同

罪金拘留案件簿表式

裡面

第一號樣式	拘留日期或罪金額	拘留年月日	釋放年月日	繳納罪金年月日	保證金折抵拘留	或罪金年月日	保證金及繳納年月日	保證金還付年月日	聲明不服年月日	宣判年月日	適用條例	拘留日期或罪金額	却下年月日
-------	----------	-------	-------	---------	---------	--------	-----------	----------	---------	-------	------	----------	-------

第二號樣式

外面

縣廳	局長印	警務科	局長印	課長	或主任	課員印	事由
被審人							

第三號樣式

外面

籍貫	住址	職業姓名及年歲	違警日時	違警場所	實事警違
瀋陽警察廳					
某某區警察署呈字第 號					
適用法令	參考事項	大同 年 月 日	或瀋陽警察廳	或某某縣警察署	某某區警察署
某某區警察署某某分駐所 警長某某 印					

令 號	指 字令字第.....號.....呈字第.....號.....	稿 號	令 第 字
			警口警察廳 字第 號為	
大同年 月 日 令警口警察廳第 某 警察署				

宣 判 書		第 四 號 樣 式
住 籍 址 貫	職 業	姓 名
右者大同 年 月 日		年 歲
次上係據某警士呈報及依照本人之言詞陳述事實至為明瞭		
右記行為於大同 年 月 日 逾警罪法第		
條第 號因次適用第 條處罰金.....		元拘留 日
但對於本宜宣判由宣判日起於三日內得聲明不服原判		
大同 年 月 日		海城縣縣長 某某 印
比例		

第五號樣式

交 狀	大 同 年 月 日	具 狀 人
		今於 與交狀事依奉交 元遵即如數交訖
得 罪 金		
所 具 交 狀 是 實		
具 交 狀 人		

保 證 狀		第 四 號 樣 式
替 具 狀 事		與 狀 事
今於		與 狀 事
具 狀 人		
大 同 年 月 日		

第七號様式

瀋陽警察廳司 第 號	罪金移付書
罪金繳納人之 姓名住址 年 歲	
罪 金 額	
右列金額相應移付貴科查照此致	日
大同 年 月 日	
瀋陽警察廳第某區 警察署長 或司法科長	
經理股長 台照	同

瀋陽警察廳 第 號	罪金接受書
由被審人某某繳納罪金大洋	元
右列金額業經完全接受相應復請查照此致	
大同 年 月 日	
瀋陽警察廳 經理股長 ○ ○ 同	
司法科長 台照	

第八號様式

沒收命令書			
右列物件依據違警罪法第十三條沒收之			
大同 年 月 日			
瀋陽警察廳長 或某某縣縣長 同			
種 類	件 數	種 類	件 數

第四章 拘留、留置

拘留所暫行規則

(大同二年五月六日) (省令奉警法字第八八六號)

- 第一條 拘留所内ハ毎朝一回掃除ヲナシ毎日曜日ニ大掃除一回ヲ施行シ隨時石灰等ヲ以テ室内ノ消毒ヲナシ竝セテ痰壺ヲ備エ清潔ヲ期スベシ
- 第二條 拘留犯人ノ衣服行李等ノ物件ハ毎三日毎ニ日光ニ曝シ傳染病等ノ發生ヲ防止スベシ

拘留所章程 (前警務處)

- 第一條 拘留所ハ違警犯及各行政處分ヲ受ケタル者ヲ拘留スル爲メ設ク但シ警察ニ於テ逮捕シタル刑事犯人ニシテ未ダ法院ニ送致セザル者モ亦タ拘留スルコトヲ得
- 第二條 拘留所内ハ刑事拘留室違警拘留室女犯人拘留室ノ三室ニ分ツ
- 第三條 拘留所ニ警長一名警士四名ヲ置キ輪番當宿ヲ爲シ看守ヲ擔任管理ノ責ニ任ゼシム
- 第四條 拘留所ニ左ノ簿冊及ビ物品ヲ設備スベシ
 - 一 拘留犯人名簿
 - 一 面會人名簿
 - 一 犯人携帶物保存簿
 - 一 犯人携帶品保存簿
- 第五條 拘留犯人ノ飲食ハ警務局ヨリ供給シ豫算中ニ囚人食費ノ定メナキ所ニアリテハ規定ニ照シ食費ヲ徵收シ若シ自ラ飲食物ヲ準備スルモノハ其搬入ヲ許可スベシ
- 第六條 拘留所ニ犯人ヲ收容スル時ハ該犯人ノ身體衣服違警物品等ノ有無ヲ検査シ金錢其他ノ携帶物件ハ犯人携帶物件保存章程ニ照シ處理スベシ
- 第七條 拘留所ニ犯人ヲ收容スル場合ハ番號ヲ附シ犯人ニ

- 第三條 新ニ拘留犯人ヲ收容スル場合ハ詳密ニ身體ノ検査ヲ行ヒ危險物或ハ毒藥等ノ携帶入室ヲ許サズ若シ發見ノ場合ハ法ニ依リ沒收スベシ
- 第四條 拘留犯人ニ對シテハ溫和ナル態度ヲ以テ接シ罵詈其他ノ不法行爲ヲ許サズ且贈賄等ヲ強要シタル場合ハ嚴重懲罰スベシ
- 第五條 新ニ收容スベキ拘留犯人ニ施スベキ刑具ハ訊問責任者タル司法科長ニ於テ其可否ヲ決定シ看守警士等ニ於テ自由ニ刑具ヲ施シ或ハ解除スベカラズ
- 第六條 拘留犯人ノ起居及飲食物等ハ司法科長責任ヲ以テ検査ヲ行ヒ衛生ニ適スル事ヲ期スベシ
- 第七條 拘留犯人ノ就寢、起床ハ一定ノ時間ニナサシメ親族等ノ面會要求アリタル場合ハ重要犯人ヲ除キ拒絕スベカラズ其談話ノ際ハ五尺外ノ地點ヨリ監視スベシ
- 第八條 拘留所室内ニ便器ヲ設備スベカラズ但シ夜間ハ此限リニアラズ
- 第九條 拘留所ニ關スル各種法令ハ繼續有効トシ抵觸セザルモノハ本規則ヲ標準トス
- 第十條 本規則ハ公布ノ日ヨリ施行ス

記憶セシメ犯人ハ該番號ヲ呼稱シ氏名ハ隠シ以テ本人ノ廉恥心ヲ保ツベシ

第八條 拘留所ニ收容セル犯人ニハ手錠足枷等ヲ用フベカラズ但シ刑事重要犯人ハ此ノ限ニ在ラズ

第九條 拘留所各室入口上部ニ某某種犯人拘留室ト記セル標札ヲ掛ケ區別ヲ示スベシ

第十條 拘留室入口ニ墨板ヲ設備シ犯人ノ番號ヲ記入シ看守警士交替ノ際必ず點檢ヲ行ヒタル後交替スベシ

第十一條 拘留所犯人ハ特別ノ命令アルモノノ外擅ニ出入セシムベカラズ

第十二條 犯人ノ大小便ハ毎日二回一定時ニ警長警士看視ノ上屋外ニテサシメ終了後十分間散步セシメ空氣ヲ吸收セシムベシ

第十三條 被拘留犯人ハ起居動作ヲ靜肅ニシ喧嘩口論スルヲ得ズ

第十四條 被拘留犯人ハ同室人ト任意ニ談話スルヲ得ズ

第十五條 被拘留犯人ニシテ命令ヲ守ラズ或ハ他犯人ヲ煽動シ事端ヲ發生シタルモノハ看守警長ヨリ當該長官ニ報告シ適當ノ處罰ヲナスベシ

第十六條 拘留犯人疾病シタル時ハ速カニ當該長官ニ報告シ以テ治療或ハ保釋ニ便スベシ

第十七條 拘留犯人疾病シ若シ保證人ヲ徵シ能ハザルモノハ清潔ニシ他犯人ノ同室ニ起居セシムルヲ得ズ

第十八條 流行病等アリタル場合ハ消毒ニ注意シ以テ感染ヲ防止スベシ

第十九條 毎日犯人ヲ屋外ニ出シタル際ニ拘留所内部ヲ嚴重掃除シ以テ清潔ヲ保ツベシ

第二十條 被拘留者ノ飲食ハ看守警士ニ於テ給與前檢査ヲナシタル後給與スベシ

第二十一條 拘留所犯人ニ若シ親族ヨリ衣類等ノ差入レアリタル場合ハ看守警長檢査シタル後當該長官ニ上申許可アリタル後差入レヲ許スベシ

第二十二條 拘留中ノ犯人ニ若シ變死者アリタル場合ハ其ノ前後ノ狀況ヲ詳細當該長官ニ報告シ其ノ處置ヲ受クベシ

第二十三條 拘留所犯人ニ面會ヲ求ムル者アリタル場合ハ其姓名、職業、住所及面會ノ理由ヲ詳細聽取り當該長官ニ報告シ若シ許可ヲ受ケタル時ハ看守警士現場ニ立會監視シ談話ハ長クモ十五分ヲ越ユルコトヲ得ズ面會ノ談話ガ事件ニ關スル場合ヲ停止スベシ

第二十四條 拘留所在犯人ニシテ發信及來信アリタル時ハ看守警長ヨリ當該長官ニ報告檢査シ弊害無キトキハ交付

又ハ發信スベシ

第二十五條 拘留所ニ本章程第四條規定ノ簿冊ヲ備ヘ毎日一回當該長官ノ査閲ヲ受クベシ

第二十六條 看守警士警長ハ平素拘留犯人ノ悔悟ノ有無ヲ注意視察シ其情況ヲ當該長官ニ報告スベシ

第二十七條 本章程ハ公布ノ日ヨリ施行ス

第五章 鑑識指紋

指紋事務取扱規程

大同三年二月七日
民政部訓令第一〇五號
司法部訓令第九二號
興安總署 第一五二號

第一章 總 則

第一條 本規程ニ於テ指紋事務ト稱スルハ指紋原紙(以下原紙ト稱ス)ノ作成、分類、排列、檢査、現場指紋ノ採取、顯出、對照、指紋ノ鑑定其ノ他指紋技術ニ關スル一切ノ事務ヲ謂フ

第二條 指紋事務ハ民政部警務司(以下警務司ト稱ス)ニ於テ統轄ス

第三條 指紋事務ヲ管理スル爲全國ヲ六區ニ分子各區ニ指

紋局ヲ設ケ其ノ區内ニ於ケル指紋事務ヲ處理セシム
前項ノ指紋局竝ニ其ノ擔當區域左ノ如シ

區	指紋局	擔當區域
第一區	首都警察廳	新京特別市、吉林省ノ内、長春、伊通、雙陽、九台、德惠、農安、乾安、長嶺、各縣、奉天省ノ内、雙山、遼源、伊德、梨樹、昌圖、通遼、各縣、北滿特別區ノ内、寬城子警察署管内、興安南分省、興安西分省
第二區	奉天省警務廳	第一區、第三區、第五區ニ屬スル各縣ヲ除キタル奉天省一圓、熱河省ノ内、遼寧、朝陽ノ各縣
第三區	吉林省警務廳	吉林省ノ内、永吉、舒蘭、鎮賚、磐石、樺甸、敦化、延吉、汪清、琿春、和龍、奉天省ノ内、安圖縣
第四區	哈爾濱警察廳	哈爾濱特別市、吉林省ノ内、雙城、扶餘、榆樹、阿城、賓州、五常、延壽、珠河、寧安、穆稜、東寧、密山、虎林、德河、撫遠、同江、富錦、寶清、樺川、依蘭、方正、勃利、各縣、黑龍江省ノ内、肇東、肇州、蘭西、呼蘭、巴彥、木蘭、東興、鳳山、通河、湯原、綏濱、嘉北ノ各縣、寬城子警察署管内ヲ除ク北滿特別區一圓

第五區	黑龍江省警務廳	第四區ニ屬スル各縣ヲ除ク黑龍江省一 奉天省ノ內 鎮東、安廣、洮南、開通 瞻榆、突泉ノ各縣 興安東分省、興安北分省
第六區	熱河省警務廳	阜新、朝陽ノ各縣ヲ除ク熱河省一圓

第四條 警察官署ハ指紋事務ニ關シテハ所屬指紋局ノ指揮ヲ受クベシ

第二章 原紙ノ作成

第五條 指紋局及警察官署ハ其ノ取扱ニ係ル左ノ各號ニ該當スル者ニ就キ第一號様式(思想關係犯罪者ニ在リテハ第二號様式)ノ原紙各二通ヲ作成スベシ

一 刑事被告人(身柄不拘束ノ事件ニ付テハ犯罪成立見込ノ者ニ限ル以下同ジ)

二 拘役囚

三 行政檢束者ニシテ特ニ必要アリト認ムル者

第六條 檢察廳ニ於テ未ダ原紙ヲ作成セザル刑事被告人ヲ受取リタルトキハ第三號様式ニ依リ當該被告人ノ現在地ヲ管轄スル警察官署ニ通知スベシ

第七條 前條ノ通知ヲ受ケタル警察官署ハ當被告人ニ就キ原紙ヲ作成スベシ

檢察廳ハ前項ノ原紙作成ニ關シ必要ナル便宜ヲ供與スベシ

第八條 警察官署ニ於テ原紙ヲ作成シタルトキハ事件記録(事件送致書)ノ初葉左肩欄外ニ 指紋採取済〇〇警察署ノ印ヲ押捺シ原紙作成ノ済否ヲ明ニスベシ

第三章 原紙ノ送付及保管

第九條 警察官署原紙ヲ作成シタルトキハ第四號様式ノ送付表ヲ添附シ速ニ所轄指紋局ニ送付スベシ

第十條 指紋局前條ニ依ル原紙ノ送付ヲ受ケタルトキハ一通ヲ其ノ局ニ保管シ一通ヲ速ニ警務司ニ送付スベシ

第十一條 原紙ハ別ニ定ムル方式ニ依リ分類シ第五號様式ノ氏名索引票ヲ作成シタル後之ヲ左手基準ニ排列保管スベシ

第十二條 指紋局ハ送付ヲ受ケタル原紙ガ既ニ保管中ノ原紙ト同一人ニ係ルトキハ新原紙ニ記載セラレザル舊原紙ヲ廢棄スベシ但シ新原紙ノ指紋印象不鮮明ナル場合ハ新原紙ヲ廢棄スベシ

第十三條 原紙ハ本人ガ八十歳ニ達シタルトキ又ハ死亡其ノ他ノ事由ニ因リ保存ノ必要ナキニ至リタルトキハ之ヲ廢棄スベシ

第十四條 檢察廳ハ囚人又ハ刑事被告人ニシテ左ノ各號ノ

一ニ該當スル事由生ジタルトキハ其ノ收容中ナルト否トニ拘ラズ第六號及第七號様式ニ依リ原紙作成官署ニ通知スベシ

一 不起訴處分

二 判決ノ確定

三 刑ノ變更及出獄期日ノ變更

四 假出獄

五 死又ハ死刑執行

六 其ノ他特ニ必要ト認ムル事項

第十五條 原紙作成官署ハ原紙送付後檢察廳ヨリ前條ノ通知ヲ受ケ又ハ其ノ署ニ於テ前條各號ニ該當スル事由生ジタルトキハ第六號及第七號様式ニ依リ指紋局ニ報告スベシ

第十六條 指紋局ニ於テ前條ノ報告ヲ受ケタルトキハ直チニ原紙ヲ整理スルト共ニ警務司ニ報告スベシ

第四章 指紋ノ照會及現場指紋

第十七條 前科又ハ身分關係ヲ調査セムトスルトキハ原紙表面欄外ニ「要對照」ノ記號ヲ附シ指紋局又ハ警務司ニ照會スベシ

第十八條 犯罪現場ニ於テ發見シタル指紋ノ鑑定ヲ必要トスルトキハ事由ヲ具シ指紋局又ハ警務司ニ送付照會スベシ

第十九條 警務司及指紋局ハ檢察廳ヨリ照會アリタルトキハ指紋ニ關スル資料ヲ提出スベシ

第五章 雜則

第二十條 指紋局ハ毎月其ノ取扱ニ係ル指紋ノ成績並ニ參考トナルベキ事項ヲ翌月十日迄ニ警務司ニ報告スベシ

第二十一條 指紋局ハ本規程ニ依ルノ外指紋事務ニ關スル内規ヲ定ムルコトヲ得

第二十二條 省長、北滿特別區長官、警察總監、哈爾濱警察廳長ハ民政部總長興安分省長ニ在リテハ興安總署總長ノ認可ヲ受ケ地域ヲ限リ本規程ヲ施行セザルコトヲ得

(第二號樣式背面)

主務科長	主務股長	主任	大同 年 月 日		署成作	署長	主任					
內體團位地ノ	名體團	官編署入	別種	及義主	統系	處分	犯罪事實概要	查獲事由	查獲大同年月日	查獲官署		
要 摘		後放釋地住居	要主及拜崇		物人際交							
徵特神精	徵特貌像	貌容	格體	長身	前 科							
	外現年齡	俊 中 醜	胖 中 瘦	尺 寸 米	及 出 獄 事 由	執 行 監 獄	判 決 法 院	刑 / 始 期	年 列 月 日 決	刑 名 (金 額)	罪 名	氏 判 決 名 /
	歲	髮 頭 白 黑 厚 蒼 黃 稀 白 紅 禿	鬚 髭 白 黑 厚 蒼 黃 稀 白 紅 禿	麵 色 黑 白 黃 黃 稀 禿								
(人本限)名署		考 備										
		大同	大同	大同	大同	大同	大同	大同	大同	大同	大同	大同
		年	年	年	年	年	年	年	年	年	年	年
		月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月
		日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日
		罪	罪	罪	罪	罪	罪	罪	罪	罪	罪	罪
		取	取	取	取	取	取	取	取	取	取	取
		查	查	查	查	查	查	查	查	查	查	查
		獲	獲	獲	獲	獲	獲	獲	獲	獲	獲	獲

第四編 司法

八〇九

(第二號樣式正面)

		指 紋 原 紙					
氏 名	國 籍	國 籍 人	別 名 綽 名	姓 別 男 女	分 類 號 數		
原 籍	住 所		出生地				
左 手		食 指	中 指	無 名 指	小 指	拇 指	
右 手		食 指	中 指	無 名 指	小 指	拇 指	
平 面 捺 押 (折 線)	左 手		右 手				
信 教	嗜 好	資 產	技 能	職 業	教 育	養 育	家 族 親 族 及 朋 友 關 係
				現 既 在 往			
大同 年 月 日		指 紋 局 分 類		備			
大同 年 月 日		指 紋 局 檢 查		考			

第四編 司法

八〇八

指紋原紙記載心得

- 第一條 指紋原紙ハ刑事警察上諸般ノ參考資料ニ供スルモノナルヲ以テ指紋ハ鮮明ニ押捺シ所定事項ハ其ノ要點ヲ毛筆又ハ「ペン」ヲ用キ正確且簡明ニ記載スベシ
- 第二條 原紙ハ指紋取扱規程第十三條ニ依リ廢棄處分ヲ行迄保存利用スルモノナルヲ以テ之ヲ汚損シ又ハ「折」ノ記號アル部分ノ外折目ヲ附セザル様注意スベシ
- 第三條 指紋ノ押捺ハ左ノ順序ニ依ルベシ
 - 一 指紋押捺前被押捺者ノ指頭ヲ洗滌セシムルコト
 - 二 押捺ハ原紙正面左手迴轉印象ヨリ始メ右手迴轉印象左手平面印象ヲ經テ右手平面印象ニ終ルモノトス
 - 三 迴轉印象ハ左右兩手共食指ヨリ始メ中指、無名指、小指ヲ經テ拇指ニ終ルモノトス
 - 四 迴轉印象ハ十分ニ指頭ヲ迴轉シテ押捺セシムルコト
 - 五 迴轉不足又ハ印象不鮮明ナルトキハ更ニ上部ノ餘白ニ押捺セシムルコト
 - 六 平面印象ハ拇指ヲ除キ他ノ四指ヲ揃ヘテ同時ニ押捺セシムルコト
 - 七 指紋ヲ押捺セシメタルトキハ直チニ被押捺者ヲシテ裏面署名欄ニ署名セシムルコト自署スルコト能ハザル

トキハ其ノ事由ヲ記載スルコト

- 第四條 原紙ノ記載ハ左ノ各號ニ依ルベシ
 - 一 原紙第一、第二號様式正面
 - 一 氏名欄ニハ令狀、逮捕報告書、即決言渡書ノ氏名ヲ記載スルコト
 - 二 國籍欄ニハ例ヘバ日本國籍朝鮮人、蘇聯國籍韓租人ト言フガ如ク國籍及人種別ヲ警察上參考トナルベキ程度ノ分類ニ依リ記載スルコト
 - 三 別名綽名欄ニハ次章、通稱、綽名、偽名等本名以外ニ本人ヲ表示スル一切ノ稱呼ヲ記載スルコト
 - 四 性別欄ハ該當セザル文字ヲ抹消スルコト
 - 五 住所欄ニハ拘禁前迄居住シタル場所ヲ記載シ本人ガ他家ニ同居スル者ナルトキハ其ノ宿主ノ名ヲ併記スルコト
 - 六 原籍、住所、出生地等場所ヲ表ハスモノハ總テ詳細ニ記載スルコト
 - 七 生年月日欄ニハ出生當時ノ年號及月日ヲ記載スベシ例ヘバ光緒二十三年八月一日西曆一八九三年五月十日等其ノ國籍ニ依リ記載スルコト
 - 八 家族、親族及朋友關係欄ハ後日本人ノ所在其ノ他ノ搜查資料ニ供スルモノナルヲ以テナルベク具體的ニ

且全部ヲ記載スルコト

- 九 養育欄ニハ例ヘバ「兩親ノ許ニ成育ス」「繼母ニ依リ育テラレ云云」「何歳ニシテ兩親ニ死別シ孤兒トシテ各地ヲ放浪シ云云」等ノ生育狀況ヲ詳細スルコト
- 十 教育欄ニハ何何學校中途退學ノ如ク學校教育ノ程度ヲ記入シ學校教育ヲ受ケザル者ニ在リテハ何何學校卒業程度ノ學力アリ又ハ文字ヲ解セズト謂フガ如ク本人ノ教養ノ程度ヲ記載スルコト
- 十一 職業欄ニハ本職及現在ノ職業ヲ記入ス例ヘバ本人ガ元來木匠ニシテ現在露店商ナル場合ハ現在露店煙草商本職木匠ト記スルガ如シ
- 十二 技能欄ニハ特殊ノ技能ト認メラルモノ全部ヲ記載スルコト
- 十三 資産欄ニハ資産(可及的動產不動産ニ區分シ)及收入ヲ記載スルコト
- 十四 嗜好欄ニハ日常生活ニ於テ特ニ嗜好スルモノヲ記載スルコト
- 十五 信教欄ニハ信教ノ種類及其ノ宗派ヲ記載スルコト(本號ハ其ノ信奉スル所ニ依リ本人ノ動向ヲ知ラントスルモノナルニ因リ在來ノ宗教ノ範圍ニ屬セザルモノト雖モ何等カノ信條ヲ有スル團體ニ屬スル場合ニ在リ

テハ其ノ信條ノ大要及團體名

- 十六 分類欄、檢査欄ニハ原紙ヲ分類、檢査シタル日ヲ記入シ擔當者各捺印スルコト
- 十七 備考欄ニハ指紋ノ缺欠、損傷其ノ他正常ナラザルモノ又ハ特ニ注意ヲ要スル指紋アリタル場合其ノ説明ヲ記載スルノ外各號ニ涉リ參考トナルベキ事項ヲ記載スルコト
 - 一 查獲事由欄ニハ一見事案ノ性質ヲ知り得ル如ク表示スルコト例ヘバ「竊盜嫌疑」「強盜現行犯」等ノ如シ
 - 二 處分欄ニハ「調戒放免」「何何檢査廳へ送致」等ノ處分ヲ記載スルコト
 - 三 犯罪事實概要欄ニハ犯罪ノ日時、場所、手段、動機、搜查ノ端緒犯人逮捕ノ經過贓物ノ處分等ヲ簡明ニ記載スルコト
 - 四 犯罪起因欄ニハ「貧困」「怨恨」「泥醉」等犯罪ノ動機ヲ記載スルコト
 - 五 犯罪常用手段欄ニハ本人ガ慣用スル犯罪手口ヲ記載スルコト
 - 六 釋放後ノ居住地欄ニハ釋放後本人ノ居住スル場所ヲ正確ニ記載スルコト
 - 七 備考欄ニハ當該指紋原紙作成以前ニ於テ查獲セラレ

タル年月日事由及官署名ヲ指紋局ニ於テ記載スルコト

三 原紙第二號様式背面

第二號様式原紙ノ背面記載事項ハ第一號様式背面記載事項ニ倣フノ外右ノ各號ニ依ルベシ

一 主義及系統欄ニハ「無政府主義」「共產主義」「社會主義」等本人ノ奉持スル主義及其ノ系統ヲ簡明ニ記載スルコト

二 種別欄ニハ要視察内規ニ依ル種別及編入區分ヲ簡明ニ記載スルコト

三 團體名欄ハ本人ノ加盟セル團體(結社)名ヲ記入スルコト

四 團體内ノ地位欄ニハ團體(結社)ノ會長幹事支部長委員等ノ區別ヲ明記スルコト

五 摘要欄ニハ其ノ他必要ナル事項ヲ記入スルコト

四 相貌記載法

一 相貌欄ハ本人ノ相貌ヲ觀察シ最モ近似セルモノヲ採リ各該當文字ニ朱ヲ以テ圈點ヲ附スルコト

二 頭髮ハ其ノ量ヲ厚、稀、禿ニ色彩ヲ黑、黃、紅、白蒼白ニ分類記載スルノ外頭髮型ヲ男性ニ在リテハ丸刈五分刈「オールバック」左分ケ、右分ケ、中分ケ、辨髮ニ、女子ニ在リテハ蓄髮、斷髮ニ分類シ該當型ヲ特

セル線又ハ點ヲ以テ形成セラレタル各種ノ紋様ヲ謂フ

第三條 皮膚ノ隆起セル部分ヲ隆線ト稱シ其ノ形狀ニ依リ之ヲ左ノ十七種ニ區別ス(附表第一圖參照)

一 弓 狀 線 左側又ハ右側ヨリ起リ弓狀若ハ波狀ヲ成シ反對ノ側ニ流ルル隆線ヲ謂フ

二 蹄 狀 線 左側又ハ右側ヨリ起リ斜ニ向テ走り馬蹄形ヲ成シテ原起リタル方ヘ還流スル隆線ヲ謂フ

三 中核蹄線 蹄狀線中最内部ニアルモノヲ謂フ(附表第二圖參照)

四 渦 狀 線 隆線ガ一回以上圓又ハ橢圓ヲ描キ原起點ニ合セザルモノヲ謂フ

五 環 狀 線 隆線ガ一箇ノ圓又ハ橢圓ヲ成スモノヲ謂フ

六 接 合 線 二箇以上ノ隆線ガ一點ニ於テ相接合スルモノヲ謂フ

七 棒 狀 線 棒狀ヲ成シタル隆線ヲ謂フ

八 短 線 隆線中獨立シテ極メテ短キ長サヲ有スルモノヲ謂フ

九 點 隆線ノ中點狀ヲ成スモノヲ謂フ

十 點 線 點ノ相連リテ線ヲ形成スルモノヲ謂フ

十一 分 岐 線 一隆線ガ分レテ二線ト成リタルモノ

微欄ニ記載スルコト

三 鬚鬚ハ著フルト否トニ拘ラズ厚、稀ニ分子之ヲ著フルモノハ其ノ形態ヲ特徵欄ニ記載スルコト

四 相貌特徵欄ニハ身體各部ニ就キ異狀ヲ發見シタルトキハ左ノ別ニ依リ記載スルコト

(1) 瘡、啞、盲、吃音

(2) 跛足、僂僂、猪首、腰曲リ

(3) 四肢ノ切斷足指ノ缺損又ハ異狀

(4) 文身、癩痕、痘痕、瘤、黒子、痣、雀斑、鬼唇等

(5) 齒牙ノ缺損竝ニ義齒ノ數及部位

五 相貌特徵欄中ノ外現年齢ハ被押捺者ノ年齢ガ外現年齢ト著シク異ルトキハ記載スルコト

六 精神特徵欄ニハ著シク感傷性ニ富ム者、著シク憂鬱ナル者、著シク衝動性ナル者、病的虚言者、著シク慘忍狂暴ナル者、著シク神經質ナル者、著シク樂天的ナル者、性慾異常者等本人ノ有スル著明ナル精神上ノ特徵ニシテ警察上參考トナルベキ事項ヲ記載スルコト

指紋分類方式

第一條 指紋ノ分類ハ本方式ニ依ル

第二條 本方式ニ依ル指紋トハ指頭内面ニ於テ皮膚ノ隆起

ヲ謂フ

十二 幹線及支線 分岐線ノ線ノ枝ヲ支線ト謂フ

十三 接 觸 線 二箇ノ隆線相接觸スルモノヲ謂フ

十四 島 形 線 一箇ノ隆線中ニ圓橢圓又ハ紡錘形等ヲ含ムモノヲ謂フ

十五 弧 狀 線 弧狀ヲ成シタル隆線ヲ謂フ(附表第二圖參照)

十六 鈎 狀 線 鈎狀ヲ成シタル隆線ヲ謂フ(附表第二圖參照)

十七 介 在 線 竝行外端及竝行標準角ヲ形成セル二隆線ノ間ニ介在セル線ヲ謂フ

第四條 三 角 州 二隆線接合シ若ハ將ニ接合セントシテ竝行シ三角形又ハ之ニ類スルモノヲ謂フ(附表第三圖參照)

第五條 內 端 蹄線ノ流ト反對ノ側ニ在ル三角州ノ外側ノ一點ニ對シ最遠キ中核蹄線ノ肩部(蹄狀内端)中核蹄線内ニ在ル棒狀線ノ頂點(棒狀内端)又ハ點(點内端)弧狀線(弧狀内端)鈎狀線(鈎狀内端)ノ尖端ヲ謂フ(附表第四圖參照)

第六條 外 端 蹄線ノ流ト反對ノ側ニ在ル内端ニ最近キ三角州ノ外側ノ一角ガ隆線ノ接合ニ因ルトキハ其

ノ接合點(接合外端)竝行セルトキハ隆線ノ竝行ヲ始ムル中央ノ一點ヨリ内端ニ向テ假想ノ直線ヲ引キ第一ニ觸レタル線又ハ點(竝行外端)ヲ謂フ(附表第五圖參照)

第七條 標準角 二箇以上ノ三角州ヲ有スル指紋ニ於テ左右兩側ノ三角州ノ一角ニシテ中央部ヨリ最遠キモノヲ謂フ(附表第六圖參照)

第八條 標準點 標準角ノ頂點ヲ謂フ(附表第六圖參照)

第九條 追跡線 左側標準角ノ下部ノ一邊ヲ成ス線ヲ右側標準角ノ内側又ハ外側ニ至ル迄連ル線ヲ謂フ(附表第七圖參照)

第十條 指紋ヲ其ノ紋様ニ依リ弓狀紋、蹄狀紋、渦狀紋ノ三種ニ大別ス(附表第八圖參照)

第十一條 弓狀紋 弓狀線ニ依リ形成スル指紋ニシテ之ヲ普通弓狀紋ト突起弓狀紋トノ二種ニ分ツ(附表第九圖參照)

普通弓狀紋 單純ナル弓狀線ニ因リ形成スル指紋ヲ謂フ突起弓狀紋 突出セル弓狀線ニ因リ形成スル指紋ヲ謂フ

第十二條 蹄狀紋 蹄狀線ニ因リ形成シ其ノ隆線ノ流ト反對ノ側ニ三角州ヲ有スル指紋ニシテ之ヲ甲種蹄狀紋ト乙種蹄狀紋トノ二種ニ分ツ(附表第十四圖參照)

七 雙體紋 何レノ種類ニモ屬セザル變形ノ指紋ヲ謂フ

第十四條 内端ヲ定ムルニハ左ノ方法ニ依ル(附表第十二圖參照)

一 蹄狀内端 中核蹄線ノ肩部ニシテ外端ヨリ最遠キ部位トス

二 棒狀内端 中核蹄線内ニ線又ハ點ノ存在スルトキハ外端ヨリ中核蹄線ノ肩部ニ對シ假想直線ヲ引キ之ニ觸ルル棒狀線(點ヲ含ム)ノ數ガ

(1) 一箇ナルトキハ其ノ頂點トス
(2) 二箇ナルトキハ外端ヨリ遠キ線ノ頂點トス
(3) 三箇以上ニシテ奇數ナル場合ハ中央ノ一線ノ頂點偶數ナル場合ハ中央ノ二線ノ中外端ヨリ遠キモノノ頂點トス

(4) 二箇以上ノ線ガ頂點ニ於テ接合スルトキハ其ノ接合點トス
(5) 二箇以上ノ蹄線及棒狀線(點ヲ含ム)有ルトキハ蹄線ノ脚ヲ夫夫棒狀線ト看做シ(3)號ニ依リ内端ヲ定ム

(6) 蹄線交叉シタルトキハ其ノ交點トス但シ交點二箇アルトキハ其ノ交點トス

甲種蹄狀紋 蹄狀線ガ拇指側ヨリ起リ原方向ニ還流スル指紋ヲ謂フ

乙種蹄狀紋 蹄狀線ガ小指側ヨリ起リ原方向ニ還流スル指紋ヲ謂フ

第十三條 渦狀紋 渦狀線、環狀線、蹄狀線若ハ其ノ他ノ隆線ヲ以テ獨立又ハ混合ニ因リ形成セラレ二箇以上ノ三角州ヲ有スル指紋ニシテ之ヲ左ノ七種ニ區別ス(附表第十一圖參照)

一 純渦狀紋 中心ガ渦狀線ニ因リ形成セラレタルモノヲ謂フ
二 環狀紋 中心ガ環狀線ニ因リ形成セラレタルモノヲ謂フ

三 二重蹄狀紋 中心ヲ爲ス一箇ノ隆線ニ因リ二箇以上ノ蹄線ヲ形成シ其隆線ガ同一方向ニ流ルルモノヲ謂フ

四 雙蹄蹄狀紋 中心ヲ爲ス一箇ノ隆線ニ因リ二箇以上ノ蹄線ヲ形成シ其ノ隆線ガ反對ノ方向ニ流ルルモノヲ謂フ

五 有胎蹄狀紋 蹄線内ニ弧狀線又ハ鈎狀線ヲ有シ其ノ凸部ガ弓形ヲ成シ蹄線ノ口ト相對スルモノヲ謂フ

六 混合紋 二箇以上ノ紋様ヲ有シ一箇ノ指紋ヲ形成スルモノヲ謂フ

(7) 蹄線ノ頭部ヲ貫通スル棒狀線有ルトキハ其ノ棒狀線ノ頂點ト貫通セラレタル蹄線ノ頂點トヲ比較シ高キモノヲ以テス

第十五條 外端ヲ定ムルニハ左ノ方法ニ依ル(附表第十三圖參照)

一 接合又ハ竝行外端ニシテ同一方向ニ二箇以上ノ完全ナル三角州アル、キハ内端ニ對シ最近キモノトシ又不完全ナル三角州ナルトキハ比較的完全ナルモノヲ以テス

二 三角州ヲ形成スベキ二線ノ竝行ヲ始ムル中央ノ一點ニ介在線アルトキハ同點ヲ以テス

第十六條 追跡線ノ起點竝ニ終點ハ左ノ方法ニ依リ定ム(附表第七圖參照)

一起 點 標準角ヲ形成スル隆線ガ接合スルトキハ接合點ヲ以テシ竝行スルトキハ竝行ヲ始ムル下邊ノ一點ヲ以テス
二 終點 追跡線ガ右側標準角ノ内側ニ出ヅルトキハ其ノ標準角ヲ二等分スル假想ノ直線ヲ引キ之ト追跡線トノ交點ヲ以テシ追跡線ガ右側標準角ノ外側ニ出ヅルトキハ右側標準點ヨリ其ノ追跡線ニ向テ比較的直角ナル假想ノ直線ヲ引キ其ノ直線ト追跡線トノ交點ヲ

以テス

第十七條 追跡線ヲ辿ルニハ左ノ方法ニ依ル(附表第七圖参照)

- 一 追跡スベキ隆線消滅シタル場合ハ外側ノ隆線ヲ追跡ス
- 二 隆線中斷シ其ノ同一線ヲ發見シ得ザルトキ亦同ジ
- 三 追跡線ガ分歧セル場合ニ於テ幹線支線ノ區別判明セルトキハ幹線ヲ、不明ナルトキハ外側ノ線ヲ追跡ス
- 四 追跡線ガ右側標準角ノ内側ニ出デ尙ホ聯曲シテ再ビ標準角ノ内側又ハ外側ニ出ヅルトキト雖モ常ニ最初標準角ノ内側ニ出デタルトキニ止ムベキモノトス

第十八條 乙種蹄狀紋及渦狀紋ノ線(點ヲ含ム)ノ數ヲ計フルニハ左ノ方法ニ依ル

- 一 乙種蹄狀紋ニ在リテハ内端ヨリ外端ニ向テ假想ノ直線ヲ引キ之ニ觸レタル線(點ヲ含ム)ヲ計フルモノトス(附表第十四圖参照)
- 但シ内端及外端ヲ加算セス假想直線ガ外端ヲ有スル介在線ニ重リ或ハ之ト交ル隆線ノ交點ヲ過ルトキ亦同ジ
- 二 渦狀紋ニ在リテハ右側標準點ヨリ追跡線ニ向テ假想直線ヲ引キ之ニ觸レタル線(點ヲ含ム)ヲ計フルモノトス(附表第十五圖参照)

四箇以上ナルトキハ上流ト爲シ(7)トス

二 追跡線ガ右側標準角ノ外側又ハ内側ニ出デ(線點ヲ含ム)ノ數一箇以内ナルトキハ中流ト爲シ(8)トス

三 追跡線ガ右側標準角ノ外側ニ出デ線(點ヲ含ム)ノ數四箇以上ナルトキハ下流ト爲シ(9)トス

第二十二條 渦狀紋ノ標準角缺如セルモ的確ニ推定シ得ベキトキハ所定ノ價ヲ附シ然ラザルトキハ總テ(9)ノ價ヲ附ス(附表第十七圖参照)

第二十三條 蹄狀紋ノ外端缺如セルモ的確ニ推定シ得ベキトキハ所定ノ價ヲ附シ然ラザルトキハ(0)ノ價ヲ附ス(附表第十七圖、第十八圖参照)

第二十四條 指頭ハ存スルモ隆線ノ缺損セル場合若ハ隆線存スルモ著シク損傷セラレ指紋ノ種類及其ノ價ヲ附スルコト能ハザルトキハ(0)ノ價ヲ附ス

但シ疾病其ノ他ノ故障ニ因リ價ヲ附スルコト能ハザル場合ニ在リテハ一時推定シタル價ト疑問符號(?)ヲ附シ其ノ事由ヲ備考欄ニ記スベキモノトス(附表第十八圖参照)

第二十五條 指頭缺如シ指紋ヲ押捺シ得ザルトキハ(0)ノ價ヲ附ス

但シ標準點及追跡線ヲ加算セズ假想シタル標準點ノ場合ニ在リテハ其ノ標準點ヲ基準トシ初ニ觸レタル線(點ヲ含ム)亦同ジ

第十九條 弓狀紋ニハ總テ(1)ノ價ヲ附ス(附表第十六圖参照)

第二十條 蹄狀紋ニハ(2)乃至(6)ノ價ヲ附ス(附表第十六圖参照)

- 一 甲種蹄狀紋ナルトキハ(2)ノ價ヲ附ス
- 二 乙種蹄狀紋ナルトキハ其ノ線(點ヲ含ム)ノ數ニ依リ
 - (3)乃至(6)ノ價ヲ附ス
 - (1) 線(點ヲ含ム)ノ數 七箇以下ナルトキハ(4)トス
 - (1) 同 上 八箇以上十一箇以下ナルトキハ(4)トス
 - (2) 同 上 十二箇以上十四箇以下ナルトキハ(5)トス
 - (3) 同 上 十五箇以上ナルトキハ(6)トス

第二十一條 渦狀紋ハ之ヲ上流、中流、下流ノ三種ニ分チ(7)乃至(9)ノ價ヲ附ス(附表第十六圖参照)

一 追跡線ガ右側標準角ノ内側ニ出デ線(點ヲ含ム)ノ數

指紋分類方式附表

第一圖



第二圖



第三圖



第四圖 内端(Aヲ以テス)



第五圖 外端(Aヲ以テス)



第六圖 標字角



第七圖



第八圖



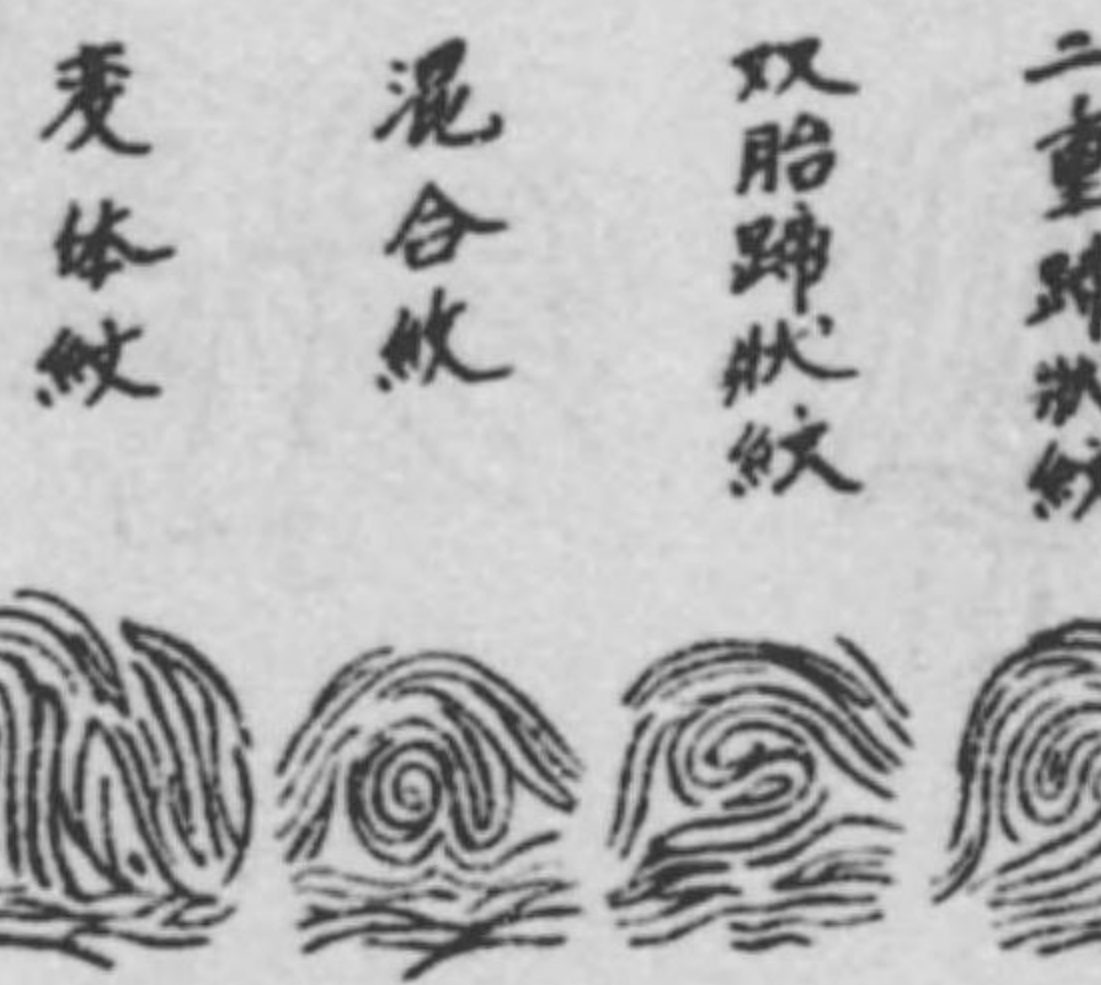
第九圖



第十圖



第十一圖 渦狀紋



第十二圖



第十三圖 外端ヲ定ムル方法(A點ヲ以テス)



第十四圖 蹄狀紋ニ於ケル計算法



第十五圖 渦狀紋ニ於ケル計算法



第十七圖



第十八圖



第十六圖



計數及キ隆線 ナシ推定シ得ザル指紋價〇

第五編 衛生

第五編 衛生

第一章 防疫

共同防疫暫時辦法

(大同元年六月十八日
民政部訓令第一二二號)

- 一 調査ノ上發病確實ニシテ必要アルトキハ共同防疫ヲ執行ス當分滿鐵ガ主體トナリテ之ヲ執行ス
- 二 傳染病發生ノ地方ニテハ如何ナル方針ヲ取ルカ
 - (一) 患者ノ隔離
 - (二) 病人ト同居者ノ隔離
 - (三) 交通遮斷
 - (四) 患者發生ノ個所及物件ノ消毒
 - (五) 檢病的戸口調査
 - (六) 豫防上必要事項ノ實施
- 虎列拉ノ時ハ豫防注射
- ペストノ時ハ驅鼠
- 發疹瘰癧ノ時ハ蚤虱ノ驅除
- 其ノ他一般住民ノ移動會合ヲ禁止ス

- (七) 豫防法及流行狀況ニ關スル宣傳
- (八) 鐵道附近地方ニ於テ發生ノ時ハ鐵道ノ防疫檢査ヲ執行ス

三 鐵道防疫ノ事項

- (一) 傳染病發生ノ停車場或傳染病發生ノ停車場或傳染病發生地ト最近ノ停車場ハ流行狀況ニ應ジ適當ノ防疫方法ヲ講ズ其ノ方法ハ左ノ如シ
 - 一 停車場内乗客ノ望診及檢診
 - 二 乗客ノ乗車特別收容
 - 三 乗客ノ停留檢診
 - 四 搭乘ヲ禁止ス
- (二) 其ノ他流行地方以外ニ在リテ特別ニ必要ト認ムルノ停車場ハ流行ノ狀況ヲ視テ流行地方ヨリ來着ノ汽車及下車ノ乗客ニ對シ適當ノ防疫手段ヲ講ズ
 - 一 停車場到着以前ニ於テ乗務員ノ檢病的監視
 - 二 停車場内ノ望診及檢診
 - 三 車内ノ檢査
 - 四 停留檢査
 - 五 全線或ハ一部ノ列車運轉ヲ停止ス
- (三) 貨物ニ關シテハ特ニ消毒ノ必要アリト認ムル貨物ノ外ハ必シモ消毒ヲ行ハズ運轉ヲ停止セズ

「コレラ」豫防暫行令

(大同元年八月十二日)
民政部令第三號

傳染病豫防法令公布サルル迄ハ本令ヲ遵守シ虎利拉豫防ニ努ムベキモノトス

第一條 醫師虎利拉患者又ハ疑似症患者ヲ診斷シ若クハ其ノ屍體ヲ檢案シタル時ハ其ノ家人ニ防疫上必要ナル事項ヲ指示シ且直ニ患者若クハ屍體所在地ノ警察官署ニ届出ヅベシ其ノ轉歸ノ場合又同シ前項ノ届出ヲ受ケタル警察官署ハ速カニ之ヲ上級官廳竝ニ關係官廳ニ通報スベシ

第二條 虎利拉患者竝ニ屍體ハ當該吏員ノ許可ナクシテ他所ニ移轉スルヲ得ズ

第三條 兵營官廳學校病院工場汽車汽船等多數人員ノ集合スル個所ニ於テ虎利拉患者及其疑似症患者或ハ死亡者ヲ發見シタル時ハ管理責任者ハ直ニ之ヲ管轄警察署ニ届出ヅベシ

第四條 第一條第三條ノ届出ヲ受ケタル警察官署ハ直ニ防疫員ヲ派遣シ患者ハ之ヲ隔離所ニ移シ家具其ノ他消毒ノ必要アル物件ニ對シテハ消毒ヲ施行シ患者竝ニ傳染ノ疑アル近隣家族ノ檢便ヲ行ヒ患者及保菌者ノ發見ニ努ムベシ

二 患者看護人ノ用ニ供シタル衣類寢具患者運搬用器具ハ蒸氣消毒「**フォルマリン**」瓦斯(氣積一立方米ニ付**フォルマリン**十四瓦水四十瓦ノ割合ニ噴霧ノコト)消毒石炭酸三十三倍稀釋液噴霧消毒スベシ

右物件ニシテ甚シク汚染シ消毒後再ビ使用ニ堪ヘザルモノハ焼却スベシ

三 患者看護人ノ飲食器具ハ總テ煮沸消毒スベシ
四 患者及汚染ノ虞アル近隣ノ井戸ハ左ノ方法ニ依リテ漂白粉ノ消毒ヲナスベシ
漂白粉一定量ヲ取り之ニ少量ノ水ヲ加ヘ捏磨シ更ニ加水シテ三%ノ割合トナス暫時靜置スル時ハ石灰ハ沈澱スルヲ以テ傾瀉ニヨリテ其溶液ヲ取ル該溶液ハ「**ビール**」壘ノ如キ著色壘ニ入レ直射日光ヲ避ケテ室内ノ冷所ニ保存スル時ハ其ノ效力ノ失墜ヲ防ギ得ベシ該溶液ヲ更ニ數十倍ノ水ニ稀釋シ左ノ割合ニテ井口ニ注入シ釣瓶ニテ良ク振盪攪拌スベシ(單位ハC.C.)

井戸ノ深	井戸ノ口徑	一	二	三	四	五	六	七	八	九	十	十一	十二	十三	十四
五尺	六尺	七尺	八尺	九尺	十尺	十二尺	十四尺								
1:00	1:10	1:20	1:30	2:00	2:30	3:00	5:00								
1:50	2:10	2:40	3:10	3:40	4:10	4:40	5:10								

第五條 傳染病豫防上必要ト認ムル時ハ當該吏員ハ五日間ヲ限度トシテ交通ヲ遮斷スル事ヲ得但シ續發患者アル時ハ尙其ノ期間ヲ延長スル事ヲ得

第六條 當該官署ハ其ノ管轄内ニ於テ虎利拉或ハ其ノ疑似患者發生ノ届出ヲ受ケタル時ハ必要ナル豫防法ヲ所轄區域内住民ニ告示シ直ニ事態ヲ民政部衛生司長ニ報告シ追テ患者ノ症狀診斷(眞性又ハ疑似)處置其ノ傳染系統防疫處置ニ關シテ可及的速ニ之ヲ報告スベシ

但シ流行激甚ノ際ハ毎日ノ發生患者數現在ノ患者數及初發以來ノ累計及死亡數ヲ毎週土曜日現在トシテ報告スベシ

第七條 患者ヲ發見セル時消毒ヲ要スベキ物件及消毒方法ハ左ノ如シ

一 吐瀉物及其ノ處置ニ使用シタル器物
生石灰ヲ以テ製シタル一〇%石灰乳ヲ吐瀉物ノ容量ノ四分ノ一以上ヲ加ヘ充分攪拌シタル後一定ノ個所ニ集メ置クベシ生石灰ヲ得難キ時ハ消石灰粉ヲ容量ノ三分ノ一ヲ加ヘ攪拌スベシ
器物ハ石炭酸三十三倍稀釋液或ハ「**クレゾール**」十六倍稀釋液(クレゾール石鹼液六水九十四)ニテ消毒スベシ

右混入攪拌後三十分ニシテ虎利拉菌ハ完全ニ滅殺サルルモノナリ混入ノ當初多少鹽素ノ臭氣ヲ有スルモ飲用シテ人體ニ害ヲ及ボサズ

五 汚水溝汚水溜ハ石灰水ヲ散布スベシ

第八條 虎利拉流行猖獗ノ兆アル時ハ當該官署ハ醫師及衛生官吏ヲ含ム防疫委員會ヲ組織シ本規定以外ノ防疫上必要ナル事項ヲ協議シ決定セル事項ハ速ニ本部ニ報告シ本部ノ指令ヲ俟テ施行スベシ尤モ防疫上急速ヲ要スルモノハ事後報告スルモノナリ

第九條 當該官署ハ豫メ虎利拉流行時ニ備フルタメ必要ナル隔離所ノ設置計畫ヲ建テ流行時ニ於テハ直ニ之ヲ實施スベシ

虎利拉隔離所ハ可及的專用トシ住居區域ニ近カラズ交通遮斷ニ便ナル所ニ設クルヲ可トスルモ場合ニ因リテハ一般傳染病院ノ内適當ナルモノヲ指定シテ之ニ充當スルモ可ナリコノ場合ニ於テハ嚴重ニ他ノ病舎ト分離シ交通遮斷ヲ行フ隔離所内ニハ醫師藥劑師看護人專用使役以外ノ出入ヲ禁ジ出入ヲ許サレタル者ト雖モ出所ニ際シテハ何レモ消毒ヲ嚴重ニナスベシ

第十條 患者ノ附添人又ハ面會人ノ出入ハ已ムヲ得ザル場合之ヲ許可スル事アルモ物品飲食ノ搬出入竝ニ隔離所内

ニ於テ飲食スル事ヲ嚴禁シ且ツ出所ニ際シテハ嚴重ニ消毒スベシ

第十一條 隔離所收容患者ハ完全ニ治愈シ且ツ保菌者ナラズト認メラル迄ハ退院ヲ許サズ退院ニ際シテハ防疫員之ニソノ證明書ヲ交附スベシ

第十二條 虎列拉屍體ハ火葬ニ付スベキモノナルモ習慣上已ムヲ得ザル時ハ當該吏員ノ許可ヲ得テ土葬ニ付スル事ヲ得コノ場合ハ地下二米以上ノ深度ニ埋葬シ當該官署ノ許可ヲクシテ轉葬スルヲ禁ズ苟モ水中又ハ地上ニ放棄スルガ如キ事ハ嚴禁ス

第十三條 患者又ハ屍體運搬ニハ黃色旗ヲ立テタル特定運搬車ヲ用フベシ

第十四條 患者ノ吐瀉物及汚染サレタル物品ハ之ヲ隨所ニ放棄スベカラズ

第十五條 虎列拉流行地域ヨリ魚貝果物野菜類ヲ他所ニ搬出スルヲ禁ズ

第十六條 虎列拉流行時ニハ特ニ飲食物ノ取締ヲ嚴重ニシ腐敗ニ傾ケル魚貝果物野菜類ノ販賣ヲ禁ズ

第十七條 飲食物取扱業者交通業者接客業者其他ノ一般希望者ニ對シテハ豫防注射ヲ勵行スベシ

第十八條 虎列拉流行期ニハ當該官署ハ一般ノ集合演劇宴會等ヲ禁ズル事アルベシ

會等ヲ禁ズル事アルベシ

第十九條 當該官署ハ一般清潔掃除ヲ勵行スルト共ニ虎列拉流行ニ對スル衛生思想普及ニ努ムベシ

第二十條 本訓令ニ違反スル者アル時ハ六ヶ月以下ノ徒刑又ハ一日以上二ヶ月以下ノ拘役又ハ一圓以上百圓以下ノ罰金ヲ課スルコトアルベシ

第二十一條 本暫定規則ニシテ不備ノ點アラバ更ニ追加スベシ

第二十二條 本暫定規則ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

ペスト防疫對策

(大 同 二 年 九 月 二 十 三 日)
民政部訓令第六五八(衛字第三二〇七號)

奉天 吉林 黑龍江 熱河 各省公署
北滿特別區公署 哈爾濱特別市公署
哈爾濱首都各警察廳 新京特別市公署

農安通遼開通等縣ノペストハ勢甚ダ蔓延ス中外力ヲ合セ且各省區齊シク一致ノ辦法ヲ執ラザレバ撲滅ノ効ヲ收ムルヲ得ズ本部ハ本月二十一日隣邦ノ各衛生權威者ヲ招集シペスト防疫聯合會ヲ開キ防疫對策九項ヲ議決セリ茲ニ右寫及殺鼠劑藥方竝ニ除蚤藥名一部ヲ本令ニ添附スルニ付貴署ハ所屬ニ轉命シ切實ニ遵行セシメ以テ傳染ヲ防止スルヲ要トス

此ニ令ス

ペスト防疫對策

一 ペスト患者ノ發見竝ニ通報

- 1 檢病的戸口調査
- 2 屍體ノ檢案
- 3 情報ノ蒐集竝ニ相互ノ連絡及速報
- 4 調査班ノ編成派遣

二 交通ノ制限及監視

- 1 流行地ヲ指定シテ疫區トナシ疫區トノ交通ヲ遮斷ス
- 2 流行地及其ノ附近ノ河船ノ通行ヲ遮斷ス

三 檢 疫

- 1 汽車ノ檢疫
- 2 陸路ノ檢疫

四 消 毒

- 1 一般消毒の清潔法ヲ勵行
- 2 汽車ノ消毒
- 3 貨物特ニ毛皮類ノ消毒
- 4 家屋及使用物件ニシテ病毒ニ汚染セルモノハ之ヲ燒却シ徹底的ニ消毒スル事

五 屍體ノ處置

- 1 原則トシテ之ヲ火葬ニ付ス

六 豫防注射

- 1 防疫關係者、軍隊、鐵道、警察關係者ニ對シテハ強制的ニ注射ヲ施行ス
- 2 其ノ他注射ヲ勸誘スル事

七 鼠類及蚤ノ驅除ヲ勵行スル事

- 1 殺鼠劑、除蚤粉ノ供給
- 2 鼠類ノ買收

八 隔離收容所ノ準備

- 1 衛生講話
- 2 防疫宣傳冊子及繪畫ノ配布
- 3 必要ノ時ニ於テハマスクノ使用ヲ勵行スルコト

ペスト豫防ノ爲疫村ノ家屋焼却時ノ賠償金支給辦法

(大同二年十月二十三日)
民政部訓令第七三一號

奉吉黑熱各省公署 北滿特別區公署
新 京 特別市公署 首都警察廳 令ス
哈爾濱 哈爾濱警察廳

ペストノ豫防ハ嚴重ニ施行スベク凡ソ流行地ノ人家ニテ煉瓦造リニテ消毒ヲ爲シ得ルモノノ外土造家屋ニテ焼却スルニ非ラザレバ消毒ノ方法ナキモノハ均シク之ヲ焼却シ以テ病毒ノ潜在蔓延ヲ免レシムベシ惟庶民ノ病疫ニ傳染セルハ已ニ不幸ナルニ尙ホ且家産ノ損失ヲ受クルハ堪ヘ難キ所ナレバ至急賠償方法ヲ講ジ補救ニ資セントス茲ニ特ニペスト豫防ニヨル流行地區ノ土造家屋焼却ノ時支給スベキ賠償金辦法三項ヲ規定シ本令ト共ニ頒發ス夫夫分令スルヲ除キ該廳ニ令ス所屬ニ轉令シ遵照シ慎重ニ辦理セシムルヲ要トス此ニ令ス

一 ペスト豫防ノ爲疫村ノ土造家屋焼却時ノ賠償金支給辦法
一 ペスト豫防ノ爲煉瓦造リニテ消毒シ得ル家屋ヲ除キ消毒ノ方法ナキ土造家屋ニシテ焼却ヲ必要ト認メタル時ハ市署或ハ縣署ヨリ賠償金ヲ支給スベシ其ノ賠償金ハ特別

運送上旅客及公衆ノ安全ヲ保スルニ必要ナル事項ヲ指定スルコトヲ得

第三條 傳染病患者ハ傳染病豫防ニ關スル規定ニ依リ當該吏員ヨリ移送ノ許可ヲ得タルコトヲ證明スルニ非ザレバ之ヲ乗車セシムルコトヲ得ズ

傳染病患者ハ前項ノ規定ニ依リ許可ヲ受ケタル移送先ノ外猥リニ下車セシムルコトヲ得ズ

第四條 傳染病患者ニハ附添人ヲ附スルコトヲ要ス
鐵道ノ請求アルトキハ附添人ノ外醫師ヲ附スルコトヲ要ス

第五條 傳染病患者ハ貸切車ヲ以テ運送シ普通旅客ト其ノ車輛ヲ區別シ當該職員ノ外一切之ガ交通ヲ遮斷スベシ
第六條 傳染病患者運送ノ車輛ハ其ノ入口ニ「傳染病者」ノ四字ヲ揭示スベシ

第七條 傳染病患者中ニ於テ死亡シタルトキ又ハ乗車中傳染病ニ罹リタル者アルトキハ速ニ警察官其ノ他ノ當該吏員ニ之ヲ申報スベシ傳染病患者其ノ病症ヲ隱蔽シテ乗車シタルコトヲ發見シタルトキ亦同ジ

第八條 車輛器具ノ消毒其ノ他傳染病豫防ニ關スル取締ハ一般法令ノ規定ニ依ル

附 則

市ニ在リテハ直接民政部總長ニ之ヲ請求シ縣署ニ在リテハ省公署ヲ經由シ民政部ニ之ヲ請求スベシ
二 前項ノ賠償金額ハ縣商務會農務會省署或ハ民政部ヨリ派遣セシ防疫員等ガ協議シテ之ヲ決定ス若シ上記四者ノ意見一致セザル時ハ特別市ニ在リテハ民政部總長ニ直接決裁方ヲ申請シ縣署ニ在リテハ省署ニ報告シ省署ヨリ調査ノ上民政部總長ニ裁決ヲ轉請スベシ但シ其ノ賠償價格ハ一平方米突ニ付二圓ヲ超ユルヲ得ズ
民政部總長決裁ヲ申請スル時ハ上記四者ノ意見ヲ詳細ニ報告シ若シ省署ヲ經由シテ轉請スル場合ニハ省長ノ意見ヲモ附加スベシ
三 焼却セシ家屋ニ對シ賠償金ヲ支給スル時ニハ其ノ家屋ノ地址面積及其ノ構造ノ大要並ニ賠償金額等ヲ速カニ報告スベシ

傳染病患者鐵道乘車規程

(康德元年九月十一日)
交通部令第三一號

第一條 傳染病患者ヲ乘車セシメントスルトキハ豫メ之ガ申込ヲ爲シ鐵道ノ承諾ヲ受クルコトヲ要ス

第二條 鐵道ハ傳染病患者ノ運送ニ付列車ヲ指定シ其ノ他

本令ハ鐵道營業法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

各醫院戒烟所東北防疫所檢疫所收入事務取扱規程

(康德元年六月三十日)
民政部訓令第四一九號

第一條 外來患者ノ藥價及容器又ハ雜品代ハ第一號書式ノ處方箋ニ依リ手術又ハ處置料ハ第二號書式ノ治療箋ニ依リ歳入調定官ニ通知スベシ

第二條 歳入調定官前條ノ通知ヲ受ケタルトキハ直チニ口頭ヲ以テ納額ヲ告知シ該書類ニ現金ヲ添ヘ收納官吏ニ納付セシムベシ

第三條 收納官吏前條ノ納金ヲ領收シタルトキハ規定ノ領收書ヲ交付スルノ外該書類ニ書式ノ如ク領收捺印ノ上處方箋ハ藥局ニ治療箋ハ醫局ニ差出サシムベシ

第四條 入院患者ニ關シテハ第三號書式ノ入院退院者通知簿ニ依リ歳入調定官ニ通知スベシ

第五條 歳入調定官前條ノ通知ヲ受ケタルトキハ第四號書式ノ入院料臺帳ニ登記シ之ニ依リ納額ノ告知ヲ爲スベシ

第六條 入院患者退院若ハ死亡等ノ爲既納ノ入院料過納ト

(第四號書式乙)用紙美濃紙形

病	要	人員	入	院	料	過	納	額	備	考
何月何日調定	一〇	自何月何日	至何月何日	一〇〇〇〇						
何月何日入院	二	自何月何日	至何月何日	二〇〇〇						
何月何日退院	△	自何月何日	至何月何日	五〇〇						
何月何日調定	一一	自何月何日	至何月何日	一〇〇〇						

備考 一 退院人員及退院ニ依ル過納入院料ハ朱書トスルコト
 (第五號書式)用紙美濃紙形

紙表
 何年度
 過納入院料整理簿
 何醫院「戒烟所」

年	過	納	入	院	料	整	理	簿	何	醫	院	「	戒	烟	所
月	日	金	額	事	由	請	求	月	日	債	主	住	所	氏	名

傳染病豫防條例

(民國十七年九月十八日公布)

- 第一條 本條例ニ於テ傳染病ト稱スルハ左記急性各症ヲ指稱ス
 - 一 チブス或ハバラチブス
 - 二 發疹チブス
 - 三 赤痢
 - 四 天然痘
 - 五 ペスト
 - 六 コレラ
 - 七 チフテリア
 - 八 流行性腦脊髄膜炎
 - 九 猩紅熱
- 第二條 地方行政長官ニ於テ傳染病豫防上ノ必要アリト認ムルトキハ一定ノ地域内ニ於テ該區域ノ住民ニ指示シテ清潔及消毒方法ヲ施行セシムルコトヲ得其ノ既ニ自治制ヲ採リタル地方ニ於テハ自治機關ニ之ヲ指示スベシ

前項ノ清潔及消毒方法ハ衛生部ニ於テ之ヲ定ム

第三條 人口稠密ナル地方ニハ傳染病院或ハ隔離病舎ヲ設立スベキモノトス

前項ノ設置及管理方法ハ地方行政長官、單行章程ヲ以テ之ヲ定ム

第四條 傳染病流行又ハ流行ノ虞アル場合ニ於テハ地方行政長官ハ檢疫委員ヲ任命シ各檢疫豫防事務ヲ執行セシム
 船車檢疫ノ執行ニ於テ乘客及其ノ乗務員等ニ傳染病感染ノ疑アルトキハ相當ノ期間之ヲ抑留スルコトヲ得
 船車檢疫ノ執行ニ於テ傳染病患者ヲ發見シタルトキハ附近ノ各地方設立ノ傳染病院又ハ隔離病舎ニ收容シテ治療スベシ

傳染病感染ノ疑アル者亦同ジ當該病院ハ正當ノ理由無クシテ之ガ收容治療ヲ拒絕スルコトヲ得ズ

未ダ檢疫ヲ實施セザル船車ニ於テ若シ傳染病患者又ハ傳染病感染ノ疑アル者ヲ發見セル場合ニモ前二項ノ規定ヲ準用スベシ

又囚人出獄ニ際シ傳染病患者或ハ疑似傳染病患者ナルトキ亦同ジ

檢疫官吏及醫師ハ無賃ニテ乗船乗車スル事ヲ得但シ身分證明書ヲ所持スベシ

第五條 地方行政長官ハ傳染病豫防上ノ必要アリト認ムルトキハ左記各號ノ全部又ハ一部ヲ施行スル事ヲ得

- 一 健康診斷又ハ屍體検査ヲ施行ス
 - 二 市街村落ノ全部又ハ一部ノ交通ヲ遮斷ス
 - 三 集會演劇及一切ノ人民ノ集合ヲ制限シ又ハ之ヲ禁止スル事ヲ得
 - 四 衣服寝具及一切ノ病毒ヲ傳播スベキモノノ使用授受移轉ヲ制限シ又ハ其ノ物件ヲ廢棄セシムル事ヲ得
 - 五 病毒傳染ノ媒介ト爲ルベキ飲食物又ハ病死シタル禽獸ノ肉ニ對シ其ノ販賣及授受ヲ禁止シ又ハ之ヲ廢棄セシムル事ヲ得
 - 六 船舶、汽車、工場及其ノ他多數人民ノ集合スル場所ニ醫士ヲ招聘セシメ又ハ其ノ他ノ豫防ノ設備ヲ爲サシムル事ヲ得
 - 七 清潔方法及消毒方法ヲ施行スルトキハ水道ノ水源及井戸、溝渠、河道、便所、汚物及廢棄物堆積場ニ對シ其ノ新設又ハ改築又ハ廢棄又ハ使用停止ヲ命ズル事ヲ得
 - 八 傳染病流行區域ニ於テハ一定ノ時日其ノ附近ノ捕魚游泳汲水等ヲ禁止スル事ヲ得
 - 九 鼠、蠅ノ驅除方法及驅除設備ヲ施行ス
- 第六條 前條第七號第八號ニ依リ市街村落ノ全部又ハ一部

ニ對シ水ノ使用停止或ハ汲水ヲ禁止シタルトキハ其ノ停止或ハ禁止期間内ニ他所ヨリ用水ノ供給ヲナスベシ

第七條 醫生傳染病患者ヲ診察シ又ハ其ノ屍體ヲ検査シタル後ハ其ノ家族ニ消毒方法ヲ指示シ十二時間以内ニ該患者又ハ屍體所在地ノ所轄官署ニ報告スベシ

第八條 傳染病患者又ハ疑似患者或ハ此等ノ病疾ニヨル致死者ノ家宅及其ノ他ノ場所ハ直ニ醫士ヲ招聘シテ診斷或ハ検査セシムベク竝ニ二十四時間以内ニ其ノ所在地ノ所轄官署ニ報告スル事ヲ要ス

前項ノ報告義務者左ノ如シ

一 病人又ハ死者ノ家族、家族無キトキハ其ノ同居人

二 旅客、店舗又ハ船車ノ主人或ハ管理人

三 學校、寺院、工場、會社及一般公共場所ノ監督人或ハ管理人

四 感化院、救濟院、監獄及之ニ類似ノ場所ノ監督人或ハ管理人

第九條 傳染病患者ノ家屋其ノ他ノ場所ニ於テハ患者以外ノ者ニシテ既ニ傳染シタルト否トヲ論セズ總テ醫士或ハ検査防疫官吏ノ指示ニ服從シテ清潔方法ニ消毒方法ヲ施行スベシ

第十條 該管轄官署ニ於テ傳染病豫防上ノ必要アリト認ム

一切ノ物件ニ對シ本條例ノ規定ニ依リ相當ノ處分ヲ執行スル事ヲ得

第十六條 地方行政長官ニ於テ傳染病豫防上ノ必要アリト認ムルトキハ其ノ理由ヲ第八條ノ報告義務者ニ通知シテ検査ヲ執行スル事ヲ得但シ検査員ハ證明書ヲ所持シテ證據トスベシ

第十七條 各地方防疫費用ハ狀況ヲ斟酌シテ地方收入ノ項下ヨリ或ハ國庫ヨリ之ヲ支出シ自治地方ノ防疫費用ハ自治經費中ヨリ之ヲ支出ス但シ自治會議ニヨリ議決シ地方最高行政長官ノ認可ヲ經タルモノハ國庫ヨリ斟酌シテ之ヲ補助スベシ

前項ノ認可後ハ之ヲ衛生部及財政部ニ報告スベシ

第十八條 本條例ノ規定又ハ所轄官署指定ノ期限内ニ實行セザル者ハ五元以下ノ罰金ニ處ス

第十九條 醫士傳染病患者ヲ診斷シ又ハ其ノ屍體ヲ検査シタル後本條例ニ依リテ報告セズ又ハ事實ヲ偽リテ報告シタル者ハ五十元以下五元以上ノ罰金ニ處ス

第二十條 該所轄官署又ハ醫士ニシテ本條例ノ處分又ハ指示ニ從ヒテ遵守實行セザル者又ハ本條例ニ依リテ報告ヲ爲スベキ事項ニ對シテ報告ヲ爲サズ又ハ事實ヲ偽リテ報告シ又ハ他人ノ報告ヲ妨害シタル者ニ對シテハ二十元以下

ルトキハ傳染病ニ罹リタル者ヲシテ傳染病院又ハ隔離病舎ニ入ラシムル事ヲ得

第十一條 該所轄官署ニ於テ傳染病豫防上ノ必要アリト認ムルトキハ一定ノ期間ヲ限リ傳染病患者又ハ疑似傳染病患者ノ家族及其ノ近隣ノ者ヲシテ交通ヲ遮斷セシムル事ヲ得

第十二條 傳染病患者及其ノ屍體ハ該管轄官吏ノ許可ヲ經ルニ非ザレバ他ニ移ス事ヲ得ズ

第十三條 傳染病患者ノ屍體ニ施シタル消毒方法ニ對シ醫士ノ検査及該管轄官吏ノ認可ヲ經タルトキハ二十四時間内ニ納棺シ埋葬ヲ執行スル事ヲ要ス

第十四條 傳染病患者ノ屍體ハ都市及人口稠密ナル地ヲ距ル事三里以外ノ地ニ於テ之ヲ行フ事ヲ要シ掘土ハ深サ七尺以上ナル事ヲ要ス

埋葬後三年ヲ經過スルニ非レバ改葬スル事ヲ得ズ
傳染病患者ノ屍體ニシテ毒ヲ受クル事比較的重キ者ニ對シ該所轄官署ニ於テ豫防上實際ニ必要アリト認ムルトキハ其ノ火葬ヲ命ズル事ヲ得其ノ家族實行ヲ怠ルトキハ之ヲ代執行ス

第十五條 既ニ埋葬シ又ハ埋葬セムトスル屍體ニシテ若シ傳染病ノ疑アルトキハ該所轄官吏ハ其ノ屍體及家宅竝ニ

下二元以上ノ罰金ニ處ス

第二十一條 僻遠ノ地方ニシテ特別ノ事情ノ爲本條例ノ規定以外ニ其ノ豫防方法ヲ變更スル必要アル時ハ各該地方最高行政長官之ヲ變更處理ス但シ衛生部ニ報告スベシ

第二十二條 國外ヨリ入境ノ船車ニ對シテハ防疫ヲ施行スル事ヲ得
前項ノ検査規則ハ別ニ之ヲ定ム

傳染病豫防條例施行細則

(十七年十月三十日公布)

第一條 地方行政長官ハ所轄區域内ニ於テ傳染病發生ノ虞アリト認メ或ハ又傳染病豫防條例所定ノ九種ノ病症以外ノ傳染病發生シ傳染病豫防條例ニ依テ豫防方法ヲ施行スル必要アリト認メタルトキハ直チニ其ノ病症ノ在狀竝ニ適用ノ條款及區域ヲ衛生部ニ報告シテ指揮ヲ受クベシ

第二條 傳染病豫防條例ノ第七條第八條ノ規定スル報告義務者之ヲ言語又ハ文書ニテ爲ス事ヲ得
該所轄官署前項ノ報告ヲ接受シタルトキハ直チニ地方最高行政長官ニ報告シテ清潔及消毒方法ヲ監督施行スベシ

若シ發生シタル傳染病ベストナルトキハ直チニ速カニ鼠類ヲ搜捕スベシ

第三條 コレラ、赤痢、發疹チブス、ペスト等ノ傳染病發生スルトキハ其ノ患者ノ生死ニ拘ハラズ病汚染ノ家ハ當該所轄官署ノ消毒方法ノ施行ヲ受クベシ其ノ未ダ完了セザル以前ニアリテハ傳染病豫防條例第五條第二號ノ規定ニ依リ交通ヲ遮斷ス

第四條 凡テ傳染患者ト同居スル者或ハ其ノ他傳染ノ疑アル者ハ當該管轄官署ハ傳染病豫防條例第三條ノ規定ニ依リ之ヲ隔離病者ニ收容セシメ消毒ヲ施行スベシ其ノ隔離期日ハ消毒完了ノ日ヨリ左記ノ如ク定ム

- 一 チフテリア 三日
- 二 赤痢 四日
- 三 コレラ 五日
- 四 ベスト 七日
- 五 流行性腦脊髄膜炎猩紅熱 十二日
- 六 發疹チブス、天然痘 十四日
- 七 アンス、パノアンス 十五日

第五條 傳染病豫防條例第十二條ノ規定ニ依リ傳染病患者及屍體ヲ他所ニ移轉スル事ヲ許可シ又ハ汚染シタル器具ヲ運搬スル時ニハ所轄官署ハ之ヲ移轉地ノ官署ニ通知ス

ベシ

第六條 検査員ハ傳染病豫防條例第十六條ノ規定ニ依リ日出以後日没以前ニ職務ヲ行フベシ

第七條 在規則ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

種痘條例

(十七年八月十九日公布)

第一條 種痘ハ必ず本條ニ依リ之ヲ施行ス

第二條 種痘ハ左ノ定期ニ於テ之ヲ行フ

第一期 出生後滿三箇月ヨリ一年以内

第二期 六歳ヨリ七歳迄

第三條 毎年三月ヨリ五月迄、九月ヨリ十一月迄、種痘、施行ノ期間トス但シ必要アリト認ムル場合ハ其ノ他ノ時期ニ施スベシ

第四條 施行期間ヲ過グルモ未ダ種痘ヲ受ケザルモノハ期限ヲ付シテ種痘ヲ受ケシムベシ不善感者又同ジ

第五條 種痘時期ニ至レバ各市縣ノ主管衛生行政機關ハ其ノ管轄區域ノ廣狹及人口ノ多寡ニ依リテ適宜ニ種痘局ヲ分設シ種痘ニ關スル必要事項ヲ種痘期間ヨリ十日以前ニ公布スベシ

第六條 天然痘流行ヲ防止センガ爲ニハ各市縣ノ主管衛生

汽車檢疫規則

(民國七年一月十七日公布)

第一條 鐵道線路沿線ノ區域及鐵道線路ト距離比較的近キ區域ニ傳染病發生シタルトキハ該區域ヲ運行スル列車ハ本規則ノ規定ニ依リテ處理スベシ

第二條 汽車檢疫ヲ施行スルトキハ檢疫委員又ハ檢疫事務員ニ於テ傳染病豫防條例第四條第二項第三項第六項ノ規定ニ依リテ處理スベシ

第三條 檢疫委員又ハ檢疫事務員ニ於テ汽車中ニ傳染病患者ヲ發見シタルトキハ直ニ該患者ヲ鐵道沿線ニ設クル傳染病院又ハ隔離所又ハ其ノ他適當ノ場所ニ移送シテ之ヲ治療セシムベシ

第四條 傳染病患者又ハ疑似傳染病患者ヲ傳染病院又ハ隔離所又ハ其ノ他適當ノ場所ニ移送スル際ニ要スル費用ハ檢疫事務所又ハ地方官ヨリ適宜補助ヲ爲シ其ノ患者ニ於テ費用ノ自辨ヲ希望スルトキハ之ヲ許スベシ

第五條 汽車中ニ於テ傳染病患者又ハ疑似傳染病患者及傳染病ノ爲死亡シタル死體ヲ發見シタルトキハ其ノ該患者又ハ死體ト車輛ニ同乗シタル乘客ニ對シ嚴重ニ消毒ヲ施スベク其ノ車輛ニ同乗セザルモ乘客及行李ニ對シ必要ト認ムルトキハ亦抑留シテ消毒ヲ施スコトヲ得

行政機關ハ種痘ヲ受ケタル者ノ範圍及期日ヲ指定シテ之ガ施行ヲ爲ス車ヲ得ベシ

第七條 種痘局ハ種痘ヲ受ケタル者ニ對シテ種痘證書ヲ授與スベシ

第八條 醫師ニ依リ別ニ種痘ヲ受ケタル者ニ對シテハ醫師種痘證書ヲ授與スベシ

前項ノ種痘證書ヲ有スルモノハ種痘局ヨリ授與セラレタルモノト同ジ

第九條 種痘期間内ニ於テ疫病又ハ正當ナル理由ナクシテ種痘ヲ受ケザル時ハ其ノ父母又ハ監護人及其ノ他ノ保育責任者ニ對シテハ拾元以下ノ罰金ヲ科ス事ヲ得但シ第四條ニ依リ種痘ヲ受クルトキハ此ノ限ニアラズ

第十條 種痘及醫師ハ種痘記録簿ヲ備ヘ種痘ノ情況ヲ詳細ニ記録シ以テ參考ノ便ニ供スベシ

第十一條 種痘局及醫師ハ毎年六月及十二月ニ種痘ヲ受ケル者ノ人名、性別、年齢、原籍、住所及其ノ他ノ關係事項ヲ各市縣主管衛生行政機關ニ報告スベシ當該行政機關ハ民政廳及衛政部ニ報告スベシ

第十二條 本條例ハ公布ノ日ヨリ施行ス

第六條 車輛内ニ傳染病患者又ハ疑似傳染病患者及傳染病ノ爲死亡シタル死體ヲ發見シタルトキハ直ニ該車輛ヲ列車ヨリ隔離シテ消毒ヲ施スベク之ニ要スル藥品及器具ハ鐵道業者ヲシテ之ヲ補助セシムコトヲ得

第七條 汽車ノ進行途中ニテ傳染病患者又ハ疑似傳染病患者及傳染病ノ爲死亡シタル死體ヲ發見シ直ニ病院ニ移送スルコト能ハザルトキハ直ニ該車輛ヲ閉鎖シ乘客ノ出入ヲ禁止シテ検査設備ノ完全ナル場所ニ送ルベシ

第八條 本令施行細則ハ内務部ニ於テ交通部ヲ會同シテ規定シ部令ヲ以テ之ヲ公布ス

海港検査章程 (十九年六月二十八日公布)

第一章 名詞定義

第一條 本章程ニ所謂検査ト稱スルハ即チ検査隔離及防疫検査ノ必要方法及手段ノ施行並ニ船舶人員、獸類、貨物ノ消毒ノ施行ヲ指ス其ノ目的ハ人類及動物ノ各種疫病ノ傳來及防止トス

本章程ニ所謂指定人員トハ即チ衛生部或ハ検査所ヨリ派遣セル者本章程ニ於テ許可セル人員ヲ指稱ス

本章程ニ所謂船長トハ即チ水先案内人以外ニ船上ニ於テ號令ヲ發シ又ハ其ノ責任ヲ負フ者ヲ謂フ

本章程ニ所謂醫員トハ即チ船上ニ勤務セル醫員醫師ヲ謂フ

本章程ニ所謂隔離トハ即チ一定ノ場所ニ隔離シテ他人又ハ他所ト接觸セシメザルヲ謂フ

本章程ニ所謂監視トハ即チ船上又ハ陸上ニ於テ隨所ニ隔離ヲ施行スルヲ指稱ス

本章程ノ所謂就地診斷トハ即チ一定箇所ニ抑留セスシテ其ノ所在ニ就キテ検査ヲ施行スルヲ謂フ

本章程ニ所謂交通許可證トハ即チ検査醫官ヨリ發給セル旅行證書ヲ謂フ

第二章 區域指定

第二條 衛生部ハ情況ニ應ジ又ハ検査所長ノ申請ニヨリ左記ノ事項ヲ指定スベシ

一 國內外地方ニ於テ検査ヲ施行スベキ傳染病ノ發生スル場合又ハ病毒ノ傳染ノ虞アル場合ニハ當該地方ヲ疫區ト指定シ指定後取消ニ至ル迄之ヲ港務通告内ニ發表シ並ニ主ナル新聞ニ登載スベシ

二 國內ノ某海港ヲ第一入境海港ト指定シ凡ソ疫區ヨリ國境ニ來航スル船舶ハ特別危險或ハ充分ナル理由アルモノ以外ニハ其ノ船舶ガ他港ニ入港セザル前ニ第一入境海港ニ航行スベク該船長ニ命令スベシ

三 陸上又ハ海上ノ某ノ地點ヲ検査處所ト指定スル場合ニハ其處ニテ船舶、人員、禽獸、物品及貨物ノ検査ヲ施行スル事ヲ得ベシ

四 港務當局ト協議ノ上検査ヲ施行スベキ船舶ノ停泊入點ヲ指定スベシ

第三章 検査總則

第三條 検査停留處ハ衛生部部令ヲ以テ之ヲ定ム

第四條 検査ヲ受タベキ船舶ニアリテハ該船長ハ検査ヲ施行スル海港ニ到着スル前ニ當該船舶ヲ指定セル検査處ヘ立寄ラシムベシ

第五條 船舶ノ検査ハ日出後日没前ニ舉行スベシ検査醫官ハ該時間中ニ於テ船舶ノ到着後上船シテ検査ヲ爲スベシ但シ検査醫官ハ船上ノ情況及照明等検査ニ適スト認ムル場合ニ於テハ船長ノ要求ニ依リ日没後ニ於テモ検査スル事ヲ得

第六條 検査ヲ受クベキ船舶ノ船長ハ當該船舶ガ検査停留處ニ到着スル少クトモ三時間以前ニ無電ヲ以テ左記ノ事項ヲ検査所ニ通知スベシ

- 一 船名及検査停留處ニ到着期日及時間
- 二 1 乘客數
- 2 船員數

3 本港上陸ノ乘客數

四 發船港名及本港到着以前ノ最後ノ寄港港名

五 十五日以内ノ傳染病患者人數及ビ航行中傳染病死者ノ人數並ニ其ノ病名

六 普通患者ト其ノ病名

七 霧ノ爲停碇スル場合ニハ該船舶ト燈臺ノ方位

第七條 本章程ニ依リ検査ヲ施行スベキ傳染病左ノ如シ

- 一 ペスト
 - 二 コレラ
 - 三 天然痘
 - 四 發疹瘰癧
 - 五 黃熱
- 前項以外ニ検査ヲ施行スベキ必要アル傳染病アル場合ハ
- 第八條** 凡ソ旅客ニシテ水痘、チフテリア、チフス、赤痢、猩紅熱、流行性感胃、流行性腦脊髄膜炎、麻疹等ニ罹リタル者ハ普通隔離醫院ニ於テハ適當ナル治療ヲ施行シ得ザル者ハ検査所ニ收容スルコトヲ得
- 第九條** 曾テ検査ヲ施行セル傳染病ニ接觸シタル者ハ左記ノ期日ニ依リ隔離スベシ

ペスト又ハ黄熱 六日

コレラ 五日

天然痘 十四日

發疹チブス 十二日

第十條 凡ソ疫區ヨリ來航セル船舶ノ船長ハ該船舶ハ疫區ニ停泊セル間ハ必ズ豫防方法ヲ施行シ以テ該船ヨリノ疫病傳播ヲ防グベシ該船ノ入港ニ當リテハ検査醫官ハ其ノ豫防ノ證據或ハ海港検査長官發給ニカカル證書ヲ提示セシメテ左記ノ事項ヲ明記セシムベシ

一 凡ソペスト、コレラ天然痘發疹チブス黄熱等ノ徵候ヲ有スル者及此等疫病ト接觸シ以テ他人ニ傳染スル可能性アル者ニ對シテハ必ズ乗船ヲ阻止セシ事

二 ペスト疫區ニ於テハ船舶ニ鼠類ノ侵入ヲ防止スル方法ヲ構ゼシ事

子 貨物積込以前ニ鼠類ノ侵入シ得ル埠頭或ハ貨物倉庫ニ貯藏セザリシ事

丑 貨物ヲ運搬セル運送船(ハシケ)ハ骨テ確ニ蒸薰ヲ施行セシ事

黄 貨物積込ノ際ニ監視ヲ受ケタル事

卯 日没後日出ニ至ル迄隣岸或ハ隣船ニ近キ船舷ニ必ズ照明装置ノアリシ事

施シ特ニ倉庫炊事場汽罐室及貯水槽内ニ注意セシ事

第十一條 検査機關ヲ有スル海港ニ疫病發生スル時ハ海港検査所ハ該疾病傳出ヲ防止シ竝ニ各船長ニ當該港ニ於テハ前述ノ各豫防方法ヲ施行スベキ通知ヲナス責ヲ負フベシ

第十二條 凡ソ疫區ヨリ來航セル船舶ノ船長ハ入港スル際ニ乗客ノ數ヲ詳細ニ書面ニ記載シ又本港ニ上陸セントスル乗客ノ住所ヲ可成詳細ニ記載シ検査醫官ニ送交シテ檢閱ヲ受クベシ

第十三條 凡ソ疫區ヨリ來航セル船舶ガ未ダ第十條ノ各豫防方法ヲ施行セズ又ハ提出セル豫防證據不十分ナルトキニハ検査醫官ハ検査所所長ノ命令ヲ受ケ該船及船員、乗客貨物ニ對シテ必要ナル處置ヲ施行スベク命ズルコトヲ得但シ其ノ所要費用ハ該船自ラ負擔スルモノトス

第十四條 左記ノ船舶ハ入港ニ當リ検査ヲ受クベシ
一 外國ノ海港ヨリ來航セルモノ但シ特ニ検査免除ヲ許可セシモノハ此ノ限ニ非ズ

二 疫區ヨリ來航セル船舶
三 傳染病ヲ發生シタル船舶又ハ最後ノ検査ヲ爲シタル後ニ死亡者ヲ發生シタル船舶

第十五條 凡テ検査ヲ受クベキ船舶ガ港口ヨリ三英里以内

辰 貨物積込及積卸以外ノ時ハ必ズ貨物網及跳板ヲ取ハズシタル事

巳 食物及其ノ残渣ハスベテ鼠類ノ出入シ得ザル容器中ニ貯存セシ事

三 コレラ疫區ニ於テハ左記方法ヲ實施シタル事
子 該疫區内ニ於テ積込タル飲料水及食物ハ確實ニ完全ニ清潔ナル事

丑 船舶ノ水ノ必要ナルトキニハ消毒ヲ施行セシ事
寅 旅客ハ何等食物ヲ携帯セザリシ事

四 天然痘疫區ニ於テハ貨物中ノ舊衣ボロ等ハ未ダ包装セザル以前ニ消毒ヲ行ヒ乗客全部乗船以前已ニ種痘ヲ行ヒシ事

五 發疹チブス疫區ニ於テハ風ノ帶有可能ノ人ニハ驅風ヲナシ竝ニ其ノ人ノ物品、衣服、行李等ノ消毒ヲ行ヒタル事

六 黄熱疫區ニ於テハ蚊類ノ船内侵入防止方法ヲ施行セシ事

例ヘバ居民ノ海岸ヨリ離レテ停泊シ及港内ノ浮船ヨリ少クトモ二百尺離レテ停泊シテ黄熱蚊ガ船舶ニ侵入シ得ザリシ事或ハ所有ノ貯水器具ヲ保護シ又ハ船上ノ蚊類ヲ撲滅シ竝ニ出港ニ當リ徹底的ニ蚊類及蚊卵ノ撲滅方法ヲ實施スルコトヲ得ズ

ニ入ラザル前ニ船長ハ検査信號ヲ掲揚スベシ
前項ノ検査信號ハ交通許可證ヲ得ルニ非ラザレバ之ヲ下降スルコトヲ得ズ

第十六條 検査信號ハ晝間ハ前橋ニ「Q」字ノアル黄色旗ヲ掲揚スベシ
夜間ハ紅色燈ヲ三個垂直線ニ連結シ其ノ間隔ヲ六尺以内トシ又検査ヲ待ツ間ニ長キ汽笛ヲ三回鳴ラシ竝ニ一定時間内ニ反覆シテ鳴ラスベシ

第十七條 凡ソ未ダ検査信號ヲ降下セザル船舶ニハ指定以外ノ人員ハ之ニ乗船又ハ接近スルヲ得ズ

第十八條 船長ハ検査醫官ノ要求ニ應ジ船舶ヲ出來得ル限リ乗船上便利ノ位置ニ接近セシメ乗客又ハ船員ガ疾病又ハ特別ノ原因ニ依ル障害ナキ限り船長ハ之ヲ一箇所ニ召集シテ検査醫官ノ検査ノ便宜ヲ計ルベシ

第十九條 凡ソ検査ヲ受クベキ船舶ノ船長ハ検査醫官ノ要求ニ應ジ規定ノ用紙ニ記名ノ上健康報告ヲ記入提出シテ検査醫官ノ査閲ヲ受クベシ若シ船上ニ醫員有レバ又之ニ署名スベシ

検査醫官旅客名簿、航海日誌、貨物日報及其ノ上船上ノ文件ノ提出ヲ要求スルトキハ船主ハ之等ヲ提出シ以テ検査ニ備フベシ

第二十條 凡ソ檢疫ヲ施行スル海港ニ入港スル船舶ノ船長又ハ船上ノ醫員ニ對シ檢疫醫官ガ航海期內ニ於テ乘客及船員ノ健康船上ノ衛生狀況及出港地又ハ寄港地ニ於テ會テ該船ト接觸シタル船舶ニ檢疫ヲ施行スベキ傳染病或ハ其ノ他ノ傳染病發生アリシヤ否ヤ竝ニボロ口及其ノ他衣類ノ物件等ハ何處ヨリ又何港ヨリ船上ニ積込マレタリヤ等ノ訊問アルトキニハ之ヲ詳細ニ分類シ返答ナスベシ

第二十一條 前條ノ各項ノ訊問ニ對シテハ檢疫醫官ノ要求ニ依リ口頭又ハ書面ニテ返答ヲナスベシ

第二十二條 各項訊問ノ返答ニ於テ必要ト認ムルトキニハ檢疫醫官ハ船醫及船長或ハ其ノ中ノ一人ニ對シ書面ヲ用ヒテ事實ノ明確ナルコトノ宣誓聲明ヲ要求スルコトヲ得前項ノ宣誓ハ檢疫醫官ノ面前ニテ之ヲナスベシ若シ其ノ宣誓ニ虛偽ノ事實アルトキニハ法ニ依リテ訴辨ノ請求スルコトヲ得

第二十三條 檢疫醫官上船検査施行後該船上ニ疫病無キコトヲ認ムル場合ニハ直ニ交通許可證ヲ船長ニ下附スベシ

第二十四條 凡ソ檢疫ヲ施行セル海港ニ入港セル船舶ハ未ダ交通許可ニ非ラザル限り船長及船上ノ人員ハ皆上陸スルヲ得ズ或ハ陸上及他船ト交通スルコトヲ得ズ或ハ他ノ

船員モ亦該船ト往來スルコトヲ得ズ但シ水先案内者及指定人員ハ此ノ限ニ非ラズ

第二十五條 日出後、日没前ニ於テ檢疫ノ施行又ハ交通許可證ノ下附ヲ爲ストキハ料金ヲ徵收セズ但シ日没以後日出以前ニアリテ施行スルトキハ規則ニ依リ之ヲ徵收ス

第二十六條 凡ソ檢疫施行ノ海港ニ停泊ノ船舶ニ於テ若シ傳染病ノ發生或ハ死亡者アルトキハ船長ハ書面ヲ以テ之ヲ檢疫醫官ニ通告スベシ

第二十七條 各種船舶中ニ傳染病發生シ或ハ死亡者アルトキニハ檢疫醫官ハ該病ノ發生及已ニ施行セントスル處置方法ヲ該海港內或ハ近接地方ノ衛生當局ニ報告スベシ

第二十八條 船長、船會社或ハ經理處ハ檢疫終了後ニ檢疫醫官ニ出港健康證明書ノ下附方ヲ要求スルコトヲ得但シ規定ニ依リ料金ヲ納入スベシ

第四章 各種傳染病之處置辦法

甲 ペスト

第二十九條 左記ノ各情況有ルトキハ即チ該船ニペストノ感染アリト認ムベシ

- 一 現在船上ニペスト患者アル場合
- 二 乗船六日後、ペスト患者發生シタル場合
- 三 現ニ船上ニペストニ感染シタル鼠類ノアル場合

第三十條 左記ノ各情況アルトキハ即チ該船ニペスト感染ノ疑アリト認ム

- 一 乗船後六日內ニペスト患者ヲ發生スル場合
- 二 鼠類ノ死亡率甚ダ高キコトヲ調査シ得タル場合而シテ其ノ原因不明ナルトキ

此ノ種ノ船舶ハ相當ノ設備アル海港ニ入港シ檢疫ヲ受ケタル後ニ非ザレバ引キ續之ヲ感染ノ疑アリト認ムベシ

第三十一條 船舶ペスト疫區ヨリ來航スト雖モ其ノ出港ヨリ航海中或ハ入港ニ至ル迄人及鼠類ニペスト感染セルモノナク或ハ検査後ニ鼠類ノ死亡モ高カラズト認ムル場合ハ曾テ感染セザルモノト看做ス

第三十二條 鼠疫ニ感染セル船舶ハ左記ノ處置ヲ受クベシ

- 一 醫術的検査
- 二 染疫患者及染疫嫌疑者ヲ下船セシメ隔離スベシ
- 三 檢疫醫官若シ全船員及乘客ガ曾テ該疫病ト接觸セリト認ムル場合ニハ該船ノ入港日ヨリ六日以内ノ監視又ハ就地診驗ヲナスベシ
- 四 檢疫醫官若シ使用後ノ寢具及衣類等總テ汚染セリト認ムル場合ニハ昆虫驅除方法ヲ施行シ必要ト認ムルトキニハ消毒方法ヲ施行スベシ
- 五 檢疫醫官若シ船上各部汚染セリト認ムル場合ニハ昆虫

蟲驅除方法ヲ施行シ必要ト認ムル場合ニハ消毒方法ヲ施行スベシ

六 貨物積卸以前及埠頭定泊以前ニ於テ除鼠方法ヲ行フベシ

七 鼠類ヲ埠頭及運送船(ハシケ)ニ進入セザル様注意ヲ爲シ又ハ積卸ニ際シテハ其ノ貨物ヲ検査シテ鼠類ヲ撈帶シテ上陸スルコトヲ防止スベク積卸ハ晝間之ヲ行ヒ運送船ニハ豫メ除鼠方法ヲ行ヒ貨物積込後積卸以前ニ蒸薰消毒ヲ行ヒ積卸人員ハ操作後六日間監視或ハ就地診驗ヲ受クベシ

八 船貨積卸終了後ニ於テハ全船ニ蒸薰消毒ヲ行フベシ

第三十三條 ペスト感染ノ嫌疑アル船舶ハ左記ノ處置ヲ受クベシ

- 一 醫術的検査
- 二 前條第四、第五、第六、第七、第八ノ各條ノ處置
- 三 全船員乘客ハ入港後六日以内ノ監視或ハ就地診斷ヲ受クベシ
- 第三十四條 末ダ疫病ニ感染セズト認メタル船舶ハ左記ノ處置ヲ受クベシ
- 一 醫術的検査
- 二 全船員及旅客ハ船ガ海港ヲ離レテヨリ起算シテ六日

- 以內ノ就地診斷ヲ施シ得
- 三 船上鼠類繁殖シ或ハ積込貨物鼠類ヲ船中ニ侵入シ易クシテ該船ノ衛生状態ヲ確實ニ斷定シ得ザル場合ニハ滅鼠方法ヲ施行スベシ
- 四 貨物積卸ニ際シテハ貨物ヲ検査シ適當ナル鼠類撲滅方法ヲ施行シ其ノ逃逸ヲ防止シ並ニ其ノ確實ナル死滅ヲ確認シ船舶ト埠頭トノ距離ヲ四尺以內ニ接近セシムルコト得ズ
- 該船ト埠頭及他船トノ間ノ境ニハ特許ノ防鼠器ノ使用ヲ命ジ操作時間外ニ於テハ船上ノ貨網ノ埠頭ニ接近セザル舷側ヨリノ除去方法ヲ命ジ及充分ナル照明装置ノ設置ヲ命ズルコトヲ得

乙 コレラ

第三十五條 船上ニコレラ患者ヲ有シ或ハ入港前五日內ニコレラ患者發生シタル場合ハ該船ハ即チ疫病ニ感染シタルモノト認ム

若シ該船舶發航或ハ航行中ニコレラ患者ヲ發生スルトキハ入港前五日以外ニ在リ而カモ罹疫者續發セザリシト雖モ該船ヲ感染ノ嫌疑アリト認メ本章程ニ依リ處置施行後ニ非ザレバ依然感染ノ嫌疑アリト繼續的ニ見做スベキナリ

- 但シ入港日ヨリ起算シテ五日間ノ就地診斷ヲ受クベシ
 - 四 總テ使用後ノ寢具及衣類並ニ飲食物ニアリテハ檢疫醫官若シ之等ヲ最近ニ於テ曾テコレラ菌ニ汚染セリト認ムルトキハ消毒或ハ燒棄法ヲ命ズルコトヲ得
 - 五 檢疫醫官船舶ノ各處曾テコレラ菌ニ依リ汚染セリト認メタルトキハ規定ニ依リ消毒ヲ命ズベシ
 - 六 船貨ノ積卸ニ際シテハ監視ヲ受ケ並ニ相當ナル方法ヲ以テ操作人員ニ感染セザル様防止ナシ該操作人員ハ必ズ豫防注射ヲ受ケ積卸終了後五日間ノ監視或ハ就地診斷ヲ受クベシ
 - 七 若シ檢疫醫官船上ノ飲料水ニ汚染セリトノ疑アリト認ムル場合ニハ水槽ヲ消毒シ別ニ安全ナル清水ニ取換フベシ
 - 八 船艙ノ水ハ已ニ消毒ヲ經テ檢疫醫官ガ充分ナリト認メタル場合ヲ除イテハ之ヲ放出スルコトヲ得ズ
 - 九 人間ノ排泄物及汚水ハ消毒ヲ爲シ檢疫醫官ガ充分ナリト認ムルニ非ザレバ港内ニ放出スルコトヲ得ズ
- 第二十八條** コレラニ汚染シタル嫌疑アル船舶ハ前條第一第三、第四、第五、第六、第七、第八、第九ノ各號ニ依リ之ヲ處置ス船上ニ疑似患者ヲ發生シ曾テ該船ハ染疫シタルト認メ或ハ染疫ノ嫌疑アリト認メタリト雖モ然シ檢

船舶有疫海港ヨリ來航シ或ハ乗客中コレラ流行地點ヨリ來タリタル者アル場合ト雖モ該船若シ發航時或ハ航行中或ハ入港時ニ於テコレラ患者發生セザリシ時ハ之ヲ曾テ感染セザリシモノト看做スコトヲ得

第三十六條 凡ソ病人コレラ症狀アリテコレラ菌ヲ發見セザル場合ト雖モ或ハ病菌コレラ菌ノ特性ニ酷似セザルトキト雖モ該患者ニ對シテハ依然トシテ各種ノコレラ處置方法ニ依リ處理スベシ

保菌者ハ若シ檢疫醫官ノ必要ト認ムルトキニハ上陸後ニ於テモ亦監視或ハ就地診斷ノ處置ヲ受ケ以テコレラノ傳入及流行ヲ防止スベシ

第三十七條 コレラニ汚染ノ船舶ハ左記ノ處置ヲ受クベシ

一 醫術的検査

- 二 患者及疑似患者ヲ上陸セシメ隔離スベシ
- 三 必要ノ時ニ於テハ船員及乗客ヲ五日間監視ナシ以テコレラ菌ノ有無ヲ確定スベシ保菌者ハ繼續的ニ三日間三回ノ細菌試驗ニ依リコレラ菌無キコトヲ證明スルニ非ザレバ其ノ監視ヲ解除スルコトヲ得ズ
- 若シ滿六日間以前六箇月以內ニ虎列拉豫防注射ヲ受ケタリト檢疫醫官ニ對シテ證明シ得ル者ハ監視ヲ免除スベシ

疫醫官二十四時間ノ間隔ヲ置キ二回ノ細菌検査ヲ施シ同時ニコレラ菌無キコトヲ證明シタル場合ニハ該船ハ即チ染疫セザルモノト看做スベシ

第二十九條 第三十五條ニ指示セルコレラ未感染船舶ニハ第二十七條ノ第一、第七、第八、第九各號ノ處置ヲ受ケシメ得ル外船員乗客ヲシテ細菌検査ヲ受ケシメ感染ノ有無ヲ検査シ或ハ入港日ヨリ五日以內ノ就地診斷ヲ受ケシムルコトヲ得

丙 天然痘

第四十條 凡ソ船舶内ニ航海中又ハ入港時ニ天然痘患者ヲ發生シタル場合ニハ該船ヲ染疫シタルモノト認メ左記ノ處置ヲ受クベシ

一 醫術的検査

- 二 患者或ハ疑似患者ニハ其ノ下船隔離ヲ命ズベシ
- 三 檢疫醫官ハ全船員及乗客ガ曾テ天然痘患者ト接觸ナシ而モ未ダ天然痘ニ罹患セズト認メ或ハ最近期ニ於テ未ダ種痘セズト認ムル場合ニハ之等ニ對シ二回種痘ヲ命ジ並ニ入港日ヨリ起算シテ十四日以內ノ監視或ハ就地診斷ヲ施スベシ
- 若シ檢疫醫官ニ依リ其ノ人員ガ曾テ天然痘患者ト接觸セリト認ムルト雖モ種痘ヲ施セザル者ニ對シテハ接觸

ノ最後ノ日ヨリ起算シテ十四日間ノ監視ヲ施スベシ
船員及乗客ガ天然痘患者ト接觸ナシタルモ検査醫官之
ヲ充分ナル免疫性アリト認ムル場合ニハ其ノ身邊及行
李等ニ必要ナル消毒ヲナシタル後直ニ通行ヲ許可スベ
シ又就地診驗ノ場合ニ於テモ其ノ期間ハ入港ノ日ヨリ
十四日ヲ超ユル事ヲ得ズ

四 使用後ノ寝具及衣類等検査醫官ニ依リ曾テ汚染セリ
ト認ムル場合ニハ之ヲ消毒セシムベシ

五 検査醫官船内ヲ汚染セリト認ムル場合ニハ之ヲ消毒
セシムベシ

第四十一條 凡ソ船舶航行中ニ天然痘發生セザルモ流行地
ヨリ出航シテ以來未ダ十四日ヲ經過セザルモノハ其ノ上
陸ニ際シテハ依然監視或ハ就地診斷ヲ受クベシ

若シ検査醫官ニ對シテ十二箇月間以内ニ曾テ種痘セリト
ノ證明ヲナシ得ルトキハ自由ニ上陸スル事ヲ得但シ此ノ
種ノ證明書ハ染疫港ノ衛生當局又ハ船醫ヨリ發給セルモ
ノヲ以テ有效ナリト爲ス

丁 黃 熱

第四十二條 若シ船上ニ黃熱患者ヲ發見シ或ハ又出航時及
航海中ニ於テ曾テ黃熱發生シタル時ニハ該船舶ハ感染セ
ルモノト認ム船上ニ黃熱發生セザリシト雖モ若シ染疫港

四 停泊處ハ陸上住宅地ヨリ二百公尺以上ノ距離ヲ保チ
且埠頭ヨリ蚊類ノ飛來シ得ザル處所ニ停泊スルヲ適度
トス

五 凡ソ船上ノ蚊類ハ船積卸以前ニ撲滅スベシ
若シ完全ナル撲滅以前ニ貨物積卸ヲ操作スルトキハ其
ノ全操作人員ヲ五日以内監視爲スベシ

第四十四條 凡ソ黃熱ニ感染ノ疑アル船舶ハ前條第一、第
三、第四第五各號ノ處置ヲ受クベシ

若シ航海期間六日以内ニシテ且ツ第四十二條第三項第一
第二兩號規定ノ辦法ヲ施行シタルモノハ只前條ノ處置及
蒸薰(蒸氣消毒)ヲ受クベシ

若シ有疫海港ヨリ出航以來三十日ヲ經過セルモ未ダ黃熱
病發生セザル船舶ハ只輕度蒸薰(蒸氣消毒)ヲ受クベシ

第四十五條 未ダ黃熱ニ感染セザル船舶ハ若シ醫術的検査
ヲ經タル後充分ナリト認メタルモノハ直チニ交通許可證
ヲ交付スベシ

戊 發診チブス

第四十六條 航行中或ハ入港時ニ發診チブスヲ發生シタル
時ニハ船上者ハ左記ノ處置ヲ受クベシ

一 醫術的検査

二 凡テノ患者或ハ疑似患者ハ上陸隔離セシメ及滅風方

ヨリ出航スル事未ダ六日ヲ經過セズ或ハ黃熱流行ノ中心
地ニ隣接セル地點ヨリ出航シ未ダ六日ヲ經過セザルモノ
ハ依然黃熱蚊ヲ攜帶セルモノト信ジ即チ疑似感染ト看做
スベシ

黃熱流行海港ヨリ來航セル船舶ト雖モ航上未ダ黃熱ヲ發
見セズ而モ航行六日以上經過セルモノハ黃熱蚊ヲ攜帶セ
ザルモノト信ジ或ハ入港ニ際シ曾テ左記ノ處置ヲ施行シ
タル事ヲ聲明シ検査醫官ノ満足ヲ得タルモノハ感染セザ
ルモノト看做ス

一 染疫港ニ於テ陸上住宅地ヨリ二百公尺以上ノ距離ノ
箇所ニ停泊シ且ツ埠頭ヨリノ距離甚ダ遠クシテ黃熱蚊
ノ飛來不能ナリシ事

二 染疫港ヨリ出航スル際ニ適當ナル除蚊ノ方法ヲ施行
セシコト

第四十三條 曾テ黃熱ニ感染セル船舶ハ左記ノ處置ヲ受ク
ベシ

一 醫術的検査

二 患者ハ上陸セシメ罹患後五日未滿ノ者ハ隔離シ以テ
蚊ニ依ル傳染ヲ防止スベシ

三 其ノ他ノ上陸者ハ入港日ヨリ六日以内ノ監視ヲ受ク
ベシ

法ヲ施行スベシ

三 其ノ他ノ人ニシテ曾テ患者ト接觸シタリト検査醫官
ニ依リ認メタル者ニモ亦滅風方法ヲ施行シ滅風ノ日ヨ
リ起算シテ十二日以内ノ就地診驗ヲナスベシ

四 使用後ノ寝具衣類等検査醫官ニ依リ之ヲ汚染セリト
認メタル場合ニハ昆虫驅除方法ヲ施行スベシ

五 船舶内ニ於テ検査醫官ニ依リ汚染セリト認メタル箇
所ニハ昆虫驅除方法ヲ施行スベシ

發診チブス流行セル地方ヨリ十二日以内ニ來航セル船
舶ノ船員乗客ニ對シテハ乗船後船上ニ發病者ナカリシ
ト雖モ該有疫地出港ヨリ起算シテ十二日以内ノ監視或
ハ就地診驗ヲナシ衣服用具等ニハ驅除方法ヲ施行スベ
シ

第五章 検査程序

第四十七條 凡ソ検査ヲ施行スベキ傳染病ニ汚染サレ或ハ
汚染嫌疑ノ船舶、人員、貨物及用品ニ就キ検査醫官ハ檢
疫處置ヲ受クベク書面ヲ以テ命令スル事ヲ得此ノ命令ヲ
受ケタル船舶ノ船長ハ直チニ検査ヲ受ケル爲メ該船及所
有人員及貨物ヲ醫官ノ指定セル停泊所或ハ検査處所ニ赴
カシムベシ

第四十八條 凡テ隔離期間未滿ノ船舶ニアリテハ指定人員ニ非ザル者竝ニ貨物ヲ上陸或ハ離船セシムベカラズ隔離サレタル人ハ本章程ニ規定セル期間船上又ハ檢疫所内ニ抑留セシムベシ

第四十九條 檢疫醫官ノ指定ニ依リ隔離スベキ船舶ニシテ該船入港ノ海港檢疫設備不完全ナル爲該船ヲ收留スル事能ハザル時ニ於テハ檢疫醫官ハ該船ヲ設備完全ナル他港ヘ廻航スベク命ズル事ヲ得

第五十條 當該檢疫醫官ガ船長ニ對シテ該船ガ隔離或ハ他港ニ行キテ隔離スベク通知シタル際該船主之ヲ拒絕セント欲スル場合ニハ直ニ檢疫信號ヲ掲揚シ此ノ旨檢疫醫官ニ通告シタル後ニ港口及其ノ他ノ船舶ヨリ離開シ竝ニ寄港セントスル港名ヲ檢疫醫官ニ通知シテ直チニ出航スベシ

前項ノ船舶ハ出航ニ際シ檢疫所所長ノ規定辦法ヲ遵守シテ石炭及其ノ他使用物品ヲ積込ムベシ

第五十一條 凡ソ隔離所ニテ隔離セラルル者ハ隔離所以外ニ出ヅル事ヲ得ズ檢疫醫官ノ許可無クシテ墮ニ隔離所ニ入ル者ハ檢疫醫官ハ之ヲ警察官署ニ拘送シ處理スベシ隔離所ニテ死亡セル屍體ハ檢疫所所長ノ指示ニ依リ之ヲ處理スベシ

第五十六條 凡ソ就地診驗ヲ受クル人若シ何等カノ病狀ヲ發見シタルトキハ須ク即刻自行或ハ轉行シテ既ニ檢疫シタル該人ノ檢疫醫官或ハ指定醫師ニ通告スベシ

第五十七條 凡ソ隔離ヲ受ケタル船舶或ハ該船ノ船員旅客ハ須ク隔離ヲ受クル時ニ其ノ船長汽船會社或ハ代理店ハ左記費用ヲ負擔スベシ

- 一 凡テ收容中ノ患者及傳染病ノ疑アル者ハ其ノ一切ノ食宿診療費及待役費
- 二 檢疫所ヨリ目的地ニ至ル運送人ノ費用
- 三 凡テノ船舶或ハ貨物ノ清潔、蒸氣、消毒及其ノ他ノ處置ノ費用

第五十八條 衛生部ハ檢疫所所長ノ呈請ニ依リ左記ノ船舶ニ對シテ或種ノ協議或ハ制限ノ下ニテ全部或ハ一部ノ檢疫施行ヲ命ズル事ヲ得

- 一 軍艦
- 二 國內各海港ノ間ハ航行セザル船或ハ國內海港ト國外隣近ノ海港間ヲ航行セル船
- 三 特別ノ船或ハ或種類ノ船

第六章 蒸薰船隻

第五十九條 凡テ除鼠證明書或ハ除鼠免除證明書(但該證明書ハ設備完全ナル檢疫所ヨリ六箇月以内ノ發給ニカカ

第五十二條 檢疫醫官若シ隔離セラレシ者ヲ傳染病ニ感染セスト認ムル場合ハ其ノ隔離ヲ免ジ就地診驗ヲ命ズル事ヲ得

第五十三條 疫區ヨリ來航セル船舶ハ其ノ船上ニ檢疫ヲ施行スベキ患者無シト雖未ダ該船確實ニ無疫ナリト決定シ得ザル以前ニ於テハ檢疫醫官ハ其ノ情況ヲ酌量シテ左記ノ處置ヲ施行スル事ヲ得

- 一 交通許可證ヲ給與セズ
- 二 該船繼續シテ出航スル場合ニ隔離ヲ施行セズ
- 三 旅客及其ノ行李ノ上陸陸揚ヲ許ス
- 四 該船ノ貨物ノ陸揚ヲ許可ス

第五十四條 前條第一號ノ船舶ハ檢疫ヲ繼續施行シ交通許可證ヲ給與シタル時ニ止ム

其第三號ノ登岸旅客ニハ就地診驗ヲ施行シ本章規程ノ期間内ニ止ム

其第三、第四兩號ノ陸揚ノ貨物行李ハ均シク之ヲ消毒ス

第五十五條 凡ソ就地診驗ノ人ハ須ク規定時期及次序ニヨリテ檢疫醫官或ハ衛生醫官或ハ指定醫師ノ檢疫ヲ受クベシ

但シ指定醫師ノ検査ヲ受クル時ニハ一切検査料ヲ先納スベシ

ルモノ)ヲ備有スル船舶以外ハ均シク檢疫醫官ノ訊問及検査後ニ該船ノ衛生情況ヲ斟酌シテ左記兩種ノ處理法ヲ施ス事ヲ得

- 一 該船ハ蒸薰シ或ハ其ノ他除鼠、除昆虫等ノ處置ヲ施シタル後除鼠證明書ヲ發給スベシ
- 二 若シ檢疫醫官該船鼠類ノ繁殖已ニ減シ最低度ニ至レルトキニハ除鼠免除證明書ヲ發給スベシ

第六十條 疫區ヨリ來航シタル船舶ハ合格ノ除鼠證明書或ハ除鼠免除證明書ヲ備有スト雖檢疫醫官該船ヲ不清潔或ハ該船ノ發航港ガ曾テ鼠疫ヲ發生シ且ツ鼠類ヲ引帶シ易キ貨物ヲ載有シ竝ニ其ノ裝載情形ガ檢疫醫官ヲシテ徹底の検査ヲ不可能ナラシムルトキニハ該船ハ重ネテ掃除、清潔、消毒、蒸氣消毒ヲ行ハシム蒸氣消毒方法ハ別ニ之ヲ定ム

第六十一條 未ダ蒸氣消毒除鼠方法ヲ經ザル船舶ハ乾燥船渠ニ入ル事ヲ得ズ

第六十二條 凡テ船上ニ曾テ傳染病人或ハ死亡者ヲ發見シ竝ニ未ダ消毒ヲセザル船舶ハ檢疫醫官ノ指示ヲ遵守シ必要ノ處置ヲ施行シ以テ疫病ノ入港ヲ防止スベシ

第七章 屍體及物品ノ制限

第六十三條 凡テ檢疫醫官或ハ正式衛生官長所發ノ死亡證

明書(死因及死亡日期ヲ載明シタルモノ)ヲ具有シ検査醫
官ノ充分ナリト認可ヲ經タル屍體以外ハ凡テ之ヲ検査所
ニ移シ一月以上停留スベシ

第六十四條 若シ航行時ニ死人ヲ發見シ検査醫官ガ傳染病
ニ依ル死亡ト認メタルトキハ屍體及棺木ヲ検査所ニ移シ
一ヶ月以上抑留スベシ

第六十五條 傳染病傳播ノ可能性アルト認ムル物品、禽獸
等ハ其ノ入國ヲ禁止或ハ制限シ或ハ検査抑留消毒及其ノ
他ノ必要事項ヲ施行スベシ

第六十六條 凡テ舊麻袋ハ消毒證明書ヲ附シ消毒方法ヲ詳
細ニ記載スベシ該證明書ハ積込發航港ノ衛生長官之ヲ發
給ス

検査醫官ハ前項ノ證明書不十分ナリト認ムルトキハ陸上
以前ニ該麻袋ニ検査醫官ノ指示ニ從ヒ消毒ヲ施行シ以テ
傳染ヲ防止スベシ

第八章 移 民

第六十七條 検査所ハ政府ノ命令ニ依ル移民ノ衛生狀況ヲ
検査スル事ヲ得

第六十八條 前條ノ命令アルトキハ移民ハ出發以前ニ左記
ノ處置ヲ受クベシ
一 身體検査

第二條 隔離所ニ於ケル醫師看護人及ビ患者ハ全テ本章程
ヲ遵守スベシ

第三條 治療ヲ擔任スル醫師ハ診療室ニ於テ診療スル場合
ハ誠意ヲ以テ之ヲ盡シ醫ハ仁術ナリトノ主旨ニ反スベカ
ラス

第四條 薬剤師ハ處方ニヨリ調劑スル場合ハ詳細ニ之ヲ照
合シ以テ藥力不足ノ處ヲ來スガ如キ省畧行爲アルベカラ
ズ

第五條 看護人ハ患者ニ對シ常ニ熱心忍耐ヲ以テ旨トシ自
己ノ同胞手足ノ如キ看護ヲナスベシ

第六條 服藥ハ醫師ノ監視ヲ要スルモ其ノ他飲食移動等一
切ノ事ハ全テ看護人ノ努力ニヨル處ニシテ怠慢等ノ態度
ヲ以テ患者ニ不快ヲ與フベカラズ

第七條 看護人ハ常ニ白衣ヲ着クルヲ要ス以テ擅ニ外出ス
ルコトヲ得ズ又病室内ニハ隨時消毒水ヲ撒布シ殺菌ニ便
ナラシムベシ

第八條 所内收容ノ患者ニシテ既ニ恢復期ニアル者ト雖モ
靜養ヲ旨トシ妄動スベカラズ妄動スレバ再發ノ虞アルベ
シ

第九條 患者ハ飲食或ハ起臥歩行等ノ動作ヲ要求スル場合
ニハ低聲ヲ以テ看護人ヲ招キ或ハ靜カニ其ノ來ルヲ待ツ

二 傳染病豫防ノ方法施行トハ例ヘバ種痘及コレラ豫防
注射等ヲ謂フ

移民ハ前項ノ處置ヲ受ケル事ニ依リ監督機關所在地ニ停
留セシムル事ヲ得検査所ニヨリ之ヲ施行シ竝ニ検査醫官
ニ依リ證書ヲ發給シテ検査後ノ結果ヲ注明シ豫防方法ヲ
施行セシム

第九章 附 則

第六十九條 検査應受ノ船舶人員本章程各條項ニ違反スル
トキハ法令ニ別段ノ規定アル外ハ其ノ情狀ニ依リ百元以
上千元以下ノ罰金ニ處ス

第七十條 海港検査旗號及服務人員ノ制限ハ別ニ之ヲ規定
ス

第七十一條 本章程内ノ規定ニ依リ納付スベキ各費用ノ詳
細項目及金額ハ別ニ之ヲ定ム

第七十二條 本章程ハ呈准公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス
若シ未ダ盡サザル事項アラバ隨時之ヲ改條スル事ヲ得

隔離所取締章程 (前警務處)

第一條 本章程ハ疫病流行ニ際シ傳染病防止ノ目的ヲ以テ
設立シタル隔離所ニ適用ス

第十條 患者全快シタル時ハ醫師ノ診査ヲ受ケ退所ノ許可
アリタル上退所スルベシ擅ニ許可ナク退所スベカラズ

第十一條 本章程各條ノ規定ニヨリ警察官吏ハ毎日督察取
締ヲ勵行シ違反アル場合ハ直チニ上司ニ報告スベシ

第十二條 本章程ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第二章 保 健

市街地ニ於ケル便所設置ニ關ス
ル件 (大同二年四月二十二日)
(民政部訓令第二一八號)

奉吉黑各省公署 東省特別區長官公署ニ令ス
新京特別市公署 哈爾濱市政籌備處
廁園ノ清潔ト否トハ吾人ノ衛生上ニ至大ノ關係アリ我國各
省市縣街ノ住民商家庭内ノ私設便所ハ從來設備ノ完全ナル
モノ無シ實ニ最大ナル缺點ナリ茲ニ徹底的衛生改良ノ目的
ノ爲貴署所ハ所屬ニ轉令シ各市縣街ノ居民竝ニ商家ニ對シ
警察ヲシテ精密ニ調査ヲ爲サシムベシ若シ未設ノ者アレバ
其ノ家主ニ對シテ迅速ニ修築スルヲ命ジ既設ノモノモ破壊

或ハ不潔ナル者ハ根本的ニ修理ヲ命ズベシ今後總テ家屋ヲ新築セントスル者ハ先ツ建設スベキ便所ノ設計圖ヲ建築許可申請書ト同時ニ所轄地方官署ノ検査ヲ受ケ合格シタル後始メテ工事ニ著手スベシ以テ根本的改善ヲ爲サントス分令スルノ外直ニ遵照處理スベシ此ニ令ス

汚物掃除條例

(十七年五月三十日公布)

- 第一條 本條例ハ城市(都會)及地方長官ニ依リテ指令シタル區村地方ニ於テ之ヲ行フ
- 第二條 土地房屋ノ所有者使用者又ハ占有者ハ其ノ地區内ノ汚物ヲ掃除シ清潔ヲ保持スル義務ヲ負フ
前項ノ土地或ハ房屋ニ屬セザルモノハ管理市政機關掃除ノ責任ヲ負フ
- 第三條 掃除シタル汚物ハ管理市政機關指定ノ地點又ハ容器内ニ集置シ任意ニ棄置スルコトヲ得ズ
- 第四條 集置シタル汚物ハ管理市政機關之ヲ處分シ處分方法ハ法令ニ依リテ定ムル外酌訂細則ヲ製作シ監督機關ノ許可ヲ受クベシ
- (特別市ノ所定細則ハ衛生部ニ報告シ備案ニ供スベシ)
- 第五條 處分上ノ收入及費用ハ管理市政機關ニ依リテ之ヲ確

實ニ表報シ若シ收支償ハザルトキハ地方稅ヲ以テ之ヲ補充スベシ

- 第六條 該管官吏ハ掃除ノ施行及實況ヲ監察セシムル爲私人ノ土地又ハ房屋内ニ立入り査視スルコトヲ得
- 第七條 私人掃除ノ義務ヲ履行セザルトキハ該管官吏ヨリ確實ニ履行期間ヲ指定シテ勸告シ若シ期間内ニ尙履行セザルトキハ該管官吏之ヲ施行シ其ノ費用ヲ義務者ヨリ徵收スルコトヲ得
- 第八條 毎年五月十五日及十二月十五日ニ於テ衛生部及各省民政廳特別市縣政府ガ各機關各團體及民衆ヲ聯合シテ大掃除ヲ舉行ス
- 第九條 汚物ノ種類及掃除ノ方法竝ニ設備ハ衛生部別ニ之ヲ定ム
- 第十條 本條例ハ公布ノ日ヨリ施行ス

汚物掃除例施行細則

(十七年五月三十日公布)

- 第一條 汚物掃除條例ニ依リ掃除スベキ汚物ハ塵芥、汚泥、穢水及糞尿ノ四種トス
- 第二條 土地、房屋所有者使用者又ハ占有者ハ其ノ地域内

或ハ建築物内ノ清潔ヲ保持スル爲左ニ掲グル各事項ヲ履行スベシ

- 一 適當ノ容器ヲ備ヘ以テ塵芥、汚泥ヲ容レル事
- 二 適當ノ溝渠ヲ備ヘ以テ污水ヲ排泄スベシ
- 三 適當ノ便所ヲ備ヘ以テ糞尿ヲ容レルベシ
前項ノ塵芥、容器、溝渠、便所ノ様式ハ市政機關其ノ地方ノ情形ニ依リテ規定シ其ノ私設溝渠ハ公共溝渠又ハ市政機關ノ指定シタル適當ノ地點ニ排泄セシムベシ
- 第三條 市政機關ハ各戶集置ノ汚物ヲ一定場所ニ運搬シ塵芥ハ可成之ヲ焼却スベシ
戸口稠密ナル地區ニアリテハ毎日一回各戶ヨリ汚物ヲ搬出スベシ
- 第四條 市政機關ハ公共溝渠ヲ建造シ污水ヲ一定ノ場所ニ排泄スベシ
公共溝渠ノ損害豫防ノ爲隨時必要ナル設備ヲ爲スベシ
- 第五條 市政機關ハ衛生上適シタル公共便所ヲ築造修繕スベシ私人ノ營業ニカカル便所ノ設置ハ一切禁止スベシ
- 第六條 市政機關ハ掃除監視員ヲ指定スヘシ其ノ職務ハ左ノ如シ
一 掃除人ヲ指揮竝ニ監督ス
二 公共溝渠、公共便所、塵芥、汚泥ノ焼却場又ハ堆積

場竝ニ其ノ他掃除ニ關スル施設ヲ巡視ス

- 三 私人掃除ノ實況竝ニ私有溝渠便所及其ノ他ノ掃除ノ施設ヲ巡視ス
前項ノ掃除監視員ハ衛生検査員或ハ其ノ他相當ノ人員ヲ以テ充當ス
- 第七條 掃除監視員汚物掃除條例第六條ニ依リ私人ノ土地又ハ建築物内ニ立入り掃除施行實況ヲ査視スルハ日出後日没前ニ於テ爲シ制服ヲ着用シ併セテ證票ヲ携帯スベシ
- 第八條 汚物掃除條例第七條ニ依リ掃除義務者ニ履行ヲ勸告スル時ハ書面ヲ以テ理由ヲ載明シテ義務者ニ送達スベシ
- 第九條 本細則ニ依リ義務者若シ履行スベキ事項ヲ掃除監視吏員ノ指定シタル期間ニ履行セザルトキハ參元以下ノ罰金ニ處ス
- 第十條 公共溝渠ニ塵芥、土石ヲ投棄シタル者又ハ糞尿ヲ注流シタル者ハ三日以下ノ拘留又ハ參元以下ノ罰金ニ處ス

附 則

- 第十一條 公共道路及場所ノ塵芥掃除ニ關シテハ第二條第一項第一號第三條第一號ノ各規定ヲ適用ス
- 第十二條 糞尿ノ處分ニ關シテハ地方ノ情形ニ依リ義務者

ハ自ラ處分スルコトヲ得暫時第三條ノ規定ヲ適用セズ

第十三條 公共便所ノ設備ハ本細則施行後一年以内ニ完成スベシ

第十四條 本細則規定ノ外清潔保持ニ關スル方法及施設ニ關シテハ市政機關ハ本細則ニ抵觸セザル範圍内ニ於テ必要ナル規定ヲ設クルコトヲ得

第十五條 本細則ハ公布ノ日ヨリ施行シ若シ未ダ盡キザル事項アレバ部令ヲ以テ修正スルコトヲ得

管理衛生章程

(前警務處)

第一章 清潔

第一條 警察官署ハ其ノ本管區域内ノ清潔事務ハ官役(官廳)或ハ公共團體若クハ其ノ地方住戸ヲ統率シテ施行ス

第二條 道路ノ清潔事務左ノ如シ

- 一 公共ノ汚穢物堆積所ノ設置
- 二 共同便所設置
- 三 車馬停駐所指定
- 四 居民ヲシテ道路洒掃(散水清潔)ヲ督勵スルコト
- 五 官設汚穢運搬ヲ督勵スルコト
- 六 居民ヲシテ街路樹ノ保護並ニ植樹ヲ勸告スルコト

- ト
- 五 淺澗井戸(淺キ井戸、水ノ無キ井戸)ノ調査及ビ浚泄スルコト
- 六 井戸ノ蓋及井戸ノ欄ニシテ腐朽ノモノハ修理スルコト

第二章 保健

第六條 警察官署ハ本管區域内ノ保健事務ヲ處理スル地方ノ情況ニヨリ強制執行ス

第七條 傳染病ノ豫防事務ニ關シテハ左ノ如シ

- 一 人民病症ニ罹ル時其ノ病因及時日ヲ調査スルコト
- 二 人民病死ノ時其ノ病症ハ傳染病デアルヤ否ヤヲ検査スルコト
- 三 傳染病流行ノ際ハ上級官署ノ命令ヲ受ケ外國人往來居住、營業ノ停止命令ヲ執行スルコトヲ得
- 四 傳染病流行ノ際ハ情況ニヨリ交通遮斷ヲ行フ
- 五 傳染病流行ノ際ハ情況ニヨリ病人ノ隔離ヲ命ス
- 六 傳染病流行時ハ情況ニヨリ死體火葬ヲ命令ス
- 七 傳染病流行時ハ情況ニヨリ各種消毒方法ヲ執行ス
- 八 傳染病流行時ハ人民ニシテ病症ニ罹リタル時或ハ病症疑ハシキニ依リ検査ノ必要アル場合ハ醫者ヲ派遣シ診斷執行ヲ爲スベシ

七 道路ノ毀損行爲ヲ禁止シ障礙物ヲ排除スルコト

第三條 溝渠、水溜リノ清潔事務左ノ如シ

- 一 積水ノ排除法ヲ設ク
- 二 水溜リノ流通ヲ圖ルコト
- 三 積水ノ飲用ヲ禁止スルコト
- 四 瓦石及各種物質ノ拋棄ヲ禁止スルコト
- 五 溝渠ノ毀損行爲ヲ防止スルコト
- 六 住民ヲ督勵シ官役(官廳)ヲ扶助シテ淤積物(汚穢物ノ堆積)ヲ運搬スルコト

第四條 家屋ノ清潔事務ハ左記ニ依リ住民ヲ督勵辦理スルコト

- 一 廁所ハ毎日掃除スルコト
 - 二 庭園ハ時時掃除スルコト
 - 三 台所、炕(溫突)ヲ整理スルコト
 - 四 捕鼠及ビ死物捜査(死動物)勵行スルコト
 - 五 家畜飼育小屋ヲ毎日掃除スルコト
- 第五條** 小川、堰、井戸ノ清潔事務ハ左ノ如シ
- 一 死體及ビ暴露屍棺ヲ埋藏スルコト
 - 二 燒燬穢物所設置スルコト
 - 三 肥料貯藏所ヲ指定スルコト
 - 四 汚穢物ノ拋棄ヲ禁止シ且其ノ推積滯留ヲ調査スルコト

九 傳染病流行時死亡人アル時ハ喪主ヲシテ即刻埋葬シ無主者ハ警察署ニ於テ埋葬ス

十 普通罹病死亡人ハ即刻埋葬ヲ勸ムルコト

十一 傳染病流行ノ際ハ汽車、汽船境内等ハ相當ノ検査ヲ執行スルコトヲ得

十二 傳染病流行時ハ檢病的戸口調査ヲ執行スベシ

十三 傳染病流行時ハ一切ノ傳染病媒介物品ノ買賣運輸貯藏ヲ禁止スルコト

十四 牲畜流行病發生シタル時ハ各種豫防ヲ執行スルコト

十五 本章程ニ依リ傳染病ト稱スルモノハ合計八種類ナリ即チ一コレラニ赤痢三チブス四天然痘五發疹チブス六猩紅熱七チフテリ八ペスト

第八條 常時ニ於テ検査スベキ事項ハ左ノ如シ

- 一 各種飲料食物販賣者ニ對シ清潔検査ヲナスベシ
- 二 娼妓營業者ニ對シ定期的花柳病有無ノ検査ヲ行フベシ
- 三 屠獸場ニ對シ其ノ屠宰牲畜(屠殺サルベキ獸畜)ハ病症ノ有無及ビ清潔ナルヤ否ヤヲ検査スベシ
- 四 藥劑師各種醫師及ビ產婆ニ對シ業務上不正事實ナキヤ及ビ業務上過失無キヤニ關シ調査スベシ

五 氣候不順ノ時ハ隨時相當ノ検査ヲ執行スベシ

第三章 醫 療

第九條 警察官署ハ其ノ本管區域地方ニ於ケル各種醫療事務ヲ執行及ビ管理スルコト

第十條 警察官署ノ執行スベキ醫療事務ハ左ノ如シ

一 娼妓ニシテ花柳病ニカカリシ者ハ診察所ニ留置及ビ

醫療ヲ施行セシムルコト

二 負傷人及ビ旅行中發病者ニ對シテハ即時病院ニ送り

醫療ヲ施行セシムルコト

三 傳染病患者ハ速時傳染病院ニ送り醫療ヲ施行セシム

ベシ

四 瘋癲人アル時ハ強制的ニ病院ニ送り醫療ヲ施行セシム

ムルコト

第十一條 警察官署ニ關スル管理ノ醫療事務ハ左ノ如シ

一 地方種痘機關設立ヲ勸誘スルコト及ビ其ノ方法並ニ

種痘ノ人數ヲ調査スルコト

二 病院ノ治療ノ人數及ビ患者傷病ノ情況ヲ調査スルコト

ト

三 戒煙所ニ於ケル戒煙者ノ數及ビ戒煙者ノ處置情況ヲ

調査スルコト

第十二條 警察官署ハ管内ノ清潔保健醫療ニ關シ本章程ニ

基キ施行細則ヲ設クルコトヲ得

第十三條 本章程第一章各條規定ノ一ニ違反スル者ハ一元

以上五元以下ノ罰金ニ處ス

第十四條 本章程第二章第三章各規定ノ一ニ違反スル者ハ

一元以上六十元以下ノ罰金ニ處ス

第十五條 本章程中不適當ナル條項アルトキハ隨時改正ス

第十六條 本章程ハ公布ノ日より施行ス

大清潔實施辦法

(前警務處)

第一條 大清潔ノ實施ハ毎年春秋二期之ヲ施行ス

第二條 大清潔實施以前ニ佈告ヲ出シ期日ヲ指定シ管内居

民ハ其ノ期日ニ施行スベシ

第三條 商民各戸ニ對シテ清潔規則所定各事項ヲ明瞭ニ佈

告スルト共ニ白話傳單(口語體ボスタ)ヲ配與スルコト

第四條 大清潔實施ハ指導主義ノ下ニ之ヲ行ヒ徒ラニ微罰

スベカラズ

第五條 佈告發行ノ後各警察局、所ハ警士ヲ派遣シ每戸ニ

對シ指導説明ヲナシ空期検査ノ場合ハ必ラズ分局長、分

所長立會ノ上考查スベシ

第六條 分局長ハ清潔狀況ノ成績ヲ實施後二十日以内ニ警

務局長ニ報告スベシ

第七條 警務局長ハ各所屬大清潔検査ノ報告後ニ於テ局長

自身若ハ局員ヲ派遣シテ其ノ成績ヲ調査シ獎懲ヲ行フベ

シ

第八條 警務局長ハ所屬區所官員辦理大清潔ノ成績ニ對シ

賞罰ヲ施行シ其成績最優者ニ對シ特獎ヲ申請スベシ

第九條 人民ニシテ清潔事項ノ整理尤モ佳良且ツ鄉村ノ模

範者タル者ニ對シテハ局長ヨリ縣長ヘ報告シ獎賞又ハ表

彰ヲ行フ

第十條 大清潔實施ノ時ハ警察官署ハ唱導(模範)ヲ示スコ

ト)ノ爲メニ期日前ニ實行スベシ

第十一條 人民ニシテ清潔規則ヲ遵守セザル場合ハ警察官

署ハ一定ノ期限ヲ附シテ清潔ヲ實施セシムベシ期限ハ半

年ヲ超ユルコトヲ得ズ

第十二條 各警察署又ハ分所ハ清潔ノ監督検査ニ關シ金錢

物品等ノ提供收受約束等ノ行爲アル時ハ瀆職罪トシテ處

罰ス

街市便溺取締辦法

(前警務處)

一 道路或ハ公共處所ニ於テ隨意ニ便溺スル者ニ對シ違警

懲罰スルコトハ明カニ法則ヲ規定スト雖モ市民ノ不良習

慣未ダニ從前ト異ナラズ故ニ處置方法ヲ規定シ全體ニ實

行シ各警察署モ必ラズ眞面目ニ處理スベシ

二 各署管内ニ於ケル公私廁所、尿池及ビ市街家畜ノ糞ハ

肥料公司竝ビニ衛生隊ニ依リ清理スル外更ニ其ノ他町内

屋角、道傍等ノ清掃ハ各署及分所ニ於テ附近ノ商民ヲ督

勵シテ掃除シ穢物ヲ堆積スベカラズ

三 吾國人民ハ素ヨリ往往市街ニ於イテ便溺スル陋習アリ

若シ前ニ便溺ノ跡アレバ後者ハ前者ニ眞似シ全ク衛生上

ノミナラズ風俗ヲ害スル事甚シ今後各分局分所ニテハ管

内ニテ便溺ノ痕跡アル所ニハ石灰ヲ撒布清理シ永久禁止

スベシ

四 各署所ハ便溺痕跡ニ對シ隨時ニ調査報告シ木札標示ヲ

造リ揭示シ禁止スベシ

五 木札標示ヲ揭示ノ後若シモ便溺痕跡ヲ再ビ發見シタル

時ハ直チニ其ノ管内ノ巡官、警長ノ情職ヲ罰懲シ而シテ

署長、署員モ検査不充分ノ責任ヲ負フベシ

六 便溺不潔處所ニ對シテハ其ノ管内ノ官長巡警ハナルベ

ク之ヲ熟知シ置キ巡邏スル時注意スベシ

七 各官長巡警、若シ一日以内ニ自己ノ責任管内ニ於テ便

溺違反者三回以上ヲ發見シタル者ニハ適宜獎與ヲ給與ス

若シ一日以内一回違反者ヲモ發見シ得ズシテ尙管内ニ便

溺痕跡ヲ認メザル場合ハ適宜ニ功ヲ記シ若シ管内ニ溺跡ヲ屢々發見スル場合ハ處罰スベシ

商民各戸清潔規則

(前警務處)

第一條 本規則ハ公衆衛生ヲ保持スル爲ニ定ムルモノニシテ旅館、飲食店、湯屋、劇場、遊廓及ビ其他公衆場所ニ對スル特別規定ニ從フ外一般商民ハ全テ本規則ヲ遵守シ清潔ヲ保ツベシ

第二條 市街地或ハ村鎮ニ於テ通路ノ大小ヲ問ハズ任意ニ大小便スベカラズ

第三條 市街地ノ大通リ或ハ下水溝ハ公衆衛生夫ニ於テ掃除スル外其他田舎又ハ衛生夫ナキ場所ノ溝渠ニ對シテハ其ノ附近ノ商民ハ之ヲ隨時清除シ汚物汚水ヲ停積滯溜スベカラズ

第四條 商戶舖店又ハ一般住民ハ自居ノ庭前或ハ庭内ノ溝渠ニ對シテ屋主之ガ掃除ノ責任ヲ有ス若シ屋主現地ニ居ラザル場合ハ各戸共同ニ掃除ニ任ジ互ニ責任ヲ回避スベカラズ

第五條 商民戸ノ牆壁外ニ設備セル溝渠ハ雨水ヲ流ス爲ナルヲ以テ汚水ヲ投捨スベカラズ

第十四條 炊事場ハ常ニ清潔ヲ保ツベシ葱ノ根、蒜ノ皮、碎骨、汚水等ヲ堆積スベカラズ茶碗盆缸等食器器具ヲ常ニ清洗シ戸棚又ハ棚ニ置キ相當ノ覆蓋ヲ設クベシ

第十五條 竈ノ傍温突(オンドル)ノ上、卓、椅子、箱等ノ下モ常ニ清掃シ石灰ヲ撒布スベシ

第十六條 凡ソ室内、屋隅、芥井、戸棚、牆壁、戸口等及ビ其他各處ハ常ニ清拭シ塵芥ヲ停留スベカラズ

第十七條 凡ソ室内ニ陳列スル器皿櫃箱及ビ壁上ニ懸掛スル鏡掛圖或ハ商店内ノ貨物棚、事務台等ハ常ニ之ヲ移動清除シ穢物ヲ堆積スベカラズ

第十八條 衣服夜具等ハ常ニ洗濯シ日光ニ曝シ汚染スベカラズ

第十九條 凡テ使用ニ堪ヘザル衣服類破損セル靴及ビ其他殘壞物ハ速ニ之ヲ焼却又ハ埋没スベシ若シ修繕シテ用フベキモノアラバ之ヲ煮沸洗濯シ微菌ノ繁殖ヲ防ギ以テ保存シ散亂汚穢ヲ防グベシ

第二十條 凡ソ殘餘ノ飯、菜ニシテ味臭稍變化シタル時ハ直チニ之ヲ拋棄スベシ腐敗シタル瓜果類亦同ジ

第二十一條 夏季ニ於テ蚊蠅ハ傳染ノ媒介トナルヲ以テ戸口窓等ニ竹簾紗布ヲ付ケ蚊蠅ヲ防ギ又常ニ之ヲ驅除スベシ

第六條 門外、牆壁附近及庭内ニ汚物、雜草又ハ腐敗物ヲ堆積スベカラズ市街地内ニ肥料ヲ堆積スルハ絕對ニ禁ズ田舎ノ糞便肥料ノ堆積場所モ住家ヨリ遠キ地點トスベシ

第七條 庭内ニ燃料トシテ堆積スル柴若ハ枯草類ハ一個月需要ノ限度ヲ超過スベカラズ適宜ナル場所ニ整頓處理シ火災ニ注意スベシ但シ田舎ノ柴園ニ堆積スル柴草ハ此ノ限リニアラズ

第八條 庭内ノ便所ハ毎朝一回掃除運出シ停積流溢スベカラズ夏秋ノ季ニハ常ニ石灰又ハ石油乳劑等ヲ撒布スベシ

第九條 庭内ノ溝渠ニ汚水又ハ有色ノ水ヲ注ギ庭外ニ流出スベカラズ

第十條 馬匹及車ヲ有スルモノハ庭内一定場所ニ之ヲ飼養シ飼糧若ハ馬糞ノ散亂ヲ防グベシ豚羊ヲ飼養スル者ハ一定ノ小屋ヲ設置スベシ又車ヲ通路上ニ置クベカラズ

第十一條 庭内ノ豚小屋ハ一隅ニ設置シ屋内ノ糞便ヲ常ニ清除シ糞便堆積臭氣外溢シテ公衆衛生ヲ害スガ如キ事アルベカラズ

第十二條 庭内ニ陳列スル醬油、漬物竝之等ノ容器類ハ全テ整頓シ且常ニ洗滌シ清潔ヲ保持スベシ

第十三條 室内外ノ低キ場所又ハ屋隅及ビ壁ノ四角等ノ場所ニハ隨時石灰ヲ撒布シ濕氣ヲ防グベシ

第二十二條 其他全テ疫病ヲ發生セシメ又ハ健康ヲ害スルモノニ對シテ必ズ之ヲ排除シ病菌ノ繁殖ヲ防グベシ

第二十三條 商民ハ汚水ヲ拋棄スル場合ニハ警察官署ノ指定場所ニ投捨シ擅ニ拋棄スベカラズ

第二十四條 本規則ハ人民ノ習慣ヲ考慮シ以テ公布スルモノナルニ付故意ニ之ヲ犯シ三度以上改悛ナキ者ハ違警罰法ニヨリ處罰スベシ

第二十五條 本規則ハ公布ノ日ヨリ施行ス

水上衛生取締規則

(鴨渾兩江水上市警察局)

第一條 凡ソ本管區内一切ノ衛生事項ハ全テ本規則ニ依リ行フベシ

第二條 凡ソ沿江ノ各岸ニアル公衆場所ニ穢物ノ拋棄又ハ便溺スベカラズ

第三條 凡ソ沿江ノ各埠頭及ビ各種ノ船舶ハ全テ整頓清潔ヲ保ツベシ

第四條 江岸ニ沿イテ腐敗不潔ノ物品ヲ賣買運搬シテ清潔ヲ害スベカラズ

第五條 疾病ニ罹リタル鳥類或ハ流行病ニ罹リタル牲畜ヲ運輸スベカラズ

第六條 各警察官署ハ管内ノ衛生事務ヲ管理スル場合ニハ沿江ノ事情ニ應ジテ強制的ニ取締ルベシ

第七條 傳染病ノ豫防事項左ノ如シ

- 一 旅客或ハ船夫ニシテ疾病ニ罹リタルモノ又ハ其ノ疑アルモノニ對シテハ醫員ノ診査ヲ施行スベシ若シ死亡者アル場合ニハ死體ヲ檢案シ傳染病ノ有無ヲ決定スベシ
- 二 傳染病流行ノアル場合ニハ事情ニヨリ交通遮斷ヲ行フ事アルベシ
- 三 傳染病流行ノアル場合ニハ各種船舶ノ港岸ニ到着以前ニ檢疫ヲ行フベシ
- 四 傳染病流行ノ場合ハ各港内ニ滞留スル各種船舶ニ對シ必要ノ檢査ヲ行フベシ
- 五 家畜類ニ流行病ノアル場合ニ適宜ノ防疫ヲ施行スベシ

第八條 各水上警察署ハ衛生事項ニ關シ本規則ヲ遵守スル外其他水上警察官署ノ諸規則ヲモ参照スベシ

第九條 傳染病流行港ヨリ航行シ來ル船舶ニ對シテハ特別ナル注意ヲ以テ檢疫シ必要アル場合ニハ消毒或ハ隔離ヲ行フベシ

第十條 本規則ノ第二條乃至第五條ニ違反シタル場合ニハ

一 井戸ノ蓋ハ堅固ナルモノヲ使用スベシ

第四條 井戸周圍二丈以内ノ場所ニハ糞尿汚物ヲ置クベカラズ

第五條 井戸ノ在ル場所ニシテ地面ヨリ低キ窪地ノ如キ箇所ニアル場合ニハ平均ニ埋土ヲ爲シ以テ汚水ノ流入ヲ防グベシ

第六條 井戸ノ基台、周圍、蓋等ニシテ破損シタル場合ハ村長ハ責任ヲ以テ之ヲ隨時修理スベシ

第七條 共用井戸ニシテ管理者ナキ場合ハ各使用者ハ當番ニ之ヲ管理スベシ

第八條 汲水器具ハ清潔ナルモノヲ用ヒ飲用殘水使用殘水或ハ不潔ノ器具ヲ井戸内ニ投入スベカラズ

第九條 本規則第三條乃至第八條ニ違反スル場合ハ違警罰法ニヨリ之ヲ處罰ス汚濁又ハ有毒ナル物質ヲ井戸内ニ投入スル者ニ對シテハ刑法ニヨリ之ヲ處理ス

第十條 本規則ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

管理穢水井(下水井戸)辦法

(前省會公安局)

- 一 本廳ハ各溝渠ノ清潔ヲ維持スル目的ヲ以テ適當ナル地方ニ穢水井戸或ハ穢水池ヲ勸誘修築シ以テ市民ノ穢水ノ

一元以上五元以下ノ罰金ニ處ス

第十一條 本規則ノ第六條及第七條ニ違反シタル場合ニハ一元以上三元以下ノ罰金ニ處ス

第十二條 本規則ニシテ不備ナル時ハ隨時之ヲ修正ス

第十三條 本規則ハ公布ノ日ヨリ施行ス

水井清潔飲用水取締規則

(前警務處)

第一條 城(縣城內)鎮(人口多キ村)鄉(田舎ノ村)ニ於テ飲料水用ノ井戸ニ對シテハ本規則ニヨリ取締ヲ爲シ以テ清潔ヲ保持スベシ

第二條 警察官署ハ管轄區域内ニアル井戸ノ數、場所、水质ノ良惡、水量、公有又ハ私有、井戸ノ形狀(舊式井或ハ機械井)等ヲ詳細ニ檢査シ井戸一覽表ヲ作成シ以テ取締ニ便ナラシムベシ

第三條 新築井戸及ビ舊井戸ニ對シテハ左記各號ノ設備ヲナスベシ

- 一 井戸口周圍基台ハ木或ハ煉瓦ヲ以テ地面ヨリ五寸以上ニ築造スベシ
- 一 井戸口ノ周圍(危險豫防ノ爲井戸ノ周リヲ圍ヒタルモノ)地面ヨリ一尺以上ノ高サニスベシ

投棄用ニ備フ

二 穢水池ハ廣キ地點ニ設ケ穢水ノ停留ヲ防止スベシ

三 穢水池及ビ井戸ハ分局ニ於テ地點ヲ選擇シ市民ヲ督勵シ修理セシム

四 各穢水井戸ノ傍ニ穢物箱一個ヲ設備シ下水投入口瀘過網上ノ殘渣等穢物ヲ處置スルコト

五 各穢水井戸ハ毎日衛生夫役ニヨリ二回以上掃除シ並ビニ惡臭ノ滯積ヲ防グ爲メ隨時ニ淨水ヲ以テ刷洗スルコト

六 各井戸傍ノ穢物箱ハ毎日二回以上穢物車ヲ以テ運ブコト

七 穢水井戸及池ノ修理完備後ニ於テ各分局長警ハ管内ノ各戸住民ニ對シ一齊ニ遵守事項ヲ示達スベシ

八 衛生夫役(清道夫)ハ第五第六兩項所定ノ掃除回数ヲ實施セザル時ハ衛生隊服務規則ニヨリ處罰スルコト

九 本辦法ヲ以ツテ未ダ盡キザル事アル時ハ隨時之ヲ增訂スルコトアルベシ

檢糞夫取締規則

(前省會公安局)

第一條 本規則ニ稱スル檢糞夫トハ專ラ個人的檢糞者ヲ指シ本局衛生科清道夫及各署長警ノ指揮監督ヲ受ケ並ニ本規則ノ各條規定ヲ遵守スベシ

- 第二條 檢糞夫ハ専ラ私有廁所ヲ掃除シ公共廁所ト肥料公司ニヨリ掃除スルコト市政公所之ヲ管理ス
- 第三條 本局ハ肥料税金ヲ徵收セズ各檢糞夫ハ肥料ノ値段ヲ以ツテ收入ヲ充當スベシ脅喝シテ報酬ヲ受クルベカラズ
- 第四條 檢糞夫ノ筐筒(糞便容器)ハ蓋ヲ付スベシ清潔及衛生ヲ守ル爲メ肥料堆積場所ハ邊門外住宅ヨリ離レタル場所ヲ選擇スベシ
- 第五條 城關内外ノ公共廁所ハ肥料公司ニヨリ請負運搬ヲ除ク外其ノ他ノ官署局所學校商店等ノ廁所ハ檢糞夫ハ毎日掃除スベシ故ナク掃除ヲ止ムルヲ得ズ
- 第六條 毎日便溺ノ掃除ハ回数ニ制限ナク清潔ヲ標準トス
- 第七條 掃除ノ時間ハ日出ヨリ日没前トス
- 第八條 廁所ノ掃除不充分ニシテ不潔ナル時ハ檢糞夫ハ更ニ掃除スベシ
- 第九條 夏季ハ廁所ノ所有者ハ石灰ヲ準備シ檢糞夫ヲシテ撒布セシムベシ
- 第十條 廁所ハ各自清潔ヲ保持シ之ヲ毀損スルガ如キ恰モ自己占有ノ行爲アルベカラズ
- 第十一條 檢糞夫ニシテ本規則各條ニ違反スル者ハ違警罰法ニヨリ適宜處罰ス

管理穢物箱辦法 (前省會公安局)

- 第一條 各穢物箱ハ市街町ノ清潔ヲ保持スル爲ニ設備シ衛生科臨時検査及管理ノ外各分局ハ保管検査ノ完全責任ヲ負フ
- 第二條 穢物箱内ニ若シ穢物充滿スル時該管分局所ハ隨時衛生科へ報告シ或ハ衛生隊へ電話ヲ以テ通知シ衛生夫役ヲ派遣シテ運搬スベシ
- 第三條 穢物箱内ニ穢物ノミ投入シ穢水汚汁等ノ如キモノヲ投入スベカラズ
- 第四條 市民ニシテ穢物ヲ投入スル時本辦法ヲ知ラザルノ故ヲ以テ本辦法ニ依ラザル場合ハ衛生科若ハ警察官署衛生隊ハ直チニ之ヲ指示スベシ
- 第五條 穢物箱破損シタル場合ハ該管分局所ヨリ附近住民ヲ勸導シテ修理セシムベシ
- 第六條 新タニ穢物箱ヲ設備セムトスル時ハ前以テ衛生科ニ報告シ規定ノ模範型式ニヨリ應用製造スルヲ可トス
- 第七條 分局所ハ募金ニヨリ穢物箱ヲ製造スル場合ハ出金者ノ數姓名出金ノ數目及ビ工賃ノ請求書ヲ衛生科ニ提出スベシ
- 第八條 舊穢物箱ノ檢定番號ハ剝脫容易ナル故微小ナル文

字ヲ使用スベカラズ今後新箱ヲ調製スル時ハ黑色油ニテ塗り白文字ヲ以テ蓋ノ上ニ明瞭ニ記入スベシ

第九條 本辦法ハ公布ノ日ヨリ施行ス

督催商民掃除積雪辦法

(前省會公安局)

- 一 省會ノ人口ハ漸次増加シ曠地ハ稀ニナリタルヲ以テ積雪ノ掃除及ビ投棄地點ヲ規定シ清潔ヲ維持スベシ
- 二 掃除ノ責任ハ大通リ及公共場所ニシテ商家ニ接セザル所ハ衛生夫ヲ派遣シテ掃除スベシ其ノ他毎戶庭園内外乃至門前街道ハ商民自身ニ於テ掃除シ臨街(大通リ兩側)家屋ノ掃除ハ大通リ中心マデヲ界トシ彼此共ニ掃除ヲ怠ルベカラズ
- 三 雨雪ノ後連日ノ大雪ヲ除ク外ハ隨時其ノ情況ニヨリ掃除ヲ督勵シ成ル可ク二十四時間以内ニ於テ一齊ニ掃除シ堆積スベカラズ
- 四 積雪ノ投棄ハ擔ギ運搬、車運搬共ニ支障ナキモ何レモ指定地點ニ運搬スベシ自己ノ便宜ノ爲メ指定地點以外ニ投棄スベカラズ
- 五 市内公共處所及ビ廁所ニ通ズル道ハ必ズ肥料公司ニ於テ掃除シ其ノ他市場野菜市場及ビ特別場所ハ所有主管

妓女診療所(檢診所)章程 (前警務處)

- 第一條 本所ハ娼妓ノ健康ヲ檢診シ公衆ノ衛生ヲ保持シ以テ花柳病ノ蔓延防止スルヲ目的トス
- 第二條 診驗所ハ官公立醫院或ハ適當ナル場所ニ附設ス
- 第三條 本所ハ妓女療養室ヲ別ニ附設シ適當ナル人ヲシテ管理セシム
- 第四條 本所ノ經常費ハ本章程第十條ニヨリ之ヲ徵收ス
- 第五條 本所ハ醫員一人ヲ置キ醫官或ハ附設所醫院ノ院長之ヲ兼任ス經費充分ナルトコロニ於テハ女醫ヲ以テ專任トスルモ妨グズ

理人ニ於テ掃除ヲ擔任スベシ

- 六 毎回雨雪ノ後ニハ該管警察署ヨリ所屬商民ヲ通ジテ掃除ヲ行ハシムベシ且之ヲ嚴重ニ監視シ迅速ニ實施セシムベシ空家屋アル場合ハ衛生隊ニ通知シ衛生夫ヲ派遣シテ處理セシムベシ
- 七 商民各戶ニ於テ積雪掃除命令ヲ受クルモ故意ニ遲延シ或ハ自己便宜ノ爲メ指定地點以外ノ場所ニ傾倒スル者アルトキハ違警ニヨリ處罰ス
- 八 本辦法實施以前ニ於テ警察官署ハ本辦法ノ趣旨ヲ商民ニ詳示シ以テ遵守徹底ヲ期スベシ

第六條 本所ニ看護人及ビ醫師男女各二名ヲ置キ附設醫院

ヨリ派遣ス但シ警察官吏ノ指揮管理ヲ受クベシ

第七條 本所ハ左記ノ帳簿ヲ備付クベシ

一 事務日誌簿毎日ノ診査數定期或ハ臨時診斷證書ノ數量ヲ記載スルモノ

一 娼妓ノ姓名年齢等級ヲ記載スルモノ

第八條 診査ハ左ノ通り定期及ビ臨時ノ二種ニ區別ス

一 定期診査ハ毎月二回トス第一回ハ一日ヨリ四日迄第二回ハ十四日ヨリ十九日迄トス

一 臨時診査ハ(甲)初メテ營業ヲ爲ス者(乙)他所ヨリ轉入ノモノ(丙)休業中ノ者ニシテ復業スル者(丁)疾病ノ治癒後復業スルモノ(戊)傳染病ニ罹リタルモノノ五種トス

第九條 診査ヲ受ケ疾病ナキ者ニ對シ健康診斷證ヲ交付スベシ

第十條 受診者ニ對シテハ毎回左記ノ等級ニヨリ診査費ヲ徵收ス

一等六角 二等四角 三等二角

第十一條 娼妓ハ本所ニ療養スル場合毎日三角ノ飯費ヲ徵收シ藥品代ヲ徵收セズ但シ貴重藥品ヲ使用スル場合ハ患者ヨリ藥價ヲ徵收ス但シ其ノ價額ハ普通醫院ヨリ減價ス

第十二條 娼妓ハ重症花柳病ニ罹リタル場合之ヲ診査所ニ留メ適當ナル治療ヲ施スベシ但シ診査票ヲ所ニ保留シ一方警察署ニ通知シテ營業許可ヲ一時取上ゲ治癒後診査票及ビ營業許可ヲ再交付スベシ

第十三條 娼妓ハ輕症花柳病ニ罹リタル場合自家療養ヲ防グズ但シ毎日午前中本所ニ於テ診察ヲ受ケ或ハ藥品ノ交付ヲ受クベシ診査票及營業許可證ハ前條ニ準ズベシ

第十四條 警察署ハ各診査期ニ於テ午前十時所管ノ娼妓ヲ戸別毎ニ督促シ漏ナク診査ヲ受クシムベシ一方受診者ノ名簿ヲ衛生股員又ハ診査所ニ送付スベシ

第十五條 娼妓ハ他ノ病氣或ハ所用ノ爲メ診査ヲ受ケ得ザル場合ハ警察署ニ其ノ旨届出デ名簿ニ事由ヲ記載スベシ

第十六條 娼妓ハ自宅療養スル場合診査所ヨリ其旨ヲ警察署ニ通知シ營業許可證ヲ一時取上ゲ病癒通知ノアルマデ再交付スベカラズ

第十七條 自宅療養ノ場合警察署ハ之ヲ監視注意シ秘密淫賣ヲ防グベシ

第十八條 精神病患者管理規則 (前警務處)

第十九條 精神病患者ハ其ノ父兄或ハ監護人ニ拘束ノ責任アリ

第二十條 精神病患者ハ其ノ父兄或ハ監護人ニ拘束ノ責任アリ

第二十一條 精神病患者ハ其ノ父兄或ハ監護人ニ拘束ノ責任アリ

第二十二條 精神病患者ハ其ノ父兄或ハ監護人ニ拘束ノ責任アリ

第二十三條 精神病患者ハ其ノ父兄或ハ監護人ニ拘束ノ責任アリ

第二十四條 精神病患者ハ其ノ父兄或ハ監護人ニ拘束ノ責任アリ

第二十五條 精神病患者ハ其ノ父兄或ハ監護人ニ拘束ノ責任アリ

第二十六條 精神病患者ハ其ノ父兄或ハ監護人ニ拘束ノ責任アリ

第二十七條 精神病患者ハ其ノ父兄或ハ監護人ニ拘束ノ責任アリ

第二十八條 精神病患者ハ其ノ父兄或ハ監護人ニ拘束ノ責任アリ

第二十九條 精神病患者ハ其ノ父兄或ハ監護人ニ拘束ノ責任アリ

第三十條 精神病患者ハ其ノ父兄或ハ監護人ニ拘束ノ責任アリ

第三十一條 精神病患者ハ其ノ父兄或ハ監護人ニ拘束ノ責任アリ

第三十二條 精神病患者ハ其ノ父兄或ハ監護人ニ拘束ノ責任アリ

第三十三條 精神病患者ハ其ノ父兄或ハ監護人ニ拘束ノ責任アリ

第三十四條 精神病患者ハ其ノ父兄或ハ監護人ニ拘束ノ責任アリ

第三十五條 精神病患者ハ其ノ父兄或ハ監護人ニ拘束ノ責任アリ

第三十六條 精神病患者ハ其ノ父兄或ハ監護人ニ拘束ノ責任アリ

第三十七條 精神病患者ハ其ノ父兄或ハ監護人ニ拘束ノ責任アリ

第三十八條 精神病患者ハ其ノ父兄或ハ監護人ニ拘束ノ責任アリ

第三十九條 精神病患者ハ其ノ父兄或ハ監護人ニ拘束ノ責任アリ

第四十條 精神病患者ハ其ノ父兄或ハ監護人ニ拘束ノ責任アリ

第四十一條 精神病患者ハ其ノ父兄或ハ監護人ニ拘束ノ責任アリ

第四十二條 精神病患者ハ其ノ父兄或ハ監護人ニ拘束ノ責任アリ

第四十三條 精神病患者ハ其ノ父兄或ハ監護人ニ拘束ノ責任アリ

第四十四條 精神病患者ハ其ノ父兄或ハ監護人ニ拘束ノ責任アリ

第四十五條 精神病患者ハ其ノ父兄或ハ監護人ニ拘束ノ責任アリ

第四十六條 精神病患者ハ其ノ父兄或ハ監護人ニ拘束ノ責任アリ

第四十七條 精神病患者ハ其ノ父兄或ハ監護人ニ拘束ノ責任アリ

第四十八條 精神病患者ハ其ノ父兄或ハ監護人ニ拘束ノ責任アリ

第四十九條 精神病患者ハ其ノ父兄或ハ監護人ニ拘束ノ責任アリ

第五十條 精神病患者ハ其ノ父兄或ハ監護人ニ拘束ノ責任アリ

第五十一條 精神病患者ハ其ノ父兄或ハ監護人ニ拘束ノ責任アリ

第五十二條 精神病患者ハ其ノ父兄或ハ監護人ニ拘束ノ責任アリ

第五十三條 精神病患者ハ其ノ父兄或ハ監護人ニ拘束ノ責任アリ

- 第七條 精神病患者が散歩或ハ用便ノ爲メ外出スル場合ハ必ズ監護人ヲ附添スベシ
- 第八條 精神病患者ニ對シ嘲笑シ或ハ刺激ヲ與フベカラズ且ツ酒、煙草等刺激性ノ飲食物ヲ與フベカラズ
- 第九條 監置所ニ在ル精神病患者ハ入所出所毎ニ醫士ノ診察ヲ受クル外毎週一回診斷スベシ
- 第十條 精神病患者ノ居宅或ハ監置所ハ須ク警察ノ検査ヲ受クベシ
- 第十一條 拘留或ハ監置ノ義務ヲ有スルモノ精神病患者ニ對スル義務ヲ怠リタル時ハ監置所ニ別個ノ規定アルモノヲ除クノ外違警罰法ニ依リ處理ス
- 第十二條 精神病患者ニ對シ不當ナル監置或ハ加害者竝ニ醫師ニシテ收賄シ虚偽ノ鑑定ヲ爲シタル者ハ拘シク刑法ニ依リ處斷ス

公墓條例

(十七年十月二十日公布)

- 第一條 各市縣政府ハ市村ノ附近ニ適宜ノ地點ヲ選擇シテ公共墓地ヲ設置スベシ
- 第二條 私人或ハ私人團體ニシテ公共墓地ヲ設立セントスル者ハ市縣政府ノ許可ヲ申請スベシ
- 第三條 公共墓地ハ土地高燥ナル地方ヲ擇ビ左記ノ所在場

所ヨリ相當ノ距離アル地點ニ設置スベシ

- 一 工場學校及各公共處所
 - 二 住戶
 - 三 飲料水井及上下水道
 - 四 鐵道及大道
 - 五 河地溝渠
- 距離ノ限度ハ各市縣政府ハ當地方ノ情況ヲ斟酌シテ之ヲ定ムベシ
- 第四條 公共墓地ノ内ニハ地域ヲ劃分シ公路ヲ建築シ花木ヲ栽植シ墓地ノ周圍ニハ堅固ナル圍牆ヲ建築スベシ
 - 第五條 公共墓地ノ圖案及墓標ノ様式ハ市縣政府之ヲ定ム
 - 第六條 各墓ノ面積及其ノ深度ハ市縣政府當地方ノ情況及土質ヲ斟酌シテ之ヲ定ム
 - 第七條 各墓間ノ距離ハ左右九尺前後十尺ヲ超ユル事ヲ得ズ
 - 墓地ノ周圍ニ垣圍ヲ建設セムトスルトキハ其ノ墓ト垣圍トノ距離ハ前項ノ二分ノ一ヲ超ユル事ヲ得
 - 第八條 公共墓地ハ有料區ト無料區トヲ區分スル事ヲ得但シ有料區ノ面積ハ墓地面積ノ三分ノ一ヲ超ユルベカラズ有料區ノ徵收地價ハ占有地面ノ大小ニ鑑ミ市縣政府之ヲ定ム

第九條 市縣ハ設立ニカカル公共墓地ハ市縣之ヲ管理シ私人或ハ私人團體ノ設立ニカカル公共墓地ハ申請人之ヲ管理スベシ

第十六條 本條例ハ公布ノ日ヨリ施行ス

暫行停柩取締章程

(十八年四月十九日公布)

- 第十條 死者ノ氏名、原籍及埋葬年月日等ヲ墓標ニ記載スベシ
- 管理ハ墓標ガ破損シタル時ハ墓主ニ通知シテ自ラ修繕ナスベシ若シ通知後一箇年以後ニ至ルモ尙修繕セズ爲ニ障害ヲ認メル時ハ之ヲ撤除スル事ヲ得
- 第十一條 墓地ハ墓主自ラ掃除スル外管理人ハ毎年秋冬ノ時期ニ一回之ヲ掃除スルモノトス
- 第十二條 墓及墓標竝ニ公墓ニ栽植スル花木等ハ之ヲ踏踐毀損シ或ハ公墓地内ニテ狩獵及ビ牧畜スル事ヲ得ズ
- 第十三條 凡ソ公墓ハ墓主自己及該管市縣政府ノ許可ヲ受クルニアラザレバ之ヲ掘出スル事ヲ得ズ
- 第十四條 私人或ハ私人團體ノ設立ニカカル公墓ニアリテハ第五條第六條第八條第九條第十條第十條第十條第十條ニ關シテハ申請人ヨリ所轄市縣政府ニ届出ヅベシ
- 第十五條 各特別市地方設立ノ公共墓地ハ特別市政府本條例ノ各規定ヲ準用シテ之ヲ處理ス

- 第一條 停柩ハ法令ニ別段ノ規定アル場合ヲ除ク外本章程ニ依リ之ヲ取締ルベシ
- 第二條 停柩ノ期間ハ六十日ヲ超ユルコトヲ得ズ但シ特別ノ事故アル場合ニハ所轄地方官署ノ許可ヲ得テ二十日間延期スルコトヲ得葬地過遠ノ爲延期ヲ請求スル者ニハ運搬距離ノ長短ニ依リ期間ヲ定ムベシ
- 第三條 該管地方官署ハ公墓條例ノ規定ニ依リ適宜ノ地址ヲ選擇シテ公共停柩場所ヲ定ムルコトヲ得
- 第四條 該管地方官署左記各號ノ事情アル場合ニハ二十四時間以内ニ停柩ノ埋葬ヲ命ズ
 - 一 棺木質料薄キモノ
 - 二 屍體水分ヲ滲漏スルモノ
- 第五條 該管地方官署ハ本章程施行以前ノ停柩ニ對シテハ本章程到着ノ日ヨリ所屬各地區警察署自治人員及領舍代葬局(葬式屋)等ニ命ジテ屍體ノ親族或ハ關係人ヲシテ二箇月以内ニ全部埋葬爲ス様セシムベシ
- 第六條 該管地方官署ハ期限經過後ニ於テ尙未埋葬ノ停柩

ニ對シテハ屍體ノ家族或ハ關係人ニ通知シ期限ヲ附シテ埋葬爲サシムベシ其ノ期限ノ長短ハ該家族ノ距離ノ遠近ニ依リ之ヲ定ム但シ最長二箇月ヲ超コトヲ得ス

第七條 屍體ノ家族前條ノ通知ニ對シテ期限内ニ埋葬セザル時ハ該管地方官署ハ地方慈善團體ニ命ジテ代葬或ハ強制執行ス尙拾元以下ノ罰金ニ處ス

前項代葬ノ費用ハ屍體ノ親族或ハ關係人ヨリ之ヲ徵收スルコトヲ得

第八條 各地方ノ頒舍代葬局及各區ノ警察自治人員等ハ屍體ノ親族ガ死亡ヲ報告スルトキニ法定停柩期間ヲ某月某日迄ト通知スベシ

第九條 本章程第二條第四條ノ規定ニ違反シタル者ハ二十元以下ノ罰金ニ處ス

第十條 本章程ハ公布ノ日ヨリ施行ス

第三章 醫事藥事

醫師暫行條例

(十八年一月十四日公布)

第一章 總論

第一條 醫師法ノ未ダ公布セラレザル以前ニ於テハ醫師ノ認許ニ關シテハ本條例ノ規定ニ依リ之ヲ行フ

三 心神喪失者

證書ノ給與後ニ於テ前項各號ノ事由發生セル時ハ臨時ニ之ヲ取消ス事ヲ得但シ二、三兩號ノ原因ノ消滅セル時ハ再ビ之ヲ給スル事ヲ得

第二章 證書受領手續

第五條 醫師證書ヲ申請セントスル時ハ證書料五元、印花稅二元、二寸ノ半身寫眞二枚、履歷書一通及卒業證書、資格證明書類ヲ添付シテ所在地ノ管轄官署ニ提出シ之ヲ衛生部ニ轉送セシムベシ該部ハ審査後之ニ證書ヲ給與スルモノトス

前項ノ轉送順序ハ衛生局ノアル地方ニ於テハ衛生局ヨリ主管機關ニ衛生局ノ設置無キ地方ニ於テハ公安局ヨリ主管機關ニ、衛生局及公安局共ニ、未ダ設置セザル地方ニ於テハ其ノ他ノ行政官署ニヨリテ之ヲ主管機關ニ送呈シ一定期間ヲ定メテ之ヲ衛生部ニ轉報スルモノトス

第六條 已ニ受領セル證書ヲ毀損又ハ紛失シタル爲證書再下付ヲ申請スル時ニハ證書料二元印紙稅二元ヲ納付スベシ

第七條 本條例施行以前已ニ政府發行ノ證書ヲ領收シ竝ニ第三條ノ資格ニ該當スルモノハ證書料二元、印紙稅二元ヲ納付シテ新證書、書換ノ申請ヲ爲ス事ヲ得

第二條 醫師ノ資格ヲ有スル者ハ衛生部之ヲ審査シタル後醫師證書ヲ給與ス認可證書ヲ受領セザルモノハ醫師ノ業務ヲ執行スル事ヲ得ズ

衛生部ハ醫師ノ資格ヲ審査スベキ審査委員會ヲ組織スル事ヲ得

第二章 資格

第三條 滿二十歲以上ニシテ左記資格ノ一ニ該當スルモノハ醫師證書ノ給與ヲ申請スル事ヲ得

- 一 國立或ハ政府ノ認可セル公私立醫學專門學校以上ノ學校ヲ卒業シ卒業證書ヲ有スル者
- 二 外國ノ官立或ハ政府立案ノ私立醫學專門學校以上ノ學校ヲ卒業シ證書ヲ有スルモノ或ハ外國政府ノ醫師證書ヲ有スル者
- 三 外國人ニシテ曾テ各該國政府ニ在リテ醫師證書ヲ領收シ外交部ノ證明ヲ經タルモノ
- 四 醫師試驗合格證書ヲ有スルモノ

第四條 左記各號ノ一ニ該當スルモノニハ前條ノ資格ヲ有スルモノト雖モ醫師證書ヲ給與スル事ヲ得ズ

- 一 國民革命ニ因ルニ非ズシテ三箇年以上ノ刑ニ處セラレタルモノ
- 二 禁治產者

地方官署ノ證書ノミヲ有シ未ダ部證ヲ受領セザルモノハ本條例規定ノ第五條ニヨリテ部證ヲ申請スベシ

第八條 本條例施行後現在開業セル醫師ニシテ未ダ部證ヲ受領セザルモノハ該管轄官署之ニ期限ヲ定メテ申請セシムル事ヲ要ス

前項ノ開業醫師命令ニヨリテ部證ヲ申請セシ時ハ證書ノ發給迄ノ間ハ該管轄官署其ノ事情ヲ斟酌シテ醫師業務ノ執行ヲ繼續セシムルコトヲ得

第四章 義務

第十九條 醫師某地ニ於テ開業セント欲スル時ハ須ク證書ヲ當該管轄官署ニ呈示シ登錄ノ申請ヲナスベシ

第十條 醫師ノ開業休業復業或ハ移轉、死亡等ノ場合ニハ十日間以内ニ於テ本人又ハ其ノ關係者之ヲ該管轄官署ニ報告スル事ヲ要ス

第十一條 醫師ハ自ラ診察セズシテ治療或ハ處方ヲ施シ又ハ診斷書ヲ交付スル事ヲ得ズ自ラ屍體ヲ檢察セザルトキ、亦死亡診斷書或ハ死産證明書ヲ交付スル事ヲ得ズ死亡診斷書及死産證明書ノ方式ハ別ニ之ヲ定ム

第十二條 醫師ハ業務執行ニ際シ治療簿ヲ具備シテ患者ノ氏名、年齡、性別、職業、病名、病歴及治療法ヲ記載スベシ

前項ノ治療簿ハ五箇年間保存スル事ヲ要ス

第十三條 醫師ノ處方ニハ左記ノ事項ヲ明記スベシ

一 自己ノ姓名、證書及登錄ノ番號並捺印

二 患者ノ氏名、年齢、藥名、藥量、用法、年月日

第十四條 醫師治療患者ニ藥劑ヲ交付スル時ハ容器ハ包紙

上ニ用法、患者ノ氏名及自己ノ姓名或ハ診察所ヲ逐一明

記スル事ヲ要ス

第十五條 醫師傳染病患者ヲ診斷シ或ハ傳染病患者ノ死體

ヲ檢案シタル時ハ消毒方法ヲ指示シ且當該管轄官署ニ其

ノ旨ヲ報告スベシ

第十六條 醫師屍體及死産兒ヲ檢案スルニ當リ犯罪行為ノ

嫌疑アル事ヲ認ムル時ハ二十四時間以内ニ於テ當該管轄

官署ニ其ノ旨ヲ報告スベシ

第十七條 醫師ハ法令ニ規定スル正當ノ理由アラザレバ診

斷書檢案書或ハ死産證書ノ交付ヲ拒絕スル事ヲ得ズ

第十八條 醫師ハ其ノ業務ニ關シテ虚偽誇張ノ廣告ヲ登載

及撤布スル事ヲ得ズ

第十九條 醫師ハ正當ナル治療ニ關スル外濫リニ阿片モル

ヒネ等ノ毒劇藥品ヲ使用スル事ヲ得ズ

第二十條 醫師ハ審判上公安上及豫防上ノ事件ニ關シテハ

該管法院公安局或ハ行政官署ノ指揮ニ從フベキ義務アリ

第五章 懲戒

第二十一條 醫師ハ業務上不正ノ行為有リ或ハ精神ニ異常

アリテ業務ヲ執行スル能ハザル時ハ當該管轄官署ヨリ其

ノ旨ヲ地方醫師會ニ通知シ其ノ審議ヲ經テ當分ノ間營業

停止ヲ命ズベシ

第二十二條 本條例ノ施行後未ダ部證ヲ受領セザル者又ハ

證書ヲ取消及營業停止處分ヲ受ケタル者ハ業務ヲ執行ス

ル事ヲ得ズ當該行政長官ハ違反者ニ對シ參百元以下ノ罰

金ニ處スベシ

第二十三條 醫師取消ノ處分ヲ受ケタル時ハ三日以内ニ證

書ヲ當該管轄官署ニ返納スル事ヲ要ス營業停止ノ理由及

期間ヲ該證書ノ裏面ニ記載シテ再ビ本人ニ返還スルモノ

トス

第二十四條 醫師本條例ノ規定ニ違反セシ時ハ他ノ法令規

定ノ制裁ヲ受ケル外當該管轄行政官署ハ五十元以下ノ罰

金ニ處ス事ヲ得、業務上ノ過失ニヨリ刑法ニ觸レシ時ハ

法院ニ於テ刑事法規ニヨリ之ヲ處理ス

附則

第二十五條 本條例ハ國民政府ノ裁可ヲ經タル日ヨリ之ヲ

施行ス

管理醫士暫行規則

(民國十一年三月二十一日公布)

第一條 本規則ノ規定ニ依リ內務部ノ許可ヲ經テ醫師開業

免狀ヲ下付セラレタル者ハ總テ醫士ト稱ス

第二條 醫士ノ資格ヲ有スル者ニハ內務部ヨリ醫士開業免

狀ヲ下付スベシ其ノ未ダ許可免狀ノ下付ヲ受ケザル者ハ

醫士ノ業務ヲ營ム事ヲ得ズ

第三條 年齢二十五歲以上ニ達シ左記資格ノ一ヲ有スル者

ニシテ始メテ醫士開業免狀ノ下付ヲ許ス

一 曾テ各該地方警察廳ノ試験ニ合格シ證明書類ヲ得タ

ル者

二 中國ノ醫學校又ハ中國醫術傳習所ニ於テ修業スルコ

ト三年以上ニシテ卒業證書ヲ得タル者

三 曾テ官公立醫院ノ醫院ニ任ズルコト三年以上ニシテ

確ニ成績及證明書類ヲ有シ且免狀ヲ下付セラレタル醫

師又ハ醫士三人以上ノ保證ヲ具備スル者

四 醫術ノ智識經驗ヲ有シ本規則施行前ニ醫術ヲ行フコ

ト五年以上ニシテ確實ナル證明ヲ有シ且免狀ヲ下付セ

ラレタル醫師又ハ醫士三人以上ノ保證ヲ具備スル者

第四條 左記各項ノ一ヲ犯シタル者ニハ醫士開業免狀ヲ下

付スルコトヲ得ズ

一 曾テ三等以上ノ有期徒刑ニ處セラレタル者但シ國事

犯ニシテ既ニ復權シタル者ハ此ノ限りニアラズ

二 公權停止中ノ者

三 聾者、啞者、盲者、精神病者、禁治產者、準禁治產

者

第五條 醫士免狀ノ下付ヲ受ケルニハ免狀下付料十元印紙

稅二元、半身寫真一葉、履歷書一通ヲ具備シ卒業證書資

格證明書類及保證書等ヲ添ヘテ內務部ニ申請シ又ハ該管

轄警察廳所ヲ經由シテ警務處ニ一括報告シ內務部ニ轉請

ヲ申請シテ審査下付ヲ受クベシ

第六條 下付ヲ受ケタル免狀ニシテ若シ毀損紛失等ノ事情

アリ再下付ヲ申請スルトキハ本規則第五條ノ規定ニ從ヒ

テ手数料一元、印紙稅二元ヲ納入シテ內務部ニ申請シ又

ハ該管轄警察廳所ヲ經由シテ警務處ニ轉請ヲ申請シ再下

付ヲ受クベシ

第七條 本規則ノ未ダ公布セラレザル以前ニ既ニ內務部發

行ノ免狀ヲ有シ且第三條第一項各號ノ資格ト符合スル者

ハ其ノ印紙稅二元ヲ納入シテ免狀ノ引換下付ヲ申請スル

コトヲ許シ再免狀下付料ヲ徴收セズ其ノ警察廳ノ登錄ヲ

經テ免狀ヲ有スルモ未ダ內務部發行ノ免狀ヲ有セザル者

ハ原免狀ノ検査ヲ申請シ本規則第五條ノ規定ニ從ヒテ免狀下付料ヲ納入シ内務部發行ノ免狀ノ再下付ヲ受ケタルコトヲ要ス

第八條 本規則ノ公布後現在開業ノ醫士ニシテ未ダ内務部ノ免狀ヲ有セザル者ハ各該管轄警察廳所ニ於テ期限ヲ定メテ下付ヲ申請セシムベシ

第九條 醫士ニシテ某地ニ於テ開業ヲ希望スルトキハ内務部發行ノ免狀ヲ添ヘ各該管轄警察廳所ニ向テ登錄ヲ出願スルコトヲ要ス

第十條 醫士ニシテ若シ開業、廢業、復業又ハ移轉死亡等ノ事項アルトキハ十日以内ニ該管轄警察廳所ニ向テ報告スベシ

第十一條 醫士ニシテ若シ第四條第一項及第三項ノ一ヲ犯シタルトキハ開業免狀ヲ取消スベシ但シ第二項ニ記載スル原因ニシテ右既ニ消滅シ又ハ確ニ改悛ノ情狀アルトキハ本件ノ免狀ヲ下付スルコトヲ得

第十二條 醫士ニシテ其ノ業務ニ關シ若シ不正當ノ行爲アリ若ハ精神ニ異狀アリテ醫業ヲ營ム能ハザルトキハ該管轄官廳ニ於テ免狀ヲ下付セラレタル醫士三人以上ノ證明ヲ提出セシメテ暫ク營業停止又ハ免狀ノ返納ヲ命ズルコトヲ得

現行刑律ニ依リテ處罰ス

第十九條 醫士ハ其ノ業務ニ關シ誇張虛偽ノ廣告ヲ登載又ハ撤布スルコトヲ得ズ

第二十條 醫士ハ公務上ニ關シ該管轄官廳ノ指揮ニ從フベキ義務ヲ有ス

第二十一條 本規則ノ公布後未ダ内務部發行ノ醫士開業免狀ヲ有セザル者及免狀ヲ取消サレタル者及營業ヲ停止セラレタル者ハ總テ擅ニ自ラ醫務ヲ行フコトヲ許サズ違犯者ハ二百元以下ノ罰金ニ處ス

第二十二條 醫士ニシテ取消ノ處分ヲ受ケタルトキハ三日以内ニ免狀ヲ該管轄警察廳所ニ返納シテ抹消ヲ受クベシ停止處分ヲ受ケタルトキハ免狀ヲ該管轄警察廳ニ提出セシメ停止理由及期間ヲ該免狀ノ裏面ニ記載シタル後本人ニ返付受領セシムベシ

第二十三條 醫士ニシテ刑律ニ觸レタルトキハ刑律ノ規定ニ依リ司法機關ニ移送シテ處理セシムヘシ若シ本規則ノ規定ニ違反シタルトキハ該管轄警察廳所ニ於テ輕重ヲ分チ罰金及營業禁止又ハ營業停止ノ處分ヲ爲スコトヲ得

第二十四條 (二字不明)ノ治療ヲ採用スル醫士ニハ醫師規則第十二條第十三條第十四條第十五條第十六條第十七條第十八條第二十一條ノ規定ヲ適用シ本規則第十二條第十

第十三條 醫士ニシテ診斷治療スルトキハ料金ヲ徵スルヤ料金若干ヲ徵スルヤニ付豫メ該管轄警察廳所ニ報告シテ審査ノ用ニ備フベク且官廳所定ノ形式ニ從ヒ自ラ二聯紙(一枚續用紙)ヲ準備シ診療治療ノ際直ニ年月日醫士ノ姓名、年齡、藥名、分量、用法等ノ事項ヲ號ヲ逐ヒテ記入シ自ラ署名捺印シ一葉ハ患者ニ交付シ一葉ハ一括保存シテ審査ノ用ニ備フベシ若シ處方箋符合セズ又ハ治療ニ錯誤アリ該管轄官廳ノ調査ヲ經事實ナルトキハ直ニ輕重ヲ區別シテ相當處分ヲ爲ス

第十四條 往診ノ際ニモ二聯單用紙ヲ携帶シ前條ニ依リテ處理スベシ

第十五條 醫士ハ自ラ診察スルニ非ザレバ治療ヲ施シ又ハ處方箋ヲ認メ若ハ診斷書ヲ交付スルコトヲ得ズ

第十六條 醫士ハ毎月診察治療シタル人数ニ付治療轉治死亡ノ三項ニ分チテ表ニ記載シ一括シテ該管轄警察廳所ニ報告スベク傳染病又ハ疑似傳染病及中毒患者アリタルトキハ直ニ事實ニ基ヅキ該管轄官廳ニ報告スベシ

第十七條 醫士ハ法令ニ規定スル正當ノ理由ナクシテ診斷書ノ作成ヲ拒絕スルコトヲ得ズ

第十八條 醫士ハ依頼、賄賂ニ因リ證書ヲ偽造シ又ハ藥物及其ノ他ノ方法ヲ以テ墮胎セシムルコトヲ得ズ違反者ハ

三條及第十四條ハ之ヲ適用セザルコトヲ得

第二十五條 本規則公布後滿二年ニシテ本規則第三條第一項第一號第二號資格ニ適合セザル者ニハ醫士開業免狀ヲ下付セズ

第二十六條 本規則ハ教育部ヨリ醫師藥劑師試驗規則ノ公布アリタル後ハ別ニ之ヲ修正ス

第二十七條 本規則ハ公布ノ日ヨリ施行ス

取締牙醫章程

(十五年七月公布)

第一條 凡テ鑲牙館ヲ開設セントスル者ハ普通營業規則ニ依ル登錄ノ外本規則ニ準據スベシ

第二條 凡テ鑲牙館ヲ開設セントスル者ハ官署ノ試驗ニ合格セシ者ニ非ザレバ營業スル事ヲ得ズ

第三條 牙醫ハ開業前ニ姓名、年齡、原籍、住所ヲ記シタル願書ニ半身像寫眞ヲ添付シ所轄警察官署ニ提出試驗ヲ受クベシ

第四條 内外國齒科専門學校二年以上課程ノ卒業證書ヲ有スルモノハ當該試驗ヲ免除スルコトヲ得但シ其ノ證書ヲ提出シ該管轄官廳ニ提出シテ始メテ營業ヲナスベシ

第五條 凡テ牙醫ノ免狀ヲ受ケントスル者ハ免狀料二元ヲ免狀引換ニ納付スベシ

- 第六條 本規則施行日ヨリ開業セル鑲牙館モ凡テ本規則第一條第二條第三條、第四條ニ依リ業務ヲ處理スベシ
- 第七條 左記各號ノ一ニ該當スル者ハ開業スル事ヲ得ズ
 - 一 肺病
 - 二 瘡症
 - 三 梅毒
 - 四 其ノ他傳染病性疾患ヲ有スル者
- 第八條 凡ソ齒牙舖及牙者ハ患者本人ノ希望ニ反シテ無理ニ拔牙、入齒ヲ強制スベカラズ
- 第九條 牙醫ハ患者ノ治療ヲナス場合必ズ清潔ナル白衣ヲ着シマスタクヲ附スベシ
- 第十條 牙醫ノ使用スル椅子ハ總テ堅固ニシテ且清潔ナルヲ要シ附近ノ痰壺其ノ他室内ノ痰壺ハ清潔ニ洗滌シ中ニ消毒水ヲ入レ惡臭ノ發散ニ注意スベシ
- 第十一條 牙醫ハ常ニ四角ノ磁器盛二三個ヲ備ヘ百分ノ一リソール水ヲ貯ヘ使用スベキ器具メス等總テ其ノ中ニ浸シ其ノ上ニ椅子製履ヲナシ其ノ他常ニ使用セザル金屬製器具ハ別ニ椅子製履ヲ備ヘ其ノ中ニ置クベシ
- 第十二條 齒ノ治療ニ關スル器具ハ必ズ各一人毎ニ消毒セラルモノヲ用ヒ決シテ汚穢セシモノヲ使用セベカラズ
- 第十三條 凡テ牙醫ハ患者ヲ診療シ含嗽科内服藥塗布藥ヲ

- 投藥スル場合ニハ二聯式處方箋ニ年月日、患者ノ姓名、年齡、藥名、分量、用法、價格ヲ記シ番號ヲ附シ捺印ノ上其ノ一聯ヲ患者ニ交付シ一聯ハ保存スベシ
- 第十四條 牙醫ハ許可ヲ受ケタル館内ニ於テノミ營業ヲ許シ市場或ハ路傍又ハ空地等ニ於テ營業ヲナス事ヲ得ズ
- 第十五條 本規則ニ違反シタル者ハ違警犯ニ依リ處罰シ尙許可證ヲ取上グル事アルベシ
- 第十六條 本規則ハ公布ノ日ヨリ施行ス

獸醫管理章程

(十五年七月公布 奉天各縣警察章程)

- 第一條 凡ソ獸醫營業トハ官廳ヨリ合格者ト認メラレ獸醫免狀ヲ給與サレ看板ヲ掛ケテ獸醫業ヲ行フモノトス
- 第二條 獸醫ノ開業ヲ爲サントスル者ハ取締醫士章程ニ從ヒ年齡、原籍住所並ニ專修學科ヲ記載シタル申請書ヲ該管警察官署ニ提出シテ試驗合格後獸醫免狀ノ供與ヲ受クベシ但シ内外國專問學校ニ於テ獸醫學ヲ專修シ卒業證書ヲ有スル者ハ試驗ヲ免除スル事ヲ得
- 第三條 警察官廳前條ノ試驗ヲ爲ス時ニハ獸醫業者ノ聲明スル學科即チ藥性、馬頭、病症、治法ノ四項ノ命題ニ就キ分チテ試驗ス
- 第四條 凡ソ官廳ヨリ獸醫免狀ヲ受クル者ハ免狀料トシテ

- 二元並ニ半身像寫眞ヲ證書受領ノ時ニ納付スベシ獸醫免狀ヲ遺失シ補給ヲ受クル時亦同ジ
- 第五條 獸醫、獸病ヲ診察治療スルトキニハ各々診察料額ヲ分別ニ該管官廳ニ呈報スベシ又二聯式表簿ヲ備ヘ診察治療ニ當リテ年月日、獸主ノ姓名、獸ノ名稱、口齒、毛色病狀、藥名、分量及用法等ノ事項ヲ番號ヲ附シテ詳細ニ記入シ捺印後一通ヲ獸主ニ渡シ一通ヲ自ラ保存シテ考査ニ供スベシ此ノ二聯式表簿ハ往診ノ時ニモ亦携帯シ前項ニ依リ記入スベシ
- 第六條 獸醫ハ毎月性畜診察數ヲ其ノ種類ヲ區別シ獸主ノ姓名表式ヲ作り該管官署ニ報告スベシ
- 第七條 獸醫ハ性畜ヲ診察治療スル度毎ニ獸病傳染病ノ有無ニ注意スベシ若シ傳染性ノモノアレバ直ニ獸主ニ告知シテ隔離セシメ該管官署ニ報告シテ之ガ豫防ヲ通令スベシ
- 第八條 獸醫ハ一性畜ヲ診察治療スル度毎ニ直ニ治療ノ器械(即灌漑針剪刀圭等ノ器)ヲ消毒シ或ハ酒精ヲ用ヒ或ハ四十分以上ノ煮沸消毒ヲ爲シ然後清潔ニ拭ヒ取ルベシ速用スル事ヲ得ズ
- 第九條 獸醫診察治療スル時ニハ其ノ性畜價值ノ高キヲ以テ多分ノ診察料ヲ取ル事ヲ得ズ

- 第十條 本章程公布以前既ニ獸醫營業ヲ行フ者ハ均シク本章程ノ規定ヲ遵照シテ該管警察官署ニ獸醫免狀ノ下附ヲ願出ズベシ
- 第十一條 獸醫自ラ業務ヲ停止セントスル者ハ獸醫免狀ヲ該管警察官署ニ返納シテ之ガ取消ヲ轉行セシムベシ
- 第十二條 獸醫業者章程ヲ遵行セズ以上各條ノ一ニ違反シタル時ハ即チ違警罰ニ依リ處斷ス
- 第十三條 本章程ハ公布ノ日ヨリ施行ス

助産士條例

(民國十七年六月十九日公布 民國十八年五月廿一日修正)

- 第一條 助産士タラムト欲スルモノハ衛生部ノ許可ヲ經テ助産士證書ヲ受領スル事ヲ要ス
- 許可證書ナクシテ助産業務ヲ行フ事ヲ得ズ本條例ノ施行前ニ於テ開業シタル者ハ六箇月以内ニ證書補給ノ申請ヲナスベシ
- 第二條 滿二十歲以上ノ中華民國女子ニシテ左記資格ノ一ニ該當スル者ハ助産士證書ノ申請ヲ爲ス事ヲ得
 - 一 本部認可本國助産學校產科學校或ハ二ヶ年以上ノ產科講習所ヲ卒業シ證書ヲ有スル者
 - 二 二箇年以上ノ外國助産學校ヲ卒業シ證書ヲ有スル者
 - 三 修業期間二箇年ニ滿タザルモ本條例ノ施行前已ニ二

箇年以上開業シタル者

四 助産士試験ニ合格シタル者

第三條 左記各號ノ一ニ該當スル者ハ助産士證書ヲ給與スル事ヲ得ズ

一 曾テ墮胎罪ヲ犯シタル者

二 五箇年以内ニ曾テ徒刑ノ執行ヲ受ケタル者

三 禁治産者

四 心神喪失者

前記各號ノ事項若シ證書ノ給與後ニ於テ發シ時ハ隨時ニ之ヲ取消スベシ但シ二、三、四各號ノ原因消滅後ニ於テハ再ビ之ヲ給與スル事ヲ得

第四條 助産士證書ヲ申請スル時ハ證書料四元、印紙稅一元、二寸ノ半身寫眞二枚、履歷書二通、卒業證書及其ノ他ノ資格證明書ヲ所在地ノ管轄官署ニ提出シ當該官署ハ民政廳或ハ特別市政府ヲ經由シテ衛生部ニ轉報シ審査處理ヲナスモノトス

第五條 受領セル證書紛失又ハ毀損セル時ハ前條ノ手續ニ從ヒ補給申請ヲ爲ス事ヲ得但シ證書料ハ二元ニ減ズ

第六條 助産士某地ニ於テ開業セントスル時ハ部證及四寸ノ半身寫眞二枚ヲ該管轄官署ニ提出シテ登錄スル事ヲ要ス未ダ登錄セザル前ニ於テハ業務ヲ行フ事ヲ得ズ

休業、復業或ハ移轉死亡セル時ハ十日以内ニ於テ本人又ハ其ノ關係者之ヲ該地方管轄官署ニ報告スル事ヲ要ス

第七條 助産士若シ妊婦、產婦、褥婦或ハ胎兒生兒ニ異常アリト認ムル時ハ其ノ家族ニ通知シ醫師ノ診察ヲ請フベシ自ラ任意ニ處理スル事ヲ得ズ但シ臨時ノ救急處置ハ此ノ限ニ非ラズ

第八條 助産、妊婦、產婦、褥婦或ハ胎兒生兒ニ對シテハ治療或ハ手術等ヲ施ス事ヲ得ズ但シ消毒、灌腸及剪臍スルガ如キハ此ノ限ニ非ズ

第九條 助産士ハ人名簿ヲ備ヘ產婦ノ姓名、年齡、住所、出產次數、生兒ノ性別等ヲ明記シ之ヲ五箇年間保存スベシ

第十條 助産士ハ毎月十日以前ニ於テ前月分ノ助産人數表ヲ當該地方管轄官署ニ報告シ民政廳或ハ特別市政府ヲ經由シテ衛生部ニ轉報セシメテ登錄ス

前項ノ報告形式ハ別ニ之ヲ定ム

第十一條 助産士ハ業務上不正ノ行爲アリ或ハ重大ナル過失ニ因リ刑法ニ觸ルル時ハ刑事ノ處分ヲ受クル外當該地方管轄官署ヨリ證書ノ取消又ハ營業ノ停止ヲ命ズル事ヲ得

第十二條 助産士本條例ノ第三條第二項及第十一條ノ規定ニ依リ證書ノ取消處分ヲ受ケタル時ハ三日以内ニ其ノ證

書ヲ當該地方管轄官署ニ返納スルヲ要ス營業停止ノ處分ヲ受ケタル時ハ證書ヲ該管轄官署ニ提出シ停止理由及期間ヲ裏面ニ記入シテ再ビ之ヲ本人ニ交付シ期間完了後復業セシム

第十三條 未ダ證書ヲ受領セザル者ニシテ助産ヲ業トナシ又ハ取消處分或ハ營業停止ノ處分ヲ受ケタル者ガ依然助産業務ヲ執行スルトキハ當該地方管轄官署ハ壹百元以下ノ罰金ニ處ス

第十四條 本條例ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス若シ未ダ盡キザル事項アルトキハ隨時之ヲ修正ス

助産士考試規則

(民國十八年三月十四日公布
同年五月二十一日修正)

第一條 各地方衛生官署助産士試驗ヲ行フ時ハ須ク本條例ノ規定ニ從フ事ヲ要ス

第二條 滿二十歲以上ノ中華民國女子ニシテ左記資格ノ一ニ該當スル者ハ受験スル事ヲ得
一 產科學校或ハ講習所ニ於テ滿一箇年修業シ證書ヲ有スル者
二 曾テ醫師ニ從ヒ或ハ滿一箇年助産士修業證書ヲ有ス

ル者

三 助産業務ニ滿二箇年從事シ確證ヲ有スル者

第三條 試驗科目左ノ如シ

一 學理試驗

甲 妊娠ノ生理ト病理

乙 正常分娩ト其ノ處置

丙 正當產褥ノ經過ト褥婦及生兒ノ看護法

丁 異常分娩及其ノ處置

戊 產婦、褥婦及生兒ノ疾病

己 消毒方法

二 實地試驗

甲 臨床

乙 模型

第四條 學理試驗ニ合格セシ者ニ非ザレバ實地試驗ヲ受クル事ヲ得ズ

第五條 各科試驗合格者ハ試驗機關ヨリ合格證書ヲ給與ス

第六條 助産士試驗ヲ受ケント欲スル者ハ四寸角ノ半身寫眞一枚、履歷書一部及資格證明書類ヲ當該管轄官署ニ提出スベシ

第七條 試驗場規則ハ試驗官署ニ於テ之ヲ定メ前以テ揭示スルモノトス

第八條 本規則ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

管理接生婆規則

(民國十七年八月三日公布)

第一條 中華民國ノ女子ニシテ醫學校或ハ助產學校ヲ卒業セザル者ニシテ接生ヲ業務トスル者ハ之ヲ總稱シテ接生婆ト謂フ

第二條 接生婆ハ須ク營業地ノ該管轄官署ヨリ證書ヲ受領スル事ヲ要ス證書受領セザル以前ニ於テハ開業スル事ヲ得ズ

本規則ノ施行以前已ニ開業爲ス者ハ六箇月以内ニ證書補給ノ申請ヲ爲スベシ

第三條 接生婆ハ年齢三十歳以上六十歳以下耳目肢體幹及精神狀態共ニ健全ニシテ且ツ傳染病ナキ者ニ限り證書ノ申請ヲ爲ス事ヲ得

第四條 證書ヲ申請セントスル時ハ姓名、年齢、原籍、接生年限、營業所及四寸ノ半身寫眞一枚ヲ添ヘテ申請スベシ但シ寫眞館無キ地方ニ於テハ之ヲ免除スル事ヲ得受領セル證書紛失又ハ毀損セシ場合ニハ補給申請ヲ爲ス事ヲ得

第五條 地方官署ハ臨時助産講習所ヲ設置シ接生婆ニ組ヲ分チテ入所ヲ命ジ左記ノ接生上ノ必要智識ヲ習得セシム

ベシ

- 一 清潔消毒法
- 二 接生法
- 三 臍帶索切法
- 四 初産兒ノ假死ノ蘇生法
- 五 產婦婦ノ看護法

前項ノ補習所ハ醫院或ハ醫學校又ハ助產學校ニ委託スル事ヲ得經費ハ地方稅ノ項下ヨリ支出スベシ

第六條 接生婆講習所講習期間ハ二箇月トス授業ハ文字ヲ識別セザルニ對シテハ特ニ口頭教授ヲ主トスベシ

第七條 講習期間滿了シタル時成績優良ナル者ハ該官地方官署ヨリ證明書ヲ給與シ成績不良ナル者ハ營業證書ヲ取消スモノトス

第八條 接生婆開業、休業、復業或ハ移轉死亡等ノ時八十日以内ニ本人又ハ其ノ關係者該管官署ニ報告スル事ヲ要ス

第九條 接生婆ハ玄關ニ接生某氏ノ看板ヲ掲ゲ醫生或ハ其ノ他ノ名義ヲ使用スル事ヲ得ズ

第十條 接生婆ニ妊婦、產婦、褥婦或ハ胎兒又ハ生兒ニ對シ外科的手術或ハ產科ヲ施ス事ヲ得ズ但シ消毒及剪臍ノ數ハ此ノ限りニ非ス

第十一條 接生婆ハ接生簿ヲ備ヘ產婦ノ氏名、年齢、住所生産次數、生兒ノ性別等ヲ明記シ之ヲ五箇年間保存スル事ヲ要ス

第十二條 接生婆ハ毎月十日以前ニ於テ前月分ノ接生人數ヲ部定ノ様式ニ記載シテ之ヲ該管地方官署ニ報告シ民政廳或ハ特別市政府ヲ經由シテ衛生部ニ轉報シテ登記スルモノトス

第十三條 接生婆本規則ニ違反シ或ハ不正ノ行爲及業務上ノ重大過失ニヨリ刑法ニ違反スル時ハ刑事處分ヲ受クル外該管官署ヨリ證書ヲ取消又ハ營業ノ停止處分ヲ命ズル事ヲ得

第十四條 接生婆ハ本規則第七條及第十三條ニ依リ證書取消ノ處分ヲ受ケタル時ハ三日以内ニ證書ヲ該管官署ニ返納スル事ヲ要ス

營業停止ノ處分ヲ受ケタル時ハ證書ヲ該管官署ニ提出シ證書ノ裏面ニ停止事由及期間ヲ記載シテ再ビ之ヲ本人ニ交付スルモノトス

第十五條 證書ヲ受領セザル者或ハ證書ヲ取消又ハ營業停止ノ處分ヲ受ケタル者依然接生業務ヲ執行スル時ハ該管官署二十元以下ノ罰金ニ處ス

接生證書ヲ他人ニ貸與シテ業務ヲ行ハシムル時ハ其ノ證

書ヲ取消シ二十元以下ノ罰金ニ處ス借用者又同ジ

第十六條 各地方官署ノ接生婆證書發給期限ハ中華民國二十一年十二月三十一日迄トス

第十七條 本規則ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

藥師暫行條例 (民國十八年一月十五日公布)

第一章 總論

第一條 藥師法公布前ニアリテハ藥師ノ認許ハ本條例ノ規定ニ依リ之ヲ行フ

第二條 藥師ノ資格ヲ有スル者ニハ衛生部ニ於テ之ヲ審査シタル後藥師證書ヲ給與ス證書ヲ受領セザル者ハ業務ヲ執行スル事ヲ得ズ藥師ハ醫ノ處方ヲ調劑スル外藥品ノ製造販賣或ハ管理ヲ爲ス事ヲ得

第二章 資格

第三條 滿二十歳以上ニシテ左記資格ノ一ニ該當スル者ハ藥師證書ノ給與ヲ申請スル事ヲ得

- 一 國立又ハ政府ノ認可アル公私立專問學校以上ノ藥科ヲ卒業シ證書ヲ受領セル者
- 二 外國ノ官立又ハ政府ノ認可アル私立專問學校以上ノ藥科ヲ卒業シ證書ヲ有スル者
- 三 外國ノ藥師證書ヲ有スル者

四 藥師試驗ニ合格セル者

第四條 左記各號ノ一ニ該當スル者ハ前條ノ資格ヲ有スル者ト雖モ藥師證書ヲ給與スル事ヲ得ズ

一 國民革命ニ因ルニアラズシテ三箇年以上ノ刑ニ處セラレタル者

二 禁治産者

三 心神喪失者

前項ノ事情若シ證書ノ給與後ニ於テ發生セシ時ハ隨時ニ之ヲ取消ス事ヲ得但シ第二號及第三號ノ原因消滅スル時ハ再ビ之ヲ給與スル事ヲ得

第三章 證書受領手續

第五條 藥師證書ヲ申請セントスル時ハ證書料五元、印紙税二元、二寸ノ半身寫眞二枚、履歷書一通及卒業證書資格證明書類ヲ添付シタル申請書ヲ所在地ノ管轄官署ニ提出シ之ヲ衛生部ニ轉送セシムベシ該部ハ審査後證書ヲ發給スルモノトス

前項ノ轉送順序ハ衛生局アル地方ニ於テハ衛生局ヨリ主管機關ニ衛生局ノ設置ナキ地方ニ於テハ公安局ヨリ主管機關ニ衛生局及公安局共ニ設置ナキ地方ニ於テハ其ノ他ノ行政官署ヨリ之ヲ主管機關ニ送呈シ一定期間ヲ定メテ之ヲ衛生部ニ報告スルモノトス

第六條 已ニ領收セル證書毀損又ハ紛失シテ證書ノ再下付ヲ申請セントスル時ニハ證書補追料二元及印紙税二元ヲ納付スベシ

第七條 本條例ノ施行以前ニ地方官署ニ登録シテ證書ヲ領收セル者ハ本條例第五號ノ規定ニ依リ再ビ部署ヲ受領スベシ

第八條 本條例ノ施行後現在開業セル藥師ニシテ未ダ部證ヲ領收セザル者ニハ該管轄官署ハ期限ヲ定メテ申請セシムベシ

前項ノ藥師命令ニ依リテ部證ヲ申請セル時ハ該證書ノ交付迄ノ間ハ該管轄官署其ノ事情ヲ斟酌シテ臨時ニ證書ヲ給與シテ業務ヲ繼續セシムル事ヲ得

第四章 義務

第九條 醫師某地ニ於テ開業セント欲スル時ハ當該管轄官署ニ證書ヲ呈示シ登錄ノ申請ヲ爲スベシ

第十條 藥師一人ニシテ同時ニ二個所ニ於テ藥房業務ヲ行フ事ヲ得ズ支店設立ノ際ハ別ニ藥師ヲ聘用シテ擔當セシムル事ヲ要ス

第十一條 藥師ハ何時ニテモ故無クシテ處方ノ調劑ヲ拒ム事ヲ得ズ

第十二條 藥師處方箋ヲ受ケタル時ハ處方箋上ノ年月日患

者ノ氏名、年齢、藥名、藥量、用法及醫師ノ署名捺印等ノ各項ニ注意シ若シ疑問ノ點アル時ハ處方醫師ノ糾明ヲ求メタル後初メテ調劑ヲ爲スベシ

第十三條 調劑ノ時ハ必ズ處方箋ヲ嚴守スル事ヲ要ス藥品若シ品切或ハ缺乏スル時ハ處方醫師ニ其ノ旨ヲ通知シテ更改ヲ請フベシ任意ニ省畧シ或ハ他藥ヲ以テ代用スル事アルベカラズ

第十四條 藥師ハ劇藥ヲ含ム處方ニ對シテハ醫師ノ通知アルニ非ザレバ一回ニ限り販賣スルモノトス處方箋ニハ藥師之ニ捺印シ調劑ノ日附ヲ記載シテ三箇年間之ヲ保存スル事ヲ要ス

第十五條 藥房ハ須ク調劑簿ヲ具備シ左記各號ヲ記載スル事ヲ要ス

一 處方箋上ニ記載スル各事項

二 調劑年月日

三 調劑者氏名

四 第十二條及第十三條ニ規定セル醫師ノ糾明及更改ヲ請フベシ

前項ノ調劑簿ハ三箇年間保存スベシ

第十六條 藥師ハ藥劑ノ容器上ニ記各號ノ各事項ヲ明記スル事ヲ要ス

一 處方箋上ニ記載セル患者ノ氏名及藥ノ用法

二 藥房ノ所在地名稱及調劑者ノ氏名

三 調劑年月日

第十七條 藥師ノ開業、休業、復業或ハ移轉死亡等ノ場合ニハ十以內ニ本人又ハ其ノ關係人ノ當該管轄官署ニ報告スル事ヲ要ス

第五章 懲戒

第十八條 藥師業務上不正ノ行爲アル時ハ當該管轄官署其ノ事情ヲ酌定シ一定期間停業ヲ命ズル事ヲ得但シ一箇年ヲ超ユル事ヲ得ズ

業務上刑法ニ觸ルル時ハ刑事法規ニ依リ之ヲ罰スル外藥師ノ證書ヲ取り消スモノトス

第十九條 藥師證書ノ取消處分ヲ受ケタル時ハ三日以內ニ證書ヲ當該管轄官署ニ返納スル事ヲ要ス營業停止ノ處分ヲ受ケタル時ハ當該管轄官署ニ證書ヲ提出シ該官署ハ停業ノ理由及期間ノ裏面ニ記載シテ再ビ本人ニ交付スルモノトス

第二十條 部證ヲ未ダ受領セザル者或ハ證書ノ取消及停業處分ヲ受ケタル者ハ藥師ノ業務ヲ執行スル時ハ該行政官署三百元以下ノ罰金ニ處ス事ヲ得

第二十一條 藥師第四章ノ各條規定ニ違反セシ時ハ該行政

官署五十元以下ノ罰金ニ處ス事ヲ得

附 則

第二十二條 第三條ニ列舉セシ資格ニ該當セザル者ニテモ曾テ病院又ハ藥房ノ調劑業務ヲ三箇年間に以上執務セシモノハ當該管轄官署ノ試験ニ合格セシ時該官署ヨリ之ヲ衛生部ニ轉告シテ藥劑生ノ證書ヲ給與スル事ヲ得本條例ノ施行前行政官署ヨリ業務執行ノ許可ヲ得タル者ハ當該管轄官署ヨリ衛生部ニ轉請シテ藥劑生ノ證書ヲ補給スル事ヲ得

藥劑生證書ノ發給期間ハ本條例施行ノ日ヨリ起算シテ五箇年間ニ限ル

第二十三條 藥劑生ハ醫師ノ處方ヲ調劑スル外自ラ毒劇藥品ノ製造ヲ爲ス事ヲ得ズ及處分ニ依テ配合小賣スル外毒劇藥ヲ小賣スル事ヲ得ズ

本條例ノ藥師ニ關スル規定ハ各別ノ規定ヲ除ク外藥劑生ニ準用ス

第二十四條 醫師ハ自ラ藥品ヲ配合シ治療ノ用ニ供スル事ヲ得藥師ノ證書ヲ申請スルヲ要セズ但シ調劑ノ義務及懲戒ニ關スル事項ハ本條例ノ規定ヲ適用ス

第二十五條 本條例ハ國民政府ノ裁可ヲ經タル日ヨリ之ヲ施行ス

麻醉藥品管理條例

(十八年十一月十一日府令公布)

第一條 麻醉藥品ノ輸入及販賣ハ本條例ニ依リ之ヲ管理ス

第二條 本條例ニ麻醉藥品ト稱スルハ專ラ醫藥用及科學用ニ供スル鴉片、コカイン、ヘロイン及其ノ同類毒性物或ハ其ノ化合物ヲ謂フ

第三條 麻醉藥品ノ輸入及販賣ハ內政衛生兩部ヨリ總經理機關ヲ指定シ責任ヲ負フテ之ヲ辦理ス

第四條 各省或ハ各特別市麻醉藥品ヲ需用スル時ニハ省政府或ハ特別市政府ノ指定藥房ヨリ販賣ヲ受クベシ

第五條 總經理機關外國ヨリ麻醉藥品ヲ輸入スル時ハ順次ニ內政衛生兩部ニ報告シ兩部之ヲ協議シタル後ニ之ニ證明書ヲ發給ス

第六條 前項ノ證明書ニハ種類、數量、用途及購買ノ經過地點等ヲ詳細ニ記載スベシ

第六條 麻醉藥品ノ輸入港トシテ上海ノミヲ指定ス

第七條 販賣機械、總經理機關ヨリ麻醉藥品ヲ購運スル時

ニハ順次ニ省政府或ハ特別市政府ヨリ之ニ證明書ヲ發給ス其ノ證明書ニ記載スベキ事項ハ第五條第二項ノ規定ニ依ルベシ

前項ノ證明書所持人ハ內政、衛生兩部ニ出頭シテ捺印ヲ受クベシ

第八條 各地ノ醫院、醫師、牙醫師、獸醫師或ハ醫學校麻酔藥品ヲ需用スル時ハ書面ヲ以テ其ノ理由ヲ詳述シテ捺印ヲ求メ然ル後販賣機關ヨリ購用スルベシ但シ醫院醫師醫學校ハ毎回購入量五十五瓦、醫師、牙醫師、獸醫師ハ十瓦ヲ超ユルベカラズ

第九條 總經理機關購入麻醉藥品ノ到着シタル時ハ前條ノ制限ニ照シ數量ヲ區別シテ包裝シ且定式ノ封面ヲ以テ封簽シ其ノ面ニ品名、重量、定價等ヲ明記シテ販賣機關ヲシテ調劑スル時以外ハ開封セシメザルヘク嚴封ス

第十條 販賣機關ハ麻醉藥品ヲ販賣スル時包裝或ハ封簽上ニ所定ノ價格ヲ記シ任意ニ價格ヲ變更スル事ヲ得ズ

前項ノ定價ハ總經理機關ヨリ內政衛生兩部ニ提出シ審議シタル後ニ之ヲ定ム

第十一條 內政、衛生兩部及禁煙委員會ハ隨時ニ員ヲ派シテ總經理機關各販賣機關ノ販賣移轉情況及現存品量ヲ検査スルコトヲ得

省市縣政府ハ政府ノ派員ニ從ツテ所屬販賣機關及醫院醫師、牙醫師、獸醫師、藥劑師、醫學校等ノ麻藥販賣使用ノ情況及現存品量ヲ検査セシメ上級機關ニ報告スベシ且一括シテ內政衛生兩部及禁煙委員會ニ轉報スベシ

第十二條 總經理機關、販賣機關及醫院醫師、牙醫師、獸醫師、藥劑師、醫學校等若シ違法不正ノ行為アルトキニハ法ニ依リ嚴罰スベク販賣機關違法行為アル時ハ勅令ニヨリ該藥房ヲシテ停業セシムベシ

第十三條 內政、衛生兩部ヨリ發給ノ證明書ハ五聯式ナリ一聯ハ控トシテ保存シ一聯ハ購買地ノ中國領事署ニ送付シ殘ル三聯ハ購運人ヲシテ持參セシメ運輸入港ノ時一聯ヲ海關ニ交付スル外殘ル二聯ハ麻藥方總經理機關ハ運着スルトキ別々ニ內政、衛生兩部ニ返付スベシ

第十四條 省政府或ハ特別市政府所發ノ證明書ハ五聯式ト爲シ一聯ハ控トシ二聯ヲ內政、衛生兩部ニ寄交シ殘ル二聯ハ購運人ヲシテ持參セシメ藥品ヲ購置スル時一聯ヲ總經理機關ニ他ノ一聯ハ販賣機關ニ藥品運着後該政府機關ニ返還スベシ

第十五條 總經理機關ハ毎月末麻醉藥品ノ運入、賣出及現存數目ヲ表ニ列記シテ內政、衛生兩部ニ報告スベシ

各販賣機關ハ毎月末麻醉藥品ノ賣出及現存數目ヲ表ニ列

記シテ該管轄地方政府ニ報告シ地方政府ハ之ヲ内政、衛生兩部ニ轉報スベシ

各醫院、醫師、牙醫師、獸醫師、藥劑師、醫學校等麻醉藥品ヲ購賣セシトキハ毎月末ニ於テ麻醉藥品ノ購入、賣出使用及現存數目ヲ表ニ列記シテ該管轄地方政府ニ提出スベシ該地方政府ハ之ヲ審核シタル後一括シテ内政、衛生兩部ニ轉報スベシ

第十六條 内政、衛生兩部ハ總經理機關及各販賣機關ノ統計報告表ニ依リ定期ニ表ヲ作り行政院ニ呈報シ且ツ國民政府ニ轉呈シテ審査ニ供シ併セテ禁煙員會ニ通知スベシ

第十七條 證明書、包封、封簽及統計報告ノ格式ハ内政、衛生兩部ノ協議ニヨリ之ヲ定ム

第十八條 本條例ノ施行前ニ於テハ各藥房醫院及醫學校等ニシテ若シ麻醉藥品ヲ所有スルトキハ二箇月以内ニ其品名、數量ヲ省政府或ハ特別市政府ニ呈報スベシ省政府或ハ特別市政ハ之ヲ審核シ更ニ内政、衛生兩部及禁煙委員會ニ轉報スベシ

第十九條 本條例施行以前ニ所發セル麻醉藥品ノ證明書ハ如何ナル機關ノ發給ニカカルト雖モスベテ無効トス

第二十條 職務上ノ試驗公署及製藥公署其ノ職務上麻醉藥品ヲ需用スルトキハ品名及數量ヲ列記シテ内政、衛生兩部ニ呈報スルコトヲ得ズ

第四條 賣藥ヲ調製シ若ハ輸入スル者ハ許可ヲ經テ營業セントスル時ハ營業所在地管轄官署ニ登記ヲ申請スベシ若シ營業所二箇所以上ナル時ハ各其ノ所在地ニ於テ爲スベシ

第五條 本規則ノ施行前既ニ各種ノ賣藥ヲ販賣セシ時ハ施行後六箇月内第二條ニ依ル検査ヲ經テ許可證ヲ受クベシ

第六條 賣藥ヲ調製シ若ハ輸入スルモノハ藥種商ニ限ル其ノ調製スル賣藥ト雖漢方藥ニ非ザル時ハ藥劑師ヲ任用スベシ

第七條 賣藥ハ麻醉藥品ヲ其ノ製劑トスルコトヲ得ズ

第八條 賣藥ニシテ毒劇藥品ヲ其ノ製劑ト爲シ得ルモノハ左ノモノニ限ル

甲 内服

一 本部ノ規定セル毒藥品種目表第一類及劇藥品種目表第二類ノ藥品ハ之ヲ製劑トスル事ヲ得ズ

二 本部ノ規定セル毒藥品種目表第二類及劇藥品種目表第一類ノ藥品ヲ製劑ト爲サムトスル時ハ一日ノ分量ハ各表中列舉セル該當藥品ノ一日ノ最大分量ヲ超ユルコトヲ得ズ

乙 外用

第五編 衛生

部ノ許可ヲ經タル後總經理機關ヨリ購入スベシ

第二十一條 醫藥用及科學用ノ司替尼(ストリキニーネ)ニ關スル取締方法ハ本條例ノ規定ヲ準用ス

管理成藥規則

(民國十九年四月二十六日公布)

第一條 凡ソ二種以上ノ藥品ヲ用ヒテ別名ノモノニ加工配合シ又ハ一種ノ藥品ヲ別名ノモノニ調製シ醫ノ診察ニ依ラズシテ服用ニ供スルモノハ之ヲ賣藥トナス之ヲ調製シ若クハ輸入シ以テ營業用ニ供シ及販賣スル者ハ本規則ノ規定ニ依ルベシ若シ民國在來ノ處方ニ從ヒテ丸散膏丹等ニ調製スルハ之ヲ適用セズ但シ何等ノ處方ニモ依ラズ若ハ新ナル藥劑ヲ製造スル者ハ賣藥トシテ之ヲ論ズ

第二條 賣藥ヲ製造シ若ハ輸入スル者ハ其ノ賣藥ノ名稱、原料、品名、分量、用法、用量效能、容器ノ種類並ニ容量及其ノ效能書、印刷物等各項ハ規定シタル形式ニ詳細ニ記載シ見本ヲ添ヘテ衛生部ヲ經テ許可證ヲ受クルニ非ザレバ營業ヲ爲ス事ヲ得ズ各該事項ニ變更アリタル時亦同ジ

第三條 検査ヲ經テ許可證ヲ下付スル賣藥一種毎ニ證書下劑スルコトヲ得ズ

一 本部頒布セル毒藥品種目表第一類ノ藥品ハ之ヲ配劑スルコトヲ得ズ

二 本部頒布セル毒藥品種目表第二類劇藥品種目表第一、二類ノ藥品ヲ配劑スルトキハ其ノ分量ヲ用ヒルモノ何等毒ヲ受クル事ナキヲ以テ限リトス

第九條 外用ノ賣藥ハ藍色ノ容器ヲ用ヒ外用ナル文字ヲ明記シ若シ毒劇藥品ヲ配合シタル時ハ之ヲモ合セテ明記スベシ

第十條 凡ソ許可ヲ經タル賣藥ハ其ノ成分タル藥品名並ニ其ノ用量及許可番號漢文ヲ以テ容器ノ原紙若ハ被包紙上ニ記載スルニ非ザレバ陳列シテ發賣スルヲ得ズ

第十一條 凡ソ賣藥ノ廣告紙及添付セル包紙ニ左ノ事項ヲ記載スルヲ得ズ

一 猥褻ニ亘ル文字若ハ圖畫

二 避妊又ハ墮胎ヲ暗示スル記事

三 虛偽誇大ノ證明ガ若ハ他人名義ヲ以テ效能ヲ保證シタルモノト世人ヲシテ誤解セシムルノ虞アル記事

四 醫治ノ無効ヲ暗示シ又ハ暗ニ醫師ヲ誹謗スルガ如キ記事

八八七

五 服用分量ノ不適當ナル指示

第十二條 本部ノ下附シタル許可證ヲ以テ其ノ營業ノ適法ナル事ヲ表示シ若ハ中央衛生試驗所ノ試驗シタル成績ヲ以テ其ノ藥品ノ性質效用ヲ表示セント欲スル者ハ許可證若ハ成績報告書ノ原文其ノ儘ヲ謄寫シ得レ共衛生部若ハ試驗所ノ保證等ニ互ルガ如キ文字ヲ用ヒル事ヲ得ズ

第十三條 當該管轄官署ハ何時タリトモ検査員ヲ賣藥ノ調製輸入若ハ販賣スル場所ニ派遣シテ實地検査セシムル事ヲ得

衛生部モ必要アル時直接ニ之ヲ爲ス事ヲ得

第十四條 検査ノ時若シ試驗ノ必要アリト認メタル時其ノ必要分量ノ賣藥若ハ其ノ成分原料ヲ無償ニ受ケ以テ試驗用ニ供スル事ヲ得但シ受取ノ證明書ヲ與フベシ

第十五條 賣藥ヲ製造シ若ハ輸入スル者ハ本規則並ニ本規則ニ基キテ發スルトコロノ命令若クハ處分ニ違反シタルトキハ他ノ法令ニ定メタル罰則アリテソノ罰則ヲ適用スルノ外當該管轄官署ハ其ノ賣藥ヲ廢棄セシメ若ハ其ノ他適切ナル處分ヲ爲ス事ヲ得並ニ衛生部ニ申告シ其ノ許可證ヲ撤回スルヲ得

第十六條 第二條、第五條ニ依リ舊許可證ヲ再申請シ若ハ許可證新ニ申請セスシテ擅ニ營業ヲ爲シ第七條第八條ノ

具ヲ設備シテ醫療ノ用ニ備フルトキハ所要ノ數目ヲ該管轄警察官署ニ報告シ許可證ノ下付ヲ受ケテ始メテ輸入販賣ヲ許ス

第三條 藥用ニシテ阿片モルヒネ、コカイン、アロカイン等ノ藥品ヲ購買シタルトキハ隨時官憲ニ届出デ検査ヲ申請スルノ外並藥品購買ノ證據書類ヲ一括提出シテ審査ヲ申請スルコトヲ要ス

第四條 藥用阿片モルヒネ、コカイン、アロカイン、等ノ藥品ノ販賣ハ官憲ノ届出デ許可ヲ經タル藥商ハ管理藥商規則第十二條第三項ノ規定ヲ遵守シ相互間ニ買賣スルコトヲ得ルヲ除クノ外其ノ他ノ少量ノ販賣ニ在リテハ藥品ニ於テ醫師ノ認メタル處方箋記載ノ分量ヲ授クルコトヲ要シ若シ醫師ノ處方箋ナキトキハ私ニ販賣スルコトヲ得ズ

第五條 藥店ニ於テ外國藥局方ニ依リ阿片モルヒネ、コカイン、アロカインヲ以テ丸藥、散藥、膏藥、丹藥、錠劑、膠藥水藥等ノ藥品ヲ製造スルトキハ既成ノ處方箋ニ記載スル分量ニ依リテ發賣スル事ヲ要シ若シ中國醫師ノ研究ニ係ル處方箋ニシテ自ラ調劑ヲ爲ナ者ハ藥品ニ處方箋ヲ添ヘテ官廳ニ届出デ検査認可ヲ經タル後始メテ販賣スルコトヲ得

第六條 毎月末販賣シタル藥用阿片、モルヒネ、コカイン

規定ニ違反セル時ハ五百元以下ノ罰金ニ處ス

第十七條 第六條第十條第十一條第十二條ノ規定ニ違反シ若クハ第十三條ノ規定セル検査ヲ拒ム者ハ二百元以下ノ罰金ニ處ス

第十八條 第二條所載ノ事項ニ變更アリテ通知セザル時若クハ第四條第九條ノ規定ニ違反シタル時ハ百元以下ノ罰金ニ處ス

第十九條 賣藥營業ニ關シ本規則ノ規定ノ外管理藥商規則ノ規定ニ依ルベシ

賣藥ノ検査員ハ本規定ノ外管理藥商規則第二十八條ノ規定ヲ準用ス

第二十條 本規則ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス若シ不十分ノ點アル時ハ隨時之ヲ修正スルヲ得ベシ

限制藥用鴉片

(民國四年十月十五日發可)

第一條 藥用阿片、モルヒネ及コカイン、アロカイン及其ノ化合物ノ販賣受授ハ管理藥商規則ノ毒劇藥販賣製造ニ關スル各條ノ規定ヲ遵守スル外本章程ヲ遵守シテ處理スベシ

第二條 藥店、賣藥行商、製藥者ニシテ藥用阿片、モルヒネ、コカイン、アロカイン等ノ藥品ヲ販賣シ及各種ノ器

アロカイン等ノ藥品ノ數量ニ付該管轄官署ニ報告シテ衛生ノ職員ノ出張検査ノ用ニ備フルコトヲ要ス

第七條 衛生職員ノ検査ハ藥商ニシテ隨時輸入ノ藥用阿片モルヒネ、コカイン、アロカイン等ノ藥品ノ數量ニ付該管轄官署ニ出頭シテ届出デタルモノハ證書ヲ携帶シテ出張検査ヲ爲ス外其ノ月末ニ販賣數量ヲ報告シタルモノハ翌月ノ初ニ出張検査ス

第八條 藥商ハ衛生職員ノ検査ノ際ニハ執務者ヲ督勵シテ逐一縦覽セシムベシ

第九條 中國人ノ製造シタル阿片、モルヒネ、コカイン、アロカイン及其ノ化合物ハ政府ノ特別許可ヲ經ベク並此等藥品ヲ製造シタル場所地點製造者ノ姓名、年齢詳細ナル履歷ニ付該管轄官署ニ向ケテ規定ニ依リ登録スベシ

第十條 本章程ニ違反スル行爲ニシテ刑律ノ制裁ヲ受クベキモノハ刑律ノ各條ニ依リテ處理スルコトヲ得

第十一條 衛生職員ノ出張検査ニ際シ若シ苛酷亂暴及惡事ヲ爲ス等ノ事情アリテ検査又ハ事實調査ヲ經タルトキハ該管轄官廳ニ於テ法規ニ依リテ懲罰ス

第十二條 本章程第二條第四條第五條ニ違背シタルモノハ百元以下ノ罰金ニ處シ第三條第六條第八條ニ違背シタル者ハ三十元以下ノ罰金ニ處ス

第十三條 本章程ハ裁可ノ日ヨリ施行ス
刑法第二編第十九章鴉片罪

(參 考)

第二百七十一條 鴉片、嗎啡、コカイン、ヘロイン及其ノ他ノ化合物ヲ製造シタル者或ハ其等ヲ販賣或ハ販賣ヲ企ツ爲所持シタル者或ハ輸入及輸出シタル者ハ五年以下ノ有期徒刑ニ處シ竝ニ千元以下ノ罰金ヲ科ス
本條未遂罪ハ之ヲ罰ス

第二百七十二條 鴉片吸食ニ供スル器具ヲ製造シ或ハ販賣或ハ販賣ノ意圖ヲ有シテ所持シタル者或ハ外國ヨリ輸入シ外國ニ輸出シタル者ハ三年以下ノ有期徒刑ニ處ス
本條ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第二百七十三條 營利ノ意圖ヲ有シテ館舍ヲ提供シテ他人ニ鴉片或ハ其ノ他化合物ノ吸食ヲセシメタル者ハ六箇月以上五年以下ノ有期徒刑ニ處シ併セテ五百元以下ノ罰金ヲ科ス
本條ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第二百七十四條 鴉片、嗎啡及コカインノ製造ニ供スル爲ニ罌粟或ハコカインノ種子ヲ播種シタル者ハ三年以下ノ有期徒刑ニ處シ併セテ三千元以下ノ罰金ヲ科ス事ヲ得
鴉片、嗎啡、或ハコカインノ製造ニ供スル爲罌粟コカイン

ノ種子ヲ販賣シタル者ハ一年以下ノ有期徒刑或ハ三千元以下ノ罰金ニ處ス

第二百七十五條 鴉片ヲ吸食シ或ハ嗎啡ヲ注射シ或ハコカインヘロイン及其ノ他ノ化合物ヲ使用シタル者ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス
本條ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第二百七十六條 他人ニ嗎啡注射ヲ施シタル者ハ二年以下ノ有期徒刑ニ處シ併セテ五百元以下ノ罰金ヲ科ス事ヲ得
本條ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第二百七十七條 本章各罪ニ共犯スル爲鴉片、嗎啡、コカインヘロイン及其ノ他ノ化合物ヲ所持シ或ハ鴉片吸食ノ器具ヲ供シタル者ハ五百元以下ノ罰金ニ處ス
前項ノ鴉片、嗎啡、コカイン、ヘロイン及其ノ他ノ化合物或ハ鴉片吸食ニ供スル器具ハ犯人ノ所有タルト否トヲ問ハズ總テ之ヲ沒收ス

管理藥商規則

(十八年八月二十四日公布)

第一條 藥品營業者ヲ藥商ト謂ヒ普通營業ニ關スル各種ノ規定ヲ遵守スルノ外本規則ノ規定ニ從ツテ處理ス

第二條 本規則ニ於テ藥商ト稱スルハ漢藥及西洋藥品ヲ卸賣小賣シ及製造シ調劑スルモノヲ謂フ但シ街頭露店賣藥

者ハ之ノ限ニ非ズ街頭露天賣藥管理規則ハ各省市衛生官署之ヲ制定シ衛生部ニ呈出シ許可ヲ受クベシ

第三條 藥商タラムトスルモノハ左記ノ事項ヲ具シ當該管轄衛生官署ニ願出デ營業許可證ヲ受クベシ

- 一 商號ハ(公司ニアリテハ公司名稱)竝ニ所在地
- 二 藥業姓名(公司ニアリテハ其ノ代表者姓名)年齢、本籍及住所
- 三 營業種類(漢藥或ハ洋藥卸賣小賣製藥調劑ノ專營業兼營業別)
- 四 資本金額

漢藥商ハ洋藥品ヲ販賣スル事ヲ得ズ
但シ外國産ノモノト雖モ漢藥トシテ使用セラレルモノハ之ノ限リニアラズ

第四條 藥商營業許可證ヲ請求スル時ハ手数料銀貳元ヲ納ムベシ竝ニ規定ノ印紙ヲ貼用スベシ
本規則公布前ニ既ニ營業許可證ヲ受ケタル者ハ本規則到達後一箇月以内ニ舊許可證ヲ提出シテ手数料壹元ヲ納メテ新許可證ノ引換下付ヲ申請スベシ其ノ未ダ許可證ノ下付ヲ受ケザル者同一期間内ニ新許可證ノ下付ヲ申請スベシ

第五條 藥商業ノ店員ハ藥性ヲ熟知シ、西洋藥業者ハ須ク

衛生部ノ免許證ヲ所有セル藥師藥品ヲ管理スベシ
但シ麻酔藥及其ノ他毒劇藥ヲ販賣セザル西洋藥商ハ衛生部ノ免許證ヲ所有セル藥劑生管理スルモ支障ナキモノトス

末成年者及禁治産者ハ藥品ヲ管理スルコトヲ得ズ
第六條 西藥商麻酔藥及毒劇藥ヲ購入スルトキハ品名及分量ヲ詳細ニ記簿シ當管轄官署ノ檢査ニ備フベシ
麻酔藥及毒劇各藥品ハ其ノ他ノ種類ノ藥品ト各別ニ貯藏封緘ナシ封面ニ品名ヲ明記シテ不慮ノ災ヲ防グベシ

第七條 麻酔藥及毒劇藥ニ關スル處方箋ハ醫師ノ署名捺印アルニ非ザレバ發賣スル事ヲ得ズ當該藥師ハ藥師暫行條例第十四條ノ規定ニ依リ辦理スベシ
醫師捺印ノ處方箋ヲ所持スト雖モ年齢幼稚ナルモノ或ハ形跡疑ハシキモノニハ發賣スル事ヲ得ズ其ノ同業者及醫師ガ業務上又ハ學術機關ガ科學上或ハ職司試驗ノ爲メ及製藥公署ガ其ノ業務上用フル爲ニナストキニハ購者ノ氏名、職業、住所、及購量數ヲ帳簿ニ詳録シ竝ニ購者ノ親筆署名捺印ノ原紙ヲトリテ三年間之ヲ保存シ以テ考査ニ備フベシ

第八條 各公署職務上醫療ノ用ニ供スル爲メ麻酔藥及毒劇藥ヲ購買スル場合ハ前條第三項後半ノ規定ヲ遵守スル外

負責醫務人員ノ署名捺印書ヲ取ルベシ

第九條 製藥者ハ毎月其ノ所製各毒劇藥ノ數量ヲ當該管轄官署ニ届出ズベシ但シ麻醉藥品ハ製造藥品條例發布以前ニハ暫ク之ヲ製造ヲ禁止ス

第十條 漢藥商有毒劇性ノ漢藥ヲ賣買スル場合ニハ第六條ノ規定ヲ準用ス

第十一條 麻醉藥及毒藥劇藥ノ品目ハ衛生部令ヲ以テ之ヲ定ム

第十二條 各種藥品ハ適宜ノ方法ニテ貯藏ナスベシ變質或ハ藥性已ニ消失スル場合ニハ販賣ヲ禁ズ

第十三條 藥商ニシテ發賣或ハ製造ヲ專問ニ爲ス者ハ人ヲシテ處方調劑ニ從事セシムル事ヲ得ズ

第十四條 藥商處方箋ヲ接受シテ調劑スル時ハ藥名、分量用法、年月日、病人、姓名、年齡、性別、及醫師或ハ漢醫士ノ姓名別稱等ニ均シク注意シ若シ疑フベキ點アラバ處方醫師或ハ漢醫士ノ證明ヲ取リテ調劑爲ス事ヲ得處方中ノ藥品缺乏ナストキハ即時ニ其ノ旨購用人ニ告ゲ任意ニ辭退ナシ或ハ他藥ニテ代用爲スヲ得

第十五條 藥劑ヲ配發爲ス時ハ漢藥商ハ包紙上ニ藥品名、藥性ヲ詳記シ西藥商ハ、内用、外用、用法、用量、年月日、服用者ノ姓名ヲ各項分別ニ容器ノ貼紙上或ハ包紙ノ

查ヲ拒ム事ヲ得ズ

檢査規則ハ各省市衛生機關ニ於テ之ヲ制定シ衛生部ノ認可ヲ受クベシ

第二十條 藥品檢査員ノ檢査ニ依リ衛生ニ有害ナリト認め或ハ風俗ヲ害シ或ハ虚偽ノモノナリト認めタル場合ハ當該管轄官署ハ其ノ製造販賣或ハ貯藏ヲ禁止シ或ハ該藥品ヲ銷毀(廢棄)スル事ヲ得

第二十一條 藥師ニシテ自ラ藥商ヲ營ミ醫師漢醫士ニシテ藥商業ヲ兼營スル者ハ藥商營業許可證ヲ請求シ本規則ノ各規定ヲ遵守スベシ

第二十二條 藥商左ノ各號ノ一ニ該當セシ者ハ參百元以下ノ罰金ニ處ス

一 藥商營業許可證ヲ獲得セズシテ藥商業ヲ營ム者
二 漢藥商ニシテ藥性ノ智識ナキ店員ヲ雇用セル者西藥商ニシテ藥師或ハ藥劑生ヲ雇用セザル者或ハ未ダ衛生部免許證ヲ獲得セザル藥劑師或ハ藥劑生ヲ雇用シタル者

三 管轄官署ノ派員ノ檢査ニ服セザル者

四 藥品ノ容器或ハ包紙上錯誤或ハ虚偽ノ事項ヲ記載セシ者

五 第二條、第二項第六條第一項第七條第八條、第十六

裏面ニ註明スベシ

藥商ニシテ發賣或ハ製造ヲ專問ト爲ス者ヲ除ク外何時タリトモ故ナリ處方ノ調劑方ヲ拒ム事ヲ得ズ

第十六條 中華民國藥典ニ記載スル藥品ハ其ノ性状、品質製法ハ藥典ノ規定ニ適合スルニ非ザレバ藥商ハ該藥ノ製造販賣或ハ貯藏ヲ爲スヲ得ズ

中華民國藥典ニ記載セザル各藥品ハ其ノ依據スベキ外國藥典ノ規定ヲ標準ト爲スベシ

中華民國ノ藥典ノ頒布以前ニアリテハ第一項ノ規定ハ暫行的ニ各藥品ノ依據スベキ外國藥典ノ規定ヲ標準ト爲スベシ

第十七條 中外藥典ニ記載セザル新發明藥品ハ豫メ其ノ藥品ノ性状、品質、製法ノ要旨ヲ具シ見本ヲ附シテ衛生部ノ檢査ヲ呈請セル後ニアラザレバ製造販賣或ハ輸入ヲナス事ヲ得ズ

第十八條 凡ソ藥品ニハ名稱、用量、藥性ヲ某國藥典ニ依ル旨漢文ニテ容器或ハ包紙上ニ註明スベシ但シ各該國文字ヲ以テ併記スル事ヲ得

第十九條 地方衛生官署ハ隨時員ヲ派シテ藥商ノ藥品及帳簿ヲ檢査ス

該藥商ハ逐一檢査ノ案内ヲナスベシ故無ク或ハ故意ニ檢

條第十七條ノ規定ニ違反セシ者

六 第二十條ノ前半段ノ規定ニ違反シ未ダ犯罪ノ程度ニ達セザル者

第二十三條 第四條第二項前半段第五條第二項第六條第二項、第十三條ノ規定ニ違反スル者ハ百元以下ノ罰金ニ處ス

第二十四條 第十二條第十四條第一項、第十五條第二項ノ規定ニ違反スル者ハ五十元以下ノ罰金ニ處ス

第二十五條 一時ニ二箇條以上ノ規定ニ違反セル者ハ併罰スルコトヲ得

第二十六條 犯罪刑事範圍ニ及ブ時ハ刑事法規ノ規定ニ依リ處理シ營業許可證ヲ取消スベシ

第二十七條 營業者未成年或ハ禁治產者ナル時ハ本規則所定ノ罰則ノ適用ハ其ノ法定代理人ニ適用ス

但シ未成年者ト雖モ業務行爲ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル者ハ之ノ限ニアラズ

代理人雇人其ノ他ノ從業者ニシテ業務上本規則所定ノ罰則ヲ犯シタルトキハ藥商本人其ノ責ヲ負フ營業者法人ナルトキハ法人ノ代表者其ノ責ヲ負フ

第二十八條 衛生檢査員藥品及帳簿ヲ檢査スルトキ不正行爲或ハ賄賂ノ請求收受ノ行爲アラバ刑法瀆職罰ニテ處斷

第二十九條 本規則ハ公布ノ日ヨリ施行ス若シ未ダ盡キザル個所アラバ隨時之ヲ修正ス

管理醫院規則

(十八年四月十六日公布)

- 第一條 凡ソ治療ノ目的ヲ以テ病床ヲ設置シ患者ヲ收容スルモノハ之ヲ醫院ト稱シ本規則ノ規定ニ依リ之ヲ管理ス
第二條 醫院ヲ經營セントスル者ハ左ノ事項ヲ記載シ之ヲ該管轄官署ニ報告シ許可ヲ經タル後開業スル事ヲ得
一 經營者氏名、年齢、原籍及住所
二 醫院ノ名稱、位置
三 醫院ノ規則明細
四 建築物ノ略圖
五 病室ノ間數及各室ノ占ムル面積
六 病室ノ區別及病床數
七 火災及其他ノ非常設備
第三條 前條各號ノ内容ヲ若シ變更スル時ハ即時該管轄官署ニ報告シテ其ノ許可ヲ受クベシ
第四條 醫院ハ使用セントスル醫師、藥師及助手並ニ看護士ノ姓名、年齢、原籍、資格證書ヲ當該官轄官署ニ報告ス

スベシ其ノ人員ニ變更アル時亦同ジ

- 第五條 醫院ハ少クトモ合格醫師二名、藥師或ハ藥劑生一名ヲ置キ非診療時ニ於テモ當直醫員一名ヲ置クベシ
第六條 當該官轄官署ハ醫院ノ建築物ニ對シ危險豫防或ハ衛生上必要ナリト認ムルトキハ修繕或ハ使用停止及其ノ他ノ必要ナル處分ヲ命ズル事ヲ得
第七條 醫院ノ移轉或ハ休業等ノ場合ハ即時該官轄官署ニ報告スベシ
第八條 醫院ノ使用セル診察簿及入院簿ニハ患者ノ氏名、年齢、性別、職業及住所ヲ詳細ニ記入スル事ヲ要ス
第九條 醫院ハ其ノ療法及經歷ニ就キ虚偽及誇張ノ廣告ヲ爲スヲ得ズ其ノ從事セル醫院ハ學位、稱號及專門科名ノ外其ノ他ノ廣告ヲ爲ス事ヲ得ズ
第十條 各醫院ハ隔離、傳染病室ヲ設置スルニ非ザレバ急性傳染病患者ヲ收容スル事ヲ得ズ又傳染病患者ハ同一病室ノ患者ニ非ザレバ同一室ニ收容スル事ヲ得ズ
第十一條 傳染病室ニハ傳染病患者専用ノ什器、夜具、便器及醫藥器具ヲ備フル事ヲ要ス
第十二條 傳染病患者ノ使用セル什器夜具排泄物及殘餘飲食物並ニ其ノ他病毒ノ汚染物或ハ汚染物ノ疑アル物品ハ適當ノ消毒法ヲ行フ事ヲ要ス

第十三條 傳染病室内ノ物品ハ消毒施行ノ爲持チ出ス外適當ノ消毒ヲ加ヘタル後ニ非ザレバ他所ニ移ス事ヲ得ズ

第十四條 傳染病室ノ汚水及排泄物等ハ適當ノ消毒ヲ加ヘザル限リハ位置ヲ換ヘ或ハ他所ヘ排出スル事ヲ得ズ

第十五條 傳染病患者ノ退室後室内ニハ適當ノ消毒方法ヲ施スベシ

第十六條 醫院ニ傳染病患者ヲ收容シタル時ハ病名診斷後四十八時間以内ニ該患者ノ氏名、年齢、住所、發病地點發病年月日、及診定年月日ヲ當該管轄官署及檢疫委員ニ報告スルコトヲ要ス但シ「ペスト」及「コレラ」ニアリテハ病名ノ未ダ診定セザル疑似患者ニテモ直ニ又報告スルコトヲ要ス

第十七條 各醫院ノ治療患者數ハ每年上下兩期ニ分チ上期ハ七月十五日以前下期ハ翌年ノ一月十五日以前ニ左記ノ表式ニヨリ之ヲ該管轄官署ニ報告スル事ヲ要ス

前項ノ患者死亡或ハ治癒及其ノ他ノ事故ニ依リ退院スル時ハ姓名、退院事由及年月日ヲ速カニ該管轄官署及檢疫委員ニ報告スル事ヲ要ス

第十八條 醫院ハ治療上大手術ヲ必要トスル時ハ患者及其ノ關係者ノ同意ヲ求メ署名捺印セシメタル後初メテ旅行スル事ヲ得但シ未成年患者或ハ患者ノ意識不明ノ時ハ患者ノ同意ヲ要セズ患者ニ關係者無キ時ハ關係者ノ同意ヲ要セズ

第十九條 醫院屍體ヲ解剖スル時ハ解剖屍體規定ニ從ヒ之ヲ行フ事ヲ要ス

第二十條 當該管轄官署ハ隨時ニ検査員ヲ派遣シテ各醫院ヲ検査スル事ヲ得

某醫院治療病人表 六月一日起至(七月一日起至)六月三十日止(十二月三十一日止)

Table with columns for sex (male/female), admission status (admitted, discharged, died, etc.), and dates. Includes a header for '事別' and '性別'.

某省某地 某醫院院長 某具

第二十一條 醫院ハ當該管轄官署ノ許可ヲ經テ助産士及看護士學校ヲ附設スル事ヲ得

第二十二條 醫院ハ政府ノ委託ニ依リ公共衛生ニ關スル事項ヲ協助辦理スル事ヲ得

第二十三條 第二條第十條第十八條及第十九條ノ規定ニ違反セシ者ハ參百元以下ノ罰金ニ處ス第六條ノ命令ヲ遵守セザル者亦同ジ

第二十四條 第九條、第十一條、第十五條、第十六條第一項ノ規定ニ違反セシ者ハ五十元以下ノ罰金ニ處ス

第二十五條 第三條第四條、第七條、第十六條第二項及第十七條ノ規定ニ違反セシ者ハ二十元以下ノ罰金ニ處ス

第二十六條 醫院經營者ノ代理人雇人或其ノ他ノ從業者業務上本規則ニ違反スル行爲アル時ハ經營者其ノ責ヲ負フ

當業者ガ法人ナル時ハ法人ノ代表者其ノ責ヲ負フ

第二十七條 本規則ノ施行以前ニ已ニ成立セル醫院ハ三箇月以内ニ本規則第二條ノ規定ニ從ツテ報告スル事ヲ要ス期限經過後尙報告セザル時ハ該管轄官署ヨリ營業停止ヲ命ズ

第二十八條 本規則ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第七條 公醫ハ毎月取扱ヒタル左記事項ヲ翌月五日迄ニ監督官廳ニ報告スベシ但シ緊急ヲ要スルモノハ隨時即報スベシ

一 第四條各號ニ掲ゲタル事項

二 開業醫トシテ診療シタル患者ノ病類別

第八條 公醫ニハ手當ヲ給ス

公醫出張ヲ命ゼラレタルトキハ旅費ヲ給ス

手當及旅費ノ金額及其ノ支給方法ハ別ニ之ヲ定ム

第九條 公醫ニハ品目員數ヲ限リ治療用機械器具ヲ貸與ス

前項ノ機械器具ニシテ紛失シタルモノハ之ヲ辨償セシム

第十條 公醫ハ前條貸與品ノ外普通治療機械器具及藥品ヲ常備スベシ

第十一條 公醫ハ所定ノ施療券ヲ携行シタル者ニ對シテ施療ヲナスベシ

第十二條 公醫及其ノ家族ハ藥商其ノ他ノ營業ヲ爲スコトヲ得ズ

第十三條 公醫ハ診察料、手術料、藥價等ヲ定メ所轄省長ヲ經由シテ民政部總長ノ認可ヲ受クベシ之ヲ變更セムトスルトキ亦ジ

附 則

第十四條 本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

公醫規則

(民政部令第四號) 大同三年一月三十一日

第一條 各縣ニ公醫ヲ置ク

公醫ハ其ノ職務ニ關シテハ囑託員ノ待遇トス

第二條 公醫配置ノ場所及受持區域ハ民政部總長別ニ之ヲ定ム

第三條 公醫ハ配置セラレタル地ニ居住シ醫業ヲ營ムコトヲ要ス

第四條 公醫ハ主管官廳ノ指揮ヲ承ケ左ノ事務ニ従事ス

一 傳染病ノ豫防

二 地方病ノ調査

三 痘痘

四 學校衛生

五 検屍檢證

六 行旅病者及貧民患者ノ施療

七 衛生及醫事統計ニ關スル事項

八 前各號ノ外特ニ命ゼラレタル事項

第五條 公醫常ニ受持區域内ニ於ケル衛生及醫事ニ關シテ察研究シ關係官廳及監督官廳ニ報告スベシ

第六條 公醫ハ非常事變ニ因リ人命救助ヲ要スルトキハ速ニ現場ニ出張シ其ノ救護ニ従事スベシ

公醫配置地點

(大同三年二月三日) 民政部訓令第九四號

奉吉黑熱各省公署ニ令ス

各省ニ於ケル公醫配置ノ地點ハ既ニ本部ニテ夫夫決定シ別表ニ記載スル如シ惟隣接各縣ヲシテ普ク公醫ノ利益ヲ受ケサシメント欲セバ宜シク地方ノ情況ヲ考察斟酌シ明瞭ニ劃分ヲナシ以テ適宜ナルヲ期シ而テ進行ニ利スベシ茲ニ公醫配置表ヲ同封令達スルニ付貴署ハ管内ノ各公醫擔任區域ニ付酌量區劃ノ上具報シ以テ審査決定ニ資スベシ此ニ令ス

公醫配置表

省公署名	配置數	配置ノ縣名
奉天省	七	突泉 開通 桓仁 臨江 岫巖 台安 綏中
吉林省	六	扶餘 延壽 延吉 依蘭 富錦 穆稜
黑龍江省	六	嫩江 木蘭 肇州 慶城 安達 拜泉
熱河省	四	圍場 朝陽 赤峰 凌源

公醫隸屬程序

(民政部訓令第一七四號(衛八四三號)
康德元年四月十八日)

- 一 公醫ノ監督配置縣(診療所所在ノ縣)ノ縣長ハ監督ヲナスベシ但シ配置縣以外ニ於テ其ノ他縣長(擔當區域内)ハ公醫ヲシテ管内醫療ニ從事セシムル場合ニハ配置縣長ノ同意ヲ要ス此ノ時公醫ハ該縣長ノ指揮ヲ受クベシ
- 二 公醫ノ藥價診察費一般藥價及ビ診察費竝ニ施療藥價及ビ診察費ヲ指シテ謂フモノニシテ附表ニ示ス如ク之ヲ以テ參考標準トス實際實行スル時ニハ監督官廳ヲ經テ本部ノ認可ヲ受クベシ
- 三 施療費省長ハ擔當區域内ノ區域ニ施療費ヲ分配シ縣長ニ通告ス各縣長ハ其ノ範圍内ニ於テ縣ヨリ施療券ヲ發行シ醫療ノ力ナキ貧困者ニ交附シ公醫ノ診療ヲ受ケサスベシ公醫ハ此ノ施療卷ニ基キ施療費ヲ請求スル事ヲ得
- 四 公醫ノ報告、公醫ノ職警執行ニ關スル全テノ報告ハ附表ノ様式ヲ遵守シ所定期間内ニ於テ配置縣ヲ經テ報告シ更ニ本部ニ轉報スベシ

公醫收價標準案

- 一 診察科
 - 外來診察科 參拾錢有効期間一箇月
 - 往診科 同一市街地毎回五拾錢以内
 - 村落ハ三(滿)里以内壹元以内
 - 一(滿)里ヲ増ス毎ニ貳拾錢ヲ加フ車馬賃ハ實費ヲ徵收ス
- 二 藥價科
 - 內服藥 一日分 大人貳拾錢以内
子供五錢以内
 - 頓服藥 一劑 大人拾錢以内
子供五錢以内
 - 外用藥 一劑 拾錢以内
 - (イ)本號ノ藥品ニシテ特ニ高價ノモノヲ使用シタル場合其ノ實費ヲ徵收ス
 - (ロ)外用藥ハ吸入劑、含嗽劑、塗布劑、灌腸劑ハ三〇〇瓦迄ヲ一劑トシ塗布劑、撒布劑、軟膏劑、點眼劑及塗布劑一〇瓦迄ヲ一劑トシ坐藥ハ貳個ヲ一劑トシ硬膏ハ十平方寸ヲ一劑トシ絆創膏ハ五平方寸ヲ一劑トス

三 手術料

- 甲 貳元以上五元以内
 - 乙 五拾錢以上貳元以内
- 本號ノ手術ニシテ特ニ多量ノ治療材料ヲ要シタル場合ハ其ノ實費ヲ徵收ス

四 處置料

- 注 射 一回 參拾錢以上五元以内
 - 繃帶交換 一回 拾錢以上壹元以内
 - 種痘 一回 貳等錢
 - 助産 一回 貳圓以上五元以内
 - 理化學的療法 一回 貳拾錢以上壹元以内
 - 其ノ他ノ處置 一回 拾錢以上壹元以内
- 本號ノ處置ニシテ特ニ多量ノ材料ヲ使用シタル場合ハ其ノ實費ヲ徵收ス

五 入院料

- 一日 壹元以上貳元以内但シ食費ヲ含ム
- 入院患者ニ對シ手術助産又ハ理化學療法ヲ施シタル場合ハ其ノ所定ノ料金ヲ其ノ他血清等ノ注射又ハ特別ノ治療ヲ施シタル場合ハ各其ノ實費ヲ本號ノ入院料ノ外別ニコレヲ徵收ス

六 諸證書料

第五編 衛生

診斷書

法令ニ基キ又ハ保險ニ關スル等ノ診斷書 貳元以内

- 死亡書又ハ策定書 壹元以上參元以内
- 鑑定書其ノ他ノ證書 壹元以内
- 處方箋 參拾錢以内
- 一 前號以外ノ冷水水囊、脫脂綿、油紙、繃帶等ノ如キ治療材料及藥瓶等ノ如キ雜品ハ其ノ實費ヲ徵收ス
- 一 施療患者ノ收價ハ總テ前號價格ノ三割減トス
- 一 各號ノ料金ハ國幣建トス以上

解剖屍體規則

(十七年六月十五日公布)

- 第一條 大學院ニ依ル設立或ハ認可ノ專門醫學校及地方行政官署ニ依リ認メラレタル組織完備セル地方醫院ハ學術ノ研究上必要ナルトキニハ本規則ノ規定ニ依リ屍體ノ解剖ヲ執行スル事ヲ得
- 第二條 解剖ニ附スベキ屍體ハ左ノ各號ニ限ル
 - 一 病源ヲ研究スル爲患部ノ病屍體ヲ剖視スルトキ
 - 二 解剖ニ依ラザレバ致命ノ理由ヲ確實ニ知ル事ヲ得ザル病屍體
- 三 學術研究ニ供セム爲解剖スルコトヲ依囑サレタル屍

體

- 四 收領人ナキ刑屍體及監獄中ノ病屍體或ハ變死體
- 第三條 前條第一號及第三號ノ屍體ヲ解剖スルトキハ其ノ親族ノ同意竝ニ地方行政官署ノ許可ヲ受クベシ
- 地方官署ハ前項ノ申請ニ對シ二十四時間内ニ處理スベシ
- 第四條 第二條第二號ノ屍體ヲ該管官署解剖ニ付セムトスルトキニハ該官署票證ヲ發給スベシ親族ヨリ屍體ヲ解剖ニ付スベク申請アリタル時ハ前條ノ手續ニ依ルベシ
- 第五條 第二條第四號ノ屍體ニ關シテ司法官署ヨリ解剖ヲ命ジ及醫學校或ハ病院ヨリ解剖ヲ申請スル時ニハ該司法官署ハ解剖ノ票證ヲ與フベシ
- 第六條 官署所發給ノ票證ニハ屍體ノ其ノ數及其ノ姓名、年齡、原籍、性別等ヲ記載シ竝ニ印章ヲ捺記スベシ
- 第七條 親族或ハ醫學校、病院地方行政官署ニ解剖許可ヲ申請スル時ハ屍體ノ姓名、年齡、原籍、性別及病死或ハ變死ノ情狀等ヲ分別ニ明記スベク竝ニ左記各項ヲ呈出シ檢査ヲ受クベシ
 - 一 醫師ノ診斷書
 - 二 遺族有ル者ハ其ノ遺族
 - 三 親族ノ同意證明書
- 第八條 解剖死體ハ第二條第一號及第三號所載ノ外ハ該親

- 族ノ同意アルニ非ザレバ標本トシテ保留スルヲ得ズ其ノ他第三條第四號所載ノ屍體ハ醫學上必要ト認ムル時ハ該屍體ノ數部或ハ一部ヲ標本トシテ保留スル事ヲ得但シ原司法官署ノ備案ニ付シ呈報スベシ
- 第九條 解剖屍體ハ標本トシテ屍體ノ一部或ハ數部ヲ保留スル外ハ他ノ部分ヲ縫合スベシ縫合不可能ノ部分ハ集合裝置ヲ施行シ埋葬ニ便スベシ
- 第十條 前條ノ縫合及裝置セル屍體ハ親族有ル者ニハ其ノ親族ニ返還シテ埋葬セシメ親族無キ屍體ハ解剖執行ノ醫學校或ハ醫院之ヲ埋葬スベシ其ノ埋葬地ハ六尺以下ノ深サニ埋葬シテ標識ヲ付スベシ傳染病ニ係ル屍體ハ附近ノ地方設有ノ火葬場ニテ火葬スベシ但シ遺灰ニ埋葬ナシ標識ニ付スベシ
- 第十一條 解剖執行醫學校或ハ病院ハ解剖登記簿ヲ備ヘ左記各事項ヲ記載スベシ
 - 一 屍體前ノ姓名、年齡、原籍及性別
 - 二 親族ノ有無或ハ親族ノ同意アル時ハ其ノ親族ノ姓名、年齡、原籍、住所及職業
 - 三 交付官署名或ハ呈請氏名
 - 四 交付或ハ許可年月日
 - 五 解剖執行ノ年月日

- 六 解剖情形及所得醫學上ノ效用
- 七 標本留作部分ノ有無
- 八 縫合或ハ裝置及埋葬情況及埋葬地點
- 第十二條 解剖執行ノ醫學校病院ハ毎年未ニ解剖記録簿ニ照シテ詳細ナル冊彙ヲ作成シテ該管地方行政官署ニ呈報スベシ
- 該官署ハ之ヲ衛生部ニ轉報シ查閱ヲ請ヒ備案ニ供スベシ
- 司法官署ヨリ屍體解剖執行許可證ヲ發給シタル時ニハ該醫學校及醫院ハ毎月末原解剖許可證ヲ同封シ當該地方行政官署ニ呈報シテ備案ニ供スベシ
- 第十三條 本規則ハ公布ノ日ヨリ施行ス若シ未ダ盡キザル事項アレバ隨時之ヲ修正ス

凍死者其ノ他ノ處理協議事項

(大同二年十一月五日) 民政部訓令第八九三號(地字四五二二號)

奉吉黑熱各省公署 新京特別市公署ニ令ス
 首都 警察廳 命爾濱
 哈爾濱 警察廳 命爾濱

毎年冬季嚴寒ノ際ニ至ルヤ市内路傍ニ倒斃者ヲ發見スル少カラズ其ノ中大部分ハ「モルヒネ」中毒者ナリ今ヤ新興國家ハ百政肇造ノ時ニシテ此ノ種不良ノ現象ハ實ニ觀瞻ニ關

スル所本部ハ貧民ノ救済ニ對シテハ既ニ再三訓令ヲ發セリ路傍倒斃ノ防止「モルヒネ」中毒者ノ救済及嬰屍ノ遺棄取締ハ均シク目下ノ急務ナリ依テ本年十月二十八日新京特別市公署内ニ於テ各關係機關ヲ召集協議ノ結果市内ノ倒斃屍體ノ檢査運搬掩埋ハ警察廳ト市公署ト各自擔任シ附屬地ニテ屍體ヲ發見セル時ハ附近ノ警察派出所ヨリ引渡後市内ノ處理辦法ニ依リテ之ヲ處理ス防止辦法トシテハ「モルヒネ」治療所ヲ設置シ目下ノ救済法トシテハ警察ニテ嚴重ニ檢査シ救養工場或ハ救済院ニ送り戒除セシム嬰屍ノ遺棄ハ前ニ頒布セル法規ニ依リ嚴重ニ取締ノ上處罰條例ヲ公布シ務メテ徹底的ニ惡習ヲ除去スベク尙ホ施粥場及庇寒所等ノ増設ニ付テハ均シク辦法ヲ議決セリ以テ王道樂土ノ實現ニ到達センコトヲ期スル次第ナリ其ノ他ノ各都市ニ於テモ前述ノ各情形ハ免レ難シ依テ協議原案ヲ添附送付スルニ付貴市ハ直ニ所屬ノ重要都市ニ轉令シ参照セシメ至急妥當ナル辦法ヲ計畫シ以テ國家愛民ノ意ニ副フベシ尙ホ辦理情形ヲ報告スベシ此ニ令ス

協議事項

一 凍死者ニ對スル處理案ハ如何

(議決)

(1) 倒斃者處理ノ主管場所

屍體檢査及掩埋許可ノ手續ハ首都警察廳之ヲ負擔ス
運搬及埋葬ニ關シテハ市公署之ヲ分擔ス
但シ市公署ニハ豫算ノ關係アルタメ一度商議シタル後
其ノ實行方法ヲ審議ス

(2) 滿鐵附屬地ノ屍體

附屬地ノ警察若シ屍體ヲ發見シタル時ハ七馬路分駐所
ニ通知シ該所ヨリ現場ニ赴キ引渡ヲ受ク運搬ニ關シテ
ハ市公署ノ人夫ヲ之ニ充ツ引渡前ニ在リテハ附屬地方
面ハ入棺ノ處理ヲ爲スベシ
引渡後ノ處理ハ第三項ニ準ズ

(3) 市内ノ屍體

市内ノ屍體ハ七馬路分駐所之ヲ主管ス
該所ハ屍體アル旨ノ通告ニ接シタル時ハ警察廳ニ轉告
シ且地方法院ノ屍體埋葬許可ヲ受クベシ
但シ警察廳ト地方法院協議ノ上檢驗手續及處理方法ハ
可成簡單迅速ニシ法院ノ許可ヲ經タル後七馬路分駐所
ヨリ市公署社會科ニ通知シ市公署ハ運搬及埋葬ヲ處理
スベシ
人夫ノ駐在場所ニ關シテハ社會科ト警察廳衛生科トニ

四 施粥場設立ニ關スル事項

此ノ種施粥場ハ專ラ貧民ニ施粥ノ爲設クルモノニシテ已
ニ大經路(五台山佛教會)孟家屯伊通河岸(直魯會館)
ニ施粥場三箇所ヲ設立セリ

五 庇寒所設立ニ關スル事項

冬季ニ至リ貧民ノ無衣無食ナル者及戸外ニテ寢ニ就ク者
等甚ダ多ク若シ此ヲ願ミザレバ其ノ凍死スルハ免レ難シ
故ニ事前ニ之ヲ防止スルハ實ニ重要ナル問題ナレバ庇寒
所ヲ設立シ此ノ種貧民ヲ救済スルハ目下ノ急務ナリ現ニ
南關ニ建設中ニシテ明年三月迄ニ落成スベシ爾後毎年此
ノ期間ニ處理スベシ

第四章 衛生諸營業

理髮營業管理規則

(前省會公安局)

- 第一條 凡ソ理髮ヲ以テ營業ヲ爲スモノハ店舗ノ有無ヲ問
ハズ均シク本規則ヲ適用ス
- 第二條 理髮營業ヲ爲サントスルモノハ住所、氏名及店舗
ノ場所ヲ所轄警察署ヘ届出ヅベク若シ變更或ハ停業アリ
タル場合ハ前項ニ準ジテ五日以内ニ届出ヅベシ
- 第三條 左記各號ノ一ニ該當スル事實有リタル場合ハ理髮

テ之ヲ協議ス

二 市内ノ嬰兒屍體遺棄ニ對スル處理案ハ如何

(議決)

前ニ頒布セル屍體遺棄法規ニ準ジ之ヲ取締リ更ニ罰令條
則ヲ公布シ徹底的ニ惡習ヲ除去シ竝ニ極力嚴密ニ此ノ種
遺棄犯人ヲ檢舉スベシ若シ尙ホ敢ヘテ犯ス者アラバ嚴重
ニ處罰シ以テ防止ヲ期ス
遺棄屍體ヲ發見シタル時ハ倒斃ノ處理辦法ト同様ニ之ヲ
處理ス

三 凍死者ハ多ク「モルヒネ」患者ニシテ該患者等ニ對ス
ル取締救濟案ハ如何

警務司大林保安科長曰ク本件ハ甚ダ重要ニシテ警察ノ立
場カラモ必ズ方法ヲ講ズベシ此ノ種ノ人多クナル時ハ
窃盜案件ニモ關係トセズ尙テ現ニ民政部衛生司ニ於テ積
極的ニ其ノ具體辦法ヲ計畫中ナリ政府ノ經費調達ノ見込
ツキ次第直チニ「モルヒネ」治療所ヲ成立シ目下救濟ト
爲ス市内及附屬地ノ警察ハ共同シテ之ヲ檢舉シ若シ「モ
ルヒネ」患者アルトキハ直チニ市貧民救濟工場或ハ救濟
院ニ送交スベシ

(議決)

原案ノ通過ス

ノ師トナルコトヲ得ズ

- 一 肺病アルモノ
- 二 癩病アルモノ
- 三 瘋癲、精神ノ病アルモノ
- 四 瘡疾アルモノ
- 五 近眼者
- 六 十四歳以下徒弟ニシテ技術不十分ナルモノ
- 七 五十歳以上老眼ナルモノ
- 第四條 理髮師ハ常ニ入浴シテ體ヲ清潔ニスベシ客ノ爲理
髮スルトキハ白服ヲ着用スベシ
- 第五條 理髮ノ時ニ使用スル掛布手拭其他ノモノハ可成白
キモノヲ用ヒ且ツ常ニ洗濯ヲナスベシ
- 第六條 切り落シタル髮ハ籠ノ中ニ納メ床上ニ散亂スルヲ
得ズ
- 第七條 使用シタル剃刀、梳、篋等ハ常ニ掃除清潔ニシ毫
モ垢ヲ殘ラザル様留意シ且之ヲ消毒スベシ
- 第八條 理髮師ハ客毎ニ手及其使用シタル器具ヲ洗滌スベ
シ
- 第九條 客ニシテ瘡疥病ヲ持有スルモノナル時ハ左記藥品
ノ一ヲ以テノ使用器具ヲ洗滌スベシ
- 一 石炭酸

二 炭酸曹達液
三 生石灰水

- 第十條 客ノ洗髮シタル水ハ直ニ之ヲ棄捨シ他ノ客ニ供用スルヲ得ズ
- 第十一條 店内ニ設備シタル水缸、水桶、水鍋、洗面器及椅子、机等ハ常ニ掃除シ清潔ヲ保持スベシ
- 第十二條 室内ハ痰壺ヲ多ク備ヘ常ニ之ヲ掃除シ清潔ニスベシ
- 第十三條 湯沸ノ煤爐(火ヲ焚クストーブノ如キモノ)營業室内ニ置クコトヲ得ズ窓ヲ多ク設ケ空氣ノ流通ヲ期スベシ
- 第十四條 第二條ニ違反シタルモノハ違警罰法第二十三條第一項ニ基キテ五日以下一日以上ノ拘留又ハ五元以下一元以上ノ罰金ニ處ス
- 第十五條 第三條乃至第十二條ニ違反シタルモノハ違警罰法第三十八條第二項ニ基キテ十日以下五日以上ノ拘留又ハ十元以下五元以上ノ罰金ニ處ス若シ屢々違反シテ改メザルモノハ營業ノ停止又ハ休業ヲ命ズ
- 第十六條 本規則ハ公布ノ日ヨリ施行ス

理髮屋清潔取締規則 (前省會公安局)

- 一 室内ハ常ニ清潔ニシ光線ヲ充分入ル様ニ設備ヲシ網戸ヲ設ケテ蚊蠅ノ入ルヲ防グベシ
- 二 痰壺ヲ備ヘ付ケ外ニ吐ザル様注意シ汚水ハ其都度處分スベシ
- 三 理髮師ナルモノハ全部白服ヲ着用スベク常ニ洗濯シテ取換フベシ
- 四 作業ヲナストキハ一律ニマスクヲ掛ケザル可カラズ頭髮ト爪ハ常ニ清潔ニスベシ
- 五 椅子、鏡其他一切ノ器具ハ常ニ塵埃ノ堆積セザル様注意スベシ
- 六 客用、掛布、手拭ハ一人毎ニ取換エテ消毒ヲナシ以テ傳染病ノ傳染ヲ防止スベシ
- 七 バリカン剃刀等ハ使用スル都度消毒ヲナシ平常使用シ居ル石鹼ハ可成藥性ヲ帶ブルモノヲ用ユベシ
- 八 花柳病肺病ヲ持有スルモノハ理髮師トナルコトヲ得ズ
- 九 室内ニ蠅取器ヲ備付ケ蚊蠅ノ絶滅ヲ期シ鼠ニ對シテハヨリ以上注意ヲナシ撲殺シテ傳染病豫防ヲ期スベシ
- 十 耳掃除ハ輕快ニ行フベシ、鼻鬚ノ切取り眼玉ノ掃除ハ危険ニ付絕對ニ之ヲ禁止ス

野菜市場取締規則

(前警務處)

- 第一條 凡ソ果物蔬菜ノ營業ヲ爲サントスルモノハ普通營業規則ニ依リ申請スル外本規則ノ規定ニ依リ遵守スベシ
- 第二條 凡ソ果物蔬菜ノ營業ヲ爲サントスルモノハ警察官署指定シタル場所内ニ於テ其ノ營業ヲ爲スコトヲ得
- 第三條 野菜市場ニ陳列シタル野菜ハ毎日午前中ニ必ズ一度洗滌スベシ其ノ食用ニ堪ヘザルモノハ出賣スルコトヲ得ズ
- 第四條 警察官署ヨリ發給シタル營業許可證ハ必ズ玄關前ニ掲出シ以テ検査ノ便ニ供スベシ
- 第五條 野菜市場ノ各商賣ノ門前ニハ必ズ適當ナル汚水溝ヲ掘ルベシ以テ汚水ノ流通ニ供スベシ
- 第六條 野菜果物ノ陳列場所附近ハ必ズ清潔ニ掃除スベシ
- 第七條 野菜市場ハ毎月一回警察官長ノ検査ヲ受クベシ但シ其ノ管轄警察官吏ノ臨時検査ヲ受ケタルモノハ此ノ限ニ在ラズ
- 第八條 蔬菜鮮菓ヲ放置スル容器ハ必ズ隨時ニ清潔ニ洗滌スベシ
- 第九條 野菜市場ハ兼テ鮮魚及牛羊肉ヲ販賣スルトキハ必

ズ清潔ヲ保持スベシ並ニ專屬規則ニ依リ處理スベシ

第十條 本規則ノ第一條第二條ニ違反シタルモノハ違警罰法ノ三十三條第一項ニ依リ處罰ス第三、第五、第六、第八、第九條、ニ違反シタルモノハ違警罰法ニ依リ衛生妨害ヲ以テ處罰ス

魚市場取締規則

(前警務處)

- 第一條 凡ソ魚類等ヲ販賣セントスルモノハ普通營業章程ヲ遵守スルノ外本規則規定ヲ遵守スベシ
- 第二條 凡ソ魚類販賣ノ營業ヲ爲サントスルモノハ警察官署ノ指定シタル魚市場或ハ適當ナル場所ニ於テ爲スベシ
- 第三條 魚類ヲ販賣スルトキニハ必ズ水ヲ以テ清潔ニ洗滌シタル市場ニ販賣スベシ但シ魚腹ノ中ニ故意ニ水ヲ入レテ重量ヲ加フルコトヲ得ズ
- 第四條 夏季魚類ヲ販賣スルトキハ防腐ノ爲メ氷ヲ用ユルトキニハ必ズ清潔ナル氷ヲ以テ使用スベシ
- 第五條 僅少ナル腐敗ノ傾向ニアル魚ヲ販賣スルトキハ鹽ヲ以テ漬ケタル上ニ之レヲ販賣スルコトヲ得
- 第六條 魚類ヲ販賣スルトキニハ已ニ腐敗シタル爲メ食ニ堪ヘザルモノハ直ニ棄捨ノ上埋沒スベシ安價ヲ以テ之レ

- ヲ販賣スルコトヲ得ズ
- 第七條** 河豚魚及其他ノ毒質ヲ有スル魚ハ販賣スルコトヲ得ズ以テ其ノ危険ヲ防グベシ
- 第八條** 凡ソ市場ニ於テ魚ヲ販賣スルモノハ必ず魚ヲ入レル容器ヲ裝置シ且ツ清潔ヲ要スベシ破損汚物ノ箱ニシテ衛生上害アリト認ムルモノヲ使用スルコトヲ得ズ
- 第九條** 魚市場内ニハ魚商ノ代表ヲ置クベシ以テ市場内ノ清潔ヲ管理スベシ
- 第十條** 本規則ニ違反シタルモノハ公共衛生妨害ニ依リ處罰ス

澡塘(風呂屋)ノ清潔取締ニ關スル規則

(前省會公安局)

- 第一條** 澡塘營業ヲナスモノハ普通ノ營業規則ヲ遵守スルト共ニ本規則ヲ遵守スルヲ要ス
- 第二條** 風呂ヲ須ク清潔ニスベク汚穢其他ノ臭氣ノ有スルヲ得ズ
- 第三條** 風呂ノ御湯ハ常ニ清クスベク若シ汚レルニ於テハ(例ヘバ毛髮、垢、瓜等ノモノアルトキ)直ニ羅布ヲ以テ濾過スベシ

- ハ湯ヲ取換スルヲ要ス
- 第十五條** 風呂ノ下水ハ暗溝ヲ用フベク臭氣ヲ外ニ洩サザルヲ要ス
- 第十六條** 左ノ者ハ入浴セシムルヲ得ズ
 - 甲 瘡症癩癩(癩癩癩病)花柳病其ノ他傳染ノ恐アルモノ
 - 乙 重病ノ爲自由ヲ缺クモノ
 - 丙 老年者ニシテ歩行困難ナル者
 - 丁 泥醉者
 - 戊 精神病者
- 第十七條** 入浴客ニシテ左記ノ事情アルモノニ對シテハ注意ヲ與ヘルヲ要ス
 - 甲 任意ニ痰唾ヲ吐クモノ(浴地内痰壺以外)
 - 乙 浴池、浴盆ノ内外ニ小便ヲナスモノ
 - 丙 顔拭ク手拭ニテ下半身ヲ拭クモノ
 - 丁 妄ニ世事ヲ論評シ人ノ名譽ヲ毀損スルモノ
 - 戊 大聲ヲ發シ罵倒シ又ハ歌フモノ
- 第十八條** 本規則ノ一ニ違反シタルモノハ違警罰法ノ衛生妨害ニ照シテ處罰ス

- 第四條** 風呂ノ室内ニ設備シアル便池ハヨク之ヲ掃除シ必要ニ應ジテ消毒藥(石炭酸類)ヲ撒クベシ
- 第五條** 風呂屋ニ雇ハレタル理髮師ハ理髮營業規則ヲ適用スルト共ニ本規則ヲ適用ス
- 第六條** 風呂屋ハ瘡疾、肺病又ハ花柳病ヲ持有スルル使用人ヲ使用スルヲ得ズ
- 第七條** 客人用ノ茶碗、急須、煙管等ノ器具ハ常ニ清潔ニシテ汚穢スルヲ得ズ
- 第八條** 客ニ供スベキ御茶ハ新シキモノヲ使用シ之ニ注グ御湯ハ充分沸騰スルヲ要ス
- 第九條** 客人用ノ手拭ハ使用スル度ニ蒸スヲ要ス常ニ之ヲ洗濯シ古キモノハ直ニ取換ヲナザル可カラズ
- 第十條** 室内ニ備ヘタル敷布掛布、枕、枕覆、其ノ他座蒲團等ハ常ニ洗濯、取換ヲナシ毫モ汚損スルヲ得ズ
- 第十一條** 室内ノ床、椅子、机、寢台等ハ常ニ整頓シテ綺麗ニスベシ
- 第十二條** 室内ハ雅座(特等)ト普通座ノ區別ナク一律ニ痰壺ヲ備ヘ且常ニ洗濯スベシ
- 第十三條** 室内ハ毎日石炭酸ヲ一度撒クベシ庭内ノ便所其他濕地ニ對シテハ石灰ヲ撒クベシ
- 第十四條** 入浴者多キニ過ギタル結果御湯ガ汚レタルトキ

猪店(豚ノ間屋)取締規則

(前奉天市政公署)

- 第一條** 本規則ハ市内ノ衛生ヲ整理スル見地ヨリ凡ソ市内ニ於テ豚ヲ賣買シ又ハ之ヲ飼養スルモノニ均シク之ヲ適用ス
- 第二條** 各猪店ハ衛生上有害ナルニ付キ市内ニ於テ營業ヲナスコトヲ得ズ但シ各邊門外ニ一個所ヲ限リ設立スルコトヲ得前項ノ猪店ト云フハ専ラ猪店業ヲ營ムモノヲ指シテ謂フ
- 第三條** 凡ソ各猪店ハ營業開始前ニ於テ須ク本公署ノ許可ヲ申請スベク私ニ營業ナスコトヲ得ズ
- 第四條** 市内ノ糧棧(穀物ノ間屋)碾房(製粉屋)大車店(荷馬車宿)及其他商店ニシテ比較的廣大ノ庭ヲ持有シ若シ自家食用トシテ豚ヲ飼養セントスルモノハ十匹ヲ以テ限リトシ柵アル小屋ヲ設ケテ外ニテ便溺セザル様注意スベシ普通ノ住民ニテ若シ祭祀用トシテ之ヲ飼養セントスルモノ亦同ジ三匹以下ヲ以テ限リトス飼養場所タル庭ヲ持有セザル者ニシテ豚ヲ飼養セントスル者ハ適不適ニ關シ許可申請ヲ爲スヲ要ス
- 第五條** 凡ソ猪店及之ヲ飼養スル者ハ豚小屋ノ柵欄内ノ場

所ヲ須ク廣クシ常ニ糞便ノ掃除ヲナシ蓄積セザル様注意スベシ

第六條 各猪店ニ於テ豚ノ賣買ヲナス時ハ一律ニ下皿自働式天秤ヲ用フベシ

第七條 凡ソ本公所ノ許可ヲ受ケタル各猪店ハ須ク本公署ヨリ三聯票ヲ請求ス可シ賣買ヲナス時ニ賣買主ニ各一聯ヲ交付シ殘ル一聯ヲ月末ニ公署ノ方ニ提出スベシ買主ハ聯單ヲ以テ稅捐局ヘ税金ヲ納メ然ル後納稅領收證ヲ以テ屠殺場ニテ屠殺ヲナスベシ

第八條 各猪店ハ牝豚及病豚ヲ賣買スルヲ得ズ若シ屠殺商ニ於テ病豚又ハ牝豚ナルコトヲ發見シタル場合ハ之ヲ燒棄スベシ元ノ賣主ニ對シテハ相當ナル罰金ヲ科スベシ

第九條 各猪店ハ毎日其賣買セラレタル豚數ヲ届出ズベシ

第十條 本公署ニ於テハ毎日専任検査員ヲ派シ各猪店ニ付キ豚ノ良否及違法ノ有無ヲ検査ス

第十一條 本公署ハ毎月各猪店ノ得タル口錢ノ百分ノ三ヲ徵收シ以テ本署ノ検査員給料ニ充當ス

第十二條 本規則ニ違反シタルモノハ左記ニ依ル罰金ヲ處ス
一 第二條ノ規定ニ違反シタルモノハ五十元以下ノ罰金ニ處スルト共ニ營業ノ停止ヲ命ズ

備略圖ヲ添ヘ警察官署ニ届出デ警察官署ノ調査ヲ經テ始メテ營業ヲナスコトヲ得

第三條 染物ノ干台ハ庭内ニ設備シ門前或ハ街路ニ設置スルヲ得ズ

第四條 地勢ニ應ジテ下水溝ヲ修築シ街路ノ下水溝ト相通ゼシムベシ

第五條 使用後ノ染料水ハ直ニ棄捨シ之ヲ停留セシムルヲ得ズ

第六條 各種染物注文ノ中吳服屋注文ノモノハ慣習ニ依ルベシ其他ノ者ノ注文ハ帳簿ニ其舊物名、染眞色、受取年月日ヲ登記シ證明書ヲ交付スベシ

第七條 前條ノ證明書ヲ紛失シタル時ハ新ニ發給スベシ但シ商店ノ保證ヲ要ス

第八條 染物ヲ紛失毀損或ハ注文ノ色ト符合ゼザルニ於テハ物ノ値段ニヨリテ辨償セザルベカラズ

第九條 客ヨリ受取リタル染物ニ對シ疑フベキ點アリト認ムルトキハ速ニ警察官署ニ報告スベシ

第十條 染房營業ハ隨時警察官ノ臨檢ヲ受クルヲ要ス

第十一條 本規則ノ第三、四、五各條ニ違反シタルモノハ違警罰法ノ各本條ニ依リテ處罰ス

第十二條 本規則ニ於テ盡サザルトコロアル場合ハ其都度第五編 衛生

二 第三條ノ規定ニ違反シタルモノハ三十元以下ノ罰金ニ處スルト共ニ情狀酌量ノ上營業ノ停止ヲ命ズ

三 第四條、第五條、第六條ノ規定ニ違反シタルモノハ二十元以下ノ罰金ニ處ス

四 第七條ノ規定ニ違反シタルモノハ三十元以下ノ罰金ニ處ス

五 第八條ノ規定ニ違反シタルモノハ百元以下ノ罰金ニ處ス

六 第九條ノ規定ニ違反シタルモノハ二十元以下ノ罰金ニ處ス

第十三條 本規則ヲ公布シテ二ヶ月後ニ於テ所有スル商民ハ一律ニ右本規則施行以前ヨリ引續猪店營業ノ者ハ本規則後ノ規則ヲ遵守スベシ二ヶ月以内ニ本規則各條ニ依リ設備其ノ他ノ事項ヲ行フベシ

第十四條 本規則ハ公布ノ日ヨリ施行ス

第一條 染房ノ營業ヲナスモノハ普通規則ヲ遵守スルト共ニ本規則ヲ遵守セザル可カラズ

第二條 染房ノ營業ナサムトスルモノハ營業場所内外ノ設

之ヲ修正ス
第十三條 本規則ハ公布ノ日ヨリ施行ス

漿洗房(洗濯屋業)取締規則 (前奉天市政公署)

第一條 洗濯屋業ヲ爲サントスルモノハ之ニ關係アル法規ヲ遵守スルト共ニ本規則ノ適用ヲ受クベシ

第二條 凡ソ肺病花柳病及疥癬等ノ皮膚傳染病ヲ持有スルモノハ洗濯場ニテ作業ナスコトヲ得ズ

第三條 洗濯場所ハ必ず光線充分ナル廣キ大場所ヲ用フベク排水用溝渠ハ常ニ疏通セザル可カラズ

第四條 洗濯用ノ器具、洗濯方法及消毒ノ設備ハ適當ナルヲ要ス

第五條 既洗ノ物ト未ダ洗ハザルモノトヲ區別シテ置クベシ

第六條 本公署ハ隨時ニ員ヲ派シテ規則ニ依リテ之ヲ臨檢ス

第七條 本規則ノ一ニ違反シタルトキハ奉大洋五元以上百元以下ノ罰金ニ處ス

第八條 本規則ハ公布ノ日ヨリ施行ス

皮做房(皮ナメシ、皮細工)鞆布房(鞋底用ボロ糊張作業)豆腐房(膠房)醬園(醬油味噌漬物)等營業衛生取締規則 (前市政公署)

- 一 營業者ハ便所ヲ設置スベク常ニ殺菌用ノ石灰、石油乳劑、石炭酸等ヲ撒クベシ
- 二 營業者ハ臭水汚物ヲ不時ニ掃除シ街路ニ流溢シ隣人ニ妨害スルガ如キ無キ様注意スベシ
- 三 營業者ハ前項ノ殺菌藥ヲ準備シ常ニ工場内ニ撒クベシ
- 四 皮做房、鞆布房、醬園等ノ營業ハ職工多ク且ツ工場ト類似ノ性質アルニ付宿舍内及事務所内ニ痰壺、捕蠅器ヲ設置シ南京蟲ノ撲滅ニ努メザル可カラズ
- 五 營業者ハ工作品ヲ門前ニ竝べ又ハ門前ニ工作スルヲ得ズ
- 六 右各項ノ一ニ違反シタルモノハ十元以下二元以上ノ罰金ヲ料ス引續キ三回ニ亘リ違反シ尙改悛セザルモノハ營業ノ停止ヲ命ズ
- 七 本規則ハ公布ノ日ヨリ施行ス

劇場ノ清潔取締規則 (前省會公安局)

- 第一條 凡ソ劇場ヲ開設セントスルモノハ特ニ規定シタル取締規則ヲ遵守スルノ外本規則各條ノ規定ニ據ルベシ
- 第二條 凡ソ劇場ハ窓ヲ多ク備フベシ以テ常ニ開閉ノ便利ニ期ス
- 第三條 凡ソ劇場ノ便所ハ必ズ劇場以外ノ庭院内ニ設置シ開閉自由ノ門ヲ備フベシ
- 第四條 凡ソ劇場内ニハ舞臺、扮裝室、及役者ノ居住室、竝ニ客席等一律清潔ニ掃除スベシ以テ各場所ヲ汚穢スルコトヲ得ズ
- 第五條 凡ソ劇場内ノボーイ人夫等ハ必ズ清潔ナル衣服ヲ着用スベシ
- 第六條 ボーイ人夫等ハ肺病、梅毒、癬疥及其他傳染シ易キ疾病アリタルモノハ劇場内ニ之ヲ雇用スルコトヲ得ズ又役者ニ對シテ亦同ジ初メテ劇團ニ加入セントスルトキハ檢査ヲ受クベシ但シ其ノ責任ハ劇團ノ支配人ニアルベシ
- 第七條 劇場内ニテ使用シタル茶瓶茶碗(觀客ニ供スルモノ)ハ必ズ沸騰シタル湯ヲ以テ叮嚀ニ拭淨スベシ僅少ナル垢ト雖モ遺跡スルコトヲ得ズ
- 第八條 御茶ハ必ズ新鮮ナル茶ヲ使用シ水ハ必ズ水道ノ水

ヲ使用スベシ未熟ナル湯又ハ一日間使用シタル廢茶ヲ使用スルコトヲ得ズ

第九條 劇場内ニテ使用スル手拭ハ一度使用後ハ直ニ蒸汽ヲ以テ消毒シ更ニ石鹼ヲ以テ洗濯スベシ單ニ沸騰シタル湯ヲ以テ浸濕後ニ客ニ供スルコトヲ得ズ且ツ一週間毎ニ取換スベシ但シ滿一週間ニ未タザルニ已ニ破損シタル場合ニ於テハ隨時ニ之ヲ取換スルコトヲ得

第十條 客座席ニハ必ズ痰壺ヲ設置スベシ以テ客ノ需用ニ供給シ濫ニ痰唾ヲ吐キ衛生上ニ妨害セシムルコトアルベカラズ

第十一條 座布團ハ一律ニ覆ヲ用ユベシ以テ洗濯ノ便利ニ資スベシ常時使用セザルモノト雖モ濕氣アル箇處ニ置クコトヲ得ズ觀客ハ座布團ヲ踏ミ又ハ椅子ヨリ落ス等ノ行爲アルベカラズ殊ニ芝居ノ終了時ニ於テ注意スベシ

第十二條 劇場内ノ男女便所及便器ハ常ニ清潔ニ掃除スベシ汚穢ノ遺跡アルコトヲ得ズ

第十三條 劇場内ノ便所ハ室ノ内外ヲ問ハズ毎日生石灰ヲ以テ一回撒布スベシ夏秋ノ際ニハ特ニ注意ヲ要スルモノトス

第十四條 管轄警察署ノ劇場取締警士隨時ニ監査スル外一週間毎ニ衛生科ノ係員、隊長(衛生隊ノ隊長)ハ確實ニ

一回檢査スベシ

第十五條 劇場ハ本規則ニ違反シタルモノハ違警ニ依リ衛生妨害ヲ以テ處罰ス

第十六條 本規則ハ公布ノ日ヨリ之レヲ施行ス

娛樂場清潔取締規則 (前省會公安局)

- 一 牆壁、天井、ハ常ニ拂拭スベシ天窓ハ(天窓トハ屋根ニ窓ヲ造リ以テ空氣ヲ流氣セシム)常ニ開放シ地下或ハ床板ヲ掃除シ竝ニ生石灰或ハ石炭酸水ヲ以テ消毒スベシ
- 二 痰壺ハ多ク備フベシ以テ吐痰ヲ豫防ス痰壺内ニハ消毒水若ハ石灰水ヲ加入スベシ以テ細菌ヲ消滅スベシ尙又常ニ投棄拭淨スベシ
- 三 公用手拭ハ取替上困難ナルニ付一回使用後必ズ沸騰シタル湯ヲ以テ煮ルベシ但シ消毒石鹼ヲ以テ洗濯スルモ支障ナシ
- 四 飲料水ハ清潔ヲ要ス五分間沸騰シタル後ニ烹茶シテ客ニ供スルコトヲ得
- 五 公衆共用ノ茶瓶茶碗ノ類ハ疾病ヲ傳染シ易キ虞アルヲ以テ各人一人毎ニ使用後直ニ沸騰シタル湯ヲ以テ拭淨シタル上他人使用ニ供スベシ

- 六 場内ノ光線ハ充分ニスルベシ
- 七 食品ヲ販賣セントスルトキハ清潔ニ設備シ且ツ網張ヲ以テ覆フベシ食品ニ向ツテ咳ヲ爲スコトヲ得ズ以テ疾病傳染ヲ防止スベシ
- 八 凡ソ花柳病、肺病、其ノ他ノ疾病ニ罹リタルトキハ直ニ其ノ業務ニ従事スルコトヲ停止スルコトヲ得ベシ
- 九 便所ハ常ニ掃除ヲ爲シ糞便ヲ堆積スルコトヲ得ズ竝ニ生石灰ヲ撒布シ以テ蚊蠅ノ集聚臭氣ノ四溢ヲ防ギ更ニ小便容器ヲ設置シ以テ放尿ノ便利ヲ期スベシ
- 十 場内ノテーブル、椅子、及一切ノ器具ハ常ニ拭淨シ且ツ其ノ清潔ヲ保持スベシ

茶館（カフー）工營業類似ノモ

ノ但シ女給ヲ置カザルモノノ

清潔取締規則

（前省會公安局）

- 一 ボーイノ着用衣服ハ悉ク清潔ヲ要ス且ツ指ノ爪ヲ常ニ切ルコトヲ要ス竝ニ茶碗ニ向ツテ咳ヲ爲スコトヲ得ズ花柳病其他ノ疾病ニ罹リタルトキハ其ノ服務ヲ停止スベシ
- 二 夏季ノ際ニ水ノ入レル容器ヲ常ニ洗滌スベシ且ツ木ノ

- 蓋ヲ備フベシ以テ塵埃ノ落着ヲ防グベシ
- 三 蒸茶用ノ水ハ清潔ヲ要ス且ツ十分間以上沸騰シタル後ニ客ノ飲用ニ供スベシ
- 四 各種食品ヲ販賣スル爲メ必ズガラス箱ヲ裝置シ以テ蚊蠅ノ落集ヲ防グベシ其ノ食品ノ出入ノ場合ハ必ズ箸柄杓ヲ使用スベシ手ヲ以テ接觸スルコトヲ得ズ
- 五 茶瓶ノ内外ハ清潔ニ洗滌スベシ且垢ヲ存留スベカラズ
- 六 公用茶碗ハ尙更特別注意ヲ要スベシ毎度使用後直ニ沸騰シタル湯ヲ以テ洗滌スベシ以テ其ノ清潔ヲ保持スベシ
- 七 室内ノ蚊蠅ハ捕殺ノ注意ヲ要スベシ
- 八 痰壺ハ常ニ投棄ノ上洗滌シ以テ清潔ヲ保持スベシ
- 九 窓ハ常ニ開放シ空氣ヲ流通セシムル様注意シ且ツ網戸ヲ具備シ以テ蚊蠅ノ飛入ヲ防グベシ
- 十 室内ノ掃除ハ清潔ニ爲スベシ且ツ石灰若ハ石炭水ヲ以テ毎日一回ツツ散布シ以テ公衆衛生ヲ保持スベシ

旅館清潔取締規則

（前省會公安局）

- 一 凡ソ旅館客室ニハ悉ク空氣窓ヲ備フベシ夏期ハ網戸ヲ設備シ傳染病豫防上蚊蠅ノ飛入ヲ防グベシ
- 二 ボーイノ着衣ハ必ズ清潔ヲ保持スベシ花柳病肺病及其

ノ他疾病ニ罹リタルモノハ即時ニ其ノ工作ニ従事スルコトヲ停止スルコトヲ得

- 三 凡ソ客室内ノ天井、壁ハ清潔ニ掃除スベシ地下或ハ床板ノ掃除ハ特ニ注意ヲ要ステーブル、椅子等ハ清潔ニ拭拂スベシ垢ヲ堆積スルコトヲ得ズ且消毒薬水ヲ準備シ之レヲ地下ニ撒布シ以テ疾病ノ發生ヲ防グベシ
- 四 客用ノ布團、敷布團ハ客ノ使用毎ニ其ノ覆ヲ更換スベシ且常ニ日光ニ曝シ又ハ洗濯シ以テ清潔ヲ保持スベシ
- 五 炊事場ハ特ニ清潔ヲ要スベシ一切ノ器具ハ沸騰シタル湯ヲ以テ洗滌シ水容器、御飯容器ハ蓋ヲ以テ覆ヒ以テ蚊蠅、垢ノ落集ヲ防グベシ汚水ハ毎日二回投棄スベシ
- 六 凡ソ客用ノ茶瓶、茶碗及手拭等ノ物ハ客人毎ニ一度使用後直ニ沸騰シタル湯ヲ以テ洗滌シ然ル後他人ニ使用セシムベシ
- 七 飯、肴ハ特ニ清潔ニ注意スベシ夏期ニ於ケル肉類ハ客ニ新鮮ナルモノヲ供スベシ
- 八 痰壺ハ各室毎ニ一個宛備フベシ且常ニ吐痰ノ投棄洗滌スベシ痰壺内ニハ藥水ヲ加入シ以テ細菌ヲ消滅スベシ
- 九 夏季期間中ハ蠅取器ヲ多ク設備シ隨時ニ捕滅スベシ以テ疾病ノ傳染ヲ防グベシ
- 十 便所ハ寢室炊事場等ニ接近シテ設置スルコトヲ得ズ且

ツ隨時掃除スベシ以テ堆積セシムベカラズ便器（南方人ハヨク室内ニ便器ヲ使用シ居ルモノ）ヲ室内ニ設備シアル旅館ニ於テハ常ニ糞便ヲ投棄シ置クベシ便所ノ内外ニハ生石灰ヲ撒布シ以テ濕氣ヲ除去シ且ツ臭氣四溢ヲ防グベシ

飲食店ノ清潔取締規則

（前省會公安局）

- 一 飲食店ノ清潔規則十條
- 一 ボーイ（飲食店ノ小使）ノ着衣ハ一律ニ白衣ヲ着用スベシ
- 二 使用人ノ僱入ハ花柳病、肺病及其他疾病アリタルモノヲ採用スルコトヲ得ズ
- 三 匙、箸、茶碗、皿等ノ飲食用器具ハ一度使用後直ニ沸騰シタル湯ヲ以テ消毒スベシ
- 四 手拭ハ使用後ニ必ズ沸騰シタル湯ヲ以テ煮テ其ノ上他人ニ使用セシムベシ
- 五 蚊蠅鼠ノ驅除ニ注意シ以テ傳染病ノ發生ヲ杜絶セシムベシ
- 六 室内ノ掃除ヲ清潔ニシ地下ハ石灰ヲ以テ散布シ床板ハ

- 七 一部屋毎ニ少クトモ痰壺ヲ一個宛備フベシ常ニ手入ヲ要ス且ツ菌類ヲ消滅スル藥ヲ以テ消毒スベシ
- 八 凡ソ一切ノ肉類ハ隔日ニ再賣スルコトヲ禁ズ以テ腐敗ノ虞ヲ防グベシ
- 九 已ニ熟シタル食品ハガラス箱ノ中ニ置クベシ其他ノ食物及野菜類ノモノハ網ヲ以テ覆フベシ

牛乳營業取締規則 (十七年十月二十日 部令公布)

- 第一條 本規則中牛乳ト稱スルハ販賣ノ用ニ供スル全乳及脱脂乳ヲ謂ヒ乳製品ト稱スルハ販賣ノ用ニ供スル煉乳脱脂乳及粉乳ヲ謂フ
- 牛乳營業者ト稱スルハ牛乳又ハ乳製品ノ搾取、製造、販賣ヲ營業ト爲ス者ヲ謂フ
- 第二條 牛乳ノ比重ハ攝氏十五度ニ於テ、全乳ニ在リテハ一、〇二八乃至一、〇三四脱脂乳ニ在リテハ一、三〇乃至一、〇二八トス全乳ノ脂肪量ハ百分中三、〇分以上トス脱脂乳ノ乾燥物質量ハ百分中八、五分以上トス
- 第三條 煉乳ノ脂肪重ハ百分中八、〇以上トス煉乳又ハ脱脂煉乳中ニ混和スル糖量ノ乳ヲ合算シテ百分

- 中五五、〇以下トス
- 第四條 牛乳ノ搾取又ハ乳製品ノ製造ノ營業ヲ爲サントスル者ハ該管官署ノ認可ヲ受クベシ
該官署認可ヲ爲ストキニハ衛生技術員ヲシテ牛乳又ハ乳製品ヲ取扱フ場所ノ設備及構造ヲ検査セシムベシ
- 第五條 營業者ハ左記ノ牛乳ヲ搾取スル事ヲ得ズ
一 疫病、炭疽、傳染性胸膜炎、流行性鴉口瘡、狂犬病、痘瘡、黃疽、結核、氣腫疽、赤痢、乳線病、膿毒症、尿毒症、敗血症、中毒、亞布答、腐敗性子宮炎熱性諸病ニ罹レル牛、放線狀菌病
- 二 牛乳中ニ移行スベキ毒藥劇藥服用中ノ牛
- 三 分娩後七日以内ノ牛
- 第六條 營業者銅器、亞鉛器含鉛蓋磁器及有害性ノ釉ヲ塗布シタル陶器ヲ以テ牛乳又ハ乳製品ヲ處理スル事ヲ得ズ
- 第七條 營業者ハ左ノ牛乳ヲ販賣シ又ハ販賣ノ目的ヲ以テ運搬シ若ハ貯藏スル事ヲ得ズ
一 已ニ腐敗シタルモノ
二 他物ヲ混合シタルモノ
三 粘稠若ハ變色及苦味ヲ帶ビタルモノ
四 第五條ノ手ヨリ搾取シタルモノ
五 第二條ノ規定ニ適合セザルモノ

第八條 牛乳營業者ハ前條第一號乃至第四號ノ牛乳ヲ乳製品ノ原料ト爲スコトヲ得ズ

第九條 乳製品營業者ハ左ノ乳製品ヲ販賣シ又ハ販賣ノ目的ヲ以テ陳列シ若ハ貯藏スルコトヲ得ズ

- 一 腐敗シタルモノ
- 二 他物ヲ混合シタルモノ
- 三 第六條ノ容器ヲ用ヒタルモノ
- 四 第七條第一號乃至第四號ノ牛乳ヲ原料ト爲シタルモノ
- 五 第三條ノ規定ニ適合セザル煉乳又ハ脱脂煉乳
- 第十條 營業者ハ牛乳ノ容器上ニ全乳又ハ脱脂乳タルコトヲ明記シ煉乳ノ容器ニハ煉乳脱脂煉乳ノ容器ニハ脱脂煉乳タルコトヲ明記シ彼此混淆スル事ヲ得ズ
- 第十一條 營業者ハ牛乳又ハ乳製品ノ容器量器及其ノ取扱フ場所ヲ常ニ清潔ニ保ツベシ
- 第十二條 營業者ハ結核病、癩病、梅毒及傳染病ニ罹レル者ヲシテ牛乳、乳製品及其ノ容器量器ヲ取扱ハシメ或ハ其ノ取扱場所ニ立入ラシムル事ヲ得ズ
- 第十三條 營業者ハ傳染病ニ罹レル牛ノ隔離ヲ嚴行スベシ
- 第十四條 該管官署ハ衛生技術員ヲシテ牛乳營業者ノ牛ヲ檢診セシメ一定ノ疾病ニ罹レル牛ニハ其ノ角ニ番號若ハ符號ヲ烙記セシメ又ハ其ノ耳朶ニ番號若ハ符號ヲ記セル

耳環ヲ付セシムル事ヲ得

前項ノ番號符號又ハ耳環ハ該管官署ノ許可ヲ受クルニ非ザレバ之ヲ削除シ又ハ除去スル事ヲ得ズ

第十五條 該管官署ハ第五條ノ牛第六條ノ容器ヲ用ヒタル牛乳、乳製品、第七條各號ノ牛乳、第九條各號ノ乳製品ニ關シテハ飲食物及其ノ用品取締條例第一號ニ依リ處分スル事ヲ得

本規則ニ違背シタル營業者ニ關シテ亦同ジ

第十六條 該管官署ハ本規則執行ニ關シテハ飲食物及其ノ用品取締條例第二條ノ規定ニ依リ職權ヲ行フ事ヲ得

第十七條 第十四條第二項ニ違反シタル者ハ百元以下ノ罰金ニ處ス

第十八條 左記事情ノ一ニ有ル者ハ百元以下ノ罰金ニ處ス

一 第四條ノ認可ヲ受ケズシテ營業ヲ爲シタル者

二 第五條乃至第九條ニ違反シタル者

第十九條 第十條乃至第十三條ニ違反シタル者ハ五十元以下ノ罰金ニ處ス

第二十條 牛乳營業者ガ未成年者又ハ禁治產者ナルトキハ本規則ニ依リ之ニ適用スベキ罰則ハ之ヲ法定代理人ニ適用ス但シ其ノ營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此ノ限ニ非ズ

牛乳營業者ハ其ノ代理人雇人又ハ其ノ他ノ從業者ニシテ其ノ業務ニ關シ本則ニ違反シタルトキハ營業者其ノ責任ス

第二十一條 本規則ノ施行期日及地方ハ衛生部令ヲ以テ之ヲ定ム

附 施行令

第一七二號 十八年八月三十日

衛生部令

茲ニ飲食物及其ノ用品取締條例第六條、飲食物用器具取締規則第十三條、清涼飲料水取締規則第十三條、飲食物防腐劑取締第八條牛乳營業取締規則第二十一條等ノ規定ニ依リ南京特別市、漢江特別市、青島特別市及廣州特別市ヲ指定シ各條例各規則ハ九月一日ヨリ施行ス

飲食品製造場所衛生管理規則

(十八年八月十四日公布)

第一條 飲食品製造場所ノ衛生注意事項ハ法令ノ已ニ規定シタルモノノ外本規則ノ所定ニ依ルベシ

第二條 飲食品製造場所ノ有スベキ衛生設備及注意スベキ事項ハ左ノ如シ
一 適當ノ蓋ヲ有スル塵芥箱及適當ナル排水溝ヲ設置ス

シ蠅及其ノ他ノ汚物ノ進入ヲ防グベシ

第二條 肺結核、花柳病、皮膚病及其ノ他傳染病ニ罹レル

雇用後毎年一回検査ヲ行フモノトス

第三條 工人ヲ雇用ノ時ニハ健康検査ヲ行ヒ以テ使用ヲ決スベシ

第四條 製造場所内ハ清潔ヲ保持スベシ
十一 製造場所内ハ清潔ヲ保持スベシ

第五條 工人ヲ雇用ノ時ニハ健康検査ヲ行ヒ以テ使用ヲ決スベシ

第六條 製造場所内ニハ適當ナル排塵設備ヲ爲ス

第七條 衛生ニ適スル洗面及便所ヲ設置スベシ

第八條 器具消毒ノ設備ヲスベシ

第九條 多クノ痰壺ヲ置キ且ツ毎日一回清潔ニ洗ヒ之ニ消毒劑ヲ加ヘ場内ニ「禁止隨地吐痰」ノ標語ヲ多ク貼付スベシ

第十條 多クノ清潔ナル白色ノ外衣ヲ具備シ工人工作時ノ着用ニ供スベシ且ツ時時洗濯交換シテ清潔ヲ保持スベシ

第十一條 製造場所家屋ハ少クトモ一回刷新スベシ

第十二條 性畜ヲ飼養スルコトヲ得ズ但シ家猫ハ此ノ限ニ在ラズ

第十三條 製造又ハ食品貯藏ノ場所ニ於テ宿泊又ハ食事スル事ヲ得ズ

第十四條 製造場所内ハ清潔ヲ保持スベシ

第十五條 工人ヲ雇用ノ時ニハ健康検査ヲ行ヒ以テ使用ヲ決スベシ

第十六條 製造場所内ニハ適當ナル排塵設備ヲ爲ス

第十七條 衛生ニ適スル洗面及便所ヲ設置スベシ

第十八條 器具消毒ノ設備ヲスベシ

第十九條 多クノ痰壺ヲ置キ且ツ毎日一回清潔ニ洗ヒ之ニ消毒劑ヲ加ヘ場内ニ「禁止隨地吐痰」ノ標語ヲ多ク貼付スベシ

第二十條 多クノ清潔ナル白色ノ外衣ヲ具備シ工人工作時ノ着用ニ供スベシ且ツ時時洗濯交換シテ清潔ヲ保持スベシ

第二十一條 製造場所家屋ハ少クトモ一回刷新スベシ

モノハ雇用爲スベカラズ

第五條 製造所内ニ傳染病發生スルトキニハ直ニ主管衛生機關ニ報告シ隔離予防ヲ實行シ必要ニ應ジテ其ノ工作ヲ停止スベシ

第六條 工人ニ對シテハ一切種痘ヲ命ジ衛生主管機關ノ指示ヲ遵行シ各項傳染病ノ豫防注射及其ノ他豫防方法ヲ施行スベシ

第七條 工人ハ左記各項ノ衛生習慣ヲ遵守スベシ

一 工作前及大小便後必ず手ヲ洗フベシ

二 工作时ニハ清潔ナル外衣ヲ着用スベシ

三 隨地ニ痰ヲ吐ク事ヲ得ズ

四 口ニテ如何ナル流動質ヲモ食物上ニ噴出スルコトヲ得ズ

五 口涎ニテ標記又ハ其ノ包ニ貼付スルコトヲ得ズ

第八條 飲食物ノ原料ハ必ず新鮮清潔ナルモノタルベシ不衛生的物品ヲ混入或ハ利用スルコトヲ得ズ其ノ清潔飲食物ノ水料及牛乳ハ悉ク煮沸ナスベシ或ハ其ノ他適當ナル消毒ヲ施スベシ

第九條 飲食物貯藏ノ場所及器物ハ左記各號ノ規定ヲ遵守スベシ

一 食物ノ原料ハ清潔ニシテ空氣ノ流通良キ場所ニ貯藏

スベシ

二 窓戸網戸ヲ掛ケテ蠅ヲ防グベシ

三 場内ニハ光線ヲ充足セシメ空氣ヲ流通セシムベシ

四 「パン」製造場所ニハ適當ナル排塵設備ヲ爲ス

五 衛生ニ適スル洗面及便所ヲ設置スベシ

六 器具消毒ノ設備ヲスベシ

七 多クノ痰壺ヲ置キ且ツ毎日一回清潔ニ洗ヒ之ニ消毒劑ヲ加ヘ場内ニ「禁止隨地吐痰」ノ標語ヲ多ク貼付スベシ

八 多クノ清潔ナル白色ノ外衣ヲ具備シ工人工作時ノ着用ニ供スベシ且ツ時時洗濯交換シテ清潔ヲ保持スベシ

九 製造場所家屋ハ少クトモ一回刷新スベシ

十 性畜ヲ飼養スルコトヲ得ズ但シ家猫ハ此ノ限ニ在ラズ

十一 製造又ハ食品貯藏ノ場所ニ於テ宿泊又ハ食事スル事ヲ得ズ

十二 製造場所内ハ清潔ヲ保持スベシ

十三 製造場所内ニハ適當ナル排塵設備ヲ爲ス

十四 衛生ニ適スル洗面及便所ヲ設置スベシ

リ隨時糾正シ若シ遵行セザルトキハ飲食物及其ノ用品取
締條例第四條第一項ニ依リ之ヲ制裁ス

第十二條 本規則ハ公布ノ日ヨリ施行ス若シ未ダ盡キザル
處有レバ隨時之ヲ修正スルコトヲ得

飲食物用品具取締規則

(十七年十月二十日公布)

第一條 本法ニ於テ飲食物用品具ト稱スルハ飲食物、割烹
具及其ノ他ノ飲食物調理器、容器、量器、貯藏品ヲ謂フ

第二條 營業者ハ飲食物用器具ヲ鉛又ハ百分ノ十以上ノ鉛
ヲ含ム合金ヲ以テ製造シ又ハ修繕スル事ヲ得ズ

第三條 飲食物用器具ノ飲食物ニ接觸スル部分ヲ百分ノ二
十以上ノ鉛ヲ含ム合金ヲ以テ鍍著シ又ハ百分ノ五以上ヲ
含ム錫合金ヲ以テ鍍布スル事ヲ得ズ

第四條 營業者珞瑯又ハ釉藥ヲ施シタル飲食物用器具ニシ
テ之ニ百分ノ四ノ醋酸ヲ含ム水ヲ入レ三十分間煮沸ナシ
其ノ液ニ砒素又ハ鉛ヲ溶出スルモノヲ製造シ或ハ修繕ス
ル事ヲ得ズ

第五條 營業者ハ哺乳器具ヲ鉛又ハ亞鉛ヲ含ム護膜ヲ以テ
製造スル事ヲ得ズ

第六條 銅又ハ其ノ合金ヲ以テ製造シ又ハ修繕シタル飲食

用器具ニシテ飲食物ニ接觸スル部分ノ鍍金屬ノ剝脫シタ
ル物又ハ固有ノ光澤ヲ有セザルモノハ使用スル事ヲ得ズ

第七條 營業者ハ其ノ製造又ハ輸入スル金屬性飲食物器具
ニ極印其ノ他容易ニ剝脫セザル方法ヲ以テ商號其ノ他ノ
符號ヲ附シ識別ニ資スベシ

前項商號或ハ符號ナキ物ハ之ヲ販賣シ或ハ販賣ノ目的ヲ
以テ貯藏若ハ陳列シ又ハ營業ニ使用スル事ヲ得ズ

第八條 第二條乃至第五條ニ違背シテ製造若ハ修繕シタル
飲食物用器具ハ之ヲ販賣シ又ハ販賣ノ目的ヲ以テ貯藏若
ハ陳列シ及營業上使用スル事ヲ得ズ

第九條 該管官署ハ第二條乃至第七條ニ違背シテ製造又ハ
修繕シタル飲食物用器具若ハ之ヲ使用シタル飲食物ニ關
シテハ飲食物及其ノ用品取締條例第一條ノ規定ニ依リ之
ヲ處分スル事ヲ得本規則ニ違背シタル營業者ニ關シテモ
亦同ジ

第十條 該管官署本規則ノ執行ニ關シテハ飲食物及其ノ用
品取締條例第二條第二項ノ規定ニ依リ職權ヲ行フ事ヲ得

第十一條 第二條乃至第八條ニ違反シタル者ハ參拾元以下
ノ罰金ニ處ス

第十二條 營業者ガ未成年者又ハ禁治產者ナル時ハ本規則
ニ依リ之ニ適用スベキ罰則ハ之ヲ法定代理人ニ適用ス但

シ其ノ營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者
ニ關シテハ此ノ限りニ非ズ
代理人雇人其ノ他ノ從業者業務ニ關シ本規則ニ違背シタ
ル時ハ營業者自ラ責任ヲ負フ營業者法人ナルトキハ法人
ノ代表者ヲ以テ被告人トス

第十三條 本則施行期日及施行地方ハ衛生部ノ部令ヲ以テ
之ヲ定ム

飲食物及其用品取締條例

(民國十七年十月二十日
部令公布)

第一條 販賣ニ供スル飲食物又ハ販賣ニ供シ若ハ營業上ニ
使用スル飲食物、割烹具及其ノ他ノ物品ニシテ衛生上危
害ヲ生ズルノ虞アルモノハ該管官署ニ於テ其ノ製造採取

販賣授與若ハ使用ヲ禁止シ若クハ停止スル事ヲ得前項ノ
場合ニ於テ該管官署ハ物品ノ所有者若ハ所持者ヲシテ物
品ヲ廢棄セシメ又ハ直接ニ之ヲ廢棄シ其ノ他必要ノ處分
ヲ爲ス事ヲ得但シ所有者若ハ所持者ニ於テ衛生上危險ヲ
生ズルノ虞ナキ方法ニ依リ之ヲ處置セム事ヲ請フトキハ
之ヲ許可スルコトヲ得

第二條 前條ノ物品ヲ検査スル時ハ理化學或ハ細菌學上試

驗ヲ行ヒ其ノ結果ヲ以テ判斷シ検査吏員ヲシテ普通營業
時間ニ營業場所ニ立入ラシメ其ノ物品ノ一部ヲ試驗ニ供
スル爲メ無償ニテ除去セシムルコトヲ得但シ此ノ場合ハ
受領證ヲ交付スベシ

第三條 検査吏員職權ヲ執行スルトキ制服ヲ着用シ且ツ檢
査證書ヲ携帯スベシ
證書ノ様式左ノ如シ

某地方 某官署
飲食物及其用品検査員之證
中華民國 印署 年 月 日

第四條 營業者検査員ノ命ヲ受ケ指定ノ期間内ニ之ヲ履行
セザル者ハ二十元以下ノ罰金ニ處ス之ヲ抗拒シタル者ハ
法院ニ於テ一箇月以下ノ拘役ニ處シ十元以下ノ罰金ヲ併
科ス

第五條 検査員本條例ノ執行ニ關シ不正ノ所爲ヲ爲シタル
者ハ瀆職罪ヲ構成シ刑法ニ依リ處斷サルル外法院ニ送リ
六月以下ノ徒刑ニ處シ四十元以下ノ罰金ヲ併科ス

第六條 本條例施行期日及施行地方ハ衛生部ノ部令ヲ以テ之ヲ定ム

飲食營業衛生取締規則

(前奉天市政公署)

- 一 凡ソ飲食營業ノ一切ノ食品ハ皆清潔ニ洗滌シガラス箱若クハ網ヲ以テ之レヲ覆フベシ
- 二 凡ソ一切ノ飲食原料品ハ氷箱(冷蔵庫ニ)貯藏スベシ普通室内及露天ニ陳列スルコトヲ得ズ
- 三 凡ソ麥粉ヲ以テ飲食業トスル小飲食店ハ其ノ製出シタル食品ヲガラス箱若クハ網ヲ以テ覆フベシ之レヲ室外露出陳列スルコトヲ得ズ
- 四 凡ソ一切ノ飲食營業者ハ其室内ニハ蠅取器及網戸ヲ備フベシ
- 五 凡ソ飲食營業者ハ痰壺及便所ヲ備フベシ但シ便所ハ炊事場ト連接スルコトヲ得ズ且ツ常ニ石油乳劑又ハ石炭酸等ノ殺菌藥品ヲ注入スベシ
- 六 露天飲食營業者ハ其ノ一切ノ食物ヲガラス箱若クハ網ヲ以テ覆フベシ然ラザレバ營業ヲ許サズ
- 七 凡ソ一切ノ毒ヲ有スル色素ハ飲食物ノ原料ニ供スルコトヲ得ズ

- 八 凡ソ飲食營業ニ使用スル布ハ蒸氣ヲ以テ消毒シタル後ニ使用スベシ但シ蒸氣消毒器中ノ水ヲ常ニ取換フベシ且該消毒器ヲ以テ他ノ用途ニ供スルコトヲ得ズ
- 九 飲食營業者ハ炊事場食堂等ニハ絕對ニ蠅類ヲ存在セシムルコトヲ得ズ
- 十 前各項ノ一ニ違反シタルモノハ十元以下二元以上罰金ニ處ス違反者三回連續シテ改悛セザルモノハ其ノ營業ヲ停止スルコトヲ得
- 十一 本規則ハ公布後五日ヨリ之ヲ施行ス

清涼飲料水營業取締規則

(十七年十月二十日) 部令公布

- 第一條 本規則ニ於テ清涼飲料水ト稱スルハ販賣ノ用ニ供スル「サイダー」果實水、曹達水及其ノ他炭酸含有ノ飲料水ヲ謂フ
- 清涼飲料水營業者ト稱スルハ清涼飲料水ノ製造(清涼飲料水ニ供スル鑛泉ノ汲取ヲ含ム)或ハ販賣ヲ營業ト爲ス者ヲ謂フ
- 第二條 清涼飲料水製造ノ營業ヲ爲サムトスル者ハ該管官署ノ認可ヲ受クベシ

第三條 清涼飲料水營業者ハ飲料水接觸スル部分ヲ銅或ハ鉛及其ノ合金ニテ製シタル調製器容器又ハ量器ヲ使用スルコトヲ得ズ但シ鍍錫其ノ他衛生上有害ノ虞ナキ方法ヲ施シタルモノハ此ノ限ニ非ズ

第四條 清涼飲料水ノ製造或ハ貯藏ニ有害性色素有害性芳香質或ハ防腐劑ヲ使用スルコトヲ得ズ

第五條 清涼飲料水營業者ハ左記清涼飲料水ヲ販賣シ又ハ販賣ノ目的ヲ以テ陳列シ若クハ貯藏スルコトヲ得ズ

- 一 水質ノ濁濁又ハ變敗シタルモノ
 - 二 沈澱物又ハ固形ノ介雜物アルモノ
 - 三 鹽酸、硫酸、硝酸及其ノ他遊離鑛酸ヲ含有スルモノ
 - 四 砒素、鉛、亞鉛、銅、錫、アンチモニーヲ含有スルモノ
 - 五 有毒性色素有害性芳香質或ハ防腐劑ヲ含スルモノ
- 果實汁及飲用ニ供スル類似製品ハ前項一二兩號規定適用ニ關シテ其ノ原料タル植物ノ組織及成分ニ基因セシモノハ之ヲ適用セズ但シ變敗シタルモノハ此ノ限ニアラズ

第六條 清涼飲料水製造者ハ其ノ氏名、會社名、營業所ノ所在地並ニ製造年月日ヲ容器ノ封緘紙上ニ明記スベシ色素ヲ含有スル清涼飲料水製造者又ハ輸入者ハ其ノ容器

ニ人工着色ノ文字ヲ明記スベシ

第七條 清涼飲料水營業者ハ清涼飲料水ノ調製器、容器、量器及製造或ハ處理ノ場所其ノ他清涼飲料水ヲ取扱フ場所ヲ清潔ニ保持スベシ

第八條 清涼飲料水營業者ハ結核、癩病、微毒、及傳染病ニ罹レル者ヲシテ清涼飲料水ノ調製ヲ爲サシメ又ハ其ノ製造場所ニ出入セシムルコトヲ得ズ

第九條 該管官署ハ第三條ノ器具第五條ノ清涼飲料水ニ關シテハ飲食物及其ノ用品取締條例第一條ノ規定ニ依リ之ヲ處分ス

本規則ニ違反スル營業者亦同ジ

第十條 該管官署ハ本規則ノ執行ニ際シ飲食物及其ノ用品取締條例第二條第二項ノ規定ニ依リ其ノ職權ヲ行フコトヲ得

第十一條 清涼飲料水營業者貼用封緘紙ニ虛偽ノ記載ヲ爲シ或ハ之ヲ改竄シタル者若ハ人ヲシテ虛偽記載ノ封緘ヲ貼用シ又ハ改竄セシメタル者ハ二十日以下ノ拘留ニ處ス

第十二條 左記各號ノ一ニ該當スル者ハ二十圓以下ノ罰金ニ處ス

- 一 第二條ノ認可ヲ受ケズシテ營業ヲ爲シタル者
- 二 第三條乃至第五條ニ違反シタル者

第十三條 第六條乃至第八條ニ違反シタル者ハ十元以下ノ罰金ニ處ス

第十四條 清涼飲料水營業者未成年者又ハ禁治産者ナルトキハ本則所定ノ罰則ハ法定代理人ニ適用ス但シ其ノ營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

清涼飲料水營業者ハ其ノ代理人、雇人其ノ他従業者ニシテ其ノ業務ニ關シ罰則ニ觸犯シタル行爲アリタルトキハ營業者其ノ責ヲ負フ營業主法人ナルトキハ法人ノ代表者ヲ以テ被告人トス

第十五條 本規則ノ施行期日及施行地方ハ衛生部部令ヲ以テ之ヲ定ム

各種飲料水營業取締規則

(前警務處)

第一條 本規則ニ於テ各種飲料水營業ト稱スルハ即チサイター水、果實水其他ノ炭酸ヲ含有スル飲料水類ヲ製造及販賣ヲ營業ト爲スモノヲ謂フ

第二條 各種飲料水ノ製造營業者ハ其ノ業務開始前ニ警察官署ノ派遣員ニ製造場ノ構造及用水検査ヲ受ケ更ニ營業取締規則ニ依リ處理スベシ

第八條 各種飲料水ノ製造者ハ其ノ氏名製造場屋號及場所ヲ商標ニ記載シ容器(瓶)ノ上ニ封緘(貼付)スベシ

第九條 飲料水製造用ノ各種器具ハ清潔ニ洗滌シ其ノ工場内モ亦清潔ニ掃除シ以テ空氣ノ流通ニ留意スベシ

アイスクリーム及清涼飲料水ノ取締規則

(前警務處)

第一條 アイスクリームノ製造者ハ清涼飲料水ノ販賣者ハ行商、露天營業ヲ問ハズ警察官署ノ検査及許可證ヲ受ケザルモノハ營業スルコトヲ得ズ

第二條 アイスクリーム及一切ノ清涼飲料水、水ノ製造販賣用ノ器物ハ常ニ沸騰シタル湯ヲ以テ清潔ニ洗滌シ且ツ網ヲ以テ覆ヒ若ハガラス箱ノ中ニ置クベシ

第三條 アイスクリーム若ハ各種飲料水ヲ製造セントスルトキハ熱水(水ヲ一度沸騰シタルモノ)使用スベシ

第四條 各種飲料水ヲ製造ヤントスルトキハ毒質ヲ含有スル香料又ハ汚液其他不潔ナル水水ヲ使用スルコトヲ得ズ

第五條 梅毒、精神病、肺病及其他ノ傳染病者ハ清涼飲料水ノ營業ヲ爲スコトヲ禁ズ

第六條 アイスクリームヲ販賣スル時間ハ午前十時後ニ爲

第三條 各種飲料水製造用ノ機械ハ輕微ナル破損故障ニ依リ爆裂スル虞アルヲ以テ常ニ注意シ完全ナル修理ヲ施シ置クベシ水ヲ瓶ニ裝入スル時ニハ瓶ノ周圍ニハ金網等ノ物ヲ以テ圍ミ爆裂ノ危険ヲ防グベシ

第四條 各種飲料水ノ爲ニ使用スル網製器容量器等ハ銅亞鉛製ノモノヲ使用スルコトヲ得ズ但シ錫ヲ塗リ附ケテ衛生上ニ害ナキモノハ此ノ限リニ在ラズ

第五條 所用スベキ水ハ清潔若ハ新鮮ナル蒸溜水ヲ以テ使用スベシ

第六條 各種飲料水ノ製造及貯藏ノ爲ニ衛生上有害ナル色素、香料及防腐劑ヲ使用スルコトヲ得ズ

第七條 各種飲料水營業ヲ爲サントスルモノハ左記各號ノ飲料水ヲ販賣シ又ハ販賣ノ目的ヲ以テ之レヲ陳列スルコトヲ得ズ

- 一 水質ノ濁濁又ハ變敗シタルモノ
- 二 沈澱物有ルモノ
- 三 鹽酸、硫酸、硝酸及礦酸ヲ含有シタルモノ
- 四 砒素、鉛、亞鉛、錫、各質ヲ含有シタルモノ
- 五 毒質ノ色素ヲ含有シタルモノ
- 六 毒質ノ香料ヲ含有シタルモノ
- 七 毒質ノ防腐劑ヲ含有シタルモノ

スコトヲ要ス但シ曇若クハ雨天ノ時ハ販賣スルコトヲ禁ズ

第七條 アイスクリーム及清涼飲料水ヲ販賣スルモノハ常ニ入浴スベシ衣服ハ清潔ナルヲ要シ且鬘髮ヲ蓄長スルコトヲ得ズ

第八條 清涼飲料水貯藏用ノコップ皿等ハガラス製ノモノヲ使用シ柄杓ハ白銅製ヲ使用シ鏽(サビ)ノ着キ易キ鐵製柄杓ハ之ヲ使用スルコトヲ禁ズ

第九條 コップ及柄杓ノ入レル器具内ニハ清潔ナル水ヲ注入シ以テ隨時ニ洗滌スルコトヲ要ス

第十條 白布一枚ヲ準備シ専ラコップ柄杓等ノ手入ニ使用シ他ニ使用スルコトヲ禁ズ

第十一條 露天營業者ハ日覆ヲ作ツテ内部ニ卓ト腰掛ヲ設ケテ營業セントスルモノハ交通上妨ゲナキ清潔ナル路傍ノ場所ニ於テ警察署ノ指定シタル場所ニ於テ營業スルコトヲ得

第十二條 本規則ヲ違反シタルモノハ違警罰法ニ依リ處罰ス

第十三條 本規則ハ公布ノ日ヨリ之レヲ施行ス

果物屋清潔取締規則 (前省會公安局)

- 一 腐敗若ハ未熟ノ果實ヲ販賣スルコトヲ得ズ
- 二 毒質ヲ有スル色素ヲ塗附シタル糖菓(果物ヲ以テ砂糖ヲ漬ケタルモノノ類)及甘水(砂糖若ハ蜂ノ蜜ヲ以テ製造シタル汁ノ類)等ノモノヲ販賣スルコトヲ得ズ
- 三 警察官署ノ検査及許可ヲ受ケザルモノハ擅ニ各種酒類ヲ販賣スルコトヲ得ズ
- 四 生水若ハ不潔ナル水ヲ以テ製造シタルアイスクリームヲ販賣スルコトヲ得ズ
- 五 凡ソ果物ノ類ヲ販賣セントスルモノハ必ず網覆ヲ備フベシ以テ塵埃、蚊、蠅、等ノモノノ落着ヲ豫防セシムル様注意スベシ
- 六 糖菓類ノモノハガラス箱若ハガラス瓶内ニ装置スベシ
- 七 凡ソ刀(果物ノ皮脱キ用ノ刀)柄勺(アイスクリーム用ノ柄勺)等ハ毎日早朝ニ必ず沸騰シタル湯ヲ以テ一度煮ルベシ以テ錆ノ付カザル様其ノ清潔ヲ保ツベシ
- 八 天候炎暑ノ際ニハ大ナル氷箱ヲ準備スベシ以テ室内ノ清涼ヲ保持スルト共ニ果物腐敗ノ虞ヲ防グベシ
- 九 食品ヲ置ク場所ニハ痰壺ヲ設備シ以テ痰ヲ痰壺以外ノ箇所ニ吐キ又ハ其ノ他不潔ナルモノヲ放置スルガ如キ行

爲アルベカラズ
十 蚊蠅鼠等ノ捕殺ヲ勵行シ以テ傳染病ノ發生ヲ防グベシ

瓜(西瓜、マクハ瓜等ヲ含ム)果

(果物)取締規則 (前警務處)

- 第一條 凡ソ瓜、果(果物)ノ營業ヲ爲サントスルモノハ(商店、行商ヲ問ハズ皆之ニ屬ス)普通營業規則ヲ遵守スルノ外本規定ニ據ルベシ
- 第二條 凡ソ果物販賣ヲ業トスルモノハ盤(果物陳列用ノ容器)籠トヲ問ハズ已ニ一度陳列後ハ常ニ手ヲ以テ摩擦スルコトヲ得ズ以テ微菌ノ傳染ヲ防グベシ
- 第三條 凡ソ未熟ノ果物ハ之レヲ販賣スルコトヲ得ズ
- 第四條 凡ソ果物ニシテ腐敗シタル爲食用ニ堪ヘザルモノハ速ニ之レヲ拋棄スベシ安價ヲ以テ販賣スルコトヲ得ズ
- 第五條 繁華ナル市街ニ於テ西瓜ヲ切開シテ販賣スルモノハ必ずガラス箱若ハ網覆ヲ付スベシ其他ノ果物屋ニ對シテ亦同ジ
- 第六條 地方ニ疫病發生シタル爲メ販賣禁止ノ佈告アリタル時ニ於テハ直ニ遵守スベシ私ニ之ヲ販賣スルコトヲ得ズ

第七條 如何ナル果物ト雖モ一律ニ網張ヲ以テ覆フベシ以テ常ニ蠅蠅埃等ヲ附着セシムベカラズ

第八條 瓜(マクハ瓜、西瓜)ヲ販賣スルモノハ瓜ノ實、瓜ノ皮、ヲ貯藏スル爲メ特ニ器具ヲ備フベシ擅ニ之レヲ拋棄スルコトヲ得ズ

第九條 本規則ニ違背シタルモノハ違警罰法ニ依リ處罰ス

第十條 取締上本規則各條ニヨリ尙不充分ナル時ハ更ニ追加改正スルモノトス

豆腐屋素麵屋取締規則

(前警務處)

第一條 豆腐屋素麵屋ノ營業ヲ爲サントスルモノハ普通營業取締規則ヲ遵守スルノ外本規則ノ規定ニ依ルベシ

第二條 營業人及店員職人ハ辦髮ノ存留竝爪ヲ蓄長スルコトヲ得ズ衣服ハ常ニ清潔ニ保持スベシ

第三條 白道(豆汁ヲ製造スルトキニ馬ヲ利用シテ臼ヲ挽カス馬ハ圓イ白線リヲグルグル廻ル其ノ迴ル道ヲ

「白道」ト謂フ)ハ竈及豆汁貯藏用ノ容器ト距離ヲ遠隔スベシ以テ糞便塵埃等ノ落着ヲ防グベシ但シ人工臼ハ此ノ限リニ在ラズ

第四條 白道ハ常ニ家畜ノ糞便ヲ掃除スベシ之ヲ遺積スコ

トヲ得ズ

第五條 竈及豆汁ノ容器豆腐入ノ木盤素麵入ノ布包等ノ物ハ常ニ洗濯シ清潔ヲ保持スベシ其ノ乾燥場所モ亦清潔ヲ保持スベシ

第六條 製造完成ノ豆腐及素麵類ハ販賣目的ヲ以テ持出す時ニハ必ず清潔ナル木盤ヲ設備シ適切ナル蓋ヲ置キ木ノ板若ハガラス製ノモノヲ以テ嚴密ニ覆蓋スベシ尙蓋ノ上ニ屋號ヲ明記スベシ

第七條 豆ヲ煮又ハ洗濯スル場合ハ必ず清潔ナル水ヲ使用スベシ又水入ノ容器ハ常ニ洗濯スベシ

第八條 豆腐及素麵屋ハ必ず汚水容器ヲ設置シ置キ隨時流通完全ナル溝下水ニ投棄スベシ道路若ハ其ノ附近ノ人家稠密ノ場所ニ於テハ投棄スルコトヲ得ズ但シ僻地ニ運ビタル上投棄スルハ此ノ限ニ非ラズ

第九條 豆腐屋及素麵屋ニ於テ豚ヲ飼養セントスルトキハ廣大ナル院落(庭)ヲ有スルモノニ非ラザレバ飼場ヲ設置スルコトヲ得ズ家屋ト連接スル場所ニ豚若ハ其他ノ家畜ノ飼場ヲ設置スルコトヲ禁ズ

第十條 凡テ家畜飼養場、飼豚場ハ常ニ清潔ニ掃除ヲ爲シ糞便ヲ推積スルコトヲ得ズ家畜及豚ヲ院内(庭)ニ散牧爲スベカラズ

- 第十一條 屋内ノ電燈等ノ器具及院内(庭)ノ家畜飼養場、飼豚場、便所等ハ悉ク主人ニ於テ監視シ常ニ清掃シ且其ノ責ヲ負フベシ
- 第十二條 凡ソ豆腐、素麵、製造用ノ器具ハ別途ニ使用スルコトヲ禁ズ
- 第十三條 本規則ニ違反シタルモノハ違警罰法ニ依リ處罰ス
- 第十四條 本規則ハ公布ノ日ヨリ之ヲ實行ス

飴營業ノ取締規則

(前省警務處)

- 第一條 飴營業ヲ爲サントスルモノハ普通營業規則ヲ遵守スル外ニ本規則ノ規定ニ據ルベシ
- 第二條 飴製造用ノ水ハ必ず水道ノ水ヲ使用スベシ井戸水ヲ使用スル時ハ先ヅ沸騰シタル上砂ヲ以テ一度以上ノ濾過ヲ爲スベシ
- 第三條 飴ヲ製造スルトキハ毒質含有スル色素、香料ヲ使用スルコトヲ得ズ
- 第四條 著色ノ飴ヲ製造スルトキハ必ず新鮮ナル果汁ヲ使用スベシ其ノ色素外國ヨリ購入シタルモノハ該色素製造場ハ必ず其ノ政府ノ許可ヲ經テ專ラ飴ノ製造用ニ供スルモノニ限り之レヲ使用スルコトヲ得

- 第二條 菓子製造所ハ必ず大小便所糞芥置場及下水溝等ノ場所ト遠隔スベシ
- 第三條 凡ソ製造所内ニハ汚水容器糞芥物ヲ放置スルコトヲ得ズ
- 第四條 製造所ノ麵案(菓子製造用ノ道具即チ木板デコシラヘタモノ)及其他ノ用具ハ毎日曹達水ヲ以テ洗滌スベシ且ツ汚物ヲ附着スルコトヲ得ズ
- 第五條 凡ソ製造所内ニハ寢室ヲ造ルコトヲ得ズ
- 第六條 製造所内ニハ啖壺蠅取器網戸ヲ備フベシ
- 第七條 製造所内ハ石油乳劑石炭酸等ノ殺菌藥品ヲ以テ常ニ消毒スベシ
- 第八條 菓子製造用原料ハ必ず新鮮ナルモノヲ以テ製造スベシ腐敗物ノ含有スルコトヲ得ズ又毒質ヲ有スル色素ヲ使用スルコトヲ得ズ
- 第九條 凡ソ既成シタル菓子ニシテ品質已ニ腐敗シタルモノハ販賣スルコトヲ禁ズ更ニ其ノ原料ヲ以テ之レヲ製造スルコトヲ得ズ
- 第十條 凡ソ前各條ノ一ニ違反シタルモノハ奉大洋五元以上百元以下ノ罰金ニ處ス連續シテ三回違反シ尙且改悛セザルモノハ其ノ營業ヲ停止スルコトヲ得
- 第十一條 本規則ハ公布ノ日ヨリ之レヲ施行ス

菓子製造所取締規則

(前奉天市政公署)

- 第五條 飴製造用ノ各種器具ハ清潔ニ洗滌スベシ其工場内ハ常ニ掃除シ且ツ空氣ヲ流通セシムベシ製飴職工ハ頭髮ノ髒髮ヲ存留シ竝ニ爪ヲ蓄長スルコトヲ得ズ其着衣ハ尤モ清潔ナルヲ要スベシ
- 第六條 製飴原料ハ必ず適當ナル器具ヲ以テ貯藏スベシ其ノ製出品ハ一層注意ヲ要ス且蓋ヲ以テ覆フベシ任意ニ木盤(蓋ナキ飴ノ容器)ノ中ニ放置シ擅ニ蠅塵埃等ヲ落着セシムルガ如キ狀況ニアルヲ禁ズ
- 第七條 凡ソ飴製造場ハ肺病精神病其他傳染病ニ罹リタルモノヲ僱入レ工場内ノ工作ヲ爲サシムルコトヲ得ズ
- 第八條 本規則ニ違反シタルモノハ違警罰法(警察犯處罰規則)ニ依リ處罰ス
- 第九條 凡ソ蒸食(饅頭類ノ蒸シタモノ類)油餠(菓子類ノ天婦羅ニシタルモノノ類)ノ營業ノ取締ニ對シテハ本規則ヲ準用ス
- 第十條 本規則ハ公布ノ日ヨリ之レヲ施行ス

屠宰場規則

(十七年八月十九日公布)

- 第一條 本規則ニ於テ屠宰場ト稱スルハ食用ニ供スル目的ヲ以テ獸畜ヲ屠殺スル場所ヲ謂フ
- 第二條 屠宰場ヲ設立セントスル時ハ當該管轄官署ノ許可ヲ受クベシ
- 第三條 已ニ屠宰場ヲ設立シタル地方ニ於テハ屠場以外ノ場所ニテ屠畜ヲ私殺スル事ヲ得ズ但シ自家用其ノ他特別ノ事情アル場合ニハ此ノ限りニ非ズ
- 第四條 屠宰場ニ於テハ屠畜検査員ノ検査ヲ經ルニ非ザレバ屠殺ヲ執行スルコトヲ得ズ
- 第五條 肉及内臟竝ニ其ノ他食用ニ供スル部分ハ屠畜検査員ノ検査ヲ經ルニ非ザレバ屠宰場外ニ搬出又ハ製造ノ用ニ供シ或ハ之ヲ貯藏スル事ヲ得ズ
- 第六條 屠宰場ニハ屠畜検査ノ爲必要ナル設備ヲ爲スベシ
- 第七條 各地方ニ於テ公立屠羊場ヲ設立スルトキハ當該管轄官署ハ必要ト認ムル地域内ニ於ケル私設屠羊場ノ廢止ヲ命ズル事ヲ得
- 第八條 公立屠宰場ヲ設立スル各地方ハ廢止ヲ命ゼラレタル私設屠宰場主ニ對シテ屠宰場ノ使用廢止ノ爲受クベキ損失ヲ補償スベシ

前項ニ依リ補償スベキ金額ハ協議ニ依リ之ヲ定ム協議調
ハザルトキハ當該管轄官署ハ鑑定人ノ意見ヲ懲シテ之ヲ
決定ス此ノ決定ニ不服アルモノハ法ニ依ツテ訴願スルコ
トヲ得

第八條 衛生部ハ必要ト認ムルトキハ公立屠宰場ノ設置ヲ
各地方ニ命ズルコトヲ得

第九條 各地方ノ公立屠宰場ハ當該管轄官署ノ許可ヲ經ル
ニ非ザレバ之ヲ廢止スルコトヲ得ズ

第十條 地方ノ公立屠宰場ノ用地ニ必要ナル國有ノ土地ハ
之ヲ其ノ地方ニ讓與シ又ハ無償ニテ使用セシムルコトヲ
得

第十一條 當該管轄官署衛生上危害ヲ生ジ其ノ他公益ヲ害
スルノ虞アリト認ムルトキハ屠宰場ノ廢止ヲ命ジ又ハ其
ノ使用ヲ停止スルコトヲ得

第十二條 該管官署ハ必要ト認ムルトキハ屠宰場ノ設備ノ
變更ヲ命ズルコトヲ得

第十三條 第三條、第四條ニ違反シタル者又ハ第十一條ノ
停止命令ニ違反シタル者ハ參百元以下ノ罰金ニ處ス

第十四條 屠宰營業主ガ未成年者或ハ禁治產者ナルトキハ
本規則所定ノ罰則ハ之ヲ法定代理人ニ適用ス但シ其ノ營
業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ

人ニ許可スル時ハ一定ノ期限ヲ附スル事ヲ要ス

第二條 當該管轄官署ノ許可ヲ受クルニ非ザレバ屠宰場主
ノ名義ヲ變更スル事ヲ得ズ

第三條 左記各號ノ場合ハ屠宰場規則第三條ノ制限ヲ受ケ
ザル事ヲ得

- 一 獸肉販賣者旅店飲食店ニ非ズシテ屠畜ヲ自家用ニ供
スル場合
- 二 救治スベカラザル重傷ヲ負ヘル獸畜或ハ切迫屠殺ヲ
必要トスル場合
- 三 航行スル船舶内ニ於テ船客船員ノ食用ニ供スル場合
- 四 前各號ノ外土地ノ狀況ニヨリ當該管轄官署ノ認可シ
タル場合

第四條 屠宰場ノ位置ハ給水竝ニ排水ニ便ニシテ學校病院
公園水道、水源ヨリ一里以上ノ距離アルヲ要ス

第五條 屠宰場ノ構造及設備ハ左記各號ニ依リ之ヲ定ム

- 一 屠場ノ周圍ニハ六尺以上ノ内部ヲ見透シ得ザル塙塀
ヲ設クベシ
- 二 屠宰場内ニハ繋留所、生體檢査所、屠宰室、檢査室
血液溜、汚水溜、汚物溜、消毒所、廢物場ヲ分設シ併
セテ隔離所ノ附設ヲ爲スベシ
- 三 繋留所ハ地盤ヲ石又ハ煉瓦ニテ構成シ後方ニ汚水溝

此ノ限ニ非ズ

第十五條 屠宰營業主ノ代理人、家族、使用人、及其ノ他
ノ從業者ニシテ其ノ業務ニ關シ本規則又ハ本規則ニ基キ
テ發スル命令ニ違反シタル時ハ自己ノ指揮ニ出デザルノ
故ヲ以テ處罰ヲ免カルコトヲ得ズ

第十六條 法人ノ代表者使用人及其ノ他ノ從業者法人ノ業
務ニ關シ本規則又ハ本規則ニ基キテ發スル命令ニ違反シ
タルトキハ其ノ法人ヲ懲罰ス
法人ヲ懲罰スルトキハ法人ノ代表者ヲ以テ被告人ト爲ス

附 則

第十七條 本規則施行後各特別市、普通市ハ公立屠宰場ヲ
設立スベシ其ノ成立期間ハ遲クトモ二箇年ヲ越ユル事ヲ
得ズ

第十八條 本規則ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

屠宰場規則施行細則

(十七年八月十五日)
部 令 公 布

第一條 屠宰場規則第二條ノ規定ニ依リ屠宰場ノ設立ヲ私

ヲ設ケ内ヲ若干部ニ劃分シ每部ニ大小ヲ作り一頭ノ獸
畜ヲ繋留スルニ適合スル様ニ構成シ列ヲ設ケテ番號數
ヲ附スベシ

四 生體檢査所ハ地盤ヲ石或ハ煉瓦ニテ構成シ體量器體
長表及獸體保持ニ關スル設備ヲ爲スベシ

五 屠宰室ハ獸類ノ種類ニ依リ數部ニ區劃シ(病畜屠室
ハ別ニ置ク)血液、汚水排除溝ヲ附置シ内藏取扱室、
外皮取扱室、獸肉貯藏室ニ區劃シ各室ノ地盤ハ石又ハ
不透滲質ノ材料ヲ以テ構成シ内壁ニハ石又ハ煉瓦造リ
ノ場合ヲ除ク金屬又ハ石板ヲ以テ四尺以上ノ腰張ヲナ
シ、採光換氣ノ爲メ窓ヲ設ケ内藏檢査台、屠肉懸掛器
屠肉計量器、用水壺洗具洗料及其ノ他ノ消毒上必要ナル
装置ヲ備フベシ

六 檢査室ニハ顯微鏡檢血器其ノ他ノ檢査ニ必要ナル器
具藥品ヲ備フベシ

七 血液溜、汚水溜、汚物溜ハ屠宰室ヨリ二丈以上ノ距
離ヲ有シ不透滲質ノ材料ヲ以テ築造シ其ノ周圍ハ地盤
ヨリ五寸以上ノ高サトシ且ツ雨水ヲ防グベキ装置ヲナ
スベシ

八 消毒所及廢棄所ハ場内適宜ナル一隅ニ之ヲ備ヘ消毒
所ハ消毒上必要ナル装置ヲ備ヘ廢棄所ハ不透滲質ノ材

料ヲ以テ築造シ竝ニ適當ナル復蓋ヲ設クベシ
九 隔離所ノ周圍ニ塙塙ヲ設ケ其ノ地盤及糞溺池及排水溝ハ石或ハ不透透質ノ材料ヲ以テ築造シ所内ニハ飼料器具消毒藥品ヲ備フベシ

第六條 前條各號ノ構造設備ハ土地ノ狀況ニ應ジ當該管轄官署ノ認可ヲ經テ之ヲ斟酌處理スル事ヲ得

第七條 屠宰場ノ新築改築及變更等ニ際シテ工事竣工後該管轄官署ノ検査ヲ受ルクニ非ザレバ使用スル事ヲ得ズ

第八條 屠宰場ハ常ニ清潔ナラシムベク繋留所、屠宰室、生體検査所及業務上使用スル器具ハ屠宰終了後之ヲ洗滌シ血液汚物及汚水ハ検査員ノ指揮ニ從ヒ之ヲ適當ニ處置スベシ

第九條 海外ヨリ輸入シタル獸畜ヲ検査ノ期間内ニ屠宰スル時ハ其ノ屠宰室、繋留所及業務上使用スル物品、生皮内臓、血液、盲腸ノ内容物其ノ外検査員ニ必要ト認ムル場所、物件ハ其ノ指示ニ從ヒ消毒ヲ施行スベシ

第十條 屠宰場營業主ハ屠宰場使用費、屠殺解體費及隔離所使用費ハ屠畜ノ種類ニ依テ其ノ額ヲ定メ當該官轄官署ノ認可ヲ呈請スベシ定額ヲ變更スル時亦同ジ

第十一條 屠宰場營業者ハ定額以外ノ費用ヲ收受シ又ハ正當ノ事由無クシテ屠場ノ請求及屠殺解體ヲ拒ム事ヲ得ズ

第十八條 本細則ハ公布ノ日ヨリ施行ス

屠殺業ノ取締規則

(前省警務處)

第一條 凡ソ屠殺獸肉販賣營業者ハ普通營業規則ヲ遵守スルノ外本規則各條ノ規定ヲ遵守スベシ

第二條 凡ソ獸肉屠殺販賣營業者ハ(主人番頭ヲ問ハズ)營業開始前ニ警察官署指定シタル醫師ノ診斷ヲ受ケ梅毒肺病、癩病、及トラホーム等ノ傳染病無キ者ニ限リ其ノ營業ヲ開始スルコトヲ得但シ本規則ノ未發布以前ニ於テ營業ヲ爲シタルモノハ更ニ補充診斷ヲ受クベシ

第三條 凡ソ獸類ヲ屠殺セントスルトキハ屠殺場設立ノ場所ニ於テハ屠殺規則ニ依リ警察廳ノ醫師ノ検査ヲ受クベシ屠殺場未設ノ場所ニ於テハ警察官署ニ申請シ検査ヲ受ケタル後ニ屠殺販賣スルコトヲ得

第四條 凡ソ屠殺ノ獸血ハ人ノ食用ニ販賣スルコトヲ得ズ以テ衛生上ノ有害ヲ防グベシ

第五條 凡ソ獸肉ノ屠殺販賣者ハ商店、行商及熟肉(肉ヲ煮テ味ヲ付ケテ販賣スルモノ)ヲ問ハズ販賣肉ノ容器ハ必ズ清潔ナル容器ヲ使用シ且ツ蓋ニテ覆フベシ以テ塵埃蠅蟲等ノ汚物ノ侵入及日光ノ射入ヲ防止スベシ

第六條 凡ソ屠殺販賣スル肉ニシテ苟モ腐敗若ハ變色シタ

第十二條 生體検査ノ際検査員ニ於テ獸畜罹病ノ爲食用ニ

供スベカラズト認メタルトキハ屠殺ヲ禁ジ獸角、前肢若ハ臀部ニ「禁」字ヲ烙印スベシ若シ傳染病ニ罹レル場合ニハ直ニ之ヲ隔離シテ病毒ニ汚染シタル場所物件ニ對シ消毒方法ヲ施行スベシ

第十三條 病畜ニシテ検査ノ生體検査ニ於テ衛生上危害ノ虞ナシト認メタル時ハ之ヲ屠殺ヲ許ス事ヲ得但シ病畜屠宰室ニ於テ之ヲ爲スベシ

第十四條 屠殺解體終了後検査員ハ屠肉内臓其ノ他ノ食用ニ供スル部分ニハ「検印」ヲ押捺スベシ

第十五條 食用ニ供スベカザラルモノト認メタル屠肉内臓其ノ他ノ部分ニ對シテハ之ヲ廢棄若クハ焼却ヲ命ジ又ハ用途ヲ限り之ヲ使用ヲ許可スル事ヲ得

第十六條 屠宰場營業者及其ノ他使用人ハ若シ結核、微毒癩病又ハ傳染性皮膚病ニ罹ル時ハ屠殺ノ業務ヲ執行スル事ヲ得ズ屠殺方法ヲ熟練セザル者ハ屠殺ヲ以テ業務ト爲ス事ヲ得ズ

第十七條 本細則及本規則ニ基キテ爲シタル處分ニ違反シタル者ハ銀二百元以下ノ罰金ニ處ス

ルモノアル場合ハ速カニ棄捨ノ上埋沒スベシ利慾ノ爲メ之ヲ販賣スルコトヲ得ズ

第七條 天候炎暑ノ際ニ氷ヲ以テ肉類ヲ防腐スルトキニハ必ズ冷蔵庫ヲ清潔ニ洗滌スベシ但シ汚水ヲ洗滌スベカラズ

第八條 凡ソ屠殺業者ノ屠殺スルトキニハ清潔ナル衣服ヲ着用スベシ

第九條 凡ソ獸肉屠殺販賣營業者ハ其ノ商店内ノ掃除ヲ常ニ清潔ニ爲スベシ

第十條 私カニ獸肉ヲ屠殺シ竝ニ検査印ヲ偽造シタルモノハ其ノ獸肉ヲ沒收スル外偽造印信罪ヲ以テ法院ニ送致シ法律ニ依ツテ處理スベシ

第十一條 本規則第三條ニ違反シタルモノハ其ノ獸肉ヲ沒收スルノ外其ノ營業ヲ停止スルコトヲ得其ノ他各條ニ違反シタルモノハ違警ニ依リ衛生妨害ヲ以テ處罰ス

第十二條 番頭或ハ僱人本規則ノ各條ニ違反シタル場合ハ該主人ニ於テ其實ヲ負フベシ

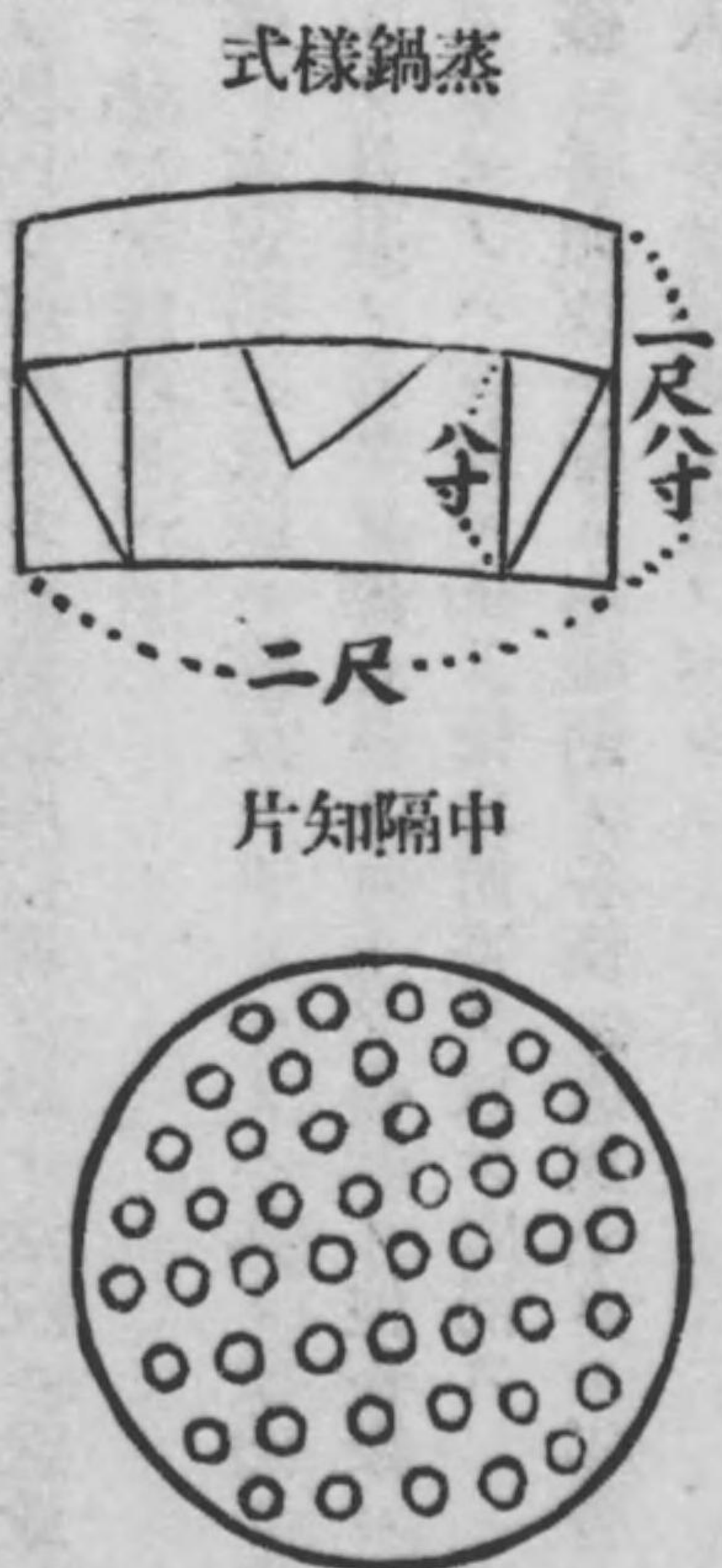
第十三條 本規則ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

公共場所手巾取締規則

(前奉天市政公署)

- 第一條 凡テ市町内ノ公衆場所ハ他ノ一般規則ヲ遵守スルノ外本規則ヲ遵守スベシ
- 第二條 客ノ試用ニ供スル手巾ハ全テ白色清潔ノモノヲ用フベシ
- 第三條 顔面ヲ拭ク手巾(ハンカチ)又ハ手拭ハ顔面以外ノ部分ヲ拭クベカラズ
- 第四條 一回使用シタル手巾ハ清潔ナル水又ハ湯ヲ以テ石鹼ヲ使用シ之ヲ洗滌シ次ニ蒸鍋内ニ入レ煮沸シタル後再使用ニ供スベシ
- 第五條 公共場所ニハ金屬製ノ蒸鍋ヲ備フベシ其ノ大小様式ハ左ノ如シ
 - 一 蒸鍋ノ高サハ一尺八寸
 - 一 蒸鍋上下底徑ハ各二尺
 - 一 蒸鍋蓋ハ鍋ノ縁ヲ覆フコト
 - 一 蒸鍋下部ニ相當ノ三脚ヲ付クルコト
 - 一 蒸鍋内部ニ鐵片ノ中隔ヲ置クコト
 - 一 蒸鍋内部ノ中隔ニ長サ八寸ノ三脚ヲ付ケルコト
 - 一 中隔ニ徑三分ノ圓孔ヲ多數ニ穿ツコト

- 一 蒸鍋下ニハ相當ノ火ヲ以テ煮沸ス(石炭、石油、酒精何レモ可)
- 一 蒸鍋内ノ水ハ中隔上ヲ越スベカラズ
- 一 蒸鍋ハ常ニ清潔ヲ保持スベシ



- 第六條 凡テ以上ノ規則ニ違反シタル場合ハ大洋五角以上ノ罰金ニ處ス
- 第七條 本規則ハ公布ノ日ヨリ施行ス

第五章 阿片

阿片法

(大同元年十一月三十日 敕令第百一十一號)

- 第一條 本法ニ於テ阿片トハ生阿片阿片煙膏及藥用阿片ヲ謂フ
- 第二條 阿片ハ之ヲ吸食スルコトヲ得ズ但シ未成年者ニ非

ザル阿片癮者ニシテ治療上必要アル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

- 第三條 阿片ノ賣下及阿片煙膏藥用阿片ノ製造ハ政府ニ於テ之ヲ行フ但シ第五條第二號及第三號ノ規定ニ依リ阿片煙膏ヲ製造スル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

- 第四條 阿片又ハ阿片吸食器具ハ之ヲ輸入シ又ハ輸出スルコトヲ得ズ但シ左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ハ此ノ限ニ在ラズ
 - 一 政府ガ阿片ヲ輸入シ又ハ輸出スルトキ
 - 二 命令ノ定ムル所ニ依リ藥用阿片賣捌人ガ藥用阿片ヲ輸出スルトキ
 - 三 命令ノ定ムル所ニ依リ阿片卸賣人カ阿片吸食器具ヲ輸入スルトキ

- 第五條 阿片又ハ阿片吸食器具ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テ命令ノ定ムル所ニ依ルノ外之ヲ製造シ賣買シ授受シ所有シ又ハ所持スルコトヲ得ズ
 - 一 阿片卸賣人ガ阿片吸食器具ヲ製造シ又ハ生阿片阿片煙膏若ハ阿片吸食器具ヲ賣買シ授受シ所有シ又ハ所持スルトキ
 - 二 阿片小賣所ガ阿片煙膏ヲ製造シ又ハ生阿片阿片煙膏若ハ阿片吸食器具ヲ賣買シ授受シ所有シ又ハ所持スル

トキ

- 三 第二條但書ノ規定ニ依ル阿片吸食者ガ阿片煙膏ヲ製造シ又ハ生阿片煙膏若ハ阿片吸食器具ヲ讓受ケ又ハ之ヲ所有シ若ハ所持スルトキ

- 四 罌粟栽培ノ許可ヲ受ケタル者ガ生阿片ヲ製造シ讓渡シ所有シ又ハ所持スルトキ
- 五 阿片收買人カ生阿片ヲ收買シ授受シ所有シ又ハ所持スルトキ
- 六 製藥者ガ生阿片又ハ藥用阿片ヲ讓受ケ又ハ之ヲ所有シ若ハ所持スルトキ
- 七 醫師醫士齒科醫師獸醫師藥劑師藥商又ハ藥用阿片賣捌人ガ藥用阿片ヲ賣買シ授受シ所有シ又ハ所持スルトキ
- 八 醫師齒科醫師又ハ獸醫師ノ處方箋ヲ以テ藥用阿片ヲ讓受ケ又ハ之ヲ所有シ若ハ所持スルトキ
- 九 前各號ノ規定ニ依リ阿片又ハ阿片吸食器具ヲ所有シ若ハ所持スル場合ニ於テ之ヲ所有シ若ハ所持スルコト能ハザルニ至リタルトキ又ハ之ヲ所有シ若ハ所持スル者ナキニ至リタルトキ本人相續人又ハ其ノ財産ヲ管理スル者ニ於テ之ヲ讓渡シ又ハ所持スルトキ

- 第六條 阿片卸賣人又ハ阿片小賣人ハ專賣公署ヨリ賣下ゲ

タル阿片煙膏ニ加工シ又ハ他物ヲ混和シテ販賣若ハ讓渡スルコトヲ得ズ

第七條 營利ノ目的ヲ以テ他人ニ阿片ヲ吸食スル場所又ハ其ノ設備ヲ供スルコトヲ得ズ但シ阿片小賣人ニシテ政府ノ許可ヲ受ケタル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

第八條 政府ノ許可ヲ受ケタルニ非ラザレバ阿片又ハ其ノ代用品製造ノ目的ヲ以テ罌粟ヲ栽培スルコトヲ得ズ

第九條 前條ノ目的ヲ以テ罌粟ノ種子ヲ賣買シ又ハ授受スルコトヲ得ズ但シ政府ノ許可ヲ受ケタル罌粟栽培者ニ販賣シ若ハ讓渡スル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

第十條 政府ノ許可ヲ受ケタル罌粟栽培者ハ其ノ生産ニ係ル生阿片ヲ政府ニ納付スベシ但シ當分ノ間政府ノ指定シタル阿片收買人ニ賣渡スコトヲ得

第十一條 民政部總長ハ阿片吸食ノ習癖ヲ矯正スル爲メ阿片吸食者ニ對シ必要ナル處分ヲ爲スコトヲ得

前項ノ處分ニ要スル費用ノ負擔ハ民政部總長ノ定ムル所ニ依ル

第十二條 政府ハ必要アリト認ムル事項ニ付第五條各號ニ掲グル者ヲシテ報告ヲ爲サシムルコトヲ得

第十三條 政府ハ必要アリト認ムルトキハ當該官吏ヲシテ

- 一 第二條但書ノ規定ニ依ル阿片吸食者ニシテ政府ノ賣下ニ係ル阿片以外ノ阿片ヲ吸食シタル者
- 二 販賣ノ目的ニ出デズシテ第四條又ハ第五條ニ違反シタル者

第十八條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ一月以下ノ拘役又ハ百元以下ノ罰金ニ處ス

- 一 第十一條ノ規定ニ依ル處分ニ從ハザル者
- 二 正當ノ理由ナク第十二條ノ規定ニ依ル報告ヲ怠リ又ハ虚偽ノ報告ヲ爲シタル者
- 三 正當ノ理由ナク第十三條ノ規定ニ依ル検査ヲ拒ミ妨ゲ若ハ忌避シ又ハ訊問ニ對シ答辯ヲ爲サズ若ハ虚偽ノ陳述ヲ爲シ其ノ他當該官吏ノ處分ニ從ハザル者

第十九條 本法ノ規定ニ違反シタル者ノ犯罪物件タル阿片罌粟又ハ阿片吸食器具ハ犯人ニ屬スルト否トヲ問ハズ之ヲ沒收ス

前項ノ物件ヲ沒收スルコト能ザハルトキハ其ノ相當價格ヲ徵收ス

第二十條 第四條第二號又ハ第三號ノ規定ニ依リ藥用阿片又ハ吸食器具ヲ輸入シ又ハ輸出スル者又ハ第五條第一號第二號若ハ第四號乃至第七號ニ掲グル者ハ其ノ代理人戶主家族雇人其ノ他ノ從業者方其ノ業務ニ關シ本法又ハ本

第五條各號ニ掲グル者ノ製造場店舖其ノ他ノ場所ニ立入り原料製造品器具機械帳簿書類其ノ他ノ物件ヲ検査シ又ハ取締上必要ナル處分ヲ爲サシムルコトヲ得

第十四條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ五年以下ノ有期徒刑又ハ五千圓以下ノ罰金ニ處ス但シ徒刑ト罰金トノ併科ヲ妨ゲズ

一 販賣ノ目的ヲ以テ阿片ニ關シ第四條又ハ第五條ノ規定ニ違反シタル者

二 第七條又ハ第八條ノ規定ニ違反シタル者

第十五條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ一年以下ノ有期徒刑又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

一 第二條ノ規定ニ違反シタル者

二 販賣ノ目的ヲ以テ阿片吸食器具ニ關シ第四條又ハ第五條ノ規定ニ違反シタル者

三 第六條又ハ第九條ノ規定ニ違反シタル者

前項第一號ノ罪ヲ犯シタル未成年者ニ對シテハ法院ハ情狀ニヨリ刑ノ言渡ヲ猶豫シテ第十一條ノ處分ニ移付スルコトヲ得

第十六條 前二條ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第十七條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ拘役又ハ二百元以下ノ罰金ニ處ス

法ニ基キテ發スル命令ニ違反シタルトキハ自己ノ指揮ニ出デザルノ故ヲ以テ處罰ヲ免ルルコトヲ得ズ

第二十一條 法人ノ代表者又ハ其ノ雇人其ノ他ノ從業者法人ノ業務ニ關シ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ違反シタルトキハ法人ノ代表者ヲ處罰ス

第二十二條 本法ノ施行期日ハ教令ヲ以テ之ヲ定ム

阿片法施行令

(大同元年十一月三十日 教令第一一二號)

第一章 阿片ノ吸食

第一條 阿片法第二條但書ノ規定ニ依ル阿片吸食者ハ管轄警察官署長ノ發給シタル證明書ヲ携帯ス可シ

第二條 阿片吸食者ハ前條ノ證明書ヲ提示スルニ非ザレバ阿片又ハ阿片吸食器具ヲ讓受クルコトヲ得ズ

第三條 阿片吸食者ハ阿片小賣人以外ノ者ヨリ阿片又ハ阿片吸食器具ヲ讓受クルコトヲ得ズ

第二章 生阿片 阿片煙膏及阿片吸食器具ノ製造及販賣

第四條 生阿片阿片煙膏又ハ阿片吸食器具ハ阿片卸賣人ニヨリ阿片小賣人ニ阿片小賣人ヨリ阿片吸食者ニ讓渡スベシ

阿片卸賣人ハ專賣公署以外ヨリ阿片ヲ讓受クルコトヲ得ズ

第五條 阿片卸賣人ハ專賣公署長阿片小賣人ハ所轄省長之ヲ指定ス

第六條 阿片卸賣人及阿片小賣人ハ指定セラレタル以外ノ場所ニ於テ營業ヲ爲スコトヲ得ズ

阿片卸賣人其ノ營業出張所ヲ設置セムトスルトキハ專賣公署長ノ許可ヲ受クベシ

第七條 阿片卸賣人阿片吸食具ヲ輸入セムトスルトキハ其ノ出荷人ノ住所氏名輸入數量及輸入徑路ヲ具シ專賣公署長ニ願出デ許可ヲ受クベシ

第八條 政府ノ賣下ニ係ル阿片煙膏ハ政府ノ指定スル價格ヲ以テ之ヲ販賣スベシ

阿片卸賣人ハ阿片煙膏ヲ開罐シテ讓渡スルコトヲ得ズ

第九條 阿片小賣人ハ第一條ノ證明書ヲ提示シタル阿片吸食者以外ニ阿片又ハ阿片吸食器具ヲ讓渡スコトヲ得ズ

第十條 製藥者ニ於テ製藥ノ爲生阿片ヲ要スルトキハ民政部總長ノ阿片購入許可書ヲ添ヘ專賣公署長又ハ同支署長ニ其ノ賣下ヲ請求スベシ

第十一條 阿片卸賣人及阿片小賣人ハ帳簿ヲ備ヘ生阿片阿片煙膏及阿片吸食器具ノ受拂ニ付其ノ種類數量價格年月

日竝ニ受拂先ヲ其ノ都度記載スベシ

阿片卸賣人及阿片小賣人ハ生阿片阿片煙膏阿片吸食器具ノ受拂ニ付其ノ前月分ヲ毎月十日迄ニ所轄省長及專賣公署長ニ報告スベシ

第三章 生阿片ノ生産及收納

第十二條 罌粟栽培ノ區域及其ノ面積ハ毎年專賣公署長之ヲ定ム

第十三條 罌粟ヲ栽培セムトスル者ハ左記事項ヲ具シ毎年所轄省長ニ願出デ許可ヲ受クベシ之ヲ變更シ又ハ栽培ヲ廢止セムトスルトキ亦同ジ

- 一 住所 氏名 生年月日
- 二 栽培ノ場所 面積

第十四條 前條ノ許可ヲ受ケタル者ハ栽培地毎ニ其ノ場所面積栽培者ノ住所氏名ヲ記載シタル標木ヲ建ツベシ

第十五條 罌粟栽培者ハ所轄省長ノ指定スル期日迄ニ其ノ生産阿片ノ數量ヲ所轄省長及專賣公署長ニ報告スベシ

第十六條 罌粟栽培者ハ其ノ生産ニ係ル生阿片ヲ專賣公署長ノ指定シタル場所ニ提出シ又ハ阿片收買人ニ賣渡スベシ

第十七條 阿片收買人ハ必要人員ヲ限り專賣公署長之ヲ指定ス

第十八條 阿片收買人ハ其ノ收買ニ係ル生阿片ヲ專賣公署ニ納付スベシ

第十九條 前條ノ納付阿片ハ專賣公署長ニ於テ之ヲ鑑別シ其ノ品位ニ依リ補償金ヲ交付ス

第二十條 阿片收買人及其ノ從業人ニハ別ニ掲グル様式ニ依リ阿片收買人ノ證又ハ從業人ノ證ヲ交付ス

阿片收買人及其ノ從業人ハ從業中前項ノ證票ヲ携帯スベシ

第四章 藥用阿片ノ賣下

第二十一條 藥用阿片ハ藥用阿片賣捌人ヨリ醫師醫士齒科醫師獸醫師藥劑師藥商又ハ製藥者ニ讓渡ス可シ

第二十二條 藥用阿片賣捌人ハ藥劑師ノ藥商中ヨリ所轄省長之ヲ指定ス

第二十三條 藥用阿片ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ヲ除クノ外之ヲ賣買シ又ハ授受スルコトヲ得ズ

- 一 藥劑師又ハ藥商方醫師齒科醫師獸醫師藥劑師藥商又ハ製藥者ニ讓渡ストキ
- 二 藥劑師方醫師齒科醫師又ハ獸醫師ノ處方箋ニ依リ醫

療用トシテ需要者ニ供給スルトキ

三 醫師齒科醫師又ハ獸醫師方醫療用トシテ需要者ニ供給スルトキ

第二十四條 藥用阿片賣捌人ニ於テ藥用阿片ヲ輸出セムトスルトキハ其ノ輸出先及輸出數量ヲ具シ輸出先當該官憲ノ輸入許可證明書ヲ添ヘ民政部總長ニ願出デ許可ヲ受クベシ

第二十五條 藥用阿片賣捌人藥劑師及藥商ハ帳簿ヲ備ヘ藥用阿片ノ受拂ニ付其ノ數量用途年月日竝ニ受拂先ヲ其ノ都度記載スベシ但シ藥劑師調劑用ニ使用シタルモノニ就テハ此ノ限ニ在ラズ

前項ニ掲グル者ハ藥用阿片ノ受拂ニ付毎年一月末日迄ニ其ノ前年分ヲ所轄省長ニ報告スベシ

第五章 雜 則

第二十六條 阿片收買人阿片卸賣人及阿片小賣人其ノ指定ヲ受ケタルトキハ省長又ハ專賣公署長ノ定ムル所ニ依リ保證金ヲ納付スベシ

第二十七條 本令ニ依リ指定又ハ許可ヲ受ケタル者又ハ阿片吸食者ガ廢煙シ廢業シ又ハ死亡シタルトキハ當該事實發生ノ日ヨリ三十日以内ニ阿片收買人及阿片卸賣人ニ在リテハ專賣公署長又ハ專賣支署長ニ其ノ他ノ者ニ在リテハ所轄省長ニ本人相續人又ハ其ノ財産ヲ管理スル者ヨリ届出デ現存阿片罌粟又ハ阿片吸食器具ノ處分ニ付指示ヲ受クベシ

前項ノ場合ニ於テ保證金ノ還付ヲ受ケムトスル者ハ本人又ハ相續人ヨリ省長專賣公署ニ其ノ還付ヲ請求スベシ

第二十八條 阿片小賣人ニシテ他人ニ阿片吸食ノ場所及設備ヲ供與セムトスル者ハ左記事項ヲ具シ所轄省長ノ許可ヲ受クベシ

- 一 住所氏名、生年月日
- 二 場所及設備

第二十九條 本令ニ依リ省長ニ提出スル書類ハ所轄警察官署ヲ專賣公署ニ提出スル書類ハ最寄專賣官署ヲ經由スベシ

第六章 罰則

第三十條 第六條第八條ノ規定ニ違反シタル者ハ拘役又ハ二百元以下ノ罰金ニ處ス

第三十一條 第十一條第十四條又ハ第二十五條ノ規定ニ違反シタル者ハ一月以下ノ拘役又ハ百元以下ノ罰金ニ處ス

第三十二條 本令ニ依リ阿片又ハ阿片吸食器具ヲ取扱フ者若ハ罌粟栽培ノ許可ヲ受ケタル者其ノ業務上ニ關シ不正ノ行爲アリタルトキハ其ノ業務ヲ停止シ指定又ハ許可ヲ取消シ保證金ヲ沒收スルコトアルベシ

附則

第三十三條 本令中民政部總長トアルハ興安省ニ在リテハ

指定番號住所氏名生年月日及營業場所ヲ專賣公署長ニ通報スベシ

前項ノ通報事項ニ異動ヲ生ジタルトキ亦同ジ

第五條 專賣公署長ハ施行令第十二條規定ニ依リ罌粟栽培ノ區域及其ノ面積ヲ定メ毎年一月末日迄ニ之ヲ所轄省長ニ通報スベシ

前項ノ罌粟栽培ノ區域面積ヲ定メムトスルトキハ財政部總長ノ認可ヲ受クベシ

第六條 省長第五條第一項ノ通報ヲ受ケタルトキハ當該區域ニ之ヲ佈告シ施行令第十三條ノ規定ニ依リ願出アリタルトキハ身元栽培地ノ適否及面積ヲ調査シ適當ト認めタル者ニ限り之ヲ許可スベシ

省長前項ノ許可ヲ爲シタルトキハ栽培人ノ住所氏名及其栽培面積ヲ縣別トシテ專賣公署長ニ通報スベシ

第七條 專賣公署長施行令第十七條ノ規定ニ依リ阿片收買人ヲ指定セムトスルトキハ其ノ職業經歷資産及信用ヲ審査シ財政部總長ノ認可ヲ受クベシ

第八條 專賣公署長ハ第三號様式ニ依リ阿片收買人臺賬ヲ備ヘ所定事項ヲ記入シ其副本ヲ收買地ヲ管轄スル省長ニ送付スベシ

前項ノ台帳記載事項ニ異動ヲ生ジタルトキハ直ニ其ノ旨

興安總署總長所轄省長トアルハ東省特別區ニ在リテハ東省特別區長官新京及長春縣ニ在リテハ首都警察總監興安省ニ在リテハ所轄分省長トス

第三十四條 本令ハ阿片法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

阿片法施行令取扱手續

(大同二年三月十八日)
財政部訓令第七三號

第一條 專賣公署長阿片法施行令(以下單ニ施行令ト稱ス)第五條ノ規定ニ依リ阿片卸賣人ヲ指定セムトスルトキハ其ノ職業經歷資産信用公共事業ニ對スル功勞及其他營業場所ノ適否等ヲ審査報告シ財政部總長ノ認可ヲ受クベシ

第二條 專賣公署長阿片卸賣人ノ營業出張所設置ヲ許可シタルトキハ之ヲ財政部總長ニ報告スベシ

第三條 專賣公署長第一號様式ニ依リ阿片ノ卸賣人臺賬ヲ備ヘ所定事項ヲ記入シ其ノ副本ヲ阿片卸賣人ノ營業場所ヲ管轄スル省長ニ送付スベシ

前項ノ臺賬記載事項ニ異動ヲ生ジタルトキハ直ニ其ノ旨當該省長ニ通報スベシ

第四條 省長阿片小賣人ヲ指定シタルトキハ其指定年月日

該當省長ニ報告スベシ

第九條 省長施行令第二十二條ノ規定ニ依リ藥用阿片賣捌人ヲ指定シタルトキハ其ノ指定年月日指定番號住所氏名生年月日及營業場所ヲ專賣公署長ニ通報スベシ

前項ノ通報事項ニ異動ヲ生ジタルトキ亦同ジ

第十條 專賣公署長施行令第二十六條ノ規定ニ依リ保證金ヲ納付セシムルトキハ第三號様式ノ納付命令書ニ依リ滿洲中央銀行專賣公署保證金口座ニ拂込マシムベシ

第十一條 專賣公署長ハ第四號様式ノ保證金臺帳ヲ備ヘ整理スベシ

第十二條 專賣公署長ハ保證金ニ對シ寄託ノ翌月ヨリ年利率五分ノ利子ヲ附シ毎年七月ニ於テ其ノ前月迄ノ利子ヲ寄託者ニ支拂フベシ

第十三條 專賣公署長施行令第三十二條ノ規定ニ依リ阿片卸賣人阿片收買人ノ業務停止又ハ指定取消若クハ保證金ノ沒收ヲ爲サムトスルトキハ其ノ理由ヲ具シ財政部總長ニ認可ヲ受クベシ

專賣公署長前項ノ指定取消處分ヲ爲シタルトキハ其現存阿片竝ニ阿片吸食器具處置ニ付指示ヲ爲スベシ

附則

第十四條 本令中省令トアルハ興安省ニ在リテハ興安各分